

震災記録誌

東日本大震災から学んだこと

～ 仙台高専 学校機能回復までの道のり ～



広瀬キャンパス近郊の被災状況
写真提供：仙台市青葉区宮城支所

2011年3月11日
14時46分

北緯 38度06.2分
東経 142度51.6分 [気象庁]



名取キャンパス近郊の被災状況
写真提供：名取市

ごあいさつ

2011年3月11日14時46分に、未曾有の大震災が東北地方太平洋沖を震源に発生しました。大震災は、1.8万人余り(死者15,874人、行方不明者2,744)[2012.11.28現在(警察庁)]の尊い生命、財産、沢山の思い出の品や住み慣れた故郷の景色を一瞬のうちに奪い去り、各地に甚大な被害をもたらし、1年半が経過した今もなお、行方不明者の捜索、がれきの撤去が続けられ、避難生活を余儀なくされる方も多数おられるなど、その爪痕はまだまだ消し去ることができるものではありません。犠牲となられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、今なお、厳しい生活に耐えながら明日へのひたむきな努力を重ねておられる方々に心からお見舞い申し上げます。

震災時の本校は、学年行事も終わり、卒業生は進路も決まって新生活への準備に入っており、新たな年度に向けて、新入生を迎え入れる準備をしていた矢先でした。

震源地から近い宮城県の名取市と仙台市にそれぞれキャンパスを持つ本校も、建物の一部損壊、グラウンドの地割れ、武道場の崩壊、広範囲な法面の地滑り、多くの実験装置の損壊など、施設設備等に甚大な被害を受け、被害の他にも、学生・教職員の安否確認、避難者の食糧の調達、中止となった学校行事の立て直し、学生・教職員への衛生やメンタルのケアなど、これまで経験したことのないあらゆる困難と向かい合うことになりました。震災発生後数日間、生活インフラが完全ではない中、本校教職員が試行錯誤を繰り返し、学校機能復旧に向けて、最善と考えられる対応を行ってきました。

この記録誌は、我々が未曾有の大震災に直面し、そして学校機能が回復するまでの過程で、その時々にとった行動、数々の貴重な体験と反省を後世に伝えるため、記録と記憶を基に整理したものです。

大震災発生からこれまでの間、壊滅的状態となった学校機能は、日毎回復し、約1年後には大がかりな施設・法面等の改修工事も終わり、ほぼ震災前の状態に戻りました。

本年、6月13日には、今回の震災対応のために設置した学内委員会もその役目を終えて解散し、このように記録として留められるまでに至りました。この記録誌を通じて、本校の学校機能回復の様子をお伝えすることにより、今後の地震災害における対応の参考としていただくことができれば幸いです。

なお、震災直後の深刻なダメージを受けた本校は、予想以上に早い回復を遂げることができましたが、これはひとえに全国の多くの皆様からの人的支援、物的援助、義援金、心温まる励ましのお言葉などによるものです。皆様方からの多大なご支援に対して心から感謝申し上げます。

本校は、未曾有の大震災の経験を経て、その気持ちを新たに、技術者育成のたしかな道を歩み続けています。

2012年11月

独立行政法人国立高等専門学校機構
仙台高等専門学校長 内田 龍 男

目 次

ごあいさつ

1. はじめに.....	1
(1) 本誌の編集方針と利用の手引き	1
(2) 本誌案内図	2
(3) 被災から学校再開までの過程(概観)	3
2. 大震災から学んだ特に伝えたい記録	5
(1) 震災対応チェックリスト.....	5
(2) 危機管理体制改善	7
(3) 安否確認及び避難所開設等	15
(4) 教務運営の正常化	22
(5) 義援金、奨学金、教材支援等	34
3. 大地震発生からの履歴【2011.3.11 ～ 2012.11.30】	36
(1) 高専機構、仙台高等専門学校、名取・広瀬キャンパスの動き	36
(2) 項目別の動き	43
4. 大地震発生からの対応の記録	45
(1) 地震発生時の対応【地震発生から1週間】.....	45
① 避難	45
② 安否確認	46
③ 避難所開設等	46
④ 学生帰宅支援	47
⑤ 食糧調達	48
⑥ 建物等の応急対応.....	49
⑦ 環境整備(避難所・暖房・トイレ等)	49
⑧ 両キャンパス連携	50
⑨ 外部機関との連携(高専機構等との連携)	50
⑩ 情報収集及び広報	51
⑪ 労務管理	51
⑫ 海外からの留学生と研究生、海外派遣学生への対応.....	52
(2) 学校機能再開への取組み【地震発生後1週間から2ヶ月】.....	53
① 教務運営	53
② 建物復興計画	53
③ 余震対策	54
④ 寮運営	54
⑤ 図書館、各センター、技術室の再開	56
⑥ 設備、機器類再生計画	57
⑦ メンタルヘルスケア	58
5. 参考資料・その他の記録(項目は次頁参照)	59
6. おわりに	

参考資料・その他の記録

* 1 学生・教職員の被害状況(人的被害、住居被害等)	60
* 2 学生及び教職員の市町村別沿岸部居住状況	60
* 3 安否確認	61
* 4 学生の避難所受入れ状況	62
* 5 海外学生の推移	63
* 6 危機対策会議等	64
* 7 両キャンパス連携(合同会議等)	65
* 8 外部機関との連携(高専機構本部等との連携)	66
* 9 ホームページ掲載事項	73
* 10 労務管理・勤務対応状況	76
* 11 被災学生の他高専受入依頼	77
* 12 震災に伴う学生の健康・メンタルヘルスケア (学生相談室・保健室対応事項)	77
* 13 義援金・奨学金・授業料免除等	79
* 14 建物及び設備等の被災状況	82
* 15 学生寮及び職員宿舎被災状況	83
* 16 インフラ破壊状況	84
* 17 災害復旧工事支払計画表	85
* 18 工事工程表	86
* 19 校内被害状況等写真	87
* 20 放射線量測定結果の公表	90

【その他の参考資料・記録等】

* 仙台高専の概要	93
* 地震当日(地震発生前)の仙台高専の状況	95
* 地震の概要・社会インフラ破壊概況	97
* 震度4以上の最大震度別地震回数表(本震を含む。気象庁)	98
* 仙台 2011年3月11日の天気(気象庁)	98
* インフラ被害状況・復旧状況(岩手県、宮城県、福島県中心)	99
* 宮城県の浸水範囲概況にかかる 基本単位区(調査区)による人口・世帯数(総務省統計局)	101
* 学校近郊の被災状況	102
* 震災関連活動報告等	104
* 仙台高専に関する震災関連新聞掲載記事	172
* 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置 (警察庁緊急災害警備本部、平成24年11月28日)	176

1. はじめに

(1) 本誌の編集方針と利用の手引き

東日本大震災発生から1年半が過ぎ、仙台高専の被災状況と復興の過程を記録して広く世に伝えるにあたり、以下を編集方針とした。

個々の対応すべき事項や行動は、地震の規模、発生時期や時間、被害状況等により異なる。東日本大震災が発生した3月11日14時46分は春休みであったが、全学生が在籍する授業中、あるいは寮生が就寝している真夜中では、我々が経験しなかった多くの問題に対応する必要があるであろう。その意味で、個々の記録をそのまま参照して震災対応することは多くの場合現実的ではない。再度発生するかも知れない大地震に対して、特に高専のような教育機関がどのようにして備え、また発生時にはどう対応すべきか、目的に応じて一目で参照できる資料とすることに意義があると考えた。つまり、**記録的資料価値の充実よりも、対応マニュアルとしての利用価値を重視した**。言うまでもなく、震災対応で最も重要なことは、**人命の安全を確保すること**である。そのことを絶対的な前提とした上で、**教育機関としての使命は教育の保証**である。本校の震災対応の目的、従って、本記録編集の精神は、その2点に尽きている。

本記録は、対応すべき項目の整理と、各項目に対しての対応の要約、および必要に応じて詳細に参照できる資料の添付という構成にした。具体的には、**次ページの「本誌案内図」**で時系列及び項目毎に色分けして整理している。

まず、**①「被災から学校再開までの過程(概観)」**で、本冊子の全体像の理解を助けた。

次に、**②「大震災から学んだ特に伝えたい記録」**として5項目を示した。「震災対応チェックリスト」は、震災対応で基本的に重要な事項を、反省をも含めて整理したものである。全て一般的で当たり前のことであるが、震災の緊急時で混乱する時には、判断のミスを避け、不安を軽減する上で有用と考えた。「危機管理体制改善」、「安否確認及び避難所開設等」、「教務運営の正常化」は、人命安全確保と教育の保証において必須の事項である。また、「義援金、奨学金、教材支援等」は、表には見えにくい教育機関の極めて重要事項として掲載した。

個々の記録としては、大地震発生からの履歴・対応の記録として、**③「大地震発生からの履歴」**を時系列に整理した後、震災対応を**④「地震発生時の対応【地震発生から1週間】**、**⑤「学校機能再開への取組み【地震発生1週間から2ヶ月】**と期間別に整理した。最後に、**⑥「参考資料・その他の記録」**を示した。

【本誌利用にあたっての留意事項】

- * 独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校は、「仙台高専」と略して表示している。
- * 一部に、名取キャンパスは「名取C」、広瀬キャンパスは「広瀬C」と略している。
- * 3月11日の地震発生日を1日目とし、その後、2日目、3日目・・・と順次表記している。
- * 地震の正式な名称は、「平成23年(2011)東北地方太平洋沖地震」であるが、本誌では、「東日本大震災」と記載している。
- * 地震当日から数日間のデータは、校内の混乱により記録が残っていないものもあり、確実な数字ではないものもあるため、その場合は、数字の前に「約」を付している。
- * 特に重要な場合を除き、各キャンパス毎の対応を区別して記載することはあえてしていない。
- * 本誌は、本校のホームページにも掲載している。

仙台高等専門学校ホームページ【<http://www.sendai-nct.ac.jp>】

2011.3.11 東日本大震災から学んだこと

～ 学校機能回復までの道のり ～

(P03) ❶被災から学校再開までの過程(概観)

☆☆☆☆ ❷大震災から学んだ特に伝えたい記録 ☆☆☆☆

- (P05) (1) 震災対応チェックリスト…震災対応の必要項目の整理
- (P07) (2) 危機管理体制改善 ……大震災を教訓とした学校危機対応体制の改善を提示
- (P15) (3) 安否確認及び避難所開設等 ……震災直後の対応の記録
- (P22) (4) 教務運営の正常化 ……学校機能回復における検討過程の記録
- (P34) (5) 義援金、奨学金、教材支援等 …被災学生・教職員に対する援助等の記録

☆☆☆☆ 大地震発生からの履歴・対応の記録 ☆☆☆☆

2011. 3. 11 14:46 地震発生
社会インフラ破壊

(P36) ❸大地震発生からの履歴【2011.3.11～2012.11.30】

❹地震発生時の対応

【地震発生から1週間】

- (P45) ❶避難
- (P46) ❷安否確認
- (P46) ❸避難所開設等
- (P47) ❹学生帰宅支援
- (P48) ❺食糧調達
- (P49) ❻建物等の応急対応
- (P49) ❼環境整備(避難所:暖房:トイレ等)
- (P50) ❽両キャンパス連携
- (P50) ❾外部機関との連携
(高専機構等との連携)
- (P51) ❿情報収集及び広報
- (P51) ⓫労務管理
- (P52) ⓬海外からの留学生と研修生、海外派遣学生への対応

❺学校機能再開への取組み

【地震発生1週間から2ヶ月】

- (P53) ❶教務運営
- (P53) ❷建物復興計画
- (P54) ❸余震対策
- (P54) ❹寮運営
- (P56) ❺図書館、各センター、技術室の再開
- (P57) ❻設備、機器類再生計画
- (P58) ❼メンタルヘルスケア

☆☆☆ ❻参考資料・その他の記録 ☆☆☆

- (P59)～(P176)
- ・仙台高専の概要
 - ・地震当日の仙台高専の状況
 - ・地震の概要
 - ・被害状況・安否確認・写真等各種データ類
 - ・その他地震に関する参考資料等

(3)被災から学校再開までの過程(概観)

震災対応で最も重要なことは、言うまでもなく、**人命の安全を確保すること**である。そのことを絶対的な前提とした上で、**教育機関としての使命は教育の保証**である。本記録は、仙台高専が東日本大震災においてその2点を核として遂行するために対応した諸事項の記録と、幾つかの反省に基づく改善策の提示である。

このように、学生や教職員の安否確認・保護と、その後の学校再開(教育の保証)へ向けての復興は、被災対応で最重要の課題であった。施設の復旧等を含めて学校機能がほぼ被災前の状態に回復するまでには1年半ほど要したが、まずは学校を再開することに被災直後から全教職員が一丸となって努力し、被災から約2ヶ月後に何とか1ヶ月遅れの始業式を実施することができた。ここでは、学校を再開するにあたって処理する必要があった多面的事項について、次ページの図に整理し、概観する。

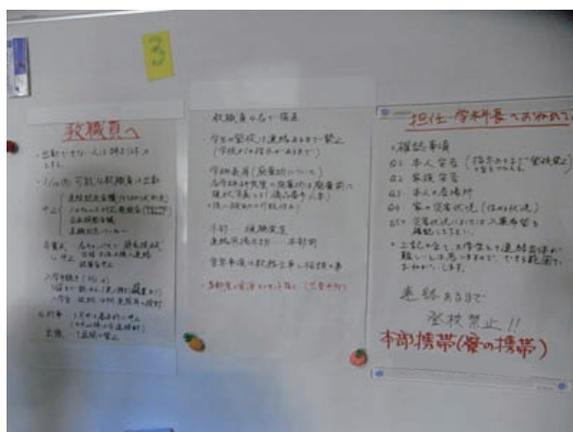
この概観は、本冊子の全体像の理解を助けるであろう。

時間列で概観すると、被災直後の数日間は **STAGE_A** として、特に人命安全の確認と確保に全力を尽くした。対象は、地震発生時に学内にいた学生と教職員、さらには地域の住民を含む。まずは、震災対策本部を設置して指揮系統を構築し、食料確保や宿泊環境の整備、帰宅可能な学生の帰宅支援等を実働部隊に適宜指示した。海外留学生は大使館等の支援を受けて東京や国外に待避させた。しかし、特に被災直後はその危機管理体制が必ずしも十分に明確化されていなかった反省があり、震災後に危機管理体制を抜本的に見直して、具体的な改善策を提示した。

学生や教職員の安否確認が落ち着いた約10日前後から **STAGE_B** として、特に教務的事項を重視し、当該年度の進級認定等の通常の年度末処理を実施した。さらには、学内施設の詳細調査に基づき、次年度について可能な限りの早期学校開始と年間授業日数の確保等、年間の教務的復興プランを検討決定し、周知した。

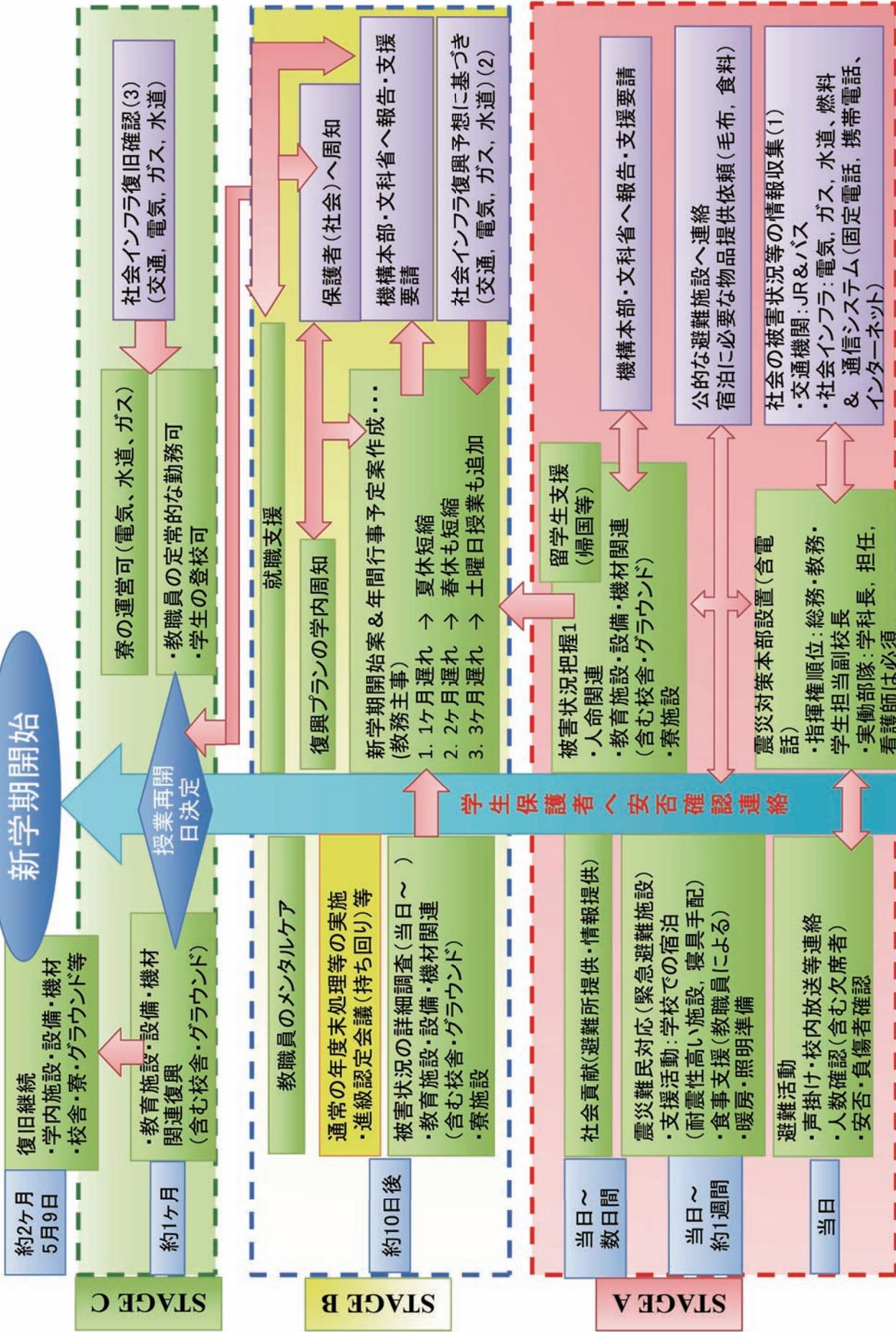
被災1ヶ月後には、1ヶ月遅れとなる授業再開日を決定し、学生の登校を許可すると共に教職員の定常的な勤務体制に復旧することができた。これが **STAGE_C** である。

図に附記されているように、これらのA,B,Cの過程では、学外情報の収集と、保護者や高専機構をはじめとした学外機関との情報共有と連携が重要であった。特に初期の **STAGE_A** では安否確認における社会の被害情報収集、被災者保護のための支援物資確保において高専機構をはじめとした外部機関の支援が大きな力となった。**STAGE_B**、**STAGE_C** では学校を再開するにあたり、学生や教職員の通学通勤の可能性を検討する上で、社会のインフラ情報入手が核となった。また、被災学生や被災教職員の経済的困難は深刻であり、その支援について機構本部、文部科学省をはじめとする多機関との連携、支援要請を行った。



紙に書かれた教職員への周知事項

新学期開始



2 大震災から学んだ特に伝えたい記録

(1) 震災対応チェックリスト

震災対応で基本的に重要なこと *(次頁のチェックリスト参照)*

- I. 震災前に準備すべきこと
 - ① 備蓄
非常食、生活用品、燃料等の備蓄が必須である。
 - ② 危機管理体制の明確化
震災時は、危機対策本部による判断と指揮が重要で、本部体制と指揮系統の明確化及びその事前周知が重要である。発生時には、その場にいる教職員が臨時的危機対応本部として対応する必要があること及びその事前周知も重要である。
 - ③ 安否確認手段の準備
震災時の停電等ライフライン寸断に備え、安否確認名簿及び外部提出（避難所→市役所等）用の様式の事前準備（停電時は、コピー機等が使えないことに留意）、災害時有効な有線電話、電子メールを含む通信手段を含めた安否確認方法の検討。
 - ④ 帰宅・通勤支援の準備
地震直後に学校内に残っている学生の帰宅支援のため及び公共交通機関が使えない場合の通勤支援のために、バス等を準備し、運転手を手配する方法を事前に確認する。
- II. 震災直後に対応すべきこと
 - ① 地震発生時の対処
地震が発生した場合、「生命の尊さ」を優先し、学生・教職員等の安全確保を第一に図るとともに、全教職員が一致協力して危機に対処すること。
また、最小限の教職員しかいない場合にあっても、最低限必要な初動体制を確立することが、初期の対応として重要。
 - ② 緊急時連絡網の活用
事前に周知されている、「緊急時の連絡網等」により、各自が決められた者に連絡することが基本となるが、状況によっては連絡できないことが十分想定できるため、特に対策本部要員となる者は、速やかに対応し可能な手段を使って、まずは一報を対策本部に入れること。
 - ③ 対策本部設置
全て、対策本部が判断し、担当部署に指揮する。臨機応変に行動できる機動教職員チームを構成することが有効である。
 - ④ 安否確認
学生、教職員及びその家族の安否を確認する。安否確認には電子メール(携帯含む。)の利用が有効である。そのためにも充電用の電源（発電機等）の確保が必要。
 - ⑤ 避難所設置
学内建物の安全を確認し、仮設避難所を設置。学生、教職員、付近住民を受け入れ食料を提供する。スクールバス等で帰宅を支援する。冬は暖房の準備も必要。衛生面にも留意
- III. 震災後に対応すべきこと
 - ① 教務運営
教育機関としての最優先事項は、人命という当然の事項を別として、教務運営である。学生が学年進級、卒業、入学できることを最優先として、必要な被災建物の復興を含め、対応する。



沿岸分の被災状況

チェックリスト

1. 震災前に準備すべきこと
 - ・ 備蓄は十分か
 - ・ 危機管理体制が整えられているか
 - ・ 危機管理体制について、学内に周知されているか
 - ・ 安否確認手段（名簿、確認方法）が準備されているか

2. 震災直後に対応すべきこと
 - 大項目
 - ① （対策本部設置まで）現場の教職員が緊急機動教職員チームを構成したか
 - ② 対策本部を設置して、周知したか
 - ③ 安否確認したか（学生、教職員、その家族等）
 - ④ 建物、土地、設備の安全、危険性を確認し、周知したか
 - ⑤ 保護する場所、暖房、食料、トイレ、照明、電気を準備したか
 - ⑥ 必要な連絡網への連絡確認と連絡指示をしたか（消防署、救急車、警察、病院、学内連絡網、保護者、親組織（高専であれば高専機構本部）、行政機関等）
 - 小項目
 - ① 緊急機動教職員チーム
 - ・ 人命安否確認、必要な救助をしたか
 - ・ 消防署等、必要な連絡
 - ・ 対策本部設置のため、校長、副校長への連絡を行い指示を仰いだか
 - ② 対策本部
 - ・ 人員の役割分担を指示したか
 - ・ TV・ラジオ等を利用し、災害情報、交通機関情報などの収集と集約をしたか
 - ・ ホワイトボードや模造紙等で情報の掲示・共有・記録を行っているか
 - ・ メール等、学内ネットワーク動作状況のチェックと可能な復旧をしたか
 - ・ 学生・教職員への連絡事項を報道機関（TV・ラジオ・新聞）へ文書・FAX等で依頼したか
 - ・ 部屋・施設のカギ、マスターキーの管理をしたか
 - ・ 車、燃料の手配をしたか
 - ・ 労務上の管理をしているか
 - ・ 海外学生への対応をしているか

3. 震災後に対応すべきこと
 - 大項目
 - ① 教務運営について、建物調査・復旧計画、教務日程を決定したか
 - ② 教職員の労務管理を明確にしているか
 - ③ 対応を記録（写真を含む）しているか
 - ④ メンタルケアをしているか（学生、教職員）
 - ⑤ 保護者等を含め、情報を適切に公開周知しているか

4. その他に、各々の組織、その場所、震災発生時間等に応じて想定される必要事項
 - ① _____
 - ② _____
 - ③ _____
 - ④ _____
 - ⑤ _____

(2)危機管理体制改善

ここでは、平成23年3月11日の東日本大震災を教訓に、学生・教職員の生命、本校組織・財産の重大な危機に関わる災害・事故の際の危機対応体制の改善を提示する。

なお、これは主として本校広瀬キャンパスを対象として提示するものであるが、類似の教育運営組織や規模を有する学校に適応できると考えられる。

危機対応体制は以下の考え方に基づく。

① 危機対応体制の図式化

自然災害、火災、感染症、寮・クラブ活動での重大な事故・事件の発生など、いざというときのための危機対応体制を危機対応組織運営図(図1)及び危機発生時初期連絡系統図(図2)として一見して分かりやすく図式化する。これを所定の場所に貼付するとともに、全教職員が所有し危機に備える。

② 学生緊急連絡確認簿の具備

学生(含研修生、研究生、休学生)の安否を調査確認し記録できる確認簿(表1)を用意しておき、適宜、担任、危機対策本部等が利用する。

③ 教職員情報簿の具備

全教職員(含非常勤、派遣)の氏名、所属、電話番号(自宅及び携帯電話)、学校emailアドレス等を記した記録簿を具備する。

④ 教職員連絡確認簿の具備

全教職員(含非常勤、派遣)の安否を調査確認し記録できる確認簿(表2)を用意しておき、適宜、人事、危機対策本部等が利用する。

⑤ 役付き教職員の緊急連絡網の具備

学校の責任的役割を果たす教職員の緊急連絡網を用意し、災害発生時の初期連絡に備える。

⑥ 危機対応組織内での役割の明示化

図1に示す危機対応組織各部署が果たす役割と行動を明示化し、それぞれの部署が効率的に動けるようにする(表3)。

⑦ 備蓄品チェックリストの作成

災害時に必要な備蓄品のチェックリストを作成する(表4)。災害が発生した際には、建物等の倒壊やインフラの寸断により校内に足止めされることを想定して、概ね3日間程度の防災用品を備蓄する。表4は約1,000人を想定したものである。本校以外の災害救援物資としても運用を図れるようにすることも重要である。非常食品等については、有効期限付きの物があることから、品質管理をきちんと行うことが肝要である。期限切れ間近の非常食品については、防災教育材料として使用する。防災備蓄用品の更新並びに追加は、予算等を考慮して適宜行う。

⑧ 上記に掲げた全てを紙と電子文書の形で保管し、常時最新の状態に更新しておく。それらを危機対応総責任者(総務担当副校長)、学生とりまとめ責任者(学務課長)、教職員とりまとめ責任者(総務課長)が机、USBメモリ、PCの中などに保管し災害時に備える。図式物は常時掲示しておくことが望ましい。

図1 危機対応組織運営図

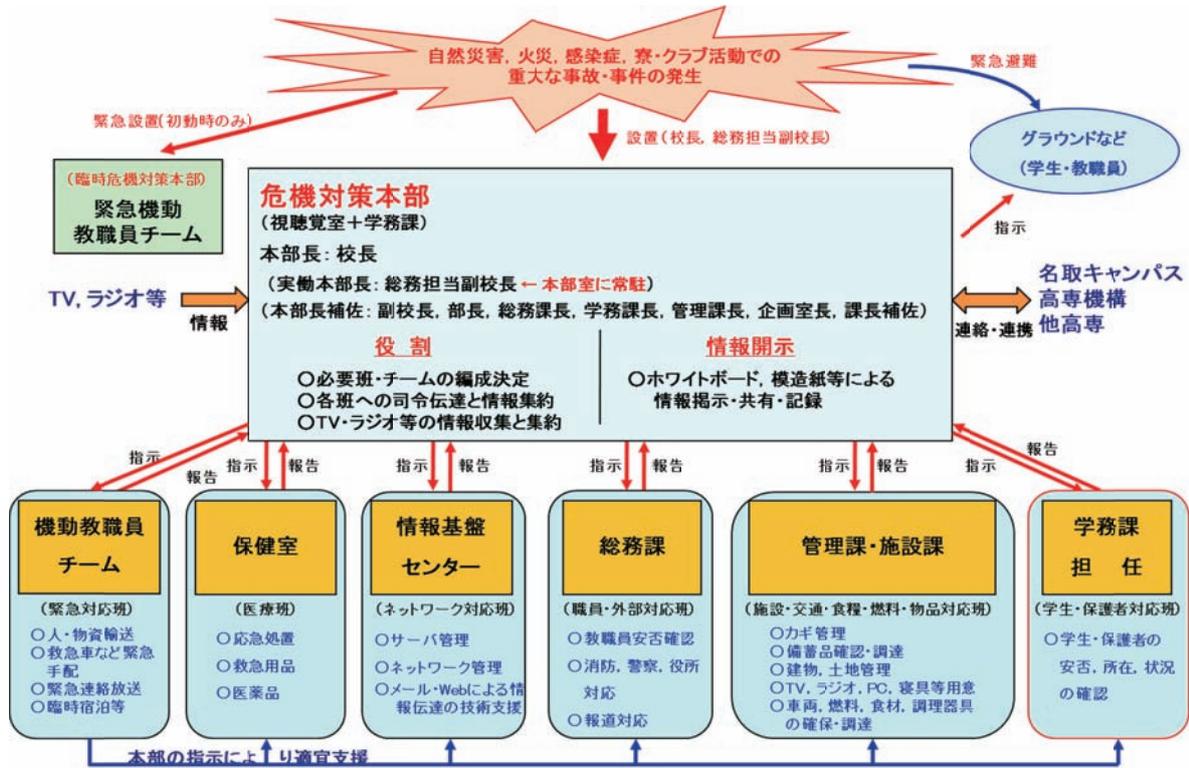


図2 危機発生時初期連絡系統図

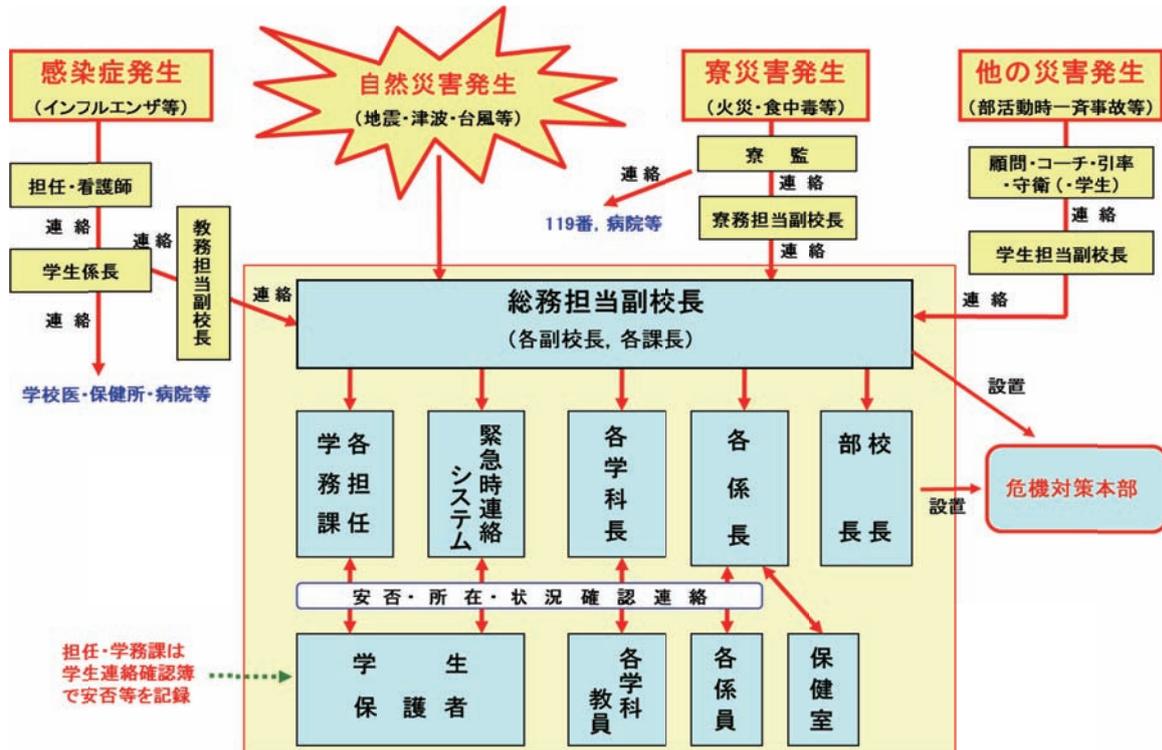


表3 危機対応組織の役割と行動

1. 危機対策本部（総括統合）

- 総務担当副校長、校長（あるいはその代行としての各副校長）の指示の下に震災等発生後直ちに設置する。本部室の場所は視聴覚室と学務課とする（状況により他の可能性も有り）。
- 校長を本部長とするが、実働的には総務担当副校長が本部長業務を遂行する。本部室に常駐し、各チーム・班の統括を行う。本部長補佐として、各副校長、部長、総務課長、学務課長、管理課長、企画室長を配置する。
- 総務担当副校長（あるいはその代行としての各副校長）が現場に到着するまでは、現場の教職員が（可能であれば副校長の指示を仰ぎ）、緊急機動教職員チームとして臨時に危機対策本部機能を担う。
- 以下の文書類を本部室に置く（紙、USBメモリ、PC中のファイルの形で）：
 - (A) 危機対応組織運営図
 - (B) 危機発生時初期連絡系統図
 - (C) 学生緊急連絡確認簿
 - (D) 危機対応組織役割リスト（この文書）
 - (E) 防災備蓄品リスト
 - (F) 教職員情報簿
 - (G) 教職員連絡確認簿
 - (H) 役付き教職員緊急連絡網
- 主に以下を役割とする：
 - ① 本部機能の確立： 危機対応組織運営図にある各班・チームを直ちに編成し機能させる。
 - ② 各班・チームへの指示伝達と情報の集約と統制を行う。
 - ③ 人命に関わる災害の場合、学生及び関係教職員等の安否確認及び安否に関わる事項を学生緊急連絡確認簿（及び教職員連絡確認簿）を用い最優先で行うよう、学生・保護者対応班（学務課&担任&機動教職員チーム）に指示する。
 - ④ 必要な連絡網への連絡指示と連絡確認を行う（消防署、病院、学内連絡網、保護者等）。
 - ⑤ TV・ラジオ等を利用し、災害の情報、交通機関の情報など、情報の収集と集約を行う。
- 情報を開示するため、ホワイトボードや模造紙等を用い、必要情報の掲示・共有・記録を行う。

2. 機動教職員チーム（緊急対応班）

- 総務担当副校長、校長（あるいはその代行としての各副校長）の指示の下に震災等発生後直ちに設置する。機動性のある教職員を主として構成し、チーム（班）に長を置く。
- ※なお、総務担当副校長（あるいはその代行としての各副校長）が現場に到着するまでは、現場の教職員が（可能であれば副校長の指示を仰ぎ）、臨機応変に緊急機動教職員チームを構成し、重要で緊急な事項を処理する。このチームは臨時に危機対策本部機能を担う。

- 震災等発生後～30分程度は人手の足りない部署への「緊急支援業務」を行う。例えば、総務課・管理課と連携して、本部の設置、備品・物品の準備等に尽力する。
- 本部設置後は主に以下の業務を行うが、必要に応じて何でも対応する：
 - 人手の足りない部署への「緊急支援業務」
 - 緊急連絡・放送・掲示
 - 救急車・タクシーなどの緊急手配
 - 人・物資輸送配送
 - 臨時宿日直
 本部の指示で、まず①を割り振り、②～④は随時行う。状況を見て⑤を行う。

3. 保健室(医療班)

- 学校看護師を長とし、必要に応じて機動教職員チームの支援を仰ぐ。
- 救急用品、医薬品の準備、ケガ人への応急処置などを行う。
- 救急車手配の発動、病院搬送の発動を行う。
- 学校医に連絡し、必要に応じて指示を仰ぐ。

4. 情報基盤センター(ネットワーク対応班)

- 情報基盤センター長を長とし、センター員から構成する。
- 学内ネットワーク設備、サーバ設備、メール環境の動作状況調査、必要に応じて復旧を行う。
- メール、Webによる情報伝達の技術支援を行う。例えば、臨時のメールアドレスやメーリングリストの作成、通常のトップページとは別の緊急用トップページの開設、学校の設備が使用できない場合に学外のサービス等を利用したインターネットによる情報伝達手段の確保など。

5. 総務課(職員・外部対応班)

- 総務課長を長とし、総務課所属職員から構成する。
- 総務課は、主に以下の業務を行う。
 - ・危機対策本部を設置する。
 - ・教職員への情報提供：教職員への連絡事項を報道機関(TV・ラジオ・新聞)へ文書・FAX等で依頼する。
 - ・教職員の安否確認等：各学科長及び各課長等に連絡の上、教職員の安否及び所在を確認し情報収集を行う。
 - ・消防・警察等との連絡調整：消防・警察等へ事態対応の連絡・依頼を行う。
 - ・行政機関との連絡調整：区・市役所・必要に応じて県へ事態対応の申請・依頼を行う(緊急車両認定等)。

6. 管理課・施設課(施設・交通・食料・燃料・物品対応班)

- 管理課長を長とし、管理課と施設課の所属職員から構成する。
- 危機対策室を設置する。(管理課・施設課)
- 建物、土地、設備などの施設被害調査・確認を行う。(施設課)
- 臨時宿泊室、避難室を確保する。(管理課・施設課)
- 「防災備蓄品リスト」に沿って必要物品を保管場所から移送・配布・設置する。(管理課)
- 部屋・施設のカギの管理・貸出を行う。(施設課)
- 必要時に車両を確保する。(管理課)

- 管理課関連の行動例（被害状況により優先順位の変更有）を示す：
 - ① 「防災備蓄品リストのA（対策本部用）」を準備する。
 - ② 雨天の場合にブランケットを用意する（学生等へ配布）。
 - ③ 夜間の場合に「防災備蓄品リストのE（教室・研究室常備）」から非常用懐中電灯と蛍光ランタンを準備する。
 - ④ 昼間でも、夜間に備えて「防災備蓄品リストのD（電気機器・工具類）」から発電機（投光器付き）等を準備する。
 - ⑤ 交通機関等の復旧見通しにより、「防災備蓄品リストのB（非常食品等）」及び「防災備蓄品リストのC（生活用品）」、「防災備蓄品リストのE（教室・研究室常備）」を準備する。
 - ⑥ 設備等の被害状況の確認を行う。

- 施設課関連の行動例を示す：

【火災のとき】

- 火災発生（受信機発報）
- 現場確認（防火戸等動作確認）
- 屋内消火栓動作確認（操作）
- 対策本部（学内、機構本部）への連絡（速報）
- 被害状況確認
- 対策本部（学内、機構本部）への連絡（第1報）

【地震のとき】

- ① 緊急地震速報受信（警戒）
- ② 地震発生（一時避難、マスターキーの確保）
- ③ 現場確認（外部から建物被災状況、火災発生等の確認）
（火災発生時）上記の火災のときによる
- ④ ライフラインの確認
（停電時）発電機、コードリール、投光器等準備
- ⑤ 対策本部（学内、機構本部）への連絡（速報）
- ⑥ 被害状況確認
- ⑦ 対策本部（学内、機構本部）への連絡（第1報）

7. 学務課・担任（学生・保護者対応班）

- 学務課長を長とし、全担任と学務課所属職員から構成する。
- 本部からの指示に従い、学生（+保護者）の安否・所在・状況の確認を学生緊急連絡確認簿を用いて行い、本部に報告する。

本部からの指示に従い、学生及び保護者に対して、情報提供を行う。

表4 防災備蓄品リスト

項	No.	確認欄	品名	数量	保管場所	備考
A 対策本部用	1	<input type="checkbox"/>	テント	2組		
	2	<input type="checkbox"/>	拡声器	3台		
	3	<input type="checkbox"/>	無線機器, トランシーバー	4組		
	4	<input type="checkbox"/>	養生テープ	10巻		
	5	<input type="checkbox"/>	マジック, ボールペン, 蛍光ペン等	各5個		マジックインクは黒・赤
	6	<input type="checkbox"/>	A3用紙, 模造紙	1㍻		A3用紙は1㍻500枚・模造紙は10枚
	7	<input type="checkbox"/>	セロテープ	5個		
	8	<input type="checkbox"/>	ハサミ, カッター	5個		
	9	<input type="checkbox"/>	メジャー	3個		
	10	<input type="checkbox"/>	懐中電灯 (電池式)	5台		手巻き式もあれば尚可
	11	<input type="checkbox"/>	乾電池 (単一・単二・単三・単四)	各30個		単三・単四を単一, 単二に使えるホルダーも準備
	12	<input type="checkbox"/>	蛍光ランタン (照明)	2個		
	13	<input type="checkbox"/>	ラジオ	2台		手動充電式もあると便利
	14	<input type="checkbox"/>	テレビ	2台		
	15	<input type="checkbox"/>	ホワイトボード, マーカー	2組		情報掲示板
	16	<input type="checkbox"/>	PC	3台		
	17	<input type="checkbox"/>	ヘルメット	100個		
	18	<input type="checkbox"/>	リヤカー, 台車などの運搬車	若干		
	19	<input type="checkbox"/>	地図	1		通学・通勤範囲の道路, 交通路線がわかるもの。
B 非常食品等	1	<input type="checkbox"/>	飲料水 (5年間保存)	3,000本		1,000人 (学生+教職員) ×1人1日2回×3日分
	2	<input type="checkbox"/>	アルファ米 (5年間保存)	3,000食		
	4	<input type="checkbox"/>	乾パン類 (5年間保存)	3,000食		1日2食×1,000人 (アレルギー対応も用意)
	5	<input type="checkbox"/>	缶詰 (3年間保存)	1,500食		1,000人×1日1缶/2人×3日分
	6	<input type="checkbox"/>	塩	10kg		概ね3日分
	7	<input type="checkbox"/>	割り箸	6,000組		1,000人×1人2食×3日分
	8	<input type="checkbox"/>	紙コップ	6,000個		1,000人×1人2食×3日分
	C 生活用品	1	<input type="checkbox"/>	カセットコンロ (LPG用)	10台	
2		<input type="checkbox"/>	カセットボンベ (LPG用)	100個		概ね3日分
3		<input type="checkbox"/>	エマージェンシーブランケット (保温性のあるもの)	1,000個		雨合羽・毛布としても兼用できるもの
4		<input type="checkbox"/>	簡易トイレ	1,000個		(1,000人×2回/人×3日分) ÷6回/個
5		<input type="checkbox"/>	ブルーシート	20枚		3m×5m
6		<input type="checkbox"/>	救急セット (薬, 消毒用アルコール, 漂白剤, 生理用品)	10組		
7		<input type="checkbox"/>	水タンク	10個		ポリ容器の大きいもの
8		<input type="checkbox"/>	タオル	1,000枚		
9		<input type="checkbox"/>	トイレットペーパー	1,000個		概ね3日分
10		<input type="checkbox"/>	BBQセット	3組		
11		<input type="checkbox"/>	調理器具 (鍋, 包丁, スポンジ, タワシ, ラップ)	3組		
12		<input type="checkbox"/>	保温ポット	5台		
13		<input type="checkbox"/>	トイレ用テント	8張		男子用5張・女子用3張
14		<input type="checkbox"/>	軍手	300双		
15		<input type="checkbox"/>	ごみ袋	100枚		
16		<input type="checkbox"/>	ウェットティッシュ (おしぼり)	50個		
17		<input type="checkbox"/>	ローソク	50本		概ね3日分
18		<input type="checkbox"/>	ライター	10個		概ね3日分
19		<input type="checkbox"/>	蚊取り線香	10箱		夏季
20		<input type="checkbox"/>	カイロ	1000個		冬季
21		<input type="checkbox"/>	下着 (紙パンツなど)	若干		
D 電気機器・工具類	1	<input type="checkbox"/>	発電機 (投光器付き, 燃料不要のものであれば尚可)	10台		(現有は燃料式3台)
	2	<input type="checkbox"/>	コードリール	10個		
	3	<input type="checkbox"/>	スタンド型扇風機	5台		
	4	<input type="checkbox"/>	暖房器具 (石油ストーブ等の電気使用しないもの)	10台		
	5	<input type="checkbox"/>	燃料 (軽油, 灯油, ガソリン, 炭)	保管可能数		
	6	<input type="checkbox"/>	ガソリン携行缶	10個		10ℓ, 20ℓ
E 教室・研究室常備	1	<input type="checkbox"/>	非常用懐中電灯			教員研究室・研究室の分
	2	<input type="checkbox"/>	ホイッスル			教員分
	3	<input type="checkbox"/>	蛍光ランタン (照明)			教室分

(3) 安否確認及び避難所開設等

○学生の安否確認

今回の地震発生時期は、学年末が終わった後で、寮も閉寮し、かつ、午後であったため帰路についている学生が多く、学生総数 1, 889 名のうち、約 1, 500 名の学生の安否確認を社会インフラが大きく破壊された中、あらゆる手段を講じて行わなければならなかった。

当時は、多数の学生が、学校にいない場合の安否確認の方法について、システム化されておらず、基本的には学生が学校に届けている自宅電話番号を頼りに教職員数名が、ひとりひとりに電話をかけての対応を行った。

安否確認作業が、本格的に動き出したのは電気・電話が開通した後からであったが、初期においては、唯一開通していた災害時有線電話を活用し対応した。

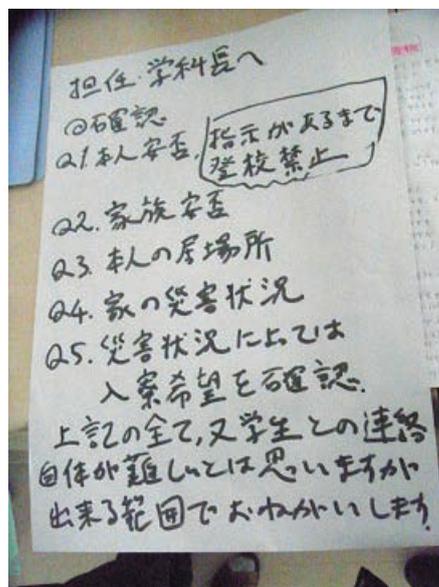
学生から学校への連絡を促すために、高専機構本部のホームページに安否確認の連絡先を掲載したり、テレビのテロップに安否確認を行っている事の情報流すなどを行った。

放送局では、国立高等専門学校の理解が薄く、民間の専門学校との区別がつかなかったこともあり、その確認などがあったため、放送として流れるまでに少し時間を要した。

沿岸部では携帯電話の基地局が破壊されるなど、インフラの状況が極めて悪く、特に難航したが、高専機構本部などを経由し確認ができたり、学生同士での伝達や親せきからの通報など、あらゆる方面から確認情報が寄せられたものもあって、12 日目に学生全員の安否確認が終了した。

○学生の安否確認状況(各日の推移で累計) (人)

月日	学生総数 (1, 889)	留学生 (内数)
3月11日(金)	(約400)	12
3月12日(土)	0	12
3月13日(日)	0	12
3月14日(月)	532	16
3月15日(火)	1, 494	16
3月16日(水)	1, 796	16
3月17日(木)	1, 827	16
3月18日(金)	1, 872	16
3月19日(土)	1, 872	16
3月20日(日)	1, 880	16
3月21日(月)	1, 886	16
3月22日(火)	1, 888	16



教員への連絡事項
(パソコン・コピー機が使用できないため紙に記入して伝達)

○ 教職員の安否確認

・名取キャンパス

震災発生直後から、避難場所であるグラウンドにて、各学科、各課室等毎に、当日出勤していた教職員(全体の約8割)の安否を確認した。

当日、休暇、出張中等によりキャンパスを離れていた教職員を含め、全員の無事を確認したのは、災害発生から4日後であった。

・広瀬キャンパス

避難場所である厚生会館前の広場にて、当日出勤していた教職員の安否を確認した。

教員 49名

職員 47名

の無事を確認した。

全員の無事を確認できたのは、災害発生から4日後であった。

○避難所開設等

地震当日は、名取キャンパス約175人(学生約75人、教職員約40人、近隣住民約60人)、広瀬キャンパス約130人(学生約95人、教職員約35人、近隣住民約2人)が学校に宿泊した。

名取キャンパスは、名取市の指定避難所となっているため、当日から、近隣住民や隣接する宮城県高等看護学校からも学生数名を受け入れた。

避難所は、3月18日まで開設し、宿泊、食事等の対応を行った。

避難所の住民等の健康管理として、隣接する宮城県立がんセンターから医師・看護師を派遣いただいた。

なお、名取キャンパスに避難した住民について、名取市からの依頼により意向調査を行い、最後まで残った住民については、本校の避難所閉設後は、市の開設する避難所に移動していただいた。

両キャンパスにおける5日目までの行動等の記録は、次頁以降のとおりである。

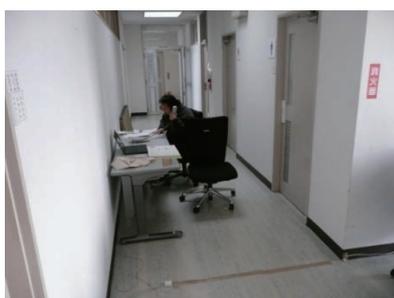
*参照:資料*1,*2,*3,*4

*その他資料

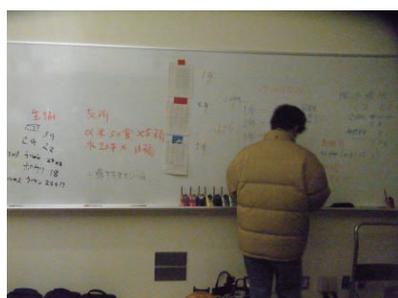
P115 東日本大震災における学校対応

仙台高专広瀬キャンパスにおける事例の報告と提案 2.3 避難後の状況

P121 東日本大震災直後の復旧活動の実践



職員が廊下で安否確認のための電話をかける様子(名取キャンパス)



安否確認の状況等をホワイトボードに記録する教員(広瀬キャンパス)

名取キャンパス

日時	事象	備考	問題点・留意事項等
<p>3月11日(金) 14時46分 (晴、冷たい 風、時々雪)</p>	<p>地震発生 地震直後、緊急時避難所であるグラウンドに、学校に在籍していた全学生(含む専攻科)・全教職員約350人が一旦緊急避難職員が、非常物品の買い出しを行う。(水、ローソク、使い捨てカイロ、アルコール、ティッシュペーパー等)</p>	<p>○JR線(東北線、常磐線、仙石線、仙山線不通) ○地下鉄、バスも不通 ○電気・ガス・水道のインフラ全てストップ</p>	<p>○本項目の実行・運用は教職員(有志)が行い、その運用に当たり管理的・学校全体に関わる事項等については対策本部で決定した。必要に応じて担当教職員の役割を記載</p>
<p>2時間程度経過後、グラウンドから寮へ移動</p>	<p>○協定に従い、隣接県立ガンセンターに援助に向かう。教員2名と学生十数名を派遣。(患者の安全確保のための移動や病院施設の応急的な片付けの補助) ○学内の学生・教職員の安否を確認後、建物内に学生・教職員がいなくなったことを確認。(教室、研究室、実験室については、学科長の指示により、所属の教員が担当。体育館等をそれぞれ担当の課長、補佐、係長の指示により職員、技術職員等が担当) ○帰宅可能学生及び保護者が迎えに来た学生は、確認後帰宅(以後逐次)。 ○寒さのため、避難中の学生・教職員約160名を耐震性が強い寮食堂に避難。本キャンパスが名取市の緊急避難場所に指定されていたため、近隣住民約60名を同様に寮に避難。グラウンドは地割れし、体育館は破損のため使用不可。 ○交通機関不通で帰宅できない事態に備え、「寮食堂及び合宿所に簡易宿泊所を準備(自家発電の夜間照明、太陽光及び風力による蓄電、ストーブ、学寮の非常食(ビスケット)等)。水・電気・ガス全てストップ。人数が多かったため、椅子を配置。近隣避難住民を合宿所へ移動。非常食を供給。寝具は合宿中の学生がレンタルしていたものと寮生の私物(布団・毛布等)、保健室の寝具類を使用。 ○保健室に常備していた使い捨てカイロを配布。感染防止のため、アルコール・速乾性アルコール手指消毒剤、マスク、ウェットティッシュを配布。救急箱を準備し体調不良者の確認・対応を行う。</p>		<p>大地震の時の避難知識の不足(建物倒壊の危険存在時の対応・避難時に防寒用服装や貴重品保持等) ○仮の対応本部を寮事務室に設置(教務主事、学生主事、寮務主事) ○本部部門を機能させるのに手間取る。(本部長役割と職制階級との不整合に起因) ○教職員有志の積極的・自発的な活動。</p>
	<p>○約75名の学生(内、留学生6名<秋田高専生1名>)、及び近隣住民等約60名を緊急保護し宿泊させた(40名弱の教職員がサポート的宿泊)。寝具が足りないため、暖かい服装をさせ、大半は椅子で就寝。 ○秋田高専留学生は、T君(インドネシア)といい、R君と仙台市内にいたところ震災に遭い、萩花寮に避難した。状況を、秋田高専に連絡した。T君は、その後F君やR君と行動を共にし、帰国。 ○クラス名簿及び職員名簿をもとに上記人員の確認。</p>		
	<p>①帰宅可能学生には確認をとって帰宅許可。現在教の集計結果の開示(ホワイトボード等)。 ②自家発電や蓄電池により夜間照明の手配。学校で所持の屋外照明(発電機)、石油ストーブ設置などに寮生役員や専攻科生(元寮生)が協力。 ③水および非常食の確保(寮内に元々非常食として準備している乾パンや500mlペットボトルの水) ④名取キャンパスが市の指定緊急避難所となっているため、近隣の方も避難してくる(約60人)。合宿所を避難場所として提供。 元寮生の専攻科生約6名が避難住民のお世話役として、合宿所に宿泊。 ⑤職員が名取市へ、本校避難所に避難する住民の数を報告(358名(学生・教職員を含む。))。夜間に人数分の食料配給(おにぎり)を受け。校内の生活協同組合の食堂から食材・厨房(プロパンガス使用可能)の提供により、有志教職員が暖かいどんぶり・そばを調理し、配給。 ⑥武道館から豊、寮から布団を学寮及び救工会館に運搬。 ⑦教務主事、学生主事が施設内を巡回し視察。また、研究室や実験室は学科教員が二人一組になって、実験施設などを確認。事務職員は、建物の被害状況を確認。</p>	<p>宿泊学生数 74人(留学生6名<秋田高専生1名>)： (宿泊箇所) 寮食堂：学生、教職員 合宿所：一般 救工会館： 事務棟：事務職員 車内：教職員</p>	<p>①記録保存のための書類不備。現在教の集計結果をホワイトボード等で公開し、情報共有化 ②③は野球部顧問・機動部隊教員・有志教員と学生が協力しソーラーセルを設置。 ④学校管理部門担当者 ⑤水(ペットボトル)・食料(乾パン等)の備蓄切れ。生徒からの提供物資には無料と有料のがあり、有料分についての精算処理に留意。 ⑥寝具は合宿中の学生が利用していたものと寮生の私物(布団・毛布等)、保健室の寝具類を使用 ⑦提案により本部長が最終決定</p>
<p>3月11日(金) (晴、冷たい 風)</p>	<p>震災後の体調不良の避難学生・避難住民・教職員の確認、対応 (カウンセラー・看護師)</p>		

名取キャンパス

日 時	事 象	備 考	問題点・留意事項等
<p>3月12日(土) (曇・雪)</p>	<p>○利用可能な量を寮食堂、教工会館食堂に運ぶ。 ①電話、メール等が被災により使用不能となったため、外部との情報が遮断された状態。 ②近隣の海岸地区や空港が津波により大きな被害を受けたとの情報を受けたくから得る。 ③午前10時にがんせんセンターの片づけを学生教職員13名で手伝う。 ④午後1時に校長、3主事、学生課長により今後の日程について確認。終業式、卒業式の中止を確認。 ⑤緊急電話2本のうち1本は高専機構本部連絡用、1本は学生安否確認用とする。 ⑥入学手続きの延長を高専機構本部に確認する。 ⑦緊急電話を使用し、仙台高専の行事についてテレビ・ラジオを通じてお知らせすることを確認。 ⑧以下の項目について確認作業を行うこととする。 1. 教務システム関係 2. 卒業証書、修了証書等の送付について 3. 建物の安全確認(教員が写真およびDVDにより各施設の被害状況の記録保存開始) 4. 学生と家族の安否確認 5. 4月以降の行事について ⑨3月13日(日)に広瀬キャンパスにおいて両キャンパスの主事、課長を含めた合同会議を行うこととする。 ⑩組織的な安否確認の作業開始</p>	<p>寮滞在学生数 70人(留學生6名<秋田高専生1名>) (宿泊箇所) 寮食堂:学生及び教職員 合宿所、教工会館食堂: 一般 事務棟:事務職員 車内:教職員</p>	<p>②記録残して処理。 ④有効な通信手段:各担任等による携帯メール+携帯;補助的な情報収集:SNS;学内で構築した緊急時連絡網などが全く機能しなかった。</p>
<p>3月13日(日) (晴)</p>	<p>震災後の体調不良の避難学生・教職員の確認、対応 (カウンセラー・看護師)</p> <p>①9:30に3主事と居合わせた学科長、担任との打ち合わせにおいて、今後1週間(12~18日)の宿日直の役割分担を決定。教職員各々2名で宿日直を行うこと、教職員について出張等々当分の間禁止にすることを決定。 ②教職員の連絡方法を決定。学科長、担任、各教員の流れで生命安全の確認を行うとともに学生の名簿をもとに担任から学生の安否を確認するよう依頼。職員は総務課に担当。 ③対策本部を第一会議室とし、翌日より午前10時に定例の会議を行うこととする。 ④各取市役所との定期的な連絡を取り、一般避難住民の情報を交換することとする。避難学生及び住民の健康面から宿泊所の空気の入れ替えや掃除の徹底指示。避難住民及び学生への聞き取り調査を開始。学内危険場所の周知。 足腰の不自由な避難住民1名の受け入れ。病状の把握、保健室のベッドの提供。 ⑤自立がんせんセンターの医師2名による避難所への巡回あり。 ⑥自宅が近い教職員を中心とする4名の宿直体制とした。(日直を含む実質支援教職員数は約30名)。避難の学生40名、近隣住民40名。 ⑦電気とキャンパス内LANが使用できないため、通電が再開された自宅のGメールを使い教職員に13日の合同会議の結果を発信。連絡先を高専機構のHPへ掲載依頼。可能なら仙台高専のHPにも掲載。14日より出勤可能な教職員を中心に午前10時に集合し、学生の安否確認を行うこととする。学生は建物の安全が確認できるまで当分の間出校禁止。 ⑧14:00、広瀬キャンパスで合同会議。両キャンパスにおける現状報告を行い、1卒業式、修了式等の3月の行事中止、入学手続き期間延長、4月下旬まで休校等を決定1。ラジオ等での情報公表開始。 ⑨東京の各国大使館派遣バスで、留學生が東京への避難開始。旅行中の留學生の安全を確認。 ・3月14日(月)インドネシア大使館の方が迎えに来て東京に移動(F君、R君、T君<秋田高専生>) ・3月15日(火)タイ大使館の方が迎えに来て東京に移動(O君、M君)※ラオス ・3月17日(木)チャーターバスにて東京のマレーシア大使館に移動(S君、A君)<F君は帰国まで松韻寮に滞在> ・マレーシア政府派遣学生の内1名は韓国へ出国(1君)</p>	<p>寮滞在学生数 35人(留學生6名<秋田高専生1名>) (宿泊箇所) 寮食堂:学生及び教職員 合宿所、教工会館食堂: 一般 事務棟:事務職員 車内:教職員</p>	<p>○家庭に帰る学生が増えた中で、家庭・家庭が甚大な被害を受け、保護者の安否等についての情報もままならない、避難学生については、2次被害(鬱的症状)が深刻にならないように、カウンセラーと密接に相談しながら、対応した。</p> <p>⑦入学予定者が被災していると想定されるので、入学手続の日程延長と入学金等の延納等の手続き(その周知はHP、テレビのテロップ、電話による問い合わせで対応) ○卒業式・祝賀会中止(ホームカミングデーで対応) ○入学式中止(キャンパス毎の拡大授業式で処置) ⑦学生の送迎に車両を必要。給油は重点事項。</p>
<p>震災後の体調不良の避難学生・教職員の確認、対応 (看護師)</p>	<p>震災後の体調不良の避難学生・教職員の確認、対応 (看護師)</p>		

広瀬キャンパス

日時	事象	備考	問題点・留意事項等
3月11日(金) (晴・冷たい風)14時46分	地震発生 地震後、厚生会館脇の広場に学校に在籍していた全学生(含む専攻科)・全教職員が緊急避難	○JR線(仙山線、東北線、仙石線不通) ○バスも不通 ○電気・ガス・水道のインフラストップ	○本項目の実効・運用は機動部隊教職員(有志)が行い、その運用に当たり管理的・学校全体に関わる事項等については対策本部で決定した。必要に応じて担当教職員を記載 大地震の時の避難知識の不足(建物倒壊の危険存在時の対応・避難時に防寒用服装や貴重品保持) ○対応本部の設置(教務主事、次期総務担当副校長) ○機動部隊(有志の教職員7、8名) ○本部部門を機能させるのに手間取る。(本部長役割と職制階級との不整合に起因) ○機動部隊教職員の積極的・自発的な活動。
1時間程度経過後	クラス名簿職員録をもとに上記人員の確認。学生:約150名; 教員:49名;職員:47名。 ○当日は風の冷たい日で、明るいうちに避難場所を確保する。 ○断続的に雪が降り、さらに大きな余震がある程度治まったのでも、耐震性の強い4号棟1階講義室、2号棟の視聴覚室を中心に学生を避難。 ○各避難室には教員2名を配置し、余震発生時等の事態に備える。	(避難箇所) 1年生:4E教室 2年生:3E教室 3年生:2E教室 4年生:1年1組教室 5年生:1年2組教室 専攻科:視聴覚教室	○対応本部:学務課・視聴覚教室 (連絡機材等が完備)
	電車等の交通機関が不通になり、帰宅できない事態が予想されるので、簡易宿泊の準備開始。		
	①帰宅可能学生には帰宅許可(帰宅学生の氏名等を記録):現在教の集計結果の開示(ホワイトボード等活用)。 ②自家発電により夜間照明の手配。学校で所持の屋外照明(発電機)、ファンヒーター設置などに野球部員が協力。 ③オイルストーブの準備と水の確保 ④仙台市指定緊急避難所・宮城総合支所で食料と水受け取る ⑤生協よりペットボトル、食糧などを当面確保。学内の個人保有食糧の提供。 ⑥武道館から畳、合宿所から布団(野球部の合宿用)を各避難室に運び込む。 ⑦4号棟1Fの廊下の天井が波打っており、強い余震により落下の可能性があると判断し、宿泊場所を再検討 ⑧情報収集のために有志教員提供のアナログテレビを視聴覚室に設置 ⑨近所の女性3名が合宿所へ避難(うち1名は夜中前に帰宅)又、男性の方が、震災被害情報の収集に來校。 ⑩宿泊場所は視聴覚室、バス、合宿所、厚生会館・食堂とする ⑪夜中、総合支所に非常食をもらいに行くと、夕方に受け取ったということと断られた。	宿泊学生数 96(11):括弧内留学生数で内数 (宿泊箇所) 合宿所:女性、幼児 食堂:1年生?、2年生 バス:3、4年生 視聴覚室:5年生、専攻科	①記録保存のための書類不備。現在教の集計結果をホワイトボード等で公開し、情報を共有 ②③は施設係長・野球部顧問・機動部隊教員が対応 ④学校管理部門担当者:鈴木管理課長、及川同補佐:アルファード ⑤水(ペットボトル)・食料(乾パン等)の備蓄切れ。生協からの提供物資には無料と有料とがあり、有料分についての精算処理に留意。 ⑦提案により本部長が最終決定 ⑨震災時での当然の社会貢献であるので、対応した。 (地域貢献・協力) 有志教員がソーラーセルを正門付近に設置して、地域住民の携帯充電等に提供

日時	事象	備考	問題点・留意事項等
12日(土) (曇・雪)	<p>①総合支所で非常食100人分(アルファ米2箱)を受給 ②家族が迎えにきた学生の帰宅支援、近くの学生も同乗 ③自力帰宅不能学生の送迎(公用車・バス(55人乗り)、プリウス(5人乗り)、アルファード(8人乗り))により、括弧の教職員が担当 仙台市内循環2名、上山・山形1名、大崎・鳴子2名、角田・福島1名、塩釜・多賀城1名 ④安否確認開始</p> <p>⑤大部分の学生が帰宅したため、宿泊場所をICTセンター交流室、国際交流室および保健室に変更 ⑥近所の方8名(男性3名、女性5名)が宿泊</p>	<p>備考 宿泊学生数 16(11):括弧内留学生数で内数 (宿泊箇所) ICTセンター交流室:男子 国際交流室:女子 保健室:女性、児童・幼児 専攻科棟:女性、児童・幼児</p>	<p>②記録残して処理。 ③担当者らは道路を熟知している路線に配置。しかし、道路状況が普段と異なり異常が予測される状況下で、5〜6時間にも亘る遠距離運転を一人でするケースもあり、2次災害の危険があるので、今後は避けるべき対応。少なくとも2名の教職員が必要。 ④有効な通信手段:各担任等による携帯メール+携帯;補助的な情報収集:SNS;学内で構築した緊急時連絡網。(担任による携帯メールを活用した緊急連絡処理が(国内外を問わず)有効であった。)</p>
13日(日) (晴)	<p>①総合支所で蕎麦50人分を受給 ②午前:名取との合同会議 卒業式、修了式の中止、入学手続き期間延長などを決定、出張禁止、インフラ現状確認、 ③生存確認現状報告、ラジオで情報の公表 ④名取の職員2、教員2の宿直体制を受けて、広瀬も体制の確立 ⑤安否確認 クラス担任 & 学科長を中心に ⑥教職員2名がアルファードで山形へ行き食料を調達 ⑦アルファードとプリウスを緊急車両として優先して給油(ガソリン、軽油)してもらった ⑧布団や毛布を干した</p>	<p>東→東 京、1名→右巻:括弧内留学生数で内数 ○留学生が離校</p>	<p>②入学予定者が被災していると想定されるので、入学手続の日程延長と入学金等の延納等の手続き(その周知は学校のホームページにより行い、又は電話により問い合わせに対応) ○卒業式・祝賀会中止(10月にホームカミングデイを開催) ○入学式中止(キャンパス毎の拡大始業式を処置) ⑦食糧確保や、キャンパス間連絡(電気、LANが不通のため)に緊急車両を使用する。また、学生の送迎に車両を必要。給油は重点事項。 ○家庭に帰る学生が増えた中で、家庭・家屋が甚大な被害を受け、保護者の安否等についての情報もままならない、3名の学生については、2次被害(鬱的症状)が深刻にならないように、カウンセラーと密接に相談しながら、対応した。</p>
14日(月) (晴)	<p>①総合支所に行くが、支援物資は入手できず ②10時に教職員を集めて視聴覚室にて説明会 ③名取で拡大企画調整会議 ④安否確認(クラス担任・代表電話への通知、緊急時連絡システム等を通じて) ⑤留学生の食料を買い出し(10,492円;食料費)</p> <p>午後: ⑥MUASのY君 大使館とフィンランド航空に連絡、大使館情報として仙台日独協会文化センター(Uさん)主導の避難バスに乗車、在仙外国人と一緒に東京へ移動 ⑦22時に長岡技術科学大学より支援物資が到着し、必要分を受け取り、残りは名取キャンパスへ ⑧買い出し(11,840円;下着代)教員が立て替えた</p>	<p>電氣、LAN復旧</p>	<p>○進級認定会議の中止(形式的な進級等の認定会議)持ち回り会議で対処(各学科長に最終的な学年末での成績確定の最終確認を依頼) 成績送付(電算機の復旧を待って) ④12日の④参照。 ○(学生の支援・ケアに基大な貢献をしていた)機動部隊教職員と対策本部長と緊急討議。 ①今後も継続が想定される避難状況の維持について、合理的な方針の確立を至急要する。 ②一部の教職員に過度の業務負担がかかっていることを改善することが肝要。この業務に対しての管理職からの方針等説明・慰労が無し。これらの教職員も被災者なのに、その復旧や家族ケアを犠牲にして、24時間体制で当たっている。管理者側としてはこれらに対しても適切に対処する必要がある。</p>

広瀬キャンパス

日時	事象	備考	問題点・留意事項等
15日(火) (雨)	<p>午前： ①S君 タイ大使館主導で避難バスに乗車、ラオス大使館へ移動 ②水・電気が使用可能になった南寮・女子寮に避難場所の移動を検討 →南寮で水漏れ、給水の可能性なしのため中止 ○ICTセンターを宿泊に継続使用 ③留学生買出し(2,659円：食料費)</p> <p>午後： ④残る留学生がマレーシア大使館へ支援要請 →避難バスの手配の約束 ⑤下水処理能力の限界と水の供給なしのため、節水とトイレの使用について話し合う ○長岡技術科学大学からの支援物資から水無しトイレ設置(3号棟2F) ○節水のため水のタンクへのくみ上げ中止 ○大泉式集水システム設置(名称:オーイミズ) ⑥フ랑스へ、研修生の受け入れ中止を知らせる ⑦Hさん、東北大学のベトナム留学生と一緒に大使館手配で東京へ移動 ○名取のマレーシア留学生を退避に向けて広瀬へ呼び寄せる。 ○留学生の東京へ移動後の体制について検討</p>	<p>宿泊学生数 11(7)2名→東京、1名 取から：括弧内 留学生数で内数</p>	<p>③13日④に関連して、広瀬キャンパスでも(責任負担の軽減を目指しながら)宿日直体制を組むことにした。可能な限りこの業務に参加できる教職員を当たり、②を踏まえて、宿日直体制を作成した。当面3月11日から遡って18日分まで作成した。 ④また、当該期間における教務員の労働貢献について適切に評価するため、資料を提示し、校長に実施することを確認。当該教職員と相談し、妥当であるとの回答を得ている。 ⑤学生支援のために必要な物品購入のための、教職員の立替分については、適切に処理する。 ○専攻科2年1さん(女子学生)に食事準備支援等を手伝って貰うこととした。</p>
			<p>○原発事故による放射能被害について、外国政府は厳しい判断をしていた。その結果、各大使館はバスをチャーターして、留学生を迎えに来た。</p>
			<p>⑦たまたま仙台にいた八戸高専への留学生も支援し、東京の大使館等へ戻ることの支援。</p>

(4)教務運営の正常化

・進路指導

1)22年度本科卒業生、専攻科修了生

学校のネット環境回復直後から、学生の就職内定企業からの安否確認及び入社式等の連絡が入るようになった。通信インフラの回復の遅れにより学生個々への連絡もままならないことから、学校として学生の内定先企業全社に対し、3月17日付けメール等で以下の内容を連絡するとともに学生に対する配慮をお願いした。①学生の安否については全員の無事を確認していること、②入社手続き等の延期等の配慮をお願いすること、③本人への連絡内容、配慮いただける内容を学校にも連絡して欲しいこと。

なお、内定学生について、1名が自宅待機となった以外は震災の影響が無かった。

また、学生の進学予定先の全大学、大学院に対しても、同様に学生の無事の連絡とともに入学に当たっての配慮(入学金・授業料免除手続きの延長、被災学生への緊急経済支援等)を電話でお願いした。

2)23年度本科5年生、専攻科2年生

学校推薦対象企業全社に対し、推薦手続きの確認を行うとともに、可能な範囲での採用試験の延期、推薦枠の設定をお願いした。

3月31日に推薦調整会議を実施し、情報の共有を図るとともに、推薦応募できるところから順次進めることとし、就活中の学生に対しても無理の無い範囲で活動を継続するよう学校ホームページ等でアナウンスした。

・新学期開始

学校の施設(特に名取キャンパスの主要講義施設)の復旧状況及び年間の授業時間数の確保等は、各地におけるライフライン、交通インフラの状況を総合的に判断し、5月の連休明けの5月9日(月)を授業開始の基本方針とした上で、復興ロードマップを作成した。(復興ロードマップは次ページ以降参照)

復興ロードマップは、骨子、大きな項目毎の表、作業表に分割して作成し、対応が必要となる各項目を掲げ、再開判断基準の設定、作業日程目標等を掲載しており、各担当部署毎にチェックをしながら、計画的に対応することができ、全校的な復旧経過の目安を教職員が共通認識する上の資料として効果的であった。

5月9日(月)に、計画どおり新学期を開始することができ、同日同時間帯に始業式及び簡単な入学式を行った。キャンパス毎に行われた始業式・オリエンテーションでは、犠牲となった方々への黙祷の後、新入生入学許可宣言、校長訓辞等が行われた。

両キャンパスとも同時間帯に行われたため、名取キャンパスでの校長訓示は、録音で対応した。

また、広瀬キャンパスでは、来賓として高専機構本部から木谷理事及び後藤事務局長が列席し、木谷理事から新入生、在校生及び教職員の被災者に対してお見舞いと励ましの挨拶があった。

・年間行事予定の再構築、部活動等

年間行事予定の再構築をするにあたって、施設・設備等の復旧状況が大きくかわるため、復興ロードマップを基に、年間行事予定の見直しを行った。(行事再構築後の行事予定表参照)

カリキュラムについては、1年遅らせることは絶対避けることを念頭に、夏季の休業期間を通常は1ヶ月半のところを3週間に短縮し、一部の行事を廃止するなどして、既定の授業時間を確保した。

体育の授業の場所として、立ち入り可能な部分のグラウンド、合宿研修所、学校外の施設を借用するなどして確保した。

部活動の場所は、名取キャンパスの施設が使用できなかったため、広瀬キャンパスのグラウンド及び体育館や近隣の施設等を使用することとし、実情に合わせて、使用可能な時間帯の延長等を行うこととした。また、学生の移動のためのスクールバスも運行した。

名取キャンパスがA主管校である東北地区高専体育大会は、広瀬キャンパス及び他高専の応援を得て実施することとした。



拡大始業式(名取キャンパス)



始業式(広瀬キャンパス)



入学手続き受付 3/13~3/31
(名取キャンパス管理棟 2階総務課に仮設置)

※平成23年4月6日に作成したものの。

復興ロードマップ骨子

○基本方針—5月9日授業開始

- 授業関連行事の予定
 - 始業式及び新入生オリエンテーション：5月9日、夏休み期間：8月1日～23日に短縮、前期期末試験：9月20、21、22、26、27日
専攻科入試：予定どおり実施 5月26日(推薦・社会人試験)、6月17日(学力試験)
後期授業開始：10月3日、冬季休業期間：12月26日～1月6日、終業式：3月16日、卒業式・修了式：3月24日
 - 開寮：5月6日 (2年生以上：5月6日、新入生・被災者：5月8日)
 - 東北地区高専大会(A主管)：7月1日～3日、(ラグビー)：10月14日～18日)

○前提

1. 施設の状況：創造教育センター、イノベーションセンター、体育館・武道館、グラウンドは使用禁止、それ以外は使用可能であること。
2. 使用禁止施設の代替：被災施設の修繕・改修を進めながら名取キャンパスの現有施設を有効活用することを基本とし、併せて広瀬キャンパスや近隣施設、プレハブ等を活用する。
3. 再開判断基準：以下の基準(チェック項目)が満たされた場合に5月9日授業再開とする。なお、これらの条件の全部又は一部が満たされない場合であっても、教職員及び学生の安全上支障がない場合や近日中に条件が満たされると判断されれば再開とする。

○5月9日授業再開に関する学生等への通知

1. 再開判断時期：4月10日まで
2. 再開判断基準(チェック項目)
 - ①施設の安全使用区域の明確化及び危険区域への立入禁止防護策実施
 - 安全使用区域を明確にし、学内の安全な導線を確認する
 - 危険施設、危険場所への立ち入り禁止表示を徹底し、防護対策(落下物防護ネット等)を実施する
 - ②総合棟の安全確保
 - 総合科学棟の階段部分を補修工事し、総合科学棟3Fと4Fの空調工事の4月中に完成させる
 - ③代替施設の使用計画設定
 - 高学年棟(イノベーション棟)に係る代替教室は、総合科学棟の空き教室や学習ホールと専門棟の実験室及び専攻科棟学生研究室を代替教室とする。
 - 代替教室を名取キャンパスで確保できない場合、広瀬の4教室を使用するためのスクールバス運行案を策定し、予算要求する。
 - 体育の実技授業は、広瀬の協力を得ながら教員が工夫すること

- ④授業に必要な物品の確保
 - 授業に直ちに使用する物品を調査し、4月末までに準備する。
 - 後期からの実験・実習に使用する物品は、9月末までに準備できるよう工程表案を策定する。
- ⑤交通機関の復旧
 - JR主要各線(東北本線、仙山線、仙石線、常磐線)が代替バスの運行を含め4月中に復旧が見込まれることを確認する
 - 復旧見込みが立たない地域については、寮の確保を中心として対応する。(場合によってはスクールバスも含め対応する。)
 - 現在、危険施設とされている駐輪場の代替場所並びに駐車場を確保する。
- ⑥住環境の確保－要望者の既存学寮、学内施設等への振り分け確保
 - 最大の入寮予定者を見込み、プレハブ設置までの応急措置として、システムデスク設置による増員、広瀬の学寮、職員宿舎も含めて入居の振り分け案を策定
- ⑦生活インフラの復旧
 - ガスの4月中復旧がされない場合、義援金・学寮共益費等を活用した学寮生の入浴方法を策定する
 - (電気と上水道は復旧済み)
 - (ガスの復旧は4月18日の見込み)
- ⑧教材の確保
 - 新規購入分：生協による学生への教科書及び体育着等の送付の有無を確認し、送付できない学生に対しては授業開始時に配付する。
 - その他：機構本部への予算要求、学生・同窓会・後援会等に支援を要請し、必要分を調達する。

3. 通知時期：4月11日～15日

4. 通知方法：ホームページ、メール、郵送、緊急連絡網、報道機関への依頼

復興ロードマップ作業表(案)

対応事項等	月・日 イベント	第1期(緊急)					第2期(中期)					第3期(長期)	備考			
		3月末	4月1日 ~3日	4月4日 ~10日	4月11日 ~17日	4月18日 ~24日	4月25日 ~5月2日	5月9日	5月10日 ~31日	6月	7月	8月		9月	10月~3月	
対応事項	対応内容	担当														
		在学学生	担任:教育企画室													
		新入生	担任:教育企画室													
		教員	担任:教育企画室													
		非常勤講師	担任:教育企画室													
安否確認	電話等による安否確認	事務職員	確認済み													
		非常勤講師	確認済み													
		事務職員	確認済み													
		非常勤講師	確認済み													
		事務職員	確認済み													
被害状況確認	電話等による安否確認	在学学生・保護者														
		新入生・保護者														
		教員														
		非常勤講師														
		事務職員														
交通	運行状況の確認	東北本線														
		常磐線														
		仙山線														
		仙石線														
		仙台空港アクセス線														
		なとりん号														
		地下鉄														
		南北線														
		ガス														
		上下水道														
上下水道	使用の可否確認	上水道	使用可能													
		下水道	使用の可否確認													
		行事予定表	使用の可否確認													
		カリキュラム	年間行事予定の見直し													
		授業計画	カリキュラムの見直し(体育)													
教科書及び教材	被災学生のための教科書や文具等に係る経費を見積もる	教科書及び教材	授業計画の準備を行う													
		教科書及び教材	被災学生のための教科書や文具等に係る経費を見積もる													
		教科書及び教材	被災学生のための教科書や文具等に係る経費を見積もる													
		教科書及び教材	被災学生のための教科書や文具等に係る経費を見積もる													
		教科書及び教材	被災学生のための教科書や文具等に係る経費を見積もる													
教学関係 (ソフト面)	創造研究センターが使用できない期間の実験・実習の対応	実験・実習	復興委員会													
		実験・実習	復興委員会													
		実験・実習	復興委員会													
体育	運動場・体育館が使用できない期間の体育授業の対応	体育	復興委員会													
		体育	復興委員会													
		体育	復興委員会													
インフラ	運行状況の確認	仙台-岩沼(4/4運行)、岩沼-福島(4月7日予定)、仙台-松島(4月5日運行)、仙台-利府(4月5日運行)、松島-小牛田(4月9日予定)														
		岩沼-亶理(4月12日予定)、亶理-相馬(4月12日代行バス予定)、亶理-いわき(未定)														
		仙台-亶子(4/4運行)、亶子-山寺(4月下旬)														
		青葉通り-小鶴新田(3/31運行)、小鶴新田-東塩釜(4月中旬)、東塩釜-石巻(未定)														
		名取-美田園(代行バス)														
		4月4日再開														
		台原-富沢、泉中央-台原(5月中)														
		4月18日復旧見込														
		施設課														
		施設課														
施設課																
教育企画室																
教育企画室																
教員																
教育企画室																
復興委員会																
教育企画室																
教育企画室																

復興ロードマップ作業表(案)

対応事項等	月・日 イベント	第1期(緊急)							第2期(中期)				第3期(長期)	備考				
		3月末	4月1日 ~3日	4月4日 ~10日	4月11日 ~17日	4月18日 ~24日	4月25日 ~5月2日	5月9日	5月10日 ~31日	6月	7月	8月	9月		10月~3月			
					授業再開 を周知			授業開始										
教育体制	対応事項等	月・日 イベント	3月末	4月1日 ~3日	4月4日 ~10日	4月11日 ~17日	4月18日 ~24日	4月25日 ~5月2日	5月9日	5月10日 ~31日	6月	7月	8月	9月	10月~3月	備考		
	インターンシップ (4年)	教育企画室																
	インターンシップ (専攻科)	専攻科																
	留学生	教育企画室/ 国際交流室																
	機械4年																	
	機械5年																	
	電気4年																	
	電気5年																	
	建築4年																	
	建築5年																	
	材料4年																	
	材料5年																	
	情報デザイン4年																	
	情報デザイン5年																	
	専攻科生	専攻科棟4階学生研究室																
イノベーション・ 企画室	情報デザイン棟2階CO-OP 教育センター																	
高学年教室	教育企画室 /施設課																	
教育学関係 (ハード面) フレハブ (名取)	業者 養生委員会 /施設課																	
教室等	業者による設置																	
教室等の清掃	4/18から教室の片付け等で 学生を入校できるようにする	教育企画室 /施設課																
臨時研究室(名取)	代替研究室の確保	教育企画室 /施設課																
就職支援	図書館1階教室 被災者が不利益とならない対 応の実施	教育企画室 /施設課																
授業料	授業料免除の予想額の調査 を増やす対応の実施	学生支援室																
メンタルヘルス	カウンセラーによる相談時間 を増やす対応の実施	教育企画室																
課外活動	課外活動の実施方法を検討	学生支援室																
東北地区体育大会	予定会場が使用できない場合 の代替施設	学生支援室																

復興ロードマップ作業表(案)

対応事項等	月・日 イベント	第1期(緊急)										第2期(中期)					第3期(長期)	備考				
		3月末	4月1日 ~3日	4月4日 ~10日	4月11日 ~17日	4月18日 ~24日	4月25日 ~5月2日	5月9日	5月10日 ~31日	6月	7月	8月	9月	10月~3月	H24~							
					授業再開 を周知			授業開始														
被災者	被災者の人数把握	被災状況調査結果を基に調査を行い、入寮先の割り振りを決める																				
	被災者	被災者の通学手段、屋敷、寮費について検討する。																				
学寮関係	夏季休暇短縮	夏季休業期間短縮に伴う暑さ対策検討																				
	学寮食堂	ガス供給停止期間の出食の確保																				
国際	受入	協定校からの受入																				
	派遣	協定校への派遣(文化交流)																				
研究、地域貢献	臨時駐輪場(名取)	臨時駐輪場の設備などを指定																				
	避難場所	緊急避難場所、(クワフランドの安全な部分やガソリンセンターの駐車場)																				
土地・建物(名取)	第1次	総合棟	イエロー																			
		建築・電気棟	ブルー																			
		機械・材料棟	レッド																			
		情報デザイン棟	ブルー																			
		専攻科棟	ブルー																			
		創造教育センター	レッド																			
		イノベーションセンター	レッド																			
		図書館	イエロー																			
		体育館・武道館	レッド																			
		学寮	ブルー																			
土地・建物(名取)	第2次	土地	地割れ場所の確認																			
		総合棟	無																			
		建築・電気棟	無																			
		機械・材料棟	無																			
		情報デザイン棟	無																			
		専攻科棟	無																			
		創造教育センター	カリキュラム変更																			
		イノベーションセンター	調査結果待ち																			
		図書館	無																			
		体育館・武道館	他機関から借りる																			
学寮	希望者数による																					

復興ロードマップ作業表(案)

対応事項等	月・日 イベント	第1期(緊急)										第2期(中期)					第3期(長期)	備考									
		3月末	4月1日 ~3日	4月4日 ~10日	4月11日 ~17日	4月18日 ~24日	4月25日 ~5月2日	5月9日	5月10日 ~31日	6月	7月	8月	9月	10月~3月	H24~												
				授業再開 を周知				授業開始																			
施設関係	総合棟	専門家による被害調査の実施																									
	イノベーションセンター、他	専門家による被害調査の実施																									
	安全の確保	安全区域及び危険区域の再確認、ヘルメット着用場所の明確化																									
	土地	専門家による被害調査の実施																									
	総合棟	外壁・階段等の修理																									
	建築・電気棟	無																									
	機械・材料棟	外壁・階段等の修理																									
	情報デザイン棟	ガラス修理																									
	専攻科棟	内壁・階段等の修理																									
	創造教育センター	改修																									
イノベーションセンター	被害施設の修繕、改修等																										
図書館	外壁・階段等の修理																										
体育館・武道館	ガラス修理																										
学寮	改修																										
教室	無																										
設備(備品・消耗品)	教室	学生課																									
	実験・実習室	学科																									
	図書館	図書館																									
	体育館	教員																									
	教室	学生課																									
	実験・実習室	学科																									
	図書館	図書館																									
	体育館	教員																									
	高価備品等	使用場所毎の物品の数量調査確認																									
	小額備品・実験器具等、授業開始までに必要な物品	契約手続																									
外部関係	後援会	納品・検収																									
	同窓会	被害状況の再調査																									
	同窓会	修理・更新の方針決定、更新物品の仕様書作成																									
	生協	契約手続																									
	教材	納品・検収																									
	危険施設に係る物品	安全を確保した調査の実施																									
	会費	会費の延納等																									
	会費	会費の延納等																									
	教材	未着教材の支援																									

・イノベーションセンターが補修可能な場合には、補修して対応する。(教室用のプレハブは不用となる。)

・面キャンパスを結ぶ送迎用のスクールバスが必要となる。(機構へ予算要求を行う)

・震災を理由とする入寮希望者が100名に満たない場合には、面キャンパス学寮の空室で対応することも可能である(人数は調査中)。

平成23年度 行事予定表 (前期)

Calendar for April (前期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '春休' and '入学式'.

Calendar for May (前期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '憲法記念日' and '入学式'.

Calendar for June (前期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '健康診断' and '入学式'.

Calendar for July (前期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '地区大会移動日' and '夏の日'.

名取キャンパス 平成23年度 行事予定表

Calendar for August (後期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '夏休' and '全国高等学校体育大会'.

Calendar for September (後期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '全国高等学校体育大会' and '敬老の日'.

Calendar for October (後期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '閉校記念日' and '体育の日'.

Calendar for November (後期) with columns for 1st year to 2nd year and specific dates with event names like '文化の日' and '入学式'.

12月	1年	2年	3年	4年	5年	専1	専2	専	1月	1年	2年	3年	4年	5年	専1	専2	専	2月	1年	2年	3年	4年	5年	専1	専2	専	3月	1年	2年	3年	4年	5年	専1	専2	専								
1木	前	後	後	後	後	後	後	後	1日	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	1日	水	15	前	後	後	後	後	後	1木	前	後	後	後	後	後	後	1木	前	後	後	後	後	後	後
2金	前	後	後	後	後	後	後	後	2日	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	2日	木	15	前	後	後	後	後	後	2金	前	後	後	後	後	後	後	2金	前	後	後	後	後	後	後
3土	前	後	後	後	後	後	後	後	3日	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	3日	金	15	前	後	後	後	後	後	3土	前	後	後	後	後	後	後	3土	前	後	後	後	後	後	後
4日	前	後	後	後	後	後	後	後	4日	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	4日	土	15	前	後	後	後	後	後	4日	前	後	後	後	後	後	後	4日	前	後	後	後	後	後	後
5月	前	後	後	後	後	後	後	後	5日	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	5日	土	15	前	後	後	後	後	後	5月	前	後	後	後	後	後	後	5月	前	後	後	後	後	後	後
6火	前	後	後	後	後	後	後	後	6日	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	冬休	6日	日	15	前	後	後	後	後	後	6火	前	後	後	後	後	後	後	6火	前	後	後	後	後	後	後
7水	前	後	後	後	後	後	後	後	7日	土	15	前	後	後	後	後	後	後	7日	月	15	前	後	後	後	後	後	7水	前	後	後	後	後	後	後	7水	前	後	後	後	後	後	後
8木	前	後	後	後	後	後	後	後	8日	土	15	前	後	後	後	後	後	後	8日	火	15	前	後	後	後	後	後	8木	前	後	後	後	後	後	後	8木	前	後	後	後	後	後	後
9金	前	後	後	後	後	後	後	後	9日	月	15	前	後	後	後	後	後	後	9日	水	15	前	後	後	後	後	後	9金	前	後	後	後	後	後	後	9金	前	後	後	後	後	後	後
10土	前	後	後	後	後	後	後	後	10日	火	15	前	後	後	後	後	後	後	10日	木	15	前	後	後	後	後	後	10土	前	後	後	後	後	後	後	10土	前	後	後	後	後	後	後
11日	前	後	後	後	後	後	後	後	11日	水	15	前	後	後	後	後	後	後	11日	金	15	前	後	後	後	後	後	11日	前	後	後	後	後	後	後	11日	前	後	後	後	後	後	後
12月	前	後	後	後	後	後	後	後	12月	木	15	前	後	後	後	後	後	後	12月	土	15	前	後	後	後	後	後	12月	前	後	後	後	後	後	後	12月	前	後	後	後	後	後	後
13火	前	後	後	後	後	後	後	後	13日	金	15	前	後	後	後	後	後	後	13日	日	15	前	後	後	後	後	後	13火	前	後	後	後	後	後	後	13火	前	後	後	後	後	後	後
14水	前	後	後	後	後	後	後	後	14日	土	15	前	後	後	後	後	後	後	14日	月	15	前	後	後	後	後	後	14水	前	後	後	後	後	後	後	14水	前	後	後	後	後	後	後
15木	前	後	後	後	後	後	後	後	15日	月	15	前	後	後	後	後	後	後	15日	火	15	前	後	後	後	後	後	15木	前	後	後	後	後	後	後	15木	前	後	後	後	後	後	後
16金	前	後	後	後	後	後	後	後	16日	火	15	前	後	後	後	後	後	後	16日	水	15	前	後	後	後	後	後	16金	前	後	後	後	後	後	後	16金	前	後	後	後	後	後	後
17土	前	後	後	後	後	後	後	後	17日	水	15	前	後	後	後	後	後	後	17日	木	15	前	後	後	後	後	後	17土	前	後	後	後	後	後	後	17土	前	後	後	後	後	後	後
18日	前	後	後	後	後	後	後	後	18日	木	15	前	後	後	後	後	後	後	18日	金	15	前	後	後	後	後	後	18日	前	後	後	後	後	後	後	18日	前	後	後	後	後	後	後
19月	前	後	後	後	後	後	後	後	19日	金	15	前	後	後	後	後	後	後	19日	土	15	前	後	後	後	後	後	19月	前	後	後	後	後	後	後	19月	前	後	後	後	後	後	後
20火	前	後	後	後	後	後	後	後	20日	土	15	前	後	後	後	後	後	後	20日	日	15	前	後	後	後	後	後	20火	前	後	後	後	後	後	後	20火	前	後	後	後	後	後	後
21水	前	後	後	後	後	後	後	後	21日	月	15	前	後	後	後	後	後	後	21日	月	15	前	後	後	後	後	後	21水	前	後	後	後	後	後	後	21水	前	後	後	後	後	後	後
22木	前	後	後	後	後	後	後	後	22日	火	15	前	後	後	後	後	後	後	22日	火	15	前	後	後	後	後	後	22木	前	後	後	後	後	後	後	22木	前	後	後	後	後	後	後
23金	前	後	後	後	後	後	後	後	23日	水	15	前	後	後	後	後	後	後	23日	水	15	前	後	後	後	後	後	23金	前	後	後	後	後	後	後	23金	前	後	後	後	後	後	後
24土	前	後	後	後	後	後	後	後	24日	木	15	前	後	後	後	後	後	後	24日	木	15	前	後	後	後	後	後	24土	前	後	後	後	後	後	後	24土	前	後	後	後	後	後	後
25日	前	後	後	後	後	後	後	後	25日	金	15	前	後	後	後	後	後	後	25日	金	15	前	後	後	後	後	後	25日	前	後	後	後	後	後	後	25日	前	後	後	後	後	後	後
26月	前	後	後	後	後	後	後	後	26日	土	15	前	後	後	後	後	後	後	26日	土	15	前	後	後	後	後	後	26月	前	後	後	後	後	後	後	26月	前	後	後	後	後	後	後
27火	前	後	後	後	後	後	後	後	27日	日	15	前	後	後	後	後	後	後	27日	日	15	前	後	後	後	後	後	27火	前	後	後	後	後	後	後	27火	前	後	後	後	後	後	後
28水	前	後	後	後	後	後	後	後	28日	月	15	前	後	後	後	後	後	後	28日	月	15	前	後	後	後	後	後	28水	前	後	後	後	後	後	後	28水	前	後	後	後	後	後	後
29木	前	後	後	後	後	後	後	後	29日	火	15	前	後	後	後	後	後	後	29日	火	15	前	後	後	後	後	後	29木	前	後	後	後	後	後	後	29木	前	後	後	後	後	後	後
30金	前	後	後	後	後	後	後	後	30日	水	15	前	後	後	後	後	後	後	30日	水	15	前	後	後	後	後	後	30金	前	後	後	後	後	後	後	30金	前	後	後	後	後	後	後
31土	前	後	後	後	後	後	後	後	31日	木	15	前	後	後	後	後	後	後	31日	木	15	前	後	後	後	後	後	31土	前	後	後	後	後	後	後	31土	前	後	後	後	後	後	後
備考	祝クリスマス会								備考	就職対策セミナー（4年）1月25日予定 第3回実務検定：1月28日（土） 交通安全講話（3年） 寮予備会								備考									備考	リーダー研修会：3月16日（金）															

○ 主な行事の見直し状況

行事等名	キャンパス	見直し前	見直し後
平成22年度卒業式・修了式	名取 広瀬	3月19日（土）	中止
入寮式	名取 広瀬	4月5日（火） 4月4日（月）	5月8日（日） 5月7日（土）
入学式	名取 広瀬	4月5日（火）	中止
始業式	名取 広瀬	4月6日（水）	5月9日（月）
スポーツ大会	名取 広瀬	5月19日（木）・20日（金） 5月12日（木）・13日（金）	中止
前期中間試験	名取 広瀬	6月10日（金）～14日（火） 6月2日（木）～6日（月）	6月21日（火）～23日（木）
オープンキャンパス	名取 広瀬	7月9日（土）・10日（日）	7月16日（土）・17日（日）
閉寮（前期）	名取 広瀬	8月6日（土）	7月30日（土）
夏季休業期間	名取 広瀬	8月8日（月）～9月16日（金）	8月1日（月）～23日（火）
閉寮（後期）	名取 広瀬	9月19日（月）	8月23日（火） 8月21日（日）
前期期末試験	名取 広瀬	7月26日（火）～29日（金）	9月21日（水）～28日（水） 9月20日（火）～27日（火）
高専祭	名取 広瀬	10月22日（土）・23日（日） 10月29日（土）・30日（日）	10月22日（土）・23日（日）
後期中間試験	名取 広瀬	11月30日（水）～12月2日（金） 11月24日（木）～28日（月）	11月30日（水）～12月2日（金） 11月24日（木）～28日（月）
見学旅行・研修旅行	名取 広瀬	11月8日（火）～11日（金）	11月8日（火）～11日（金）
後期期末試験	名取 広瀬	2月8日（水）～14日（火） 2月9日（木）～15日（水）	2月8日（水）～14日（火） 2月9日（木）～15日（水）
平成23年度卒業式・修了式	名取 広瀬	3月24日（土）	3月24日（土）

仙台高専広瀬キャンパス 平成23年度 行事予定表

平成23年度行事予定 前期						
4月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1金						
2土						
3日						
4月						
5火						
6水						
7木						
8金						
9土						
10日						
11月						
12火						
13水						
14木						
15金						
16土						
17日						
18月						
19火						
20水						
21木						
22金						
23土						
24日						
25月						
26火						
27水						
28木						
29金						
30土						
31日						
備考						

平成23年度行事予定 前期						
5月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1日						
2月						
3火						
4水						
5木						
6金						
7土						
8日						
9月						
10火						
11水						
12木						
13金						
14土						
15日						
16月						
17火						
18水						
19木						
20金						
21土						
22日						
23月						
24火						
25水						
26木						
27金						
28土						
29日						
30月						
31火						
備考						

平成23年度行事予定 前期						
6月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1日						
2月						
3金						
4土						
5日						
6月						
7火						
8水						
9木						
10金						
11土						
12日						
13月						
14火						
15水						
16木						
17金						
18土						
19日						
20月						
21火						
22水						
23木						
24金						
25土						
26日						
27月						
28火						
29水						
30木						
31日						
備考						

平成23年度行事予定 前期						
7月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1金						
2土						
3日						
4月						
5火						
6水						
7木						
8金						
9土						
10日						
11月						
12火						
13水						
14木						
15金						
16土						
17日						
18月						
19火						
20水						
21木						
22金						
23土						
24日						
25月						
26火						
27水						
28木						
29金						
30土						
31日						
備考						

仙台高専広瀬キャンパス 平成23年度 行事予定表

平成23年度行事予定 前期						
8月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1月						
2火						
3水						
4木						
5金						
6土						
7日						
8月						
9火						
10水						
11木						
12金						
13土						
14日						
15月						
16火						
17水						
18木						
19金						
20土						
21日						
22月						
23火						
24水						
25木						
26金						
27土						
28日						
29月						
30火						
31水						
備考						

平成23年度行事予定 前期						
9月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1木						
2金						
3土						
4日						
5月						
6火						
7水						
8木						
9金						
10土						
11日						
12月						
13火						
14水						
15木						
16金						
17土						
18日						
19月						
20火						
21水						
22木						
23金						
24土						
25日						
26月						
27火						
28水						
29木						
30金						
備考						

平成22年度行事予定 後期						
10月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1土						
2日						
3月						
4火						
5水						
6木						
7金						
8土						
9日						
10月						
11火						
12水						
13木						
14金						
15土						
16日						
17月						
18火						
19水						
20木						
21金						
22土						
23日						
24月						
25火						
26水						
27木						
28金						
29土						
30日						
31月						
備考						

平成22年度行事予定 後期						
11月	1年	2年	3年	4年	5年	専1 専2
1火						
2水						
3木						
4金						
5土						
6日						
7月						
8火						
9水						
10木						
11金						
12土						
13日						
14月						
15火						
16水						
17木						
18金						
19土						
20日						
21月						
22火						
23水						
24木						
25金						
26土						
27日						
28月						
29火						
30水						
31日						
備考						

仙台高専広瀬キャンパス 平成23年度 行事予定表

平成22年度行事予定		後期		12月		1月		2月		3月			
1年	2年	3年	4年	5年	専1	専2	1年	2年	3年	4年	5年	専1	専2
1木	前後						1日	冬休	<-----元日----->	1水	前後		
2金	前後						2月	冬休	<-----振替休日----->	2木	15	前後	卒業<試験期間>
3土	前後						3日	冬休	全国高等学校体育大会(ラグビー)	3金	15	前後	卒業<試験期間>
4日	前後						4日	冬休		4土	14	前後	卒業<試験期間>
5月	前後						5月	冬休		5日	前後		
6火	前後						6日	冬休		6月	15	前後	卒業<試験期間>
7水	前後						7日	冬休		7火	15	前後	卒業<試験期間>
8木	前後						8日	冬休		8水	15	前後	卒業<試験期間>
9金	前後						9日	冬休		9木	15	前後	卒業<試験期間>
10土	前後						10日	冬休		10金	15	前後	卒業<試験期間>
11日	前後						11日	冬休		11土	15	前後	卒業<試験期間>
12月	前後						12月	冬休		12日	前後		
13火	前後						13日	冬休		13月	16	前後	卒業<試験期間>
14水	前後						14日	冬休		14火	16	前後	卒業<試験期間>
15木	前後						15日	冬休		15水	16	前後	卒業<試験期間>
16金	前後						16日	冬休		16木	16	前後	卒業<試験期間>
17土	前後						17日	冬休		17金	16	前後	卒業<試験期間>
18日	前後						18日	冬休		18土	16	前後	卒業<試験期間>
19月	前後						19月	冬休		19日	前後		
20火	前後						20日	冬休		20月	17	前後	卒業<試験期間>
21水	前後						21日	冬休		21火	17	前後	卒業<試験期間>
22木	前後						22日	冬休		22水	17	前後	卒業<試験期間>
23金	前後						23日	冬休		23木	17	前後	卒業<試験期間>
24土	前後						24日	冬休		24金	17	前後	卒業<試験期間>
25日	前後						25日	冬休		25土	17	前後	卒業<試験期間>
26月	前後						26月	冬休		26日	前後		
27火	前後						27日	冬休		27月	18	前後	卒業<試験期間>
28水	前後						28日	冬休		28火	18	前後	卒業<試験期間>
29木	前後						29日	冬休		29水	18	前後	卒業<試験期間>
30金	前後						30日	冬休		30木	18	前後	卒業<試験期間>
31土	前後						31日	冬休		31土	18	前後	卒業<試験期間>
備考	献血						備考			備考	卒業式		



新入生歓迎会 (5月11日)



オープンキャンパス (7月16日・17日)



高専祭 (10月22日・23日)



「第48回東北地区高等専門学校体育大会剣道競技」は、当初会場は宮城県武道館を予定されていたが、震災の影響で使用不可となり、急遽「宮城県高等看護学校」に変更して無事に開催できた。剣道部は団体戦、広瀬C優勝、名取C3位 (7月2日・3日)



平成22年度卒業会・修了会を開催 (10月22日)



武道場が全壊したため、天井の低いプレハブの合宿所に畳を敷いての練習。柔道部(名取キャンパス)は、この年の高専体育大会全国大会において、団体戦優勝の快挙を成し遂げた。(8月21日)

(5) 義援金、奨学金、教材支援等

① 義援金

【独立行政法人国立高等専門学校機構災害支援の会で受け付けた義援金】

国立高等専門学校機構理事長・理事（6名）・事務局長、各国立高専の校長（51名）を発起人とする独立行政法人国立高等専門学校機構災害支援の会で募った義援金（以下「高専機構義援金」という。）で、機構本部、全国国公立高専、同高専の同窓会・後援会、外部機関及び個人から義援金が集まり、被災した高専を通じて、被災学生、被災教職員及びそのご家族の方々等へ災害見舞金として支給した。

【仙台高等専門学校義援金】

仙台高専校長・副校長（8名）・事務部長を発起人とし、仙台高専関係者である教職員、学生保護者、在校生、同窓会等を対象に募った義援金で、仙台高専から被災学生、被災教職員及びそのご家族の方々等へ災害見舞金として支給した。

高専機構義援金は、学生にあつては、本人死亡、学費負担者（父・母もしくは親族死亡）、全壊又は原発避難、半壊、教職員にあつては、本人死亡、配偶者・父・母もしくは子死亡、全壊又は原発避難、半壊の被災対象区分毎（下記表参照）に額が決められており、その基準に基づいて、それぞれ、各市町村の発行する「り災証明書」等を基に認定し支給した。

認定に当たっては、当初の想定を超えた被災状況となったため、市町村において特に「半壊」の判定となるものが当初想定した件数よりもかなり増え、その判定も難航し、震災後1年近く判定できないケースもあるなど、確定するのに時間がかかったため、支給額の見込みを立てるのに苦労した。その中でも仙台市は世帯数が多いため、確定にかなりの時間がかかった。結果、当初予定した配分額を超える支給を余儀なくされたため、その補填分として仙台高等専門学校義援金から一部流用した。

・高専機構義援金の被災対象区分毎の支給額

	区分（被災対象）	支給額（円）
学 生	本人死亡	300,000※
	父・母死亡	150,000/人
	学費負担者（親族死亡）	80,000/人
	全壊、原発避難	150,000/軒
	半壊	80,000/軒
教 職 員	本人死亡	80,000/人
	配偶者、父・母及び子死亡	50,000/人
	全壊、原発避難	80,000/軒
	半壊	50,000/軒

※学生本人の死亡については、他の区分は適用せず定額とする。

・仙台高等専門学校義援金の被災対象区分毎の支給額（学生、教職員共通）

区分（被災対象）	支給額（円）
本人死亡、父・母死亡又は、失業、学費負担者（親族）死亡又は、失業、全壊	30,000
原発避難、半壊	10,000

② 奨学金

東日本大震災により被災した高専生を対象とした奨学金の種類で、1)～5)の各項目のカッコ内数字は、仙台高専の学生が支給を受けた人数で、1)～4)については、高専機構本部を通して申請を行った。

- 1) 株式会社小松製作所からの奨学金 (17名)
- 2) ドイツギルデマイスター社・株式会社森精機製作所からの奨学金 (21名)
- 3) 株式会社ローソン「夢を応援募金」の奨学金 (5名)
- 4) ベイン・キャピタルからの奨学金 (5名)
- 5) まなべる基金からの奨学金 (5名)

③ 教材支援

教材等を流失するなどした被災学生に係る教材等(授業で使用する工具、白衣、防塵マスク等)の購入に要する経費について、新入生22名、在学生126名に対して、高専機構本部から支援を受けた。

④ 授業料免除

東日本大震災により被災した学生の平成23年度入学料・授業料等免除に係る申請手続きの簡素化等の特例について(平成23年5月11日独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定)により、入学料・授業料免除の申請に必要な証明書等の入手が困難な学生が多数発生しているため、当該学生の平成23年度入学料・授業料等免除に係る申請手続きについては、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則第12条第2項の規定に基づき理事長が定める件について(平成16年4月1日理事長裁定)によらず、取扱いができるものとされた。

なお、授業料免除関係の業務遂行にあたっては、機構本部の呼びかけによる人的支援が行われ、長野高専、岐阜高専から授業料免除業務の実務経験のある職員各1名を7月5日(火)から7日(木)まで派遣いただいた。

⑤ 後援会費免除

平成23年度の後援会費については、両キャンパス後援会で被災した学生に対し申請に基づき免除することが決定され、半壊以上の罹災を全額免除することとした。

平成24年度は、学資負担者死亡・失職の場合には全額免除とし、全壊(マンション等の場合で専有部に係る罹災証明があるものを含む。)の場合には半額免除することとした。

参照：資料*13

3. 大地震発生からの履歴(2011. 3. 11~2012. 11. 30)

(1) 高専機構、仙台高等専門学校名取・広瀬キャンパスの動き

年	月	日	曜日	発災後	時間	●出来事	□機構	○仙台高専	◇名取C	△広瀬C
23	3	11	金	1日目	14:46	●三陸沖を震源とする巨大地震発生				
						(名称)平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震				
						M9.0 国内観測史上最大の巨大地震 最大震度7(仙台市・名取市は震度6)				
						北日本から関東にかけて強い揺れと津波が襲来				
						社会インフラ(電気・ガス・水道・電話、JR・地下鉄・一部の道路状況)の全てが破壊				
						福島第一原発トラブル				
					14:50	◇避難(グラウンド)				
						△避難(西の広場)				
						◇安否確認開始(校内の学生・教職員)				
						△安否確認開始(校内の学生・教職員)				
					14:55	◇対応本部設置(場所:第1会議室)				
						△対応本部設置(場所:視聴覚室)				
						◇避難所確保・避難所運営開始				
						△避難所確保・避難所運営開始				
					15:55	△避難所の安全確認・避難所へ誘導				
						・学生の帰宅支援				
					16:55	◇避難所の安全確認・避難所へ誘導・学生の帰宅支援				
						◇食料・水(飲料・下水用)・布団等の調達開始				
						△食料・水(飲料・下水用)・布団等の調達開始				
						◇県立がんセンターに援助隊(学生・教職員)を派遣				
					17:30	◇付近住民を避難のため受入・避難所で保護				
						△付近住民を避難のため受入・避難所で保護				
						◇照明器具・暖房設備等の設置				
						△照明器具・暖房設備等の設置				
						◇自家発電設置				
						△自家発電設置				
						△ソーラーセルを設置、付近住民に提供				
						□災害対策本部設置(被災高専の被害状況等把握・支援開始等)				
						□三陸沖を震源とする地震の被害状況の収集について各高専に要請				
						□文部科学省との連絡調整				
12	土	2日目	終日	□各高専の被害状況を高専専用の全国共有ファイル上に掲載して情報を共有化						
				□機構HPに各高専の入学手続きにかかる期限延長等の対応掲載						
				◇帰宅支援・食料・水(飲料・下水用)・燃料調達						
				・避難者対応						
				◇県立がんセンターに援助隊(学生及び教職員)を派遣						
				△帰宅支援・食料・水(飲料・下水用)燃料調達						
13	日	3日目	終日	◇帰宅支援・食料・水(飲料・下水用)・燃料調達						
				・避難者対応						
				△帰宅支援・食料・水(飲料・下水用)燃料調達						
				□機構HPに安否確認のための連絡窓口となる緊急電話番号掲載						
				□機構HPに震災対応に関する専用コーナーを設置						
				○対応本部設置(場所:広瀬C)						
13:00			○卒業式・入学式中止決定							
			○学生は当分の間登校禁止							
			○教職員は当分の間出勤可能な者のみの出勤							
			○入学手続き(専攻科含む。)3月31日まで延期決定							
			◇定例会議を毎日開催(~18日まで)							
			◇仮説トイレ4台設置(名取市から)							
	△定例会議を毎日開催(~18日まで)									
	○支援物資受入開始									

年	月	日	曜日	発災後	時間	●出来事	□機構	○仙台高専	◇名取C	△広瀬C
										△電気、電話、LAN復旧(全面復旧)
	14	月	4日	目	10:00					◇教職員説明会(今後の対応、役割分担等)
					午後					△教職員説明会(今後の対応、役割分担等)
										○テレビ局に安否確認の情報テロップを依頼開始
										○長岡技科大学からの支援物資搬入
										○支援物資配付開始
										□人的・物的被害状況の把握調査実施
										□機構対策本部会議開催(5月31日まで41回開催)
										△進級等の認定会議(持ち回り会議)
										◇留学生帰国対応
										△労務管理について協議
	15	火	5日	目						□機構各種行事の日程変更調整
										○留学生対応(受入の中止及び帰国対応)
										○下水処理対応、使用できるトイレの限定
										○教職員の安否確認終了
										○建物管理の徹底(施錠等)
										◇南側法面地盤の対応相談(名取市役所)
										△フランスからの研修生受入中止決定
	16	水	6日	目						○始業式(4月6日(水)の中止、4月下旬まで休講を決定)
										◇電気、電話、LAN復旧(電気は棟毎に順番に復旧)
	17	木	7日	目						□機構役員会で被害状況の報告等
										◇電気全面復旧
										○留学生対応終了
	18	金	8日	目						□機構本部の視察団両キャンパスを視察、名取キャンパスへ支援物資の送達
										□義援金募集開始及び機構HPに義援金募集を掲載
										○機構本部の視察団両キャンパスを視察
										○機構本部、長岡技大、数高専から各種支援の申し出への対応
										○留学生は、全て母国及び大使館に退去を確認
										○受入留学生は、辞退の申し出及びその方向であることを確認
										○教職員の今後の勤務体制の確認
										○高専機構本部、東京高専、沼津高専、福井高専からの支援物資搬入
										◇避難所閉鎖
	19	土	9日	目						○鶴岡高専、長野高専、富山高専からの支援物資搬入
										△学生3名を公用車で石巻市に搬送、 学内宿泊学生が全て帰宅
	20	日	10日	目						□災害対策本部の24時間体制解除、夜間等の緊急連絡先周知
	21	月	11日	目						◇仙南地区の下水処理施設トラブル、トイレは仮設のみ可
										□学生、教職員の親族及び住居の被害状況の調査依頼
										□地震の影響により破損した実験・実習用備品等のリスト作成要請
	22	火	12日	目						●文部科学大臣及び厚生労働大臣の連名により、主要経済団体 258団体に対し、新規学校卒業予定者等の入社時期、来春卒業予定者等の採用選考活動等についての要請書を发出
										○留学生全員帰国したことを確認
										○教職員の時間外勤務体制(交代制)を解除
										○卒業・修了証書の郵送
										○長岡高専、豊田高専、岐阜高専、鳥羽高専、鈴鹿高専からの支援物資搬入
										◇学生の安否確認業務終了
										◇ガラスパッチ等モニタリングサービスの申し込み開始
	24	木	14日	目						●東北自動車道などが全面通行再開
										○石川高専からの支援物資搬入
	25	金	15日	目						□被害を受けた卒業生に対する採用内定取消の防止や入社予定日の柔軟な対応を日本経済団体連合会等に要請
										□文部科学省から全国(特定)の高専に空間放射線量調査の協力依頼
										□機構校長・事務部長会議で被害状況報告等

年	月	日	曜日	発災後 時間	●出来事	□機構	○仙台高専	◇名取C	△広瀬C
		28	月	18日目			○文部科学省視察団視察のため来校 ○学校の被災状況・対応について学外に公表 ○設備等被害状況調査の実施 ◇教職員にヘルメットの貸出実施		
		29	火	19日目			□被災した高専の学生の転学等の要望への対応方針周知 ◇定年退職者辞令交付式及び永年勤務者表彰式実施 △定年退職辞令交付、永年勤務者表彰式実施 ◇名誉教授授与(4月1日付授与の前倒し) △名誉教授授与式(4月1日付授与の前倒し)		
		30	水	20日目			◇休校期間中の進路相談周知(新5年、新専攻科2年) ○災害時のメンタルヘルス対応、学生・保護者・教職員に周知 ○登校禁止の周知(学校からの指示によるものを除く。) ○復興ロードマップ(初稿版)公表		
4	1	金	22日目				●政府がこの地震による震災の名称を「東日本大震災」とすることを発表 □機構本部から文部科学省子どもの学び支援ポータルサイト開設を周知 □東日本大震災に伴う学生の災害ボランティア活動について各高専に周知 ◇採用及び人事異動者辞令交付式 △採用及び人事異動者辞令交付式 ●地震による日本学生支援機構緊急採用・応急採用奨学金の申し込み依頼		
		4	月	25日目			○教職員は全て平常時の勤務体制に移行 ○復興ロードマップ(4/4版)公表		
		5	火	26日目			□東北地方太平洋沖地震による被災者及び避難者に対する支援について(共済関係) □被災高専へ人的支援の要請を照会 ○復興ロードマップ(4/5版)公表		
		6	水	27日目			◇下水道開通、建物内のトイレ使用可 ○復興ロードマップ(4/6版)公表		
		7	木	28日目			●宮城県で震度6強の余震 ○平成24年度専攻科入学選抜に係る日程について発送		
		8	金	29日目			□東日本大震災に係る総理大臣・文部科学大臣のメッセージを各高専に周知		
		11	月	32日目			□政府から黙祷の協力依頼を各高専に周知 ○授業開始を5月9日(月)に決定 ○震災後1か月にあたり全教職員黙とうを捧げる 2:46 ●内閣総理大臣及び文部科学大臣から全国の児童生徒及び学校関係者に対するメッセージの発表 ○学生・保護者の生活住環境の状況調査、おおよその数値を公表 ◇新2年生以上の学生に授業開始等にかかる重要なお知らせを送付 △新2年生以上の学生に授業開始等にかかる重要なお知らせを送付 ◇新入生に授業開始等にかかる重要なお知らせを送付 △新入生に授業開始等にかかる重要なお知らせを送付		
		12	火	33日目			□機構役員会で震災に係る対応の協議等		
		13	水	34日目			●仙台空港が一部国内線の運行再開 □各高専の被災地域への支援状況調査 ○仙台高等専門学校東日本大震災復興対策委員会設置 ○仙台高等専門学校東日本大震災義援金配分検討委員会設置		
		15	金	36日目			○仙台高等専門学校の地域復旧・復興支援状況を公表(5/15現在のもの)		

年	月	日	曜日	発災後	時間	●出来事	□機構	○仙台高専	◇名取C	△広瀬C
		18	月	39日	目			○生活協同組合購買部業務再開短縮営業		
		19	火	40日	目			○文部科学省共済組合短期給付 家族弔慰金・災害見舞金周知		
								○平成24年度専攻科学生募集要項を公表		
								○インターンシップ受入調書提出期限延長(5/9(月)まで)		
		25	月	46日	目			□災害対策本部対策室を竹橋オフィスに移設(～5月31日)		
		26	火	47日	目			○立ち入り禁止場所の校内図を周知(変更の都度11回周知)		
		28	木	49日	目			◇授業再開後における教室の移動について周知		
		29	金	50日	目			●東北新幹線が東京-新青森間で全面復旧、仙台市地下鉄が全面復旧		
5	2	月	53日	目				□教材等購入経費の配分について周知		
								◇特例措置で安全な施設等への立ち入り禁止を一部解除		
	6	金	57日	目				□高専機構義援金による災害見舞金(一時金)の配分基準提示		
								○開寮日		
								◇登校に関する注意事項、校内立ち入り禁止区域、避難経路図の周知		
	9	月	60日	目				○学校機能復帰、再開		
								◇始業式、前期授業開始(2～5年生、専攻科生)		
								△始業式、前期授業開始(2～5年、専攻科生)		
								◇新入生研修(オリエンテーション)		
								△新入生研修(オリエンテーション)		
								◇図書館一部開館		
								△図書館全館会館		
								○生活協同組合購買部・食堂が通常営業		
								○仙台高等専門学校義援金を募る趣意書を関係各所に郵送		
	10	火	61日	目				◇前期授業開始(1年生)		
								△前期授業開始(1年生)		
								○放射線モニタリング情報公表		
	11	水	62日	目				□東日本大震災により被災した学生の平成23年度入学科・授業料免除に係る申請手続きの簡素化等の特例について(理事長裁定)施行		
	13	金	64日	目				●首都圏で就職活動するための宿泊施設の無償提供の実施(文部科学省)		
								●奨学金の貸与期間の延長の実施(日本学生支援機構)		
								□夏期の電力需給対策の取りまとめ		
	16	月	67日	目				●入学科・授業料免除の実施		
								●奨学金の貸与新規採用の希望者募集(日本学生支援機構)		
								□東日本大震災に伴うボランティアに従事する教職員の特別休暇の措置を通知		
	19	木	70日	目				●施設・建物について、文部科学省の現地調査が完了		

年	月	日	曜日	発災後	時間	●出来事	□機構	○仙台高専	◇名取C	△広瀬C
		24	火	75日目					◇臨時避難訓練実施	
		25	水	76日目					□高専機構義援金を仙台高等専門学校に振込(第1回目)	
		27	金	78日目					□機構役員会で震災に係る対応の報告等	
									◇図書館全館開館	
		30	月	81日目					○高専義援金の配分について周知	
									○教科書・教材の無償譲渡申請手続きについて周知	
		31	火	82日目					○寄宿舎の免除について周知	
									○平成23年度後援会費等免除申請について周知	
									○仙台高等専門学校義援金の額の間接報告とお礼	
									□設備・備品の整備の指示	
6		17	金	99日目					□機構校長・事務部長会議で震災に係る対応の報告等	
		27	月	109日目					□機構役員会で震災に係る対応の報告等	
7		2	土	114日目		●第48回東北地区高等専門学校体育大会実施(～3日)			◇第48回東北地区高等専門学校体育大会当番校(～3日)	
		4	月	116日目		●第5回中央教育審議会教育振興基本計画部会開催、震災関係ヒアリングの実施			○第5回中央教育審議会において被災状況等を報告	
		16	土	128日目					○仙台高等専門学校オープンキャンパス実施(～17日)	
		25	月	137日目					□機構企画委員会で震災に係る対応の報告等	
8		3	水	146日目					□ボランティア活動の参加促進について各高専に依頼	
		4	木	147日目					○高専機構義援金の第1回目支給	
		13	土	156日目		●第46回全国高等専門学校体育大会実施(～9月4日)				
		18	木	161日目					□高専機構義援金を仙台高等専門学校に振込(第2回目)	
		21	日	164日目					◇第46回全国高等専門学校体育大会柔道競技で優勝	
									◇第38回全国高等専門学校体育大会野球競技で優勝	
9		6	火	180日目					○高専機構義援金の第2回目支給	
		11	日	185日目		●東日本大震災から半年				

年	月	日	曜日	発災後	時間	●出来事	□機構	○仙台高専	◇名取C	△広瀬C
		23	金	197日目		●東北新幹線が通常ダイヤに戻る				
		25	日	199日目		●仙台空港が全面復旧				
	10	1	土	205日目		●仙台空港アクセス線が全面復旧				
		12	水	216日目					◇臨時駐輪場の設置(~10/17)	
		22	土	226日目				○ホームカミングデー開催(平成22年度卒業会・修了会を実施)		
									◇高専祭開催(~23日)	
									△高専祭開催(~23日)	
		27	木	231日目				○高専機構義援金の第3回目支給		
	11	20	日	255日目					◇アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト全国大会でロボコン大賞と優勝を同時受賞	
	12	22	木	287日目				○高専機構義援金の第4回目支給		
24	1	12	木	308日目				○メンタルヘルス講習会(震災後の対応)		
		26	木	322日目				○高専機構義援金の第5回目支給		
	2	1	水	328日目				○仙台高等専門学校義援金支給方針決定		
		9	木	336日目				□機構本部から各高専へ災害時用PHS電話2台(固定型)を配布		
		14	火	341日目				□高専機構林理事長来校震災復興状況等視察		
		15	水	342日目					◇県立がんセンターで行った救援活動に対し宮城県知事から感謝状の授与	
	3	1	木	357日目				○「災害時における応急生活物資等の供給協力に関する協定」を大学生協みやぎインターカレッジコープと締結		
		11	日	367日目		●東日本大震災から1年				
		12	月	368日目					◇進級認定会議で教職員黙とう	

(2) 項目別の動き

	安否確認・保護	施設・設備	インフラ	食糧・燃料等	学外支援
1日目 (3/11)	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練で指定した場所に避難(名取C:グラウンド、広瀬C:グラウンド西の広場) 校内の学生、教職員が全員無事であることを確認 建物内に人が居ないのを確認 学生・教職員は耐震性が強い建物内に避難(名取C:食堂、広瀬C:4号棟1Fと視聴覚教室) 校内施設に簡易宿泊所を準備(名取C:食堂、合宿所、広瀬C:合宿所、厚生会館食堂、学校のバス、視聴覚教室) 簡易宿泊所に、自家発電の夜間照明・ストーブ・布団等を準備 帰宅可能学生及び保護者が迎えに来た学生は、確認後、帰宅(以後逐次) 学生や近隣住民が緊急保護で宿泊(名取C:約150名(内、留学生6名、近隣住民約60名)、広瀬C:96名(内、留学生11名、近隣住民3名)) 	<ul style="list-style-type: none"> 危険建物に立入禁止表示、屋外の危険区域にカラーコーンやビニールひもで区画 	<p>14時46分地震発生</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気・ガス・水道・電話の全てが破壊 交通手段(JR・地下鉄・一部道路状況)全てが破壊 被災地のスーパー、コンビニは店舗は通常営業不可 	<ul style="list-style-type: none"> 市や生協からの食材配給も受ける 被災地のガソリンスタンドの稼働率は最悪状態 	<ul style="list-style-type: none"> 名取C:がんセンターで援助活動開始 名取C:近隣地区の緊急避難場所に指定されていたため、近隣住民約30名を同様に寮に避難 広瀬C:近隣地区の緊急避難場所に指定されてはいないが、近隣住民約3名を避難 広瀬C:ソーラーセルを設置、付近住民に携帯電話充電用に提供
2日目 (3/12)	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態を長期間良好に保つことが、学内保護では困難なため校内避難学生を極力帰宅させる方針に決定、帰宅支援開始 自力で帰宅できない学生をスクールバス等の公用車で自宅に送り届ける 広瀬C:大部分の学生が帰宅、宿泊場所を変更(宿泊学生16名(内、留学生11名)、近隣住民8名) 全学生と家族、全教職員の安否確認作業を「開始」(電話、メール、本校開発のメール利用による緊急時安否確認システム等のあらゆる方法) 残る学生等の支援目的で、教員4名の宿直体制とし、食材調達開始と自炊開始(日直を含む実質支援教職員数は名取C約30名、広瀬C約10名) 名取C:学生や教職員の安否確認作業開始 		<ul style="list-style-type: none"> ライフインフラと保護者の状況を確認 名取C:電話、メール等が被災で使用不能となり、外部との情報が遮断。既設の緊急電話2本を活用(機構本部連絡用、学生安否確認用) 	<ul style="list-style-type: none"> 食材調達開始と自炊開始 	<ul style="list-style-type: none"> 名取C:がんセンターの片づけを学生教職員13名が支援
3日目 (3/13)	<ul style="list-style-type: none"> 教職員は両キャンパス共に全員無事を確認。 名取C:1名の学生の死亡情報が入る。 	<ul style="list-style-type: none"> 広瀬C:危険建物はないと判断した。 名取C:学科内の被害状況を調査し立入禁止区域調査を決定。建物内の立ち入りをブルーゾーンは可、イエローゾーンは4Fまで可とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 広瀬C:電気、LAN、電話が復旧。下水処理能力の限界と水の供給なしのため、水不要トイレを設置。 		
4日目 (3/14)	<ul style="list-style-type: none"> 入学生の安否確認を開始 名取C:避難所での朝食提供者は、一般15名と学生15名。食堂宿泊学生を合宿研修所へ移動。18日以降は宿直を1名体制へ縮小。 広瀬C:学内避難学生数は4名となり、宿泊施設を国際交流室、保健室として、宿直を2名体制へ縮小。 	<ul style="list-style-type: none"> 名取C:建物の応急危険度判定開始(~6日目まで、(2名(教員1名、職員1名)) 			
5日目 (3/15)	<ul style="list-style-type: none"> 安否が未確認の学生を警察に届ける。 名取C:避難所学生6名全員が別の避難所に退去するに伴い、避難所と萩工会館の食堂を閉鎖。 名取C:残る学寮避難学生6名。 広瀬C:残る学内避難学生3名を家族のもとへ公用車で送り届け、1名の学生が実家に帰宅。学内宿泊学生が0になる(宿直体制を解除) 			<ul style="list-style-type: none"> 高専機構や各高専からの救援物資配給 	
6日目 (3/16)	<ul style="list-style-type: none"> 名取C:学生1名実家に帰宅 広瀬C:全学生の無事確認 		<ul style="list-style-type: none"> 名取C:電気復旧 		
7日目 (3/17)	<ul style="list-style-type: none"> 名取C:死亡した1名以外、全学生の無事を確認。学寮避難学生1名になる(4名が帰宅) 		<ul style="list-style-type: none"> 名取C:LAN復旧 		
8日目 (3/18)				<ul style="list-style-type: none"> 名取C:避難住民(8名)は市役所の方針で増田西小学校、保険センター等へ移動 	
9日目 (3/19)					
10日目 (3/20)					
11日目 (3/21)					
12日目 (3/22)					
13日目 (3/23)					
14日目 (3/24)			<ul style="list-style-type: none"> 名取C:水道復旧 		

	外国人等	合同会議等	決定事項	広報	機構
1日目 (3/11)			14時46分地震発生		
2日目 (3/12)	・旅行中の留学生の安全も確認。		・卒業式、修了式等の3月の行事全て中止 ・入学手続きの期間延長 ・4月下旬まで休校 ・建物の安全が確認できるまで、学生は当分の間出校禁止	・ラジオ等での学校行事等の情報公表開始。	
3日目 (3/13)	・東京の各国大使館派遣バスで東京へ避難開始。		・交通、水、下水等のインフラ問題により、18日までは、宿日直以外の教職員は出勤可能な者のみの出勤とする ・22日までは、宿日直以外の教職員は出勤可能な者のみの出勤とする(宿日直を除く)。	・入学手続き、および学生安否用の緊急電話を構本部HPに掲載することを決定。	
4日目 (3/14)		・合同会議(会場:広瀬C)	・新5年生と新専攻科2年生の就活、並びに現5年生と現専攻科2年生の就職について、産業界に配慮依頼 ・3月17日の入学手続き〆切り期日を延長(31日まで郵送受付とし、遅れにも配慮)	・合格者への案内は機構本部のHPと本校HPで行うと共に、マスコミにも依頼 ・仙台高専の情報テロップがNHK、KHBに掲載されていることを確認	・人的・物的被害状況の把握調査実施 ・機構本部HPに安否確認のための緊急電話番号掲載
5日目 (3/15)	・広瀬C:フランスからの研修制等受け入れ中止決定		・25日までは、教職員は出勤可能な者のみの出勤とする(宿日直を除く)。		
6日目 (3/16)		・合同会議(会場:名取C)			
7日目 (3/17)	・マレーシア留学生(八戸高専、一関高専の留学生を含む)が大使館派遣バスで出発し、全留学生の東京避難が終了。		・宿直体制を解除		
8日目 (3/18)	・留学生は全員母国もしくは、大使館に退去したことを確認	・合同会議(会場:名取C)			・高専機構の五十嵐理事等が救援物資とともに来校、両キャンパスを視察 ・学生の就職活動について、文部科学省及び日本経済団体連合会に依頼済の確認
9日目 (3/19)					
10日目 (3/20)					
11日目 (3/21)					・学生、教職員の親族及び住居の被害状況の調査
12日目 (3/22)	・留学生全員帰国を確認				
13日目 (3/23)		・合同会議(テレビ会議)			
14日目 (3/24)					

4 大地震発生からの対応の記録

(1)地震発生時の対応【地震発生から1週間】

① 避難

地震発生から2分強の間、両キャンパスとも激しい揺れに襲われた。建物内では、固定されていない棚、ロッカー等は倒れ、書類、パソコン、実験設備等、物は飛散し、天井、壁も部分的に崩れてくるなどの状況であった。

そのような状況の中、建物の中にいた学生・教職員は、治まらない地震に不安と恐怖を感じながらも各々の判断で机の下にもぐるなど、その多くが咄嗟に危険を避ける行動をとり、揺れが収まるのを待った。地震発生直後に停電となり、放送設備が使用出来なかったことから全館放送による避難指示は行えなかったが、長く大きな揺れが若干収まりかけた頃(揺はじめて5分～10分後くらい)から、順次、各々が避難を呼びかけながら、建物外に避難をはじめた。学生は、春休み中であったことからクラス毎の避難は行われなかったが、日頃の訓練により自主的避難が浸透していたこともあり、居合わせた教職員の指示により、予め定められた避難場所に避難集合した。

その時点で大きく崩壊した建物等はなく、避難は、安全かつ速やかに行われ、地震発生からおおよそ20分後には、建物内のほぼ全員が屋外の安全な場所に避難を終了した。

参照:資料*1*2*3*4

名取キャンパスで避難場所に指定するグラウンド



広瀬キャンパスで避難場所に指定する西側広場



② 安否確認

・地震発生直後の確認

学生・教職員の安否確認は、避難を行った後から各々の部署単位で速やかに始まり、学生においてはクラス、教員においては各学科、事務部・技術室の職員においては各課室毎に、まずは地震発生時、学校内で活動していた者の中に行方不明や怪我などの人的被害が無いことが確認された。学生の確認には、学務課・学生課にあった学生名簿を利用した。

初期の確認方法は、各々の部署単位において目視での確認の後、建物内に残された者がいないかどうか、数名に分かれて全部屋を捜索し確認した。

・地震発生翌日からの確認

学年末は終わっており、課外活動等で出校した学生を除いて、学生のほとんどが校内にいなかったため、校内の学生の安否確認が終わった後は、出校していない学生の安否を確認することになった。

しかしながら、地震発生時から、ライフラインが全て破壊されたため、学校と学生の双方向での連絡が完全に不通となり、安否確認は困難を極めた。

学校の電気、電話の回復は、4日目である14日(月)に回復したが地域によって、回復状況が違ったため、学生が居るとされる各々の地域の回復状況を確認しながら、連絡できる場所から順次、教職員による電話連絡等で1名ずつ確認することを主として、その他あらゆる方法を駆使して連絡を行った。

名取キャンパスでは地震発生から11日目に死亡学生1名を除く全学生の無事が確認され、広瀬キャンパスでは12日目に全学生の安全が確認された。

参照:資料*3、P15の「安否確認及び避難所開設等」に詳細を記載

③避難所開設等

地震発生時刻が夕刻に近かったこと、地震発生後も数回にわたり余震が続いていたこと、ライフラインも全て破壊されたこと等により、帰宅できない学生や教職員数十名がいたことから、まずはその夜をしのぐための緊急措置として、保護するための安全な場所、飲料水・食糧の確保、防寒対策等の対応に対応可能な教職員があたった。

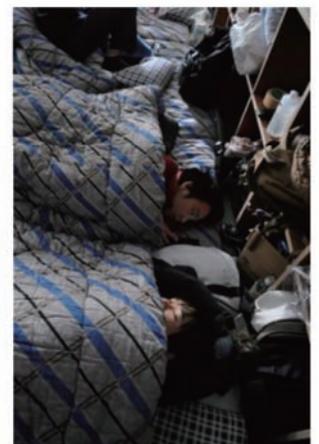
本校は、公共の施設であることから、両キャンパスで地域住民の避難の受け入れも積極的に行い1週間対応した。

なお、本校のカウンセラーの協力を得て、避難学生のメンタル状況を確認し、対応について助言を得た。

参照:資料*4、P15の「安否確認及び避難所開設等」に詳細を記載



避難所でストーブを囲む



1日目、余震が続く夜

④学生帰宅支援

(1)当日の対応

公共交通機関が不通になった際の学生の一般的な帰宅方法は、①徒歩や自転車、②保護者等の迎えであった。余震が落ち着いた段階で、近隣の学生は①の方法で帰宅した。地震直後、携帯電話はほぼ不通だったが、繋がる時(特にメールが有効であった)もあり、保護者と連絡が取れた学生や学校まで保護者が迎えに来た学生は②の方法で帰宅させた。その際、担任は帰宅方法を学生から確認し、在校する学生の人数を確認した。同時に、交通機関の早期の復旧が見込めないため、帰宅困難な学生については宿泊させることとした。

(2)2日目の対応

帰宅困難学生の生活支援については、本校広瀬キャンパスが避難所に指定されていないことから食糧等の確保が困難なこと、電気、水道、ガス等のライフラインの復旧の見通しが立たないことから、学生の健康状態を長期間良好に保つことが困難と判断し、極力帰宅させることとし、上記(1)の①②による帰宅の他、下記の方面ごとに③公用車を利用した帰宅支援を行った。

- ・仙台市内循環(スクールバス)
- ・上山・山形方面
- ・大崎・鳴子方面
- ・角田・福島方面
- ・塩竈・多賀城方面

また、前日に引き続き、保護者が迎えに来た学生については、確認の上で帰宅させた。その際、本人及び保護者の同意を得て、近隣の学生の同乗をお願いした。

(3)3日目以降の対応

留学生については、母国の大使館が帰国支援を行い、学校を離れた。残った自宅被災学生4名については、本人及び保護者と協議し家族と一緒に過ごすこととし、道路状況を確認した上で9日目に公用車による帰宅支援を行った。この結果、3月19日(9日目)以降の校内滞在者は0となった。帰宅支援の際、本校に届いた支援物資の一部を持参し、地域に届け地域支援の一環とした。

参照:資料*4、P43の「(2)項目別の動き 安全確認・保護」に詳細を記載



スクールバスでの帰宅支援



公用車での帰宅支援

⑤食糧調達

食糧の備蓄がほとんどなかったため、1 日目夜の食糧の調達は、学校生協からの支援、市の避難施設等からの支援物資、教職員個人保有の食糧、各自が付近コンビニ等への買い出し、職員が近くのスーパー等を回って必要不可欠な物を買集めたり、他県への買い出し、生協の食材を利用する等で、なんとか、地域住民分を含む、食糧は賅えた。

2 日目も基本的には同様の手段により各自で確保を試みるが、県内全域における物流の遮断やライフラインの破壊により身動きが自由にできず、当時は被災地全体で物が何でも直ぐに手に入るという状況ではなかったため、食糧調達について地震発生 2 日目の現場にはある程度不安感もあったが、4 日目には、本校にも他機関からの支援物資が届いたり、県、市単位等の規模でも飲料水・食糧の供給が徐々に進んで提供されてきたことから、飲料水・食糧の確保に関する問題は、時間ごとに回復し、各自持ち寄った自炊設備等も利用しながら、生活する上での最低限の水と食糧は、1 週間途絶えずに確保できていた。



配給されたおにぎり



限られた食材で自炊する学生



買い出し、スーパーの行列



配給された食品



日本全国からの支援物資



キャンプ用コンロなどを用いての自炊設備

⑥建物等の応急対応

広瀬キャンパスでは、3日目の被害状況確認で危険建物はないと判断した。

名取キャンパスでは、建物の被害が大きかったため、4日目から被災文庫施設応急危険度判定士2名（教員1名、職員1名）を中心に各建物の応急危険度判定にあたった。6日目には全ての応急危険度判定が終了し、危険建物の入口に立入禁止の表示を行った。また、地割れを起こした部分には立入禁止区域を設定し、カラーコーンやビニールひも等手持ちの材料で区画した。

参照:資料*14・*15・*19



応急危険度判定

立入禁止区域設定

立入禁止表示

立入禁止、
ヘルメット貸出し中の表示

⑦環境整備(避難所・暖房・トイレ等)

・避難所

地震発生直後における、保護のための居住場所の確保は、建物を応急調査した結果をもとに、避難場所としての既定の指定場所にかかわらず、まずは安全で長期滞在を想定した住環境と効率性を考慮して決定した。

・暖房

防寒対策としては、課外活動応援用のジャンパー類、使い捨てカイロ、毛布、布団、畳、石油ストーブ、ファンヒーター、火力の強いジェットヒーターなど暖をとれる全ての物を確保し、避難場所などの一カ所に集中させ使用した。

・トイレ

地震発生直後から4日目までは、プール、近くを流れる川の水を汲んでトイレの水洗として使用したり、雨水や雪解け水をポリバケツに貯めて使用したり工夫した。その後も水道水の供給は復旧の見通しがたらず、また下水処理能力の低下もあり、節水が求められ、5日目からは、使用できるトイレを限定して、水を必要としない簡易トイレを宿泊場所近くのトイレに設置するなど節水及び下水処理の負担減に努めた。

・その他

電気については、常備していた発電機の他、課外活動時に使用していた夜間照明、蓄電池、太陽電池を活用した充電システムなどを駆使し、通電までの間しのいだ。

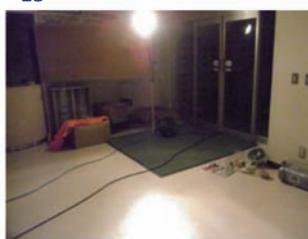
自炊施設は、各自持ち込み。

感染防止のため、アルコールティッシュ、速乾性アルコール手指消毒剤、マスク、ボックスティッシュを配付し、保健室を中心に衛生管理に配慮した。

参照:資料*15



集められた雪



発電機による夜間照明



蓄電池に充電



仮設トイレ

⑧両キャンパス連携

地震発生 1 日目は金曜日であり、両キャンパス間の連絡手段も途絶えてしまったことから、対策本部も各々のキャンパスで緊急的に立ち上がり、それぞれのキャンパスが、独自の判断のもとに土日を含む 3 日目まで対応せざるを得なかったが、4 日目からは、連絡網も徐々に回復し、両キャンパス合同の対策本部を設置することができたため、それ以降は、仙台高専一つの指揮命令系統に統一され、その後の大きな課題に向けての対応にあたった。

震災発生直後は、交通機関や通信機器（テレビ会議システムも含む）が機能していなかったことから、キャンパス毎に随時、会議を行い、緊急的な対応を行った。震災発生から 6 日目には、両キャンパスとも通信機器が回復し、テレビ会議システムを使って、数日間、両キャンパス合同での会議等を行った。

参照：資料 * 6・* 7



名取キャンパス



直線距離で
約 16km



広瀬キャンパス

⑨外部機関との連携（高専機構等との連携）

地震発生直後から名取キャンパスに隣接する宮城県立がんセンターに、教員及び学生数名が数回に分けて震災時の救援作業等に携わった。県立がんセンターからは、3 日目に医師及び看護師に巡回いただき、本校避難所における健康状態の確認が行われた。（同センターとは、緊急時における協力要請にかかる協定を締結している。）

市役所及び県総合支所には、地震発生直後に飲料水・食糧の確保の協力を直接出向いて口頭でお願いして、混乱する状況下に関わらず、できる範囲の協力を得ることができた。

高専機構本部とは、地震直後から緊急時使用電話などを利用して連絡し、機構のホームページに安否確認の情報を掲載してもらおうよう依頼などを行った。その後も密に連絡を取り合い、電気が通った 4 日目からはサーバーも復旧したため、メールにより連絡を取り合うことができ、各種支援要請、学生・教職員の安否確認状況、被災状況、今後の学校行事の動向、施設設備の被災状況など、随時お互いの情報収集等を行った。

同時に、文部科学省にも支援要請を行った。

被災学生の他高専への受け入れについて、当該高専に依頼し調整を行った。

参照：資料 * 8・* 11



宮城県



KOSEN
国立高等専門学校機構

東京都八王子市

⑩情報収集及び広報

1 日目は、連絡網が全て遮断された中、各自、時折つながる携帯電話、避難所に設置したテレビ、ラジオから、地震速報等の僅かな情報を得ながら一夜を過ごした。

2 日目は、新聞の朝刊は配達されたが、連絡網は同じ状態で、広瀬キャンパスでは3日目からは、電気、学内 LAN の回復があり、インターネットを通しての情報収集が可能となった。名取キャンパスでは電気が6日目、LAN が7日に復旧している。

地震発生直後から、テレビのテロップに24時間体制で各種様々な情報が流されており、ラジオでも同様に流されていた。本校の安否確認、学校行事の今後の動向についてもそこに逐一流すことをテレビ局、ラジオ局各社に依頼し、社会に対して情報提供を行った。

学生・保護者、外部に対しての情報発信は、学校のホームページを利用し、逐一、最新情報を掲載した。

参照: 資料 * 9

・ 学校のホームページを利用した情報提供



⑪労務管理

今回の地震では、教職員全員が被災者で、その家族や家屋の被災のみならず、ライフラインの破壊により通勤手段を奪われることになり、教職員各々の家庭においても日々の生活が破壊されて、その影響は必然的に労務管理にも及んだ。

今回の震災に伴う教職員の労務管理として、機構本部から、3月14日付けでその取り扱いが示され、一定の条件を満たした場合には、特別休暇が認められるようになった。

しかしながら、学校における、学生支援、そのケアにあたる業務も教職員が時間外労働を余儀なくされながらも従事しており、一部の教職員(学校に出勤できる状況にあった教職員)に過度の業務負担がかかる状況になるなど、その疲弊防止と責任負担の軽減を目指すために、不公平なく必要最小限の職員で対応できるよう、輪番で時間外に対応(宿泊での対応を含む。(12日目に解除))を行える体制を採ることとした。また、学生支援のために教職員が金銭を使用した場合には立替払いで処理できるようにするなどの対応を行った。

なお、4月1日採用者の人事は、全て行うことが出来、採用者も無事赴任したが、事務職員の4月1日の人事異動は、他機関との交流人事も含めて必要最小限にすることとした。

参照: 資料 * 10



対応する教職員

⑫海外からの留学生と研修生、海外派遣学生への対応

地震発生時、広瀬キャンパス在籍の留学生10名中6名(4名は帰国又は旅行中)の他、仙台にいた他高専の留学生4名(八戸1名、一関2名、仙台・名取1名)、これとは別にフィンランドからの研修生1名の総勢11名が広瀬キャンパスに身を寄せることとなった。

名取キャンパスでは、名取キャンパス在籍の留学生7名中5名(マレーシア留学生:1名は広瀬松韻寮、1名は韓国に旅行中)の他、仙台にいた秋田高専の留学生1名(インドネシア)の6名が本キャンパスに身を寄せることとなった。

海外からの学生の対応に関して、特に国内学生と異なった対応はしなかったが、食事の面については、慣習等に配慮した食材調達を行った。

学生の帰国に際しては、フィンランドからの研修生以外は国費留学生若しくは政府派遣留学生であったため、それぞれ派遣元の政府が保護の手をさし、チャーターバスにより順次帰国の途についた。フィンランドの研修生についても、大使館と連絡を取り、仙台日独協会文化センター主導の避難バスに乗車することができ、4日目に仙台を離れ東京に移動した。

・海外からの留学生と研修生

海外からの留学生及び研修生に関しては、大使館への連絡を指示し、各国とも地震発生から1週間以内に大使館主導での避難支援が行われ、本校においても関係各所との連絡調整等を行い、全員を無事避難へと導いた。

・23年度留学生関係

平成23年度の留学生受け入れについては、国費留学生2名(広瀬、名取各1)、マレーシア政府派遣留学生2名(広瀬2)の受け入れを予定していた。

震災は受け入れの直前であったこともあり、3月16日に両キャンパスで留学生受け入れに関する打合せを行い、施設面の被害が大きいこと、インフラの復旧の見通しが立たないこと、授業開始の見通しが立たないこと(この時点では4月中の休校を決定)から、留学生に対し生活環境及び勉学環境を提供できないと判断し、平成23年度の留学生受け入れは困難との結論に達し、同日中に高専機構国際交流室あてに連絡を行った。

高専機構国際交流室からは、3月28日付けで留学生の配属変更の連絡があった。変更の労をとっていただいた高専機構国際交流室及び受け入れ変更を許諾いただいた関係高専には、感謝の意を表するものである。

参照:資料*5



避難し、帰国を待つ留学生たち



海外からの留学生及び研修生の帰国支援

(2) 学校機能再開への取組み【地震発生後 1 週間から 2 ヶ月】

① 教務運営

・ 就職支援

就職内定学生の入社手続き等の延期に関する配慮を各企業に依頼した。企業でも内定学生の安否確認を行っており、学校にも電話やメールでの確認依頼があった。

学校・個人での個別の対応は行わず、文部科学省、高専機構本部にも企業に対する働きかけ等、就職支援を要請した。

・ 新学期開始

教務運営の今後のロードマップを検討するため、新たに復興対策委員会を設置した。新学期については、5 月初旬の授業再開を目標とし、社会インフラの復興の見通し及び校内の崩壊した建物の復興の見通しの状況をにらみながら、学年を 1 年遅らせることは絶対に避けることを念頭に様々なケースを想定しながら、議論を進めた。

・ 年間行事予定の再構築

卒業式・修了式及び入学式は、3 日目に中止を決定した。その後の年間行事予定の全ての再構築に迫られており、復興対策委員会において、復興ロードマップ作業表を作成し、全ての対応事項等の検討を行った。

参照：P22 の「教務運営の正常化」に詳細を記載

② 建物復興計画

カラーコーンやトラロープ調達によるきめ細かい立入禁止区画。崩落か所や地割れ等雨で危険が進行する場所の工事業者による危険防止措置。専門業者による土地・建物の詳細な被害状況調査。

4 月上旬 災害復旧事業計画書の提出。復旧工事の設計業務発注。

4 月下旬まで 5 月 9 日の授業再開に向けて、工事業者による学生動線の確保、教室、廊下、階段の危険部位の除去。

6 月下旬～8 月上旬 復旧工事の入札公告

7 月下旬～9 月上旬 復旧工事の着工

11 月上旬 体育館復旧工事完了

3 月上旬 校舎復旧工事完了予定

3 月下旬 武道場および法面復旧工事完了予定

参照：資料 * 14・ * 17・ * 18・ * 19



地割れ区域の立入禁止区画

③余震対策

今回の震災では、地震発生直後から、1日目においても数えられないくらいの回数の余震があり、2日目以降も余震の回数は、徐々に減るものの、震度3~4クラスの地震が多発していた。

その中でも、最大で3月11日の本震以降、被害が大きかったのが、4月7日(木)23時32分の地震で仙台市と名取市では、震度6弱の大きな地震であったが、幸い、両キャンパスとも3月11日ほどの大きな被害は確認されなかった。

余震に対しては、地震速報などで地震の情報を正確に得ること、棚やロッカーなどの高い位置に物を置かないこと、ヘルメットを各自身近な場所に常備することなど、本震以降、いつ大きな地震が来ても動じないようにこころの準備が整えられるなど、その経験により、各自自己防災の備えが植えつけられていた。

始業後の余震時の対応についても、どの時間帯で地震が発生するかを想定し、いつでも対応できるよう、いくつかのシュミレーションを考え、万全の対策を検討した。

参照:資料 P98

④寮運営

・萩花寮(名取CP)

震災後の、2年生以上の開寮日は5月6日(金)、1年及び新規2年生以上の開寮日は5月8日(日)とした。入寮式は5月8日(日)に寮事務室に執行部が集合して、放送により行った。

震災時は、閉寮期間中であり、寮を利用していたのは、日本に留まっていた留学生6名だけであったため、地震発生直後は留学生の安否確認を即座に行った。留学生のほとんどは、1週間ぐらいのうちに大使館に呼ばれ、その後直ちに帰国した。

部活動に来ていた寮役員や寮生が数名、寮にとどまり、学校の復旧作業を毎日手伝った。

トイレは水道・電気が使えなかったため、池の水をザルで濾して使用した。

1日目の夜は、余震の続く中、食堂に椅子を並べて座って寝たが、2日目の夜からは、体育用のマットレスを床に敷き、横になることができ、毛布や布団は、寮の居室を家探しして、持ち出して使わせてもらった。

電気システム工学科長が準備した、ソーラーパネルとバッテリーを使って、1日目からテレビやラジオで情報収集できた。携帯電話の充電も各自自粛しながらできたので、学生も少しは不安が取り除かれた。

震災当日は、寮で141名(近隣住民も含む)が過ごし、食糧は日ごろの非常食の準備が役にたった。名取キャンパスは、地元名取市の避難所指定になっているため、食糧が1日目から配給された。

震災により、男子の入寮希望者が増となったため、東寮を階段や廊下に壁を設けて、男女の生活区域を区分して、男子用居室を増やした。

避難経路を確保するため、建物の外壁に避難梯子を設置した。

・松韻寮(広瀬CP)

震災後の開寮時期の判断は、新学期にあわせて5月5日(木)とし、5月6日(金)に寮生が各居室の震災片づけを行い、新入寮生は5月7日(土)に入寮式を挙行了。4月より学寮再開のための玄関、食堂、1F談話室付近のガラスの破損を修理、共有スペースのヒビ割れは充填剤で埋めるなどの修復工事が入った。地震により壁にヒビが入り雨漏りがする部屋や、天井落下、壁のブロック落下などの恐れがある部屋を使用禁止とした。

また、開寮に先立ち、被災学生の早期入寮や臨時入寮の希望の有無を確認、4月18日修復工事終了を受けて早期入寮を許可、4名が入寮、自炊を原則に共同生活を行った。メンタルケアの必要性も考慮して寮監を1名配備した。早期入寮者は、寮生支援室とともに寮内の震災後の片づけや図書館の本の整理など校内ボランティアを行った。

名取キャンパスの入寮希望学生の増加を想定して、入りきらない場合は広瀬キャンパスで受け入れる場合の部屋の準備、食事の手配、名取への通学手段等の検討を行った。

余震の続く中、新入寮後すぐの時期として5月9日(月)に避難経路確認のための臨時避難訓練を実施した。

また、宿直寮監を1名から2名に増やし、宿直体制を強化して不測の事態に備えた。

被災学生の一時避難所としての学寮利用として、家が流出した学生に早期入寮、夏季休暇中の残寮を許可した。

今後の震災対策として、学寮独自に保存用飲料水の確保、非常食の備蓄を行い、適宜更新するためにチェックリストを作成した。

本国に帰っていた留学生の日本への入国支援や、進学者、就職者への新居住地への移動支援や必要書類の取得、送付などの支援を行った。

寮生会長に依頼して、寮生への緊急連絡網を作成した。

参照: 資料 * 15



萩花寮 (名取キャンパス)



松韻寮 (広瀬キャンパス)

⑤図書館、各センター、技術室の再開

・図書館

地震により、所蔵図書の8割近くが落下し、ほぼ全ての書架に歪みが生じた。

破損書架12台、位置移動等により修復が必要な書架124台と大きな被害を受け、しばらく閉館せざるを得ない状況だった。また、度重なる余震により復旧作業にも影響がでた。

書架等の設置位置復旧及び床固定工事と平行して行った落下図書の整理には、多くの本校教職員及び学生ボランティアの協力をいただき、5月9日からの授業再開に合わせ、一部を除き開館することができた。

また、図書の落下防止対策として、一部書架にブックキーパーを設置した。

その後の配架整備には、他高専からの人的支援業務として13名の協力をいただき、復旧作業を行い、6月1日には全館開館が実現した。

なお、奈良高専4名(4日間)、鶴岡高専8名(5日間)、八戸高専1名(3日間)から、各高専の業務繁忙にもかかわらず、人的支援があり、復旧作業に従事いただいた。



蔵書数：名取キャンパス約9万冊、広瀬キャンパス約7万6千冊

- ・地域イノベーションセンター
- ・C O O P教育センター
- ・I C T先端開発センター

産学連携活動の拠点としての各センター等の活動を次のとおり行った。

(学内活動)

安否確認、敷地・建物等の状況把握、避難所としての対応等のために、産学連携に関する大部分の業務は停止し、2か月たっても共同研究等に使用する設備機器等の全てが使用可能か確認できていない状況であった。

(学外活動)

震災後2週間後くらいから、企業協力会の会員企業へ対し、各企業の被害状況・課題等に関してアンケートを実施した。

高専機構本部、文部科学省、あるいは宮城県をはじめとする各自治体、KCみやぎ、東北経済連合会等の団体、学協会等と情報交換をしながら、仙台高専として、東北地区拠点校として、また、学術機関として震災対応に支援・協力できる方策を検討した。検討の結果の一部として、高専機構本部あるいは外部資金等への申請を行った。

・名取キャンパス創造教育センター

震災当日から、校内の危険区域に指定され、1週間ほど立ち入り禁止区域の状態となった。旋盤やフライス盤などの設備機器は、地震振動により動いたものの大きな被害はなかった。センター建屋では、天井付近からの落下物の危険性が指摘された。それらに伴い、管理室機能を教育研究技術支援室に移転した。その状況は、5月9日まで続いた。

4月末から5月にかけて、工作機械、設備関連の点検、原状復帰作業が行われ、6月1日より、創造教育センターを再開した。

・広瀬キャンパス教育研究技術支援室

実験室関係は、机上のパソコンや液晶ディスプレイが倒れ床に散乱する被害を受けた。一番被害が大きかったのは、3号棟4階の実験室で、備品戸棚が転倒、測定器類が散乱し、大きなダメージを受けた。また、復旧したのもつかの間、4月7日の余震で同じように転倒し、測定器類が散乱した。後に戸棚を壁に固定する転倒対策を4階はもとより全実験室に施工した。測定器類の動作チェックを行った。破損した測定器類やパソコンは、修理できるものは修理を行い、修理不能の機器は更新を行った。

電算機室関係は、サーバー類のラックが数センチ移動したものの転倒の被害は無く通電とともにサービスを開始できた。ネットワーク納入業者による点検は、沿岸部の作業を優先されたこともあり一ヶ月以上後に行われた。教育用パソコンや液晶ディスプレイの転倒、共通実験室のパソコンもタワー型本体の転倒、机上から落下等の被害を受けた。

工作室関係は、多くの工作機械が土台からずれ、使用不能となった。ジャッキアップ、水平レベル出し、動作チェック等を業者に依頼したが2ヶ月程待たされて原状復帰が行われた。

⑥設備、機器類再生計画

機構本部から設備機器類の災害復旧費要求のための資料作成の依頼が3月22日にあった。

しかし、当時は教職員の通勤手段が十分に確保されておらず、しかも名取キャンパスにあっては建物の被害が甚大であり、建物内に立ち入ることが制限されていたため、最初の設備機器類の被害状況をまとめるために10日ほどの日数を要した。

その後は徐々に通勤手段も確保され、電気などのインフラ関係も復旧してきたことから設備機器類に通電などを行ない、本格的な被害状況の調査を行った。

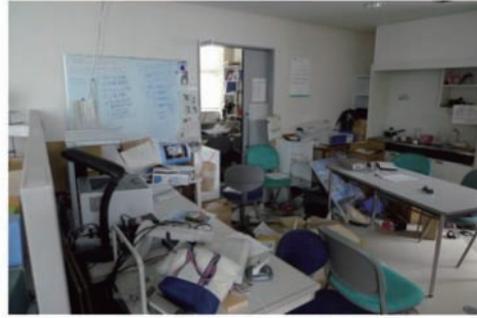
その結果、4月25日の第2回目の本部への被害報告は名取472,725千円、広瀬が45,762千円となり、第1回目の報告より約2億円減となった。なお、その後も、定期的に各学科等から被害状況の報告を受けながら被害金額の精度を高めていった。

また、設備機器類の被害状況と並行して5月7日から授業を開始することが決まり、授業開始に向けての少額の備品・消耗品等に対するの予算措置もされることになり、その被害状況についても調査を行なった。特に化学実験に使用するピーカー、フラスコ類の損傷、また、建築デザイン学科にある石膏像の破損が多かった。

今回は授業開始に向けてこのような被災設備機器の修理及び更新、また備品類、消耗品等の購入に際し、機構本部から最優先に予算措置を行なう旨の確約を早急に得ることができ、授業開始に向けて順調に準備を進められた大きな要因である。



被災した透過型電子顕微鏡装置



破壊した実験設備

⑦メンタルヘルスケア

・学生へのメンタルヘルス対応

今回の震災のように、生命に関わるような衝撃的な出来事を経験したり、目撃した後は、こころと身体にいろいろな反応や症状がでることがあるため、学生のメンタルケアについては、震災後、直ちにカウンセラーの助言を受けながらその対応が検討された。

震災後 20 日目である 3 月 30 日（水）には、その対応マニュアルとなる「災害時のメンタルヘルスについて」を本校ホームページに掲載し、学生相談室から学生と保護者に対して周知した。

始業前は、震災の影響を自己分析する「セルフチェックシート」を可能な限り学生に届け、始業後は、学生向けの震災アンケートを実施した。

アンケート結果は、カウンセラーが分析し、気になる学生名とその学生への対応ポイントをカウンセラーから担任に連絡し、連携を図りながらメンタルケアを実施した。また、個別にカウンセリングが必要な学生に対し、随時カウンセリングを実施した。

なお、専門医師やカウンセラーによる FD 研修会を開催し、学生のメンタルヘルスの留意点を教職員で共有する機会を設けた。

カウンセラーの相談日・相談時間を可能な限り増やし、被災学生の相談に応じた。また、始業と同時に相談室の開放を開始し、昼休み及び放課後になんでも相談室として学生相談担当教員が常駐・対応することとした。夏休み以降は放課後のみの相談室開放に切り替え、その後も対応を継続している。

特にクラス担任には、日常観察と声掛けを依頼し、また、教員会議等の機会を通じて、夏休みごろまでは学生への震災の影響について特に目配りと配慮を継続することを全教職員に依頼した。

入学前に被災した新入生については、学生を対象にしたメンタルヘルス講話を別途実施した。

心身のセルフケアについて啓もうを行うと同時に学生相談室利用について積極的に広報した。（5 月 20 日実地）

・教職員のメンタルヘルス対応

なんでも相談室としての相談室開放は教職員に対しても実施しており、多くの教職員が利用している。

教職員向けのメンタルヘルス講習会やストレスマネジメント講習会を開催し、震災により生活環境が変化した教職員や被災学生対応で心労が多い教職員のメンタルケアを行った。

参照:資料*12

5. 参考資料・その他の記録

参考資料目次

* 1	学生・教職員の被害状況（人的被害、住居被害等）	60
* 2	学生及び教職員の市町村別沿岸部居住状況	60
* 3	安否確認	61
* 4	学生の避難所受入れ状況	62
* 5	海外学生の推移	63
* 6	危機対策会議等	64
* 7	両キャンパス連携（合同会議等）	65
* 8	外部機関との連携（高専機構本部等との連携）	66
* 9	ホームページ掲載事項	73
* 10	労務管理・勤務対応状況	76
* 11	被災学生の他高専受入依頼	77
* 12	震災に伴う学生の健康・メンタルヘルスケア（学生相談室・保健室対応事項）	77
* 13	義援金・奨学金・授業料免除等	79
* 14	建物及び設備等の被災状況	82
* 15	学生寮及び職員宿舍被災状況	83
* 16	インフラ破壊状況	84
* 17	災害復旧工事支払計画表	85
* 18	工事工程表	86
* 19	校内被害状況等写真	87
* 20	放射線量測定結果の公表	90

参考資料

*1 学生・教職員の被害状況(人的被害、住居被害等) 平成24年1月27日現在

○ 学生(平成23年度在学学生(当時、入学予定の学生を含む)) (人)

	人的被害(死亡・行方不明)			住居被害*	
	本人	父親・母親	その他の同居親族	全壊	半壊
名取C	2	3	1	77	92
広瀬C	0	1	0	39	78
合計	2	4	1	116	170

○ 教職員(平成23年度在職者) (人)

	人的被害(死亡)			住居被害*	
	本人	父親・母親	その他の同居親族	全壊	半壊
名取C	0	2	0	3	1
広瀬C	0	0	0	2	1
合計	0	2	0	5	2

*住居被害数は、学生、教職員ともに義援金等の申請数

*2 学生及び教職員の市町村別沿岸部居住状況

(人)

市町村名	学生		教職員	
	名取C	広瀬C	名取C	広瀬C
気仙沼市	3			
南三陸町	1			
石巻市	25	25		
女川町	2			
東松島市	5	5		
松島町	5	3		
塩竈市	17	14	1	2
多賀城市	21	26		
七ヶ浜町	9	6		
宮城野区	47	86	5	9
若林区	29	32	6	2
名取市※	146	9	44	3
岩沼市	58	8	2	1
亘理町	34	1		
山元町	8	2	1	
岩手県沿岸部				
福島県沿岸部	98	6		
その他	532	626	61	91
合計	1,040	849	120	108

※名取市の欄の名取C学生の数には、名取キャンパス内にある寮への居住者は計上していない。
その他の欄に計上している。

***3 安否確認**

○学生の安否確認状況(各日の推移で累計)

・学校全体

(人)

月日	学生数 (総数1,889)	留学生数 (左記内数16)	備考
3月11日(金)	(約400)	12	在校していた学生について全員無事を確認。寮に滞在していた74名の学生については、媒体による学生氏名の正確な記録はない。(名取C)
3月12日(土)	0	12	紙の名簿を元に学生の安否確認作業開始。(名取C・広瀬C)
3月13日(日)	0	12	留学生全員の安否を確認。(名取C)
3月14日(月)	532	16	留学生全員の安否を確認(広瀬C) 安否確認者数を機構へ報告開始。
3月15日(火)	1,494	16	ネット環境復旧に伴い、機構への報告開始(広瀬C)
3月16日(水)	1,796	16	学生1名死亡確認(県警発表)(名取C)
3月17日(木)	1,827	16	留学生全員が学校を離れる。(名取C)
3月18日(金)	1,872	16	未確認者10名中6名については、地理的に安否が心配いため警察へ届け出(名取C)
3月19日(土)	1,872	16	
3月20日(日)	1,880	16	
3月21日(月)	1,886	16	全員の安否確認終了(広瀬C)
3月22日(火)	1,888	16	全員の安否確認終了(名取C)
~~~~~			
3月28日(月)			入学予定者1名死亡の連絡有。(名取C)

・キャンパス毎の内訳

(人)

月日	名取C		広瀬C	
	学生数	留学生数	学生数	留学生数
3月11日(金)	約250	6	約150	6
3月12日(土)		6	0	6
3月13日(日)		6	0	6
3月14日(月)	511		21	10
3月15日(火)	760		734	10
3月16日(水)	979		817	10
3月17日(木)	989		838	10
3月18日(金)	1,029		843	10
3月19日(土)			843	10
3月20日(日)	1,034		846	10
3月21日(月)	1,037		849	10
3月22日(火)	1,039			

○教職員の安否確認状況

・名取キャンパス

震災発生直後、校内施設に学生・教職員が取り残されていないか確認・救出。  
 グラウンドにて、各学科、課室等毎に、当日出勤していた教職員の安否を確認した（記録はとっていない）。  
 全員の無事を確認したのは、災害発生から4日後の3月15日（火）。

・広瀬キャンパス

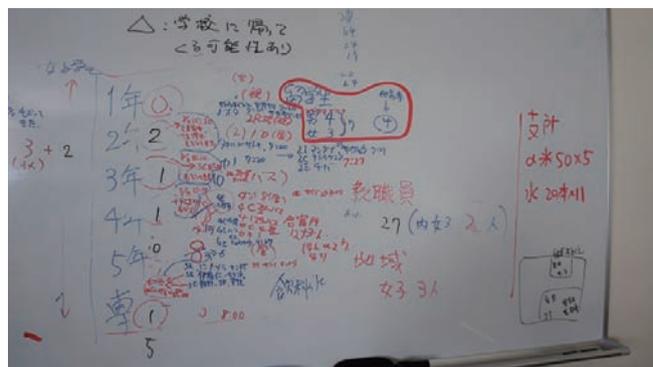
震災発生直後、厚生会館前の広場にて、当日出勤していた教職員の安否を確認した。  
 教員 48名  
 職員 47名 の無事を確認した。  
 全員の無事を確認したのは、災害発生から3~4日後。

*4 学生の避難所受入れ状況

・学校全体

(人)

月日	学生数	留学生数
3月11日(金)	約169	16
3月12日(土)	85	16
3月13日(日)	47	14
3月14日(月)	27	11
3月15日(火)	20	7
3月16日(水)	19	6
3月17日(木)	13	0
3月18日(金)	10	0
3月19日(土)	5	0
3月20日(日)	4	0
3月21日(月)	1	0



学生の安否確認情報の記録

・キャンパス毎の内訳

(人)

月日	名取キャンパス		広瀬キャンパス	
	学生数	留学生数	学生数	留学生数
3月11日(金)	74	6	約95	10
3月12日(土)	70	6	15	10
3月13日(日)	35	6	12	8
3月14日(月)	15	3	12	8
3月15日(火)	10	1	10	6
3月16日(水)	9	0	10	6
3月17日(木)	9		4	0
3月18日(金)	6		4	0
3月19日(土)	5		0	0
3月20日(日)	4			
3月21日(月)	1			
3月22日(火)	1			
3月23日(水)	1			
3月24日(木)	1			
3月25日(金)	1			
3月26日(土)	1			
3月27日(日)	1			
3月28日(月)	1			
3月29日(火)	0			

## *5 海外学生の推移

### ・名取キャンパス

月日	滞在人数	滞在状況内訳
3月11日(金)	6	本校留学生5名、秋田高専留学生1名
3月12日(土)	6	本校留学生5名、秋田高専留学生1名
3月13日(日)	6	本校留学生5名、秋田高専留学生1名 (※マレーシア政府派遣学生の内1名は韓国へ旅行中を確認)
3月14日(月)	3	インドネシア3名(秋田高専留学生1名含む) 離校
3月15日(火)	1	ラオス2名離校
3月17日(木)	0	マレーシア2名離校(広瀬松韻寮滞在1名も合流)

### ・広瀬キャンパス

月日	滞在人数	滞在状況内訳
3月11日(金)	10	本校留学生6名、他高専留学生4名(八戸1名、一関2名、名取1名)
3月12日(土)	10	
3月13日(日)	10	
3月14日(月)	8	インドネシア2名(本校1名、一関1名)
3月15日(火)	6	ベトナム1名、ラオス1名離校
3月16日(水)	6	
3月17日(木)	0	マレーシア6名離校 (本校3名、八戸1名、一関1名、名取1名)



研究室の被災状況



入手困難だったガソリン



自炊設備の設置



消毒用品等

## *6 危機対策会議等

### ○ 仙台高等専門学校東日本大震災復興対策委員会設置 (平成23年4月13日制定、平成24年6月13日廃止)

<p style="text-align: center;">○仙台高等専門学校東日本大震災復興対策委員会規則</p> <p style="text-align: right;">平成23年 4月13日 規則第86号</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に係る「仙台高等専門学校東日本大震災復興対策委員会（以下「委員会」という。）」の組織及び運営について定めるものとする。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 委員会は、仙台高等専門学校（以下「本校」という。）の学生及び教職員の安全確保並びに災害復興に関する迅速かつ適切な対応をとり、本校の業務の正常化を図ることを目的とする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一 災害復興基本方針に関すること</li> <li>二 災害復興計画の策定等災害復興に係る重要事項の審議及び調整に関すること</li> <li>三 前2号に掲げるもののほか、校長が特に必要と認める事項に関すること</li> </ol> <p>(構成)</p> <p>第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一 校長</li> <li>二 副校長（総務担当）</li> <li>三 副校長（教務担当）</li> <li>四 副校長（学生担当）</li> <li>五 副校長（寮務担当）</li> <li>六 副校長（研究・産学連携担当）</li> <li>七 専攻長</li> <li>八 校長特別補佐</li> <li>九 事務部長</li> <li>十 総務課長</li> <li>十一 管理課長</li> <li>十二 学務課長</li> <li>十三 学生課長</li> <li>十四 施設課長</li> <li>十五 その他校長が必要と認めた者</li> </ol>	<p>(委員長)</p> <p>第5条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。</p> <p>2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。</p> <p>(任期)</p> <p>第6条 第4条に掲げる委員の任期は、平成23年3月30日から必要と認める期間とする。</p> <p>(構成員以外の者の出席)</p> <p>第7条 委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。</p> <p>(事務)</p> <p>第8条 委員会の事務は、総務課が行う。</p> <p>(その他)</p> <p>第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員長が定める。</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>この規則は、平成23年4月13日から施行し、平成23年3月30日から適用する。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ○ 仙台高等専門学校東日本大震災義援金配分検討委員会設置 (平成23年4月13日制定、平成23年6月13日廃止)

<p style="text-align: center;">○仙台高等専門学校東日本大震災義援金配分検討委員会規則</p> <p style="text-align: right;">平成23年 4月13日 規則第87号</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、仙台高等専門学校東日本大震災義援金配分検討委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。</p> <p>(目的)</p> <p>第2条 委員会は、東日本大震災による本校の学生・教職員の被災者に対する支援として、県内外から寄せられた義援金を適切かつ効率的に配分することを目的とする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第3条 委員会は、義援金の配分計画として次の事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一 配分対象</li> <li>二 配分基準</li> <li>三 配分時期</li> <li>四 配分方法</li> <li>五 その他必要な事項</li> </ol> <p>(構成)</p> <p>第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>一 校長</li> <li>二 副校長（総務担当）</li> <li>三 副校長（教務担当）</li> <li>四 副校長（学生担当）</li> <li>五 副校長（寮務担当）</li> <li>六 事務部長</li> <li>七 総務課長</li> <li>八 管理課長</li> <li>九 学務課長</li> <li>十 学生課長</li> <li>十一 その他校長が認めた者</li> </ol> <p>(委員長)</p> <p>第5条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。</p> <p>2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。</p>	<p>(構成員以外の者の出席)</p> <p>第6条 委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。</p> <p>(事務)</p> <p>第7条 委員会の事務は、総務課が行う。</p> <p>(その他)</p> <p>第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員長が定める。</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>この規則は、平成23年4月13日から適用し、義援金の配分が完了次第廃止するものとする。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

*7 両キャンパス連携(合同会議等)

○ 両キャンパス合同会議の議題等抜粋

3月14日(月)から4月4日(月)まで

開催月日	場所等	議題等
3月14(月)	広瀬C	1 入学手続及び学生安否用緊急電話番号の機構本部ホームページ掲載 2 教職員の安否 3 教職員の出勤 4 学生の安否 5 立ち入り禁止区域の調査 6 各キャンパスのインフラの状況
3月16(水)	名取C	1 学生の就職活動 2 入学生の安否確認及び入学手続き締切の期日延長 3 各キャンパスのインフラの状況
3月23(火)	TV会議	1 学生の安否 2 建物被害 3 ライフライン 4 留学生 5 授業の再開 6 高専機構からの連絡 7 新1年生への対応 8 卒業・修了証書、卒業証明書等 9 教科書 10 クラス編成 11 東北地区の体育大会 12 高専機構からの被災状況の照会 13 義援金 14 教職員の勤務体制 15 ホームページでの学生・保護者・新入生へのアナウンス 16 専攻科学生の海外派遣 17 辞令交付 18 海外出張中の教員 19 海外派遣中の学生 20 会議 21 社会人キャリアアップコース
3月28(月)	TV会議	1 文科省からの挨拶 2 学生の安否 3 避難所 4 建物 5 支援物資 6 卒業式、入学式、終業式、始業式 7 卒業・修了証書 8 地震からの経緯 9 授業の開始 10 専攻科の入試 11 教職員の勤務体制 12 高専体育大会 13 開校までのプラン 14 施設 15 名取キャンパスの就職活動 16 教科書 17 非常勤講師 18 備品 19 4年生の就職活動 20 建物への出入り 21 就職関係 22 国際交流 23 広瀬キャンパス専攻科 24 機構による調査 25 教職員の安否 26 地域イノベーションセンター

3月29日(火)	TV会議	1 文科省高等教育局長訪問の報告 2 施設 3 授業開始 4 施設備品チェック 5 学生のボランティア 6 後援会費 7 教材関係の補助 8 入学生の安否 9 4月1日からの勤務体制 10 社会人キャリアアップコース 11 全教職員によるミーティング
3月30日(水)	TV会議	1 3月28日の会議の議事録確認 2 授業再開 3 学務関係 4 建物 5 課外活動 6 授業料免除 7 教職員の勤務 8 国際交流 9 専攻科 10 事務の負担に 11 生活インフラ 12 研究・地域連携 13 復旧作業 14 学生のボランティア 15 インターンシップ 16 公開講座・出前授業 17 復興ロードマップ 18 学生の登校
4月1日(金)	TV会議	1 前回の議事録の確認 2 復興ロードマップの確認 3 機構への報告 4 生協 5 情報の表示 6 プレハブの申請
4月4日(月)	キャンパス毎	キャンパス毎に全教職員によるミーティング

***8 外部機関との連携(高専機構本部等との連携)**

3月11日から5月3日(月)まで

月日	内容
3月11日(金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>高専機構本部事務局総務課・施設課から、「三陸沖を震源とする地震」の被害状況の収集について依頼があった。 (以下13日までメール使用不可のため、確認できたのは3月14日(月))</li> <li>高専機構国際交流室から国費及びマレーシア政府派遣留学生の安否確認の報告依頼があった。</li> <li>高専機構総務課・施設課から、被害状況を添付ファイルのとおりまとめたこと、新たな情報は土日であっても本部まで報告するよう依頼があった。</li> <li>高専機構国際交流室から、留学生の安否確認報告について、文部科学省にも報告するよう依頼。</li> </ol>
3月12日(土)	<ol style="list-style-type: none"> <li>高専機構総務課・施設課から各高専の被害状況の報告について保存フォルダに保存していること、新たな情報があった場合は本部まで報告するよう依頼があった。</li> <li>高専機構学務課から、入学手続き期限について、震災により手続きできない者について、期限後も手続きを行うよう依頼。</li> <li>高専機構総務課から、被害状況の報告について、高専機構本部でまとめて文部科学省に報告するので、これまで同様に新たな情報があった場合は機構本部まで報告するよう依頼。</li> </ol>

<p>3月14日(月)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高専機構本部事務局総務課情報企画係から、「高専機構共通システム (KOALA/ザイトス、人事給与システム、財務会計システム、学納金システム、IT 資産管理システム、旅費システム)」を通常どおり利用できる旨の連絡があった。</li> <li>2. 高専機構本部事務局総務課から、安否確認について、電話が繋がりに難くなっており、安否確認に支障をきたしているところではあるが、学校への避難者名簿及び安否情報等をホームページ等に公開することにより、親族への情報提供の迅速化が望めるものと考えられることから、福島高専の例を参考に、情報提供の迅速化等を図るよう連絡があった。</li> <li>3. 学務課長から高専機構総務課へ広瀬キャンパスの電気、インターネット環境が回復した旨報告。</li> <li>4. 高専機構総務課から水道の復旧状況について照会。</li> <li>5. 学務課長から、水道が未復旧な旨報告。</li> <li>6. 学務課長から機構本部総務課あてに留学生が全員無事であること、他高専留学生を4名(名取キャンパス含む)保護していることについて報告。</li> <li>7. 長岡技術科学大学から、救援物資を運搬中である旨連絡有。</li> <li>8. 学務課長から文部科学省学生・留学生課あてに広瀬キャンパスの国費及びマレーシア政府派遣留学生安否について報告。</li> <li>9. 機構本部の対策室について、八王子から田町CICに移設したので、今後の本部への連絡、報告等については、次の連絡先へとの連絡があった。 「国立高専機構災害対策本部」対策室主に、大槻局長、三浦、栈敷、前田) 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 田町CICオフィス</li> <li>10. 国立高専機構災害対策本部から、文部科学省より東北電力による計画停電の情報が入ったとの連絡があった。</li> </ol>
<p>3月15日(火)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (11:30)高専機構国際交流室から、留学生の現状について、大使館への移動状況も含め報告するよう依頼。</li> <li>2. 国立高専機構災害対策本部対策室から、高等教育局専門教育課より「資源エネルギー庁より東北電力の計画停電プレスリリース資料を入手した」との連絡があった。</li> <li>3. (16:29)高専機構国際交流室から、国費及びマレーシア政府派遣留学生の受け入れに関する緊急調査依頼。</li> <li>4. (16:36)企画室長から、機構対策本部あてに学生教職員の安否確認状況について、下記のとおり報告。 教員 62 名中 61 名の無事を確認 技術職員・事務職員等(非常勤職員を含みます) 53 名中 51 名の無事を確認 学生 813 名中 734 名の無事を確認 内訳 本科 731 名中 666 名確認 専攻科 82 名中 68 名確認</li> <li>5. 機構本部事務局総務課から、校長・事務部長会議等の開催について全高専あてに連絡があった。 2月28日に事前に案内をしているが、下記のとおり開催するので、ご出席いただきたい。18時30分からの情報交換会に関しては、中止とさせていただきます。 その他、永年勤続表彰・辞令交付式(別途本部事務局人事課から該当高専へ連絡済み)及び専体協・連合会会議(別途本部事務局企画課から連絡済み)についても、次のとおり予定している。 また、東北地区太平洋沖地震に関して、その対応をされている学校は、その対応を優先していただきたい。それに伴って、欠席する場合は、その旨、総務課あて連絡願いたい。 (1) 場所 ホテルJALシティ田町 (2) 日時 平成23年3月25日(金) 地下1階「鳳凰の間」 専体協・連合会会議 開催時間については現在調整中 校長・事務部長会議 13時15分～16時00分(予定) 地下1階「飛翔の間」 辞令交付・永年勤続表彰 16時05分～16時30分(予定)</li> <li>6. 学務課長から、高専機構国際交流室あてに11:30のメール依頼に基づき、留学生の現状について、インドネシア、ラオス、ベトナムの国費留学生については大使館に身柄が移ったこと、残っているのはマレーシア政府派遣留学生である旨報告。</li> </ol>

	<p>7. 学務課長から、高専機構国際交流室あてに名取キャンパスの留学生の現状について、インドネシアの国費留学生については大使館に身柄が移り、マレーシア政府派遣留学生のみ残っている旨報告。</p> <p>8. 機構対策本部から、今後の学事予定について照会。</p>
3月16日(水)	<p>1. 高専機構国際交流室から、国費及びマレーシア政府派遣留学生の受け入れに関する緊急調査その2依頼。</p> <p>2. 学務課長から、高専機構対策本部あてに学事日程及び両キャンパスの学生の安否確認状況及びインフラ復旧状況について、下記のとおり報告。</p> <p>○学事日程</p> <p>卒業式 中止</p> <p>入学手続きの延長 3/31 まで</p> <p>入学手続きは原則郵送に切り替え</p> <p>入学式 中止 (キャンパス毎に簡易実施)</p> <p>4月下旬まで休校</p> <p>○広瀬キャンパス</p> <p>学生安否 (15:00 現在)</p> <p>本科 768 人中 741 人確認</p> <p>専攻科 81 人中 76 人確認</p> <p>インフラ状況</p> <p>電気 (3/14 回復)</p> <p>水道 断水中</p> <p>電話 不通</p> <p>ガス 未復旧</p> <p>○名取キャンパス</p> <p>学生安否 (10:00 現在)</p> <p>1,072 名中 912 名確認。1 名死亡</p> <p>インフラ状況</p> <p>電気 (3/16 回復)</p> <p>水道 断水中</p> <p>電話 不通</p> <p>ガス 未復旧</p> <p>3. 学務課長から、高専機構国際交流室あてに両キャンパスで打合せを行った結果、両キャンパスとも23年度の国費及びマレーシア政府派遣留学生の受け入れが年度途中も含め困難であるとの結論になった旨報告。</p> <p>4. 学務課長から、文部科学省学生・留学生課あてに名取キャンパスの留学生の現状について報告。</p> <p>5. 国立高等専門学校機構管理課長から、みずほ銀行のシステムに障害が生じ、17日の給与について振込ができていない恐れがある旨の連絡があった。</p>
3月17日(木)	<p>1. 企画室長から高専機構対策本部あてに広瀬キャンパスの安否確認状況について下記のとおり報告。</p> <p>教職員 全員無事を確認</p> <p>学生 本科 768 名中 758 名確認</p> <p>専攻科 81 名中 80 名確認</p>
3月18日(金)	<p>1. 国立高専機構の五十嵐理事および施設課長等が名取キャンパス視察後に広瀬キャンパスを視察 (9:30-11:00) した。内田校長等が災害状況説明したのち、建物の被害状況を視察した。</p> <p>2. 国立高等専門学校機構木谷雅人理事から、義援金に関するお願いがあった。概要は以下のとおりである。</p> <p>このたびの大地震により、一関、仙台、福島、茨城など被災地域の各高専において、多くの被害が伝えられており、全国の高専から義援金を考えているという話も伺っている。既に HP でも伝えている通り、機構として検討してきたが、このたび機構の理事、事務局長及び全高専の校長連名で、義援金の呼びかけを行いたいと考えているので、ご賛同をお願いしたい。</p> <p>高専自体の施設の復旧や被災学生の授業料免除などは公的資金により対応できるが、このたびの義援金は、被災された各高専の学生や教職員及びそのご家族の方々へのお見舞いとしての支援に活用することを考えている。被災者の状況</p>

	<p>はいまだ明確にはなっていないが、相当数の方々が大きな被害を受けておられると見込まれることから、現段階で義援金の呼びかけを行おうとするものである。ご賛同いただければ、来週にも、機構及び各高専のHP上で呼びかけたいが、各高専において、例えば「教職員有志一同」のようにとりまとめていただくこともご検討いただきたい。各高専の事情に応じて、教職員以外の関係者にも呼びかけることもあり得る。3月25日の校長会において、さらに詳細を説明したい。本日午後5時までに回答をいただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 国立高専機構本部事務局総務課総務係へ、平成23年3月25日（金）の校長・部長会議は、本校関係者は地震対応のため、欠席する旨連絡をした。</li> <li>4. 高専機構学務課から東北地方太平洋沖地震に伴う入学科・授業料免除の取り扱いを機構ホームページに掲載した旨連絡。</li> <li>5. 高専機構国際交流室から、留学生の現状について、別途様式で報告するよう依頼。</li> <li>6. 高専機構対策本部から、政府の災害緊急対策本部から文部科学省を通じて、国の出先機関として被災者の支援に最大限努めるよう依頼があった旨連絡。</li> </ol>
3月19日（土）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高専機構林理事長から、高専機構ホームページに義援金募集について掲載した旨連絡。</li> <li>2. 学務課長から高専機構国際交流室あてに、広瀬キャンパスの留学生の状況について指定の様式で報告。</li> </ol>
3月20日（日）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国立高専機構災害対策本部から、国立高専機構災害対策本部対策室について、3月21日（月）22時から、24時間体制を解除する旨連絡があった。併せて、夜間等の緊急時の連絡先の通知があった。</li> <li>2. 企画室長から高専機構対策本部あてに広瀬キャンパスの16時現在の安否確認状況について下記のとおり報告。  学生 本科 768名中 756名確認  専攻科 81名中 80名確認</li> </ol>
3月21日（月）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学務課長から高専機構国際交流室あてに、名取キャンパスの留学生の状況について、指定の様式で報告。</li> <li>2. 学務課長から高専機構対策本部あてに、広瀬キャンパスの学生の安否について、10:30に全員の無事が確認された旨報告。</li> <li>3. 国立高専機構災害対策本部から、東北地方太平洋沖地震に関して、各校において警戒避難体制等防災体制の整備、学生等の安全確保等被害情報に係る報告のお礼があった。  また、今後の全国立高専からの報告について、学生、教職員の親族及び住居の被害状況の項目を追加しているため、適時報告するよう依頼があった。新たな情報が判明した場合には、速やかに災害対策本部宛に連絡するよう依頼があった。</li> <li>4. 国立高専機構災害対策本部から、東北地方太平洋沖地震の災害による備品・消耗品等の購入について連絡があった。平成23年4月以降の授業開始に際し、今回の地震の影響により破損し、早急に代替品が必要となる、設備を除く実験・実習用の備品・消耗品等（機器・器具等）があれば、リストを作成して、3月23日（水）12時までに災害対策本部対策室宛に提出するよう依頼があった。</li> </ol>
3月22日（火）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国立高等専門学校機構管理課長から、みずほ銀行のシステム障害の影響について連絡があった。みずほ銀行から処理が滞っていた17日付けの給与振込（受取口座がみずほ銀行本店又は支店のもの）が完了したと連絡があった旨連絡があった。</li> <li>2. 国立高専機構対策本部から、文部科学省高等教育局学生・留学生課より、下記の通知があった旨連絡があった。  【文部科学省】東北地方太平洋沖地震に係る主要経済団体等への大臣要請を踏まえた対応について（通知）  この度の地震により、新卒者等の雇用に係る問題が発生すると見込まれるため、本日付けで、文部科学大臣及び厚生労働大臣の連名により、主要経済団体258団体に対し、新規学校卒業予定者等の入社時期、来春卒業予定者等の採用選考活動等についての要請書を発出した。さらに、震災の影響を受けた学生・生</li> </ol>

	徒に向けて、文部科学大臣及び厚生労働大臣の連名により、将来ある学生・生徒が社会人として活躍できるよう、政府として学生・生徒の就職を全力で支援すること等についてメッセージを作成したこれらの要請書及びメッセージについては、文部科学省において、ホームページへの掲載等により周知するが、各大学等においても、ホームページへの掲載、学内での掲示・配付等により周知願いたい。
3月23日(水)	<ol style="list-style-type: none"> <li>総務課総務係長から、国立高等専門学校機構災害対策本部対策室へ、3月23日(水)16時時点での本校広瀬キャンパス教職員に係る被害状況を下記のとおり報告した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①職員の親族の被災→報告無し</li> <li>②教職員の住居(自宅)もしくは帰省先の住居の被害→事務職員1名:実家が半壊(1階部分が津波に流された)</li> </ul> </li> </ol>
3月24日(木)	<ol style="list-style-type: none"> <li>高専機構対策本部から、震災に伴い内定先企業等からの内定取り消し、自宅待機等の有無について報告依頼。</li> <li>国立高専機構対策本部から、各国立高等専門学校総務担当課長宛に、人的・物的被害状況の正確な把握について文部科学省専門教育課より調査依頼があった旨連絡があった。3月25日(金)10:00までに災害対策本部宛に回答する。</li> <li>総務課総務係長から、国立高等専門学校機構災害対策本部対策室へ、3月24日(木)16時時点での本校広瀬キャンパス教職員に係る被害状況を下記のとおり報告した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①職員の親族の被災→事務職員1名:叔母の配偶者が行方不明</li> <li>②教職員の住居(自宅)若しくは帰省先住居の被害→事務職員1名:実家が全壊</li> </ul> </li> </ol>
3月25日(金)	<ol style="list-style-type: none"> <li>総務課庶務係長から、平成23年3月24日(木)に国立高専機構対策本部から依頼があった人的・物的被害状況の正確な把握について回答した。</li> <li>高専機構国際交流室から、文部科学省と協議した結果、本校に配置予定であった国費留学生及びマレーシア政府派遣留学生について、受け入れ校を変更した旨連絡。</li> <li>国立高専機構対策本部から、文科省専門教育課より震災支援マッチング・ポータルサイトの立ち上げにあたっての作業依頼があった旨連絡があった。</li> </ol>
3月28日(月)	<ol style="list-style-type: none"> <li>磯田文雄文科省高等教育局長及び小谷直和専門教育課課長補佐が来校した。</li> <li>総務課総務係長から、国立高専機構災害対策本部対策室へ、3月25日(金)に依頼のあった教員・職員の3月25日現在の人数を下記のとおり回答した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>教員【広瀬キャンパス】62名 【名取キャンパス】75名</li> <li>非常勤教員【広瀬キャンパス】2名 【名取キャンパス】7名</li> <li>職員【広瀬キャンパス】45名 【名取キャンパス】44名</li> <li>非常勤職員【広瀬キャンパス】10名 【名取キャンパス】16名</li> </ul> </li> <li>総務課総務係長から、国立高等専門学校機構災害対策本部対策室へ、3月28日(月)16時時点での本校広瀬キャンパス教職員に係る被害状況を下記のとおり報告した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員の親族の被災→追加事項なし</li> <li>②教職員の住居(自宅)もしくは帰省先の住居の被害→教員1名:実家が床上浸水し、家財道具が多数使用不能</li> </ul> </li> <li>学務課長から高専機構対策本部あてに、17時現在の学生の被害状況について下記のとおり報告。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①親族の被災→報告なし</li> <li>②住居の被災状況→全壊7、流失4、半壊8、床上浸水20</li> </ul> </li> </ol>
3月29日(火)	<ol style="list-style-type: none"> <li>国立高専機構対策本部から、文科省専門教育課より緊急で、東北地方太平洋地震等による平成23年度入学者の状況について調査依頼があった旨連絡があった。</li> <li>国立高専機構災害対策本部から、学生・保護者及び教職員・家族の生活居住</li> </ol>

	<p>環境の状況調査について依頼があった。対応が必要な学生・保護者及び教職員・家族の生活居住環境の状況を把握する必要があるため、指定の様式にて回答願いたい。既に同様の項目で調査されている場合は、その様式に構わない。</p> <p>回答締め切り 第1回 4月1日(金) 17時 第2回 4月6日(水) 17時 第3回 4月8日(金) 17時</p> <p>3. 高専機構木谷理事から、被災した高専の学生の転学等の要望への対応方針を定めた旨連絡</p> <p>4. 文部科学大臣から、被災した学生について、奨学金等の経済的支援、就職支援、精神支援等配慮を行うよう対応を求めた通知を受理</p> <p>5. 高専機構泰対策本部から、文部科学省より学生等震災特別相談窓口の周知依頼があった旨連絡。</p>
3月30日(水)	1. 高専機構対策本部から、授業・業務再開に向けた工程表作成について依頼。
4月4日(月)	<p>1. 高専機構国際交流室から途中帰国した留学生への対応について、文部科学省より通知があった旨連絡。</p> <p>2. 国立高専機構対策本部から、文部科学省専門教育課より東北地方太平洋沖地震に伴う学生のボランティア活動について通知があった旨の連絡があった。</p> <p>3. 高専機構災害対策本部から、学生・保護者及び教職員・家族の生活居住環境の状況調査について、様式訂正の連絡。</p>
4月5日(火)	<p>1. 国立高専機構災害対策本部から、4月6日(水)の連絡は、八王子本部棟へ、4月7日以降の連絡については、災害対策本部(田町CIC)へお願いしたい旨連絡があった。</p> <p>【災害対策本部 対策室】 4月6日のみ 機構本部八王子本部棟 4月7日以降(通常どおり) 東京都港区芝浦3-3-6 田町CICオフィス</p>
4月6日(水)	<p>1. 高専機構学務課から、検定料免除に係る臨時措置について通知。</p> <p>2. 高専機構国際交流室から、国費留学生の再渡日について依頼。</p>
4月7日(木)	<p>1. 高専機構災害対策本部から、学生・保護者及び教職員・家族の生活居住環境の状況調査について、様式再訂正の連絡。</p> <p>2. 高専機構対策本部から、被災した学生に必要な教材等の調査依頼。</p>
4月8日(金)	<p>1. 高専機構対策本部から、昨夜発生した地震に伴う被害の状況について報告依頼。</p> <p>2. 高専機構国際交流室から、文部科学省より東日本大震災に関する外国人留学生支援等について報道発表した旨連絡。</p> <p>3. 独立行政法人国立高等専門学校機構林理事長名で、東日本大震災に係る内閣総理大臣及び文部科学大臣からのメッセージについて通知があった。このたび、新学期を迎えるにあたり、内閣総理大臣及び文部科学大臣から全国の児童生徒及び学校関係者に対するメッセージの発表があった。このメッセージは、内閣総理大臣及び文部科学大臣から「新学期を迎える皆(みな)さんへ」と題して全国の児童生徒へ、文部科学大臣から「全ての学校関係者の皆様へ」と題して教職員をはじめ全国の学校関係者へ感謝や激励の念等を表しているものである。メッセージが学生及び教職員等に行き渡るよう、配慮願いたいとのお願いがあった。文部科学省ホームページにもこのメッセージが動画で掲載されている。</p>

4月11日(月)	<p>1. (09:52)高専機構対策本部から、東日本大震災の犠牲者に対する黙祷について文部科学省から周知依頼があった旨連絡。</p> <p>2. 総務課庶務係長から、学生・保護者及び教職員・家族の生活居住環境の状況調査について所定サイト上の回収フォルダにアップロードした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「名取」「広瀬」学生・保護者生活居住環境の状況調査</li> <li>・「名取」「広瀬」教職員・家族の生活居住環境の状況調査</li> <li>・仙台高専復興ロードマップ</li> <li>・仙台高専中長期検討事項</li> <li>・仙台高専 入学科免除及び授業料免除の取扱いについて</li> <li>・仙台高専 調査判断基準表</li> </ul>
4月13日(水)	<p>1. 被災学生等の支援について、国立高等専門学校機構木谷理事から校長宛に連絡があった。詳細は以下の通り。</p> <p>被災学生等の支援について、現在機構本部で検討している内容を3点は次の通り。</p> <p>第一に、義援金の配分方針案。義援金は今月中には数千万円には達すると見込んでおり、5月には学生等に第一次の配分ができるようにしたいと考えている。そこで、配分方針案を作成したので、ご意見を伺いたい。なお、具体的な金額(単価)については、最終的な対象人数と義援金の額によって変わるので仮置きと考えていただき、基本的な考え方すなわち支援対象者の範囲、区分、支給額算定方法等についてのご意見をお願いしたい。義援金の配分については、何といたっても被災高専にとって喜ばれるものであることが大切であるので、ぜひ率直なご意見を賜れば幸いである。参考までに、各高専からの報告に基づいて、この配分方針案により支援対象となる人数を現時点で集計すると次のようになり、総額は三千万円程度となると見込まれるが、もちろんさらに精査が必要であり、特に失業等の状況や原発による避難等の状況は今後かなり変動する可能性がある。</p> <p>○学生(在學生と新入生の両方を含む):(両親の死亡・行方不明)一関4名、仙台5名、(両親の失業等)一関2名、仙台38名、福島47名、(住居全壊)一関32名、仙台49名、福島10名、茨城2名、(住居半壊)一関8名、仙台50名、福島25名、茨城2名、(原発30km圏内のため避難)仙台31名、福島110名○教職員:(両親等の死亡・行方不明)仙台2名、(住居全壊)仙台1名、(住居半壊)福島2名</p> <p>第二に、被災した学生に対する教科書、教材等の支給については、次のように考えている。教科書等を災害で滅失したり、新たに必要となる教科書等の購入が経済的に困難であったりする学生が多数に上る。これらの教科書等の購入費用については、義援金での対応、機構の寄付金会計等での対応、運営費交付金での対応(この場合は学生への貸与となる)などを検討しているが、いずれにしても所要額は措置する方針であるので、学校での一括購入等の手続はぜひ進めて欲しい。</p> <p>第三に、被災した学生に対する授業料免除の扱いは、通常の授業料免除については、本年度の予算上は、本科4年生以上の学生について6.8%の枠内で各学校の判断で実施し、さらに0.5%分については各学校の申請に基づき機構本部が超過免除を実施することとなっているが、災害による家計急変や保護者の失職の事情がある場合は機構独自の減免措置を講ずることは既にご案内している通りであり、国の予算措置が今後どうなるかは不明だが、いずれにしても今回の震災に対応した所要の減免措置は実施する予定である。については、今回の減免は相当の規模になることが予想されるので、今後、授業再開の一週間程度後に各学校から減免が必要な人数を報告・申請していただくことを考えている。おつて事務的な連絡はさし上げる予定だが、あらかじめお知らせするものである。</p>
4月14日(木)	<p>1. 4月11日(月)の機構木谷理事から校長への連絡をうけて、本校内田校長から、以下の連絡をした。</p> <p>次の点でご検討いただけると幸いである。</p> <p>(1) 学生毎に詳細な事情が異なることもあるので、本部の基本方針に沿って学校に配分されたあと、学生の詳細な状況を配慮して、本学の配分検討委員会で詳細を決めて良いというように、各学校に裁量権を与えて頂けるとありがたい。</p>

	<p>(2)「第三に・・・」の箇所、3年生までの被災学生への授業料免除についても検討していただくと助かる。文面からは、3年生までは修学支援金があるから、それ以外の支援は不要と言うことかも知れないが、支援金は半額程度ですので、残りの半額についての免除についてもご検討をお願いしたい。さらに、3年の留年学生には支援金が出ないので、もしこのケースの被災学生がいた場合の減免措置等についてもご検討をお願いしたい。</p> <p>(3)「学生本人の死亡」は対象にならないように見受けられるが、何らかのご配慮を頂ければ幸いである。</p>
4月15日(金)	1. 機構災害対策本部に対し、総務課長から復興に向けた人的支援の要望を提出
4月21日(木)	1. 国立高専機構災害対策本部の連絡は、八王子の本部棟に、22日以降は場所が流動的になるので、適宜、上記の八王子本部棟もしくは竹橋オフィスにご連絡いただきたい旨連絡があった。
4月27日(水)	1. (12:25)高専機構木谷理事から、東日本大震災に伴う災害ボランティア活動について、留意事項等について通知があった。
5月16日(月)	1. 高専機構本部人事課から「東日本大震災の被害に伴う特別昇給の措置について」通知があった。
5月20日(金)	<p>1. 機構鈴木財務課課長補佐から、義援金の配分にあたり、機構で把握した人数の確認依頼があった。</p> <p>2. 総務課総務係長から、1. で確認した内容を回答した。</p>
5月23日(月)	1. 総務課総務係長から、被災状況について機構に回答した。(以下、義援金配分に関して、長期間にわたり、複数回やり取りを行った。)

## *9 ホームページ掲載事項

本校ホームページ 「東日本大震災に関するお知らせ」 目次抜粋  
 下記URL参照 <http://www.sendai-nct.ac.jp/college/pages/000996.php>

- [校長からの挨拶](#)

## 救援物資・義援金・復興支援への御礼

- [東日本大震災関係義援金収支等](#) 2012/6/13
- [東日本大震災時の救援活動に感謝状をいただきました](#) 2012/2/15
- [宇部高専企業後援会から義援金をいただきました](#) 2011/10/14
- [復興応援メッセージが届きました](#) 2011/8/10
- [萩朋会東京支部から義援金をいただきました。](#) 2011/7/31
- [仙台高専同窓会から義援金をいただきました](#) 2011/7/26
- [「東北地方太平洋沖地震により被災した学生等への義援金」の御礼](#) 2011/7/11
- [業務支援\(人的支援\)についての御礼](#) 2011/7/11
- [「東北地方太平洋沖地震により被災した学生等への義援金」の御礼](#) 2011/5/31
- [救援物資への御礼\(2\) 更新](#) 2011/3/28
- [救援物資への御礼\(1\)](#) 2011/3/16

## 企業の皆様へ：就職・インターンシップに関する支援と配慮のお願い

- [インターンシップ受入調書提出期限延長のお知らせ](#) 2011/4/19
- [\(参考資料\) 平成 23 年\(2011 年\) 東北地方太平洋沖地震により被害を受けた新卒者等への配慮に関する要請書](#) 文科省通知 2011/3/22

## 保護者・同窓会の皆様へ：東北地方太平洋沖地震により被災された学生等への義援金について

- [仙台高等専門学校義援金の支給について](#) 2012/3/29
- [東北地方太平洋沖地震により被災された学生等への義援金について 趣意書](#) 2011/5/18

## 被災状況及び復旧工事について

平成 23 年 [3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震](#)、及びその余震と見られる [4 月 7 日の地震](#)による仙台高専の被災状況写真を掲載します。前震と見られる [3 月 9 日の地震](#)では被害はありませんでした。(リンク先は防災科学技術研究所です。)



[3 月 11 日の本震、及び 4 月 7 日の余震による被災状況の写真](#)

## 諸連絡

- [仙台高専\(名取\)環境整備\(法面復旧等\)工事 工事工程表\(工期:平成 23 年 9 月 30 日から平成 24 年 6 月 15 日まで\)](#) , 2012/6/13 運営会議 完了報告
- [校舎南面における車輛通行規制の経路変更について\(3/31-4/3\)](#) , [連絡メール](#) 2012/3/28
- [校内図の更新\(4/1- 立ち入り禁止場所\)](#) , [連絡メール](#) 2012/3/14
- [校舎南面における車の通行規制について\(3/18-3/31\)](#) , [連絡メール](#) 2012/3/14
- [校舎南面における車の通行規制について\(2/22-3/24\)](#) , [連絡メール](#) 2012/2/22
- [校内図の更新\(2/1- 立ち入り禁止場所\)](#) , [連絡メール](#) 2012/1/24
- [校内図の更新\(12/2- 立ち入り禁止場所\)](#) , [連絡メール](#) 2011/12/1
- [校内図の更新\(10/22- 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/10/15
- [臨時駐輪場の設置\(10/17- 臨時駐車場からの変更\)](#) 2011/10/12
- [校内図の更新\(10/1- 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/10/12
- [校舎等災害復旧工事 工事用地\(H23/8/24-H24/3/9\)](#) 2011/8/23
- [校内図\(9/1- 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/8/2
- [校内図\(8/1-8/31 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/8/2
- [名取キャンパス立ち入り禁止区域に関する変更点](#) 2011/8/2
- [7 月 10 日-7 月 25 日地震 最大加速度](#) 2011/7/25
- [校内図\(7/20- 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/7/20
- [校内図\(7/1- 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/7/1
- [学生・保護者及び教職員・家族の生活居住環境状況について\(更新\)](#) 2011/6/13
- [学生・保護者の生活居住環境状況について\(更新\)](#) 2011/5/25
- [校内図\(5/16- 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/5/16
- [校内図\(5/8- 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/4/28
- [校内図\(4/28-5/8 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/4/28
- [校内図\(4/26-5/8 立ち入り禁止場所\)](#) 2011/4/26
- [\(名取キャンパス\)3 月 11 日と 4 月 7 日との地震記録について](#) 2011/4/18
- [本校の被災地域への支援状況\(2011/04/15 現在\)](#) 2011/4/15
- [学生・保護者の生活居住環境の状況調査について](#) 2011/4/11
- [\(名取キャンパス\)3 月 11 日の地震記録について](#) 2011/4/6

- [復興ロードマップ及び中長期検討事項 2011/04/06 版](#) 2011/4/6
- [復興ロードマップ及び中長期検討事項 2011/04/05 版](#) 2011/4/5
- [復興ロードマップ 2011/04/04 版](#) 2011/4/4
- [3/30 震災復興委員会 復興ロードマップ](#) 2011/3/30
- [3月11日東北地方太平洋沖地震による学校の被災状況・対応について](#) 2011/3/28

## 入学予定・学生の皆さんへのお知らせ(記録)

### 入学予定の皆さんへ

- [【入試情報】東日本大震災に伴う検定料免除について](#) 2011/9/20
- [\(名取キャンパス\) 登校に関する注意事項, 校内立ち入り禁止区域, 避難経路図\(追記あり\)](#) 2011/5/6
- [\(名取キャンパス\) 5月9日\(月\)の日程について](#) 2011/4/28
- [\(名取キャンパス\) 萩花寮 開寮についてのお知らせ](#) 2011/4/28
- [名取キャンパス新入生の皆さんへのお知らせ](#) 2011/4/11
- [広瀬キャンパス新入生の皆さんへのお知らせ](#) 2011/4/11
- [入学予定の皆さんへ\(3\)](#) 2011/3/16
- [入学予定の皆さんへ\(2\)](#) 2011/3/16
- [入学予定の皆さんへ\(1\)](#) 2011/3/15

### 学生の皆さんへ

- [仙台高等専門学校義援金の支給](#) 2012/3/29
- [平成24年度前期分授業料免除、徴収猶予及び月割分納について](#) 2012/2/21
- [高専機構義援金を支給しました](#) 2011/10/27
- [【追加受付】東日本大震災被災者対象平成23年度後期分授業料の免除申請について](#) 2011/10/7
- [【入試情報】東日本大震災に伴う検定料免除について](#) 2011/9/20
- [東日本大震災被災者対象平成23年度後期分授業料の免除申請について](#) 2011/9/14
- [復興応援メッセージが届きました](#) 2011/8/10
- [\(広瀬キャンパス\) 後援会から被災された学生への義援金について](#) 2011/6/13
- [高等学校等就学支援金加算支給に関する手続きについて](#) 2011/6/8
- [入学科・授業料免除、奨学金のお知らせ](#) 2011/5/16
- [東日本大震災により被災した学生への支援について\(就活支援・就学支援\)](#) 2011/5/13
- [\(名取キャンパス\) 登校に関する注意事項, 校内立ち入り禁止区域, 避難経路図\(追記あり\)](#) 2011/5/6
- [\(名取キャンパス\) 教室の移動についてのお知らせ](#) 2011/5/3
- [\(名取キャンパス\) 5月9日\(月\)の日程について](#) 2011/4/28
- [\(名取キャンパス\) 萩花寮 開寮についてのお知らせ](#) 2011/4/28
- [平成24年度専攻科学生募集について](#) 2011/4/19
- [名取キャンパス新2年生以上の皆さんへのお知らせ](#) 2011/4/11
- [広瀬キャンパス新2年生以上の皆さんへのお知らせ](#) 2011/4/11
- [平成24年度仙台高等専門学校専攻科入学者選抜に係る日程について](#) 2011/4/7
- [東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震による日本学生支援機構緊急採用・応急採用奨学金の申し込みについて](#) 2011/4/1
- [学生の皆さんへ\(3\)](#) 2011/3/30
- [災害時のメンタルケアについて](#) 2011/3/30
- [名取キャンパスの新5年生と新専攻科2年生のみなさんへ休校期間中の進路相談について](#) 2011/3/30
- [開寮延期について](#) 2011/3/28
- [卒業生・修了生の就職及び在校生の就職活動に関する対処について](#) 2011/3/23
- [学生の皆さんへ\(2\)](#) 2011/3/16
- [学生の皆さんへ\(1\)](#) 2011/3/14

### 教職員の皆さんへ

[資料:震災対応 - お知らせ\(教職員向け\)](#) (教職員専用)

*** 10 労務管理・勤務対応状況**

**・高専機構本部からの特別休暇等に関する通知**

- ・東日本大震災の被害に伴う特別休暇の措置について（通知）  
平成 23 年 5 月 16 日 23 高機人第 19 号 高専機構本部理事長通知
- ・東日本大震災の被災地等におけるボランティア活動の参加について（依頼）  
平成 23 年 8 月 3 日 23 高機人第 57 号 高専機構本部理事長通知

23 高機人第 19 号  
平成 23 年 5 月 16 日

各国立高等専門学校長 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構  
理事長 林 勇二郎  
(公印省略)

東日本大震災の被害に伴う特別休暇の措置について（通知）

標記のことについて、下記に掲げる期間は、教職員の労働時間、休暇等に関する規則（以下「労働時間等規則」という。）第 24 条第 1 項第二十号に定める「その他、理事長が特に指定する日」として指定し、特別休暇の対象となりますので、お知らせします。（船員、再雇用教職員についても同様の取扱いとします。）

記

教職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで東日本大震災の被災地又はその周辺の地域若しくは東日本大震災の被災者を受け入れている地域における生活関連物資の配布その他の被災者を支援する活動（専ら親族に対する支援となる活動を除く。）を行う場合で、その労働しないことが相当であると認められるときは、平成 23 年 1 月 31 日までの間の 7 日（平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 1 月 31 日までの間において、労働時間等規則第 24 条第 1 項第四号の特別休暇を取得した場合は、7 日から当該取得した日数を減じた日数）の範囲内の期間

【担当】  
独立行政法人国立高等専門学校機構  
本部事務局人事課人事第二係 射手矢  
〒193-0834  
東京都八王子市東浅川町 701-2  
Tel:042 (662) 3158  
Fax:042 (662) 3168  
E-mail: jinji@kosen-k.go.jp

23 高機人第 57 号  
平成 23 年 8 月 3 日

各国立高等専門学校長 殿

独立行政法人国立高等専門学校機構  
理事長 林 勇二郎  
(公印省略)

東日本大震災の被災地等におけるボランティア活動の参加について（依頼）

標記のことについて、別添事務連絡を踏まえた教職員の参加促進について、文部科学省から 7 月下旬に協力依頼がありました。  
つきましては、所属教職員に対する情報提供方よろしくお願ひします。  
なお、教職員が東日本大震災の被災地等におけるボランティア活動に参加する場合には、以下の期間を特別休暇の対象として措置していることを申し添えます。

（平成 23 年 5 月 16 日付 23 高機人第 19 号）

○ 教職員が自発的に、かつ、報酬を得ないで東日本大震災の被災地又はその周辺の地域若しくは東日本大震災の被災者を受け入れている地域における生活関連物資の配布その他の被災者を支援する活動（専ら親族に対する支援となる活動を除く。）を行う場合で、その労働しないことが相当であると認められるときは、平成 23 年 1 月 31 日までの間の 7 日（平成 23 年 1 月 1 日から平成 23 年 1 月 31 日までの間において、労働時間等規則第 24 条第 1 項第四号の特別休暇を取得した場合は、7 日から当該取得した日数を減じた日数）の範囲内の期間（船員、再雇用教職員についても同様の取扱い）

【担当】  
独立行政法人国立高等専門学校機構  
本部事務局人事課人事第二係 射手矢  
〒193-0834  
東京都八王子市東浅川町 701-2  
Tel:042 (662) 3158  
Fax:042 (662) 3168  
E-mail: jinji@kosen-k.go.jp

**・教職員の平成 23 年 3 月における特別休暇(震災)取得状況**

(人)

日	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
名取C	教員(73)	0		14	25	25	29	30	37			22	26	31	29			20	20	15	12
	職員(44)	0		7	23	28	22	29	24			6	9	9	13			2	3	2	3
広瀬C	教員(62)	0		19	30	33	32	30	32			22	25	27	24			11	24	12	17
	職員(46)	0		18	27	30	35	29	38			12	14	14	13			6	9	7	3

※カッコの数は、教員・職員の総数、19 日（土）は、卒業式の予定であったため、通常休日であるが全員出勤日となっていた。

## * 11 被災学生の他高専受入依頼

・被災学生の内2名の学生が他高専に受け入れられた。

学科・年	マテリアル環境工学科 1年
性別	女性
移動した市町村	福島県南相馬市 → 島根県松江市
受入高専	松江高等専門学校（島根県） 環境・建設工学科 一時受入
時系列概要	3月28日（月） 松江高専 学生課長からメールがあり。 ・本日、仙台高専に入学手続き書類を郵送。 ・松江高専で行われる、4月6日の入学式に出席予定。 ・教科書、制服、体操服も松江高専 教務主事が用意して貸与。 ・高専機構本部の災害対策本部対策室にも連絡済み。
	9月8日（木）、9日（金） 仙台高専で授業を受ける 8日の昼に入寮、9日の昼に退寮 ※松江高専の夏休みを利用 平成24年4月から仙台高専 マテリアル環境工学科 2年に復帰 南相馬市に戻る。

学科・年	電気システム工学科 2年
性別	男性
移動した市町村	福島県南相馬市 → 兵庫県神戸市西区
受入高専	明石高等専門学校（兵庫県） 電気情報工学科 一時受入
時系列概要	4月18日（月） 明石高専で授業開始 ・学籍番号と学生証を発行 ・教科書と体育館シューズ等 先生方や業者さんの協力で揃える
	5月30日（月） 広瀬キャンパス 矢澤先生 明石高専訪問 学生相談室の視察・情報交換の最後の15分程度 K君と面会 11月7日（月） 名取キャンパス 教員 明石高専にて面談・情報交換 平成24年4月から仙台高専 電気システム工学科 3年に復帰 ※新しい住所：宮城県名取市

## * 12 震災に伴う学生の健康・メンタルヘルスケア（学生相談室・保健室対応事項）

・学生相談室からのお知らせ

＜ 学生相談室からのお知らせ ＞

**仙台高専の学生の皆さん  
保護者・教職員の皆さまへ**

今回の震災のように、生命に関わるような衝撃的な出来事を体験したり、目撃した後は、心と身体にいろいろな反応や症状が出る場合があります。これらは衝撃的な出来事に直面した場合の「ごく自然な反応や症状」であり、その多くは一時的なものとして考えられます。

しかし、その出来事があまりに辛かったり、適切な対応を受けていない場合には、反応が長引いたり、症状をこじらせてしまう場合があります。

皆さんの心と身体にどんな変化が起こるのか、その時、周囲の人たちはどう接してあげると良いのか、お知らせさせていただきます。

学生相談室カウンセラー

心と身体におこる反応

～ 遊び・勉強 ～

- 部活や勉強、好きだった趣味に集中できない
- 学校に来るのもやっとな

～ 食事・睡眠 ～

- 食欲がわかない
- なかなか寝れない
- 夜中に目が覚める

～ 身体 ～

- 頭痛○腰痛や下痢、便秘
- 身体のだるさ、こり
- 呼吸困難○めまいや震え

～ ビリビリする ～

- イライラする
- 物音がビクつく
- 反抗的な態度をとる
- すぐに腹を立てる

～ 子ども返り ～

- 一人でのびのびをがる
- 幼い子のように甘えやわがままが出る
- 自分の事を決められない
- ハイテンション、不自然な明るさ

～ ぼーっとする ～

- やる気がでない
- 話をしなくなる
- その話題をさける
- 気が散りやすい
- 自分の気持ちが分かってもらえない感じがする

～ こわい不安 ～

- ビクビクする
- 明るい所でないと眠れない
- こわい夢を見る
- また同じことが起きるのではないかと怖がる

～ 羞恥心と優越感 ～

- 自分や他人を責める
- すぐに泣いてしまう
- 気持ちが落ち込む
- 無力感

◆大切なことは…周囲の大人が落ち着いていること！

周囲の大人が落ち着いていると、次第に周りの学生も落ち着きを取り戻せます。しかし、自分の気持ちを無理に抑えていると、学生はそれを真似してしまい、自分の辛い気持ちを表さなくなります。

保護者も周囲の大人も、「私は今、こんな風に感じているよ」と、学生にわかる言葉で説明し、いろいろなことを感じて良いのだと教えてあげてください。

辛い時には、教員や保護者自身が誰か身近な人に話を聞いてもらうことも必要です。それでも大変な時には、専門家の助けを求めてください。

～ しっかり話を聞いてあげましょう ～

何度も同じ話を繰り返すかも知れませんが、話すことで頭の中が整理されていきます。話を聞かず、その度に聞いてあげてください。また、話したくない場合は、無理に話を聞き出そうとせず、「話をしたくなったらいつでも聞かからね」何か手助けが欲しい時には、必ず声を掛けてね」と伝えてあげてください。

～ 身体の不調を訴えている場合は、身体の手当てをしてあげましょう ～

苦痛を和らげるとともに、手当てをしてもらうことで、「守られている、大丈夫だ」という安心感が生まれます。

～ できる限り、そばにいてあげましょう ～

小さい子のように甘えて一人になりにくい時には、できるだけそばにいてあげてください。甘えることで心が安定し、次第に落ち着いてきます。しばらくは幼い子のつもりで接してみてください。

～ 誰かいても、実は不安でいっぱいです ～

何ともなかったように振るまったり、逆に明るくはしゃぐのを見て、驚かされることがあります。これは衝撃や悲しみで心を固めておけることができず、それを打ち消そうと必死で抵抗していることの表れでもあります。静かに寄りそったり、手を握ったり、背中を優しくなで、優しく接してあげましょう。

～ 日常生活を身につけてもらうことも大切です ～

手始めに出来事を体験すると、目に映る世界がそれまでとは違って見えます。だからこそ、学校も家庭も、可能な限り普段通りの生活を送れるようにしてください。これは楽しみやショックを無視するというのではなく、日常生活を身につけていく力を低下させないためです。ショックが強くて、日常生活を身につけることができない場合は、カウンセラーや医療機関に相談してください。

◆何か心配なこと、困ったこと、分からないことがある時は、一人で悩まず、まずは学校にご相談ください。

**仙台高専名取キャンパス(災害)(022)981-0285  
仙台高専広瀬キャンパス(災害)(022)981-6560**

・学生相談室 / 保健室対応事項 (名取キャンパスでの対応)

日時	学生相談室/保健室 対応事項
3月11日	保健室の寝具類を使用。 保健室に常備していた使い捨てカイロを配布。感染防止のため、アルコールティッシュ・速乾性アルコール手指消毒剤・マスク・ボックスティッシュを配布。救急箱を準備し体調不良者の確認・対応を行った。
3月11(金)～ 3月12日(土)	震災後の体調不良者の確認、対応。 家庭に帰る学生が増えた中で、家庭・家屋が甚大な被害を受け、保護者の安否等についての情報もままならない退避学生については、2次被害(鬱的症候)が深刻にならないように、カウンセラーと看護師等が密接に相談しながら、対応した。 (カウンセラー・看護師)
3月13日	足腰の不自由な避難住民1名の受け入れ。病状の把握、保健室のベッドの提供。県立がんセンターの医師2名による避難所への巡回あり。
3月13(日)～ 3月15(火)	震災後の体調不良の避難学生・避難住民・教職員の確認、対応 (看護師)
3月19日(土)、 3月21日(月)	学生との話し合い(学生相談室)
3月22日(火)～ 3月31(木)	避難学生1名、教職員の健康チェック、カウンセリング実施 (カウンセラー来校 23、25、30日)
3月29日(火)	「災害時のメンタルケアについて」(原稿: 渡部カウンセラー作成)を 仙台高専ホームページに掲載することを学生生活係から情報企画係に依頼
3月30日(水)	「災害時のメンタルケアについて」を 仙台高専ホームページに掲載
4月22日(金)	発達障害と診断された学生と保護者との面談を実施 入学式前に配布した「保健調査票」の項目6の「障害について」の「病名・障害」の記入欄に「発達障害」の記載があり、また、「授業や日常生活での配慮の必要性」の記入欄に記載があった学生が対象。 通常は、入学式前または入学式当日に面談を実施するが、今年度は震災のため4月22日に実施した。 面談時間: 15:05～16:40 (本人、保護者: 母親、学生相談室長) 内容: 学校生活、情報の共有等について。
4月25日(月)	アンケート用紙「こころの健康調査票」(原稿: 渡部カウンセラー作成)の内容確認およびアンケート調査の実施日について検討 (実施日: 1～3年生は5月13日の7校時の特活の時間。4年以上は、担任の判断に委ねる)
4月26日(火)	名取キャンパス担任会議においての 学生相談室からの報告並びに担任へのお願 資料①: 3月30日に仙台高専ホームページに掲載された「災害時のメンタルケアについて」に関する資料 資料②: 4月13日の運営会議で配付された「震災後の心の病気」に関する資料
4月27日(水)	発達障害と診断された学生と保護者との面談を実施。面談: (本人、両親、旧3年担任、新4年担任、渡部カウンセラー、学生相談室長)。内容: 学校生活方法、情報の共有等について。
5月 6日(金)	アンケート用紙「こころの健康調査票」(原稿: 渡部カウンセラー作成)の配布依頼。
5月 9日(月)	アンケート用紙「こころの健康調査票」の担任への配布、アンケート調査の実施(5/13以降)。クラス担任に日常観察と声掛けを依頼。「気になる学生」への対応ポイントについて説明(配付資料あり)[担任とカウンセラーとの連携を図る]。
5月 9日(月)	1年生対象のオリエンテーションでの講話(西館看護師、渡部カウンセラー)[学生支援室会議からの依頼による] 「学生相談室・被災学生相談室」のポスター(原稿: 西館看護師作成)を教室、廊下等に掲示し、被災学生相談室の周知を図った。学生への声掛けとポスターのクラス掲示を担任にお願いした(看護師より各学年会、専攻科へメールで連絡)。
5月11日(水)	クラス担任に日常観察と声掛けを依頼。アンケートを基に、「気になる学生名」とその対応のポイントを、カウンセラーからクラス担任に連絡[担任とカウンセラーとの連携を図る]。
5月17日(火)	○アンケートを基に、「こころのセルフケア」を目的として、『《学生相談室からのお知らせ》 仙台高専名取キャンパスの学生の皆さん』(A4版 2頁)を全学生に配布。 ○担任に以下の項目をお願いした。(1)調査票回収後における、「気になる学生」への対応⇒担任と学生との面談実施。(2)5月21日(土)の保護者懇談会での学生の状況把握⇒アンケート調査結果の有効活用。(3)アンケート「こころの健康調査票」用紙の提出先: 学生課生活係、または、学生相談室(保健室)、提出期間: 5月23日(月)～5月27日(金) ○寮生1年生女子の複数が、親元から離れ、慣れない寮生活と被災の影響とで保健室の利用が増える。
6月 3日(金)	6月3日現在における「気になる学生数」は、79名(本科学生)[1年生: 17名、2年生: 22名、3年生: 17名、4年生10名、5年生13名。ただし、PA2、M3、S3、M4、E4、S5の学生数は、上記した本科学生の人数79名には含まれていない。(この6クラスにはそれぞれ数名の「気になる学生」がいた。これらの学生名をカウンセラーから担任に報告)。この6クラスの「気になる学生」は、6月3日時点において、学生相談室には繋がっていない。それぞれ担任が対応した]。
6月13日(月)	「仙台高専名取キャンパスFD講演会」の講演依頼。 講師: 東北国際クリニック 桑山紀彦先生。 内容: 学生に対して「こころのケア」が大切であること、また、「こころのケア」に関する対応方法を、本校教職員に教授願うこと。
7月 5日(火)	FD講演会の実施 題目: 「震災後のこころのケアについて」 講師: 東北国際クリニック院長 桑山紀彦先生 対象: 名取キャンパス教職員。内容: 被災学生に対する教職員の対応等について
現在	現在 それぞれの学生に対するメンタルケアについてはカウンセラーが、または、学科・担任・相談室(カウンセラー・看護師)が連携して対応している。

*13 義援金・奨学金・授業料免除等

○高専機構義援金（平成23年度） (円)

受入総額	28,800,000
第1回目支給額(8/4)	22,190,000
第2回目支給額(9/6)	2,410,000
第3回目支給額(10/27)	2,480,000
第4回目支給額(12/22)	4,762,340
第5回目支給額(1/26)	947,770
第6回目支給額(3/28)	151,470
支給額合計	32,941,580

○仙台高専義援金（H24.9.30現在） (円)

受入総額	9,970,263
高専機構義援金への抛出	1,000,735
高専機構義援金へ流用*1	4,141,580
振込額	4,723,825
差引額	104,143

*受入総額と支給額合計の差額4,141,580円は、仙台高専義援金から流用

○高専機構義援金申請者数内訳

・名取キャンパス (人)

	学 生					教職員			
	学生 本人 死亡	学資負担者		全壊、 原発 避難	半壊	本人 死亡	配偶者、 父・母及び 子死亡	全壊、原 発避難	半壊
		父・母 死亡	その 他親 族死 亡						
第1回目	0	1	1	61	47	0	2	2	0
第2回目	0	0	0	3	15	0	0	0	0
第3回目	1	0	0	1	5	0	0	0	0
第4回目	1	2	0	10	19	0	0	0	0
第5回目	0	0	0	2	6	0	0	0	0
合計	2	3	1	77	92	0	2	2	0

*うち避難:26

・広瀬キャンパス (人)

	学 生					教職員			
	学生 本人 死亡	学資負担者		全壊、 原発 避難	半壊	本人 死亡	配偶者、 父・母及び 子死亡	全壊、原 発避難	半壊
		父・母 死亡	その 他親 族死 亡						
第1回目	0	1	0	29	48	0	0	2	1
第2回目	0	0	0	4	3	0	0	0	0
第3回目	0	0	0	5	11	0	0	0	0
第4回目	0	0	0	1	13	0	0	0	0
第5回目	0	0	0	0	3	0	0	0	0
合計	0	1	0	39	78	0	0	2	1

*うち避難:3

・仙台高専全体合計

(人)

	学 生					教職員			
	学生 本人 死亡	学資負担者		全壊、 原発 避難	半壊	本人 死亡	配偶者、 父・母及 び子 死亡	全壊、原 発避難	半壊
		父・母 死亡	その 他親 族死 亡						
第1回目	0	2	1	90	95	0	2	4	1
第2回目	0	0	0	7	18	0	0	0	0
第3回目	1	0	0	6	16	0	0	0	0
第4回目	1	2	0	11	32	0	0	0	0
第5回目	0	0	0	2	9	0	0	0	0
合計	2	4	1	116	170	0	2	4	1

*うち避難:29

○仙台高専義援金申請者数内訳

(人)

	学 生					教職員			
	学生 本人 死亡	学資負担者		全壊、 原発 避難	半壊	本人 死亡	配偶者、 父・母及 び子 死亡	全壊、原 発避難	半壊
		父・母 死亡	その 他親 族死 亡						
名取C	0	1	0	29	48	0	0	2	1
広瀬C	0	0	0	4	3	0	0	0	0
合計	0	0	0	5	11	0	0	0	0

○ 奨学金 (平成 23 年度実績)

・名取キャンパス

(人)

奨学金の名称	父・母 死亡	学 費 負 担 者 失 職	全壊、 原発、 避難	半壊 (大 規模半壊 を含む。)	合計
株式会社小松製作所からの奨学金		5	5		10
ドイツギルデマイスター社・株式会社森精機製作所からの奨学金			13		13
株式会社ローソン「夢を応援募金」の奨学金			3		3
ベイン・キャピタルからの奨学金	3				3
まなべる基金からの奨学金		1	1	3	5
合計	3	6	22	3	34

・広瀬キャンパス

(人)

奨学金の名称	父・母 死亡	学 費 負 担 者 失 職	全壊、原 発 避難	半壊 (大 規模半壊 を含む。)	合計
株式会社小松製作所からの奨学金			7		7
ドイツギルデマイスター社・株式会社森精機製作所からの奨学金			8		8
株式会社ローソン「夢を応援募金」の奨学金			2		2
ベイン・キャピタルからの奨学金	1			1	2
まなべる基金からの奨学金					
合計	1		17	1	19

・仙台高専全体合計

(人)

奨学金の名称	父・母 死亡	学 費 負 担 者 失 職	全壊、 原発、 避難	半壊 (大 規模半壊 を含む。)	合計
株式会社小松製作所からの奨学金		5	12		17
ドイツギルデマイスター社・株式会社森精機製作所からの奨学金			21		21
株式会社ローソン「夢を応援募金」の奨学金			5		5
ベイン・キャピタルからの奨学金	4			1	5
まなべる基金からの奨学金		1	1	3	5
合計	4	6	39	4	53

○ 授業料免除（平成 23 年度実績）

・名取キャンパス

（人）

前・後期の別	父・母死亡	家計支持者 失職	全壊、原発 避難	半壊	合 計
前期	3	7	14	117	141
後期	3	7	14	117	141

・広瀬キャンパス

（人）

前・後期の別	父・母死亡	家計支持者 失職	全壊、原発 避難	半壊	合 計
前期	1	5	38	92	136
後期	1	0	34	92	127

・仙台高専全体合計

（人）

前・後期の別	父・母死亡	家計支持者 失職	全壊、原発 避難	半壊	合 計
前期	4	12	52	209	277
後期	4	7	48	209	268

○ 教科書免除（平成 23 年度）

（人）

キャンパス・学年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	専攻科 1 年生	専攻科 2 年生	合 計
名取キャンパス	33	34	21	32	29	6	5	160
広瀬キャンパス	13	11	23	26	22	4	3	102
合 計	46	45	44	58	51	10	8	262

○ 後援会免除（平成 23 年度）

・名取キャンパス

（人）

入会金・会費の別	学資負担者 死亡・失職	全壊、原発 避難	半壊	合 計
入会金		18	17	35
会費	9	79	91	179

・広瀬キャンパス

（人）

入会金・会費	学資負担者 死亡・失職	全壊、原発 避難	半壊	合 計
入会金		3	10	13
会費	3	38	71	112

・仙台高専全体合計

（人）

入会金・会費	学資負担者 死亡・失職	全壊、原発 避難	半壊	合 計
入会金		21	27	48
会費	12	117	162	291

*** 14 建物及び設備等の被災状況**

**・名取キャンパス**

<p><b>a.地盤の被害</b></p> <hr/> <p><b>【北側法面】</b>  地盤沈下による農業用水路へ土砂の流出、地盤沈下による亀裂・陥没。</p> <p><b>【テニスコート、グラウンド、ハンドボールコート】</b>  地盤沈下による亀裂。</p> <p><b>【創造教育センター北側・北側法面】</b>  地盤沈下による亀裂・陥没。</p> <p><b>【南側法面】</b>  地盤沈下による亀裂・陥没。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p><b>b.校舎の被害</b></p> <hr/> <p><b>【校舎】</b>  外壁タイル剥落・割れ、外部サッシ変形、内壁等に亀裂、内装ボード破損、ガラス破損、全熱交換機の破損など</p> <p><b>【学生寄宿舎】</b>  内・外壁にクラック</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p><b>● イエローゾーン</b></p> <hr/> <p><b>【総合科学教育棟】</b>  外壁タイル剥落・割れ、外部サッシ変形、内壁等に亀裂、内層ボード破損、ガラス破損。</p> <p><b>【図書館】</b>  外壁・内壁等に亀裂、内装ボード破損、渡り廊下接続部の破損</p> <p><b>【機械・材料棟】</b>  外壁タイル剥落・割れ、内壁等に亀裂、全熱交換機の破損。</p> <p><b>【創造教育センター】</b>  外壁に亀裂、床に亀裂、内壁等に亀裂、内壁石貼り剥落、床下地盤沈下</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p><b>● レッドゾーン</b></p> <hr/> <p><b>【専門教育・イノベーションセンター棟】</b>  外壁タイル剥落・割れ、内壁等に亀裂、内装ボード破損、エキスパンションジョイント破損、ガラス破損。原形復旧。</p> <p><b>【創造教育センター】</b>  外壁に亀裂、床に亀裂、内壁等に亀裂、内壁石貼り剥落、床下地盤沈下</p> <p><b>【第1 体育館】</b>  外壁・内壁等に亀裂、外壁・内壁ボード剥落、地盤沈下による床の傾斜・沈下・下屋の傾斜、外壁照明の落下、ガラス破損。原形復旧。</p> <p><b>【武道場】</b>  地盤沈下による主要構造部の変形、床の傾斜・沈下、ガラス破損。全壊判定により改築。</p> <p><b>【第2 体育館】</b>  外壁・内壁等に亀裂、外壁・内壁ボード剥落、壁・小屋ブレース変形、ガラス破損。</p> <p><b>【駐輪場】</b>  地盤沈下による破損、床に亀裂・陥没。原形復旧</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

・広瀬キャンパス

<b>a.地盤の被害</b>
被害無し。

<b>b.校舎の被害</b>
<p>【校舎】</p> <p>内・外壁にクラック、ガラス破損</p> <p>【学生寄宿舍】</p> <p>内・外壁にクラック、ガラス破損</p> <p>【自動火災報知設備】</p> <p>一部防火戸にゆがみ、補修のみ</p> <p>【その他設備】</p> <p>被害無し</p>

* 15 学生寮及び職員宿舎被災状況

・名取キャンパス

① 建物	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生寄宿舍・職員宿舎</li> </ul> <p>クラック、タイルの剥がれ等があつたが、居住に特に影響なし。 雨漏り箇所一部あり。壁塗下。</p>
② 暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒸気暖房</li> </ul> <p>地震に伴いボイラー運転停止。 電気(3/17)、補給水(3/24)の復旧により運転可能であつたが、燃料の確保が困難になり、運転停止。 蒸気管、補給水管は一部損傷、10月補修復旧。</p>
③ 空調設備	<p>GHP、EHPとも地震に伴い運転停止。 電気(3/16)、ガス(4/15)の復旧により運転可能。 室外機の防振架台の損傷があり5月に復旧。</p>
④ トイレ	<p>井戸水供給停止により使用中止。 震災当日は、学寮防火水槽及びプールより生活用水を調達。 使用トイレを指定。 その後、仙台市水道局より、直接調達、公用車で搬入。 名取市より、簡易トイレ4台設置。 その後、名取市の下水処理施設被災のため、2台増設(4月中利用)</p>

・広瀬キャンパス

① 建物	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生寄宿舍</li> </ul> <p>居室内は一部クラックが発生していたが入室には影響のないものと判断し、入室可能とした。 ブロック壁一部破損のため復旧まで入居禁止とし、1月に復旧入室可能とした。(2室) 一部ガラス破損があり、4月上旬に補修。廊下のクラックは8月に補修</p>
② 暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒸気暖房</li> </ul> <p>特に大きな被害は無し。震災時急停止したため点検後復旧、燃料の確保が困難と判断し、残りの暖房期間の運転停止。</p>
③ 空調設備	<p>特に大きな被害は無し。4月に点検部分補修後、復旧</p>

## * 16 インフラ破壊状況

### ○ 名取キャンパス

<p><b>電気</b></p> <p>送電系統で停止したため、発電機を準備した。</p> <p>3/16 東北電力の復旧に伴い各電気室で絶縁測定など安全確認の上、順次復電</p> <p>近隣住民の避難所として提供した合宿所には太陽光発電を利用して、情報収集のためのテレビ及び携帯電話の充電用の電源に提供した。</p>
<p><b>電話</b></p> <p>電話交換機に被害は無。(バッテリー切れにより停止)、災害時優先電話で対応。</p>
<p><b>上下水道</b></p> <p>井戸水、市水とも供給停止</p> <p>生活用水は、学寮前防火水槽及びプールより調達</p> <p>飲料水は、名取市役所給水所及び仙台市水道局より直接調達</p> <p>トイレは、名取市に依頼し、簡易トイレ 4 台を設置(その後 2 台増設)</p> <p>3/16 電気の復旧に伴い、井水の汲み上げ再開</p> <p>3/24 給水管漏水があり随時復旧の後供給開始、市の水道も復旧</p> <p>下水道処理施設の被災により、汚水の放流制限有(簡易トイレ増設)</p> <p>5 月名取市と協議の上節水等を条件に放流制限解除</p>
<p><b>ガス</b></p> <p>4/15 校内生活協同組合の食堂厨房及び市ガス局の漏洩検査後開栓</p> <p>プロパンガスは地震後すぐ業者が自主的に点検に来て安全が確認されたので使用することができ避難民等に暖かい食事を出すことができた。生活協同組合に承諾を得て、生活協同組合の食堂厨房、食材を使用。</p>
<p><b>燃料(ガソリン、重油、軽油、灯油など)</b></p> <p>震災直後、ガソリンが不足し入手が困難な状態であった。ある程度の備蓄はあったものの、購入するために長時間並ぶ必要があった。また、支援物資として、各高専から支援いただいた。</p>
<p><b>LAN</b></p> <p>3/17 電気の復旧に伴い、復旧</p>

### ○ 広瀬キャンパス

<p><b>電気</b></p> <p>送電系統で停止したため、電気室内屋内配電盤でブレーカー断、投光器付き発電機を準備し、電源、照明を確保した。</p> <p>3/14 東北電力の復旧に伴い各電気室で絶縁測定など安全確認の上、順次復電した。</p>
<p><b>電話</b></p> <p>電話交換機に被害は無(バッテリー切れにより停止)</p> <p>局番(391・392)がNTT中継局で停止したため災害時優先電話も使用不可。</p> <p>3/18NTTの災害時臨時電話を守衛室に設置。9 日後(3/20)復旧。</p>
<p><b>上下水道</b></p> <p>仙塩広域水道が停止、100t受水槽があるため直ちに断水となることはなかったが、市の下水処理場も処理能力が低下したことから、いずれ下水道も制限されることを予測し、毎日受水槽の水位を確認、給水ポンプを停止し、自然圧のみの給水とした。</p> <p>3/28 上水道の供給が再開され、市の下水道処理施設も処理可能になったことから、通常通りの使用となった。</p>

<b>ガス</b>
プロパン庫内での転倒漏洩の確認、閉栓を行った。 3/13 日漏洩検査後開栓したが、供給会社が津波被害にあったため、安定供給が難しいと判断しGHP及びガス器具の使用制限を行った。(学校再開日まで)
<b>燃料(ガソリン、重油、軽油、灯油など)</b>
震災直後、燃料が不足し入手が困難な状態であったが、購入契約を締結している業者の協力により「緊急車両扱い」で入手することができた。また、物資購入の際、山形市内での購入もあった。
<b>LAN</b>
3/15 電気の復旧に伴い復旧

○ 交通機関の開通した月日〔 〕は 4/7 余震後の復旧)

<b>・JR東北本線</b>
仙台～岩切 3/31 、仙台～名取 4/2 名取～岩沼 4/3 、岩切～利府・松島 4/5 〔仙台～福島 4/12 仙台～松島・利府 4/21〕
<b>・常磐線</b>
〔岩沼～亘理 4/12〕 (亘理以南は未復旧)
<b>・仙石線</b>
あおば通～小鶴新田 3/28 〔小鶴新田～東塩釜 4/19〕
<b>・仙山線</b>
山寺～羽前千歳 4/1 仙台～愛子 4/4 〔山寺～羽前千歳 4/13 仙台～愛子 4/14 愛子～山寺 4/23〕
<b>・仙台市地下鉄</b>
〔全線開通 4/29〕
<b>・仙台市バス・宮城交通バス</b>
市街地路線など特に被災なし



踏切内の直前で止まった電車

* 17 災害復旧工事支払計画表

資料順	工事名	(円)	(千円)		
		契約金額 (円)	種別	千円	種別毎の計
1	震災状況診断調査業務	7,192,500	事前調査	7,193	7,193
2	災害復旧工事	5,617,500	地盤復旧	5,618	708,761
3	環境整備(法面復旧等)工事	682,290,000	地盤復旧	682,290	
4	災害復旧測量設計業務	15,120,000	地盤復旧	15,120	
5	災害復旧測量設計業務(変更契約)	5,733,000	地盤復旧	5,733	235,295
6	校舎災害応急復旧工事	8,295,000	建物復旧	8,295	
7	校舎等災害復旧工事	108,150,000	建物復旧	108,150	
8	武道場解体工事	5,565,000	建物復旧	5,565	
9	武道場新営その他工事	57,172,500	建物復旧	57,173	
10	武道場新営設計業務	11,760,000	建物復旧	11,760	
11	武道場新営その他工事監理業務	987,000	建物復旧	987	43,365
12	第一体育館等災害復旧工事	43,365,000	建物復旧	43,365	
	計	951,247,500			

# 工事工程表

工事名 仙台高専(名取)環境整備(法面復旧等)工事      工期 平成 23年 9月 30日 から 平成 24年 6月 15日 まで

工事種別	H23,9月		H23,10月		H23,11月		H23,12月		H24,1月		H24,2月		H24,3月		H24,4月		H24,5月		H24,6月		摘要
	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	
準備工																					
第1工区																					
土工																					
運動場																					
第2工区																					
土工																					
法面保護																					
復旧工																					
第3工区																					
車道舗装																					
法面保護																					
第4工区																					
土工																					
排水工																					
車道舗装																					
法面保護																					
取りこわし工																					
後片付け																					

*19 校内被害状況等写真

特に被害の大きかった名取キャンパスの被害状況等



情報デザイン棟 什器転倒



図書館 図書落下



図書館 図書落下



図書館 本棚転倒



運動場 地割れ



運動場 地割れ



課外活動用器具庫 地盤沈下



創造教育センター 地盤沈下



北側法面 崩落



南側駐車場 法面崩落



南側駐車場 法面崩落



図書館渡り廊下 接続部破壊



武道場外壁 剥落



自転車置き場 地盤沈下



総合科学教育棟 外壁タイル落下



専攻科棟渡り廊下 消火栓扉破壊



武道場 地盤沈下



武道場 鉄骨柱部破壊



専門教育棟 内壁石剥落



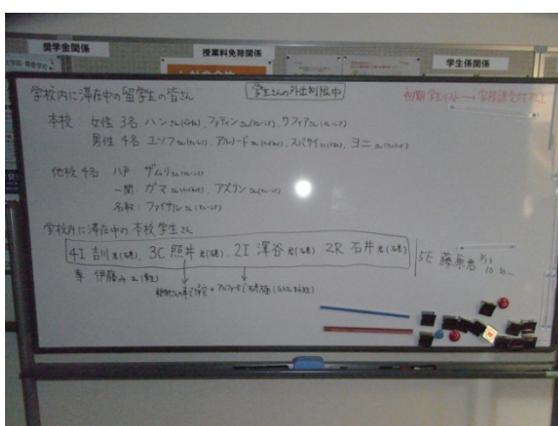
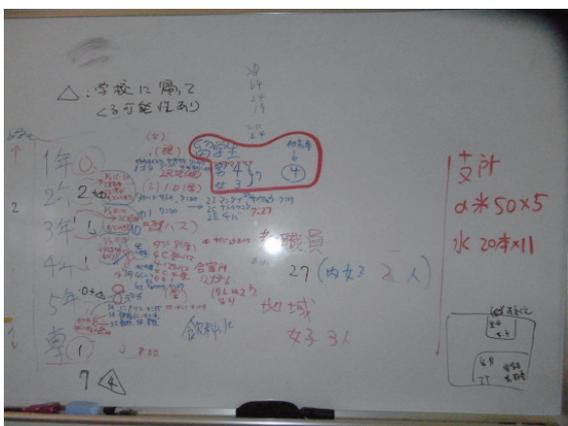
震災1日日夜(学生・教職員等が教室に宿泊)



2日目から電源は太陽電池を活用



ソーラーセルにて発電し付近住民に携帯電話充電用の電源を提供する風景(2日目以降)



震災当日夜から電気が復旧する4日目までに書き込まれた情報

## * 20 放射線量測定結果の公表

仙台高等専門学校では、放射線量測定結果を次のとおり公表しています。測定結果は、除染の目安とされている0.23 $\mu$ Sv/hを大幅に下回っています。

なお、本公表は、平成24年9月21日から、本校ホームページのトップページ「東日本大震災に関するお知らせ」にて掲載します。

### ※放射線関連リンク

○ [「当面の福島県以外の地域における周辺より放射線量の高い箇所への対処方針\(H23.10.21 内閣府、文部科学省、環境省\)」](#)

○ [除染関係ガイドライン\(平成23年12月環境省\)](#)

○ [放射線等に関する副読本\(文部科学省\)](#)

○ [きちんと知っておきたい放射線・放射能のこと\(宮城県広報課\)](#)

○ [文部科学省東日本大震災関連情報](#)

○ [放射能情報サイト宮城](#)

○ [宮城県内の学校等における放射線に関するページ](#)

○ [仙台市放射能に関する情報](#)

○ [名取市内各地における空間放射線測定結果について](#)

○ [学校近郊の放射線モニタリング情報](#)

・仙台市青葉山地区及び仙南地区における放射線量の測定値(2011.3.18～ )

・名取市十三塚公園における放射線量の測定値(2011.3.21～2011.6.9) 等

### ○ [学校近郊の放射線モニタリング情報](#)

・仙台市青葉山地区及び仙南地区における放射線量の測定値(2011.3.18～ )

・名取市十三塚公園における放射線量の測定値(2011.3.21～2011.6.9) 等

### ○ 校内の放射線量の測定値(名取キャンパス・広瀬キャンパス)

#### 名取キャンパス

$\mu$ Sv/h

測定日	総合教育棟前	グラウンド中央	図書館入口前	学寮玄関前
平成24年 3月15日	0.15	0.04	0.08	0.09
4月17日	0.15	0.05	0.09	0.11
5月14日	0.09	0.05	0.10	0.11
6月15日	0.12	0.06	0.10	0.09
7月30日	0.12	0.04	0.08	0.08
8月30日	0.12	0.03	0.10	0.10
10月1日	0.12	0.05	0.08	0.09

#### ・測定器の情報

検出器の種類	シンチレーション式サーベイメーター
メーカー・型番	ALOKA $\gamma$ SURVEY METER TCS-171
計測方法	地表から1mの高さを計測

※平成24年2月13日校正済

※7月30日の測定には、広瀬キャンパスの測定器を使用

・名取キャンパスのプールにおける測定結果

4月26日(木)業者によるプールの清掃・洗浄

5月8日(火)プール水についての放射能測定

●測定方法:ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー

緊急時におけるガンマ線スペクトロメトリーのための試料前処理法

●結果:ヨウ素-131【ND(0.69)】、セシウム-134【ND(0.76)】、

セシウム-137【ND(0.73)】

備考、ND:検出下限値未満、()内は検出下限値、単位は、Bq/Kg

※参考 飲料水品質基準=10(Bq/L)(平成24年4月1日からの適用値)

・名取キャンパス施設復旧に伴う測定結果(測定日:平成24年6月15日)

ハンドボールコート 0.06 μSv/h

硬式テニスコート 0.06 μSv/h

ソフトテニスコート 0.05 μSv/h

※地表面(地上1cm)におけるデータ

## 広瀬キャンパス

μSv/h

測定日	厚生会館玄関前	渡り廊下掲示板前	学寮玄関前
平成24年4月19日	0.06	0.06	0.06
6月4日	0.06	0.05	0.06
7月10日	0.07	0.06	0.07
9月7日	0.06	0.06	0.06

※4月19日の測定には、名取キャンパスの測定器を使用

・測定器の情報

検出器の種類	シンチレーション式サーベイメーター
メーカー・型番	ALOKA γSURVEY METER TCS-171
計測方法	地表から1mの高さを計測

※平成24年5月14日校正済

・「放射線量測定結果の公表」についての問い合わせ先

【総務課】

名取キャンパス TEL: 022-381-0251

広瀬キャンパス TEL: 022-391-5502

E-mail: [sokutei@sendai-nct.ac.jp](mailto:sokutei@sendai-nct.ac.jp)

## その他の参考資料・記録等目次

* 仙台高専の概要.....	93
* 地震当日(地震発生前)の仙台高専の状況.....	95
* 地震の概要・社会インフラ破壊概況.....	97
* 震度4以上の最大震度別地震回数表(本震を含む。気象庁).....	98
* 仙台 2011年3月11日の天気(気象庁).....	98
* インフラ被害状況・復旧状況(岩手県、宮城県、福島県中心).....	99
* 宮城県の浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数.....	101
* 学校近郊被災状況.....	102
* 震災関連活動報告等.....	104
* 仙台高専に関する震災関連新聞掲載記事.....	172
* 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置 (警察庁緊急災害警備本部、平成24年11月28日).....	176

* 仙台高専の概要

**広瀬キャンパス**  
**(旧仙台電波工業高等専門学校)**

所在地:宮城県仙台市青葉区愛子中央4丁目16番1号

全学生数:856人

全教職員数:107人

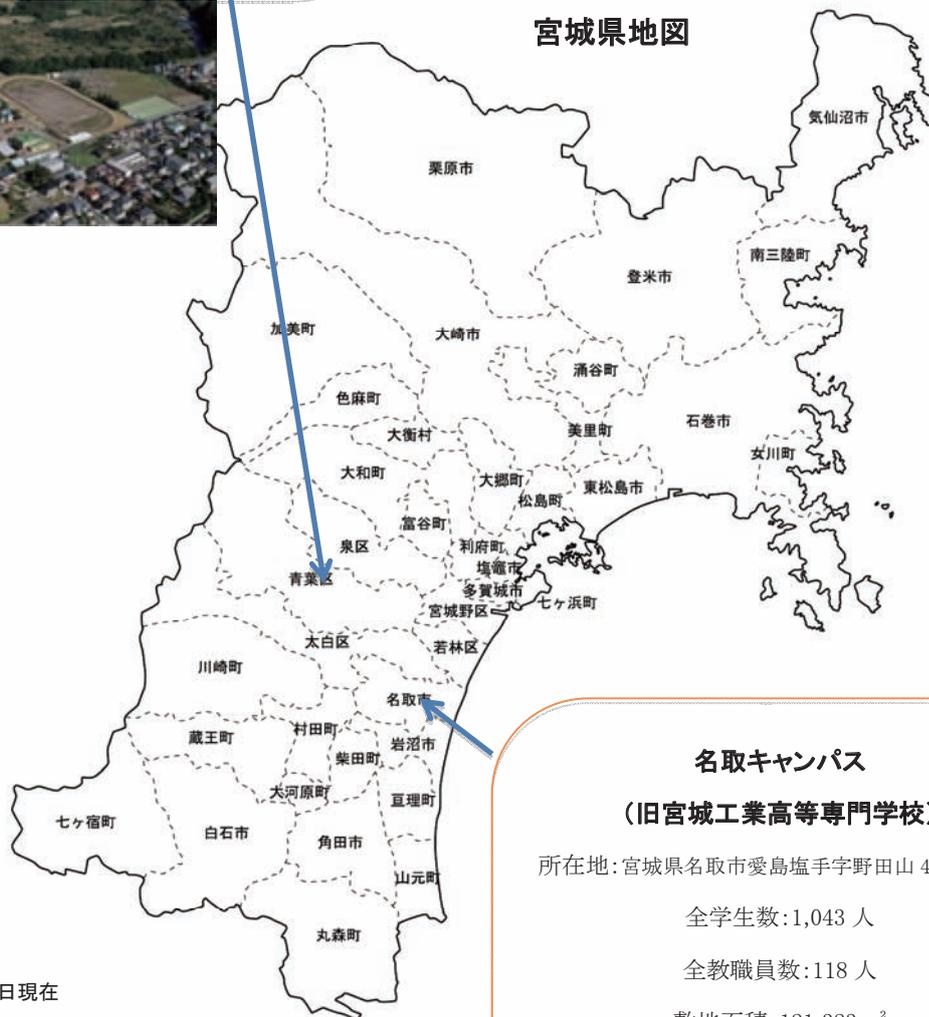
敷地面積:106,118㎡

建物面積:26,819㎡

沿岸からの直線距離:約20.0Km

仙台高専は、独立行政法人高等専門学校機構が設置し運営する全国51の国立高等専門学校の一つで、平成21年10月1日に2つの高専を再編統合し設置したことにより、仙台市と名取市にキャンパスを有している。2つのキャンパスは、直線距離で約16Km離れている。

仙台高専は、社会が必要とする技術者を養成するため、中学校の卒業生を受け入れ、5年間の一貫教育を行っており、5年間の本科と2年間の専門教育を行う専攻科、3つのセンターを設置し、「高度に複合化した産業界で技術開発の中核を担う実践的・創造的な能力を有し、次世代のものづくり技術者として国際的に通用する、人間性豊かな人材の養成を通じて、科学技術と人間社会の調和的発展に寄与する。」を理念に、教育・研究を行う学校である。



**名取キャンパス**  
**(旧宮城工業高等専門学校)**

所在地:宮城県名取市愛島塩手字野田山48番地

全学生数:1,043人

全教職員数:118人

敷地面積:121,323㎡

建物面積:30,257㎡

沿岸からの直線距離:約7.0Km

* 数字は2010年5月1日現在





* 地震当日(地震発生前)の仙台高専の状況



* 学生寮の入居状況

寮名(キャンパス)	入居者数
松韻寮(広瀬C)	126
萩花寮(名取C)	201

* 当時の許可されていた全人数

地震当日は、閉寮のため在寮者は0名であった。

* 沿岸部のある市町村への居住率

**学生 38.6%**

**教職員 33.3%**

沿岸部のある市町村に居住する学生・教職員の数(学生は、実家を計上)

	気仙沼市	南三陸町	石巻市	女川町	東松島市	松島町	塩竈市	多賀城市	七ヶ浜町	宮城野区	若林区	名取市	岩沼市	亘理町	山元町	岩手県沿岸部	福島県沿岸部
学生	3	1	50	2	10	8	31	47	15	133	61	155	66	35	10		104
教職員							3			14	8	47	3		1		

※ 東日本大震災では、津波が東日本の沿岸部各地に大きな被害をもたらしたため、後の教職員の安否確認を容易にできない原因となった。ここでは、参考までに、本校学生・教職員が沿岸部のある市町村に居住している状況を示している。名取市の学生数には、名取キャンパスの寮に居住する学生は計上していない。

* 数字は2010年5月1日現在

## ○ 地震発生当日の校内の様子

学生の授業は3月3日に、5年生の卒業研究発表会も3月2日に終了し、学年末も終わり、進級認定会議が3月14日に予定され、学生の進級に関する指導もほぼ終了している時期であり、3月19日(土)の卒業式を間近に控えていた。

地震発生時刻の14時46分、両キャンパスには、課外活動を終了した学生は帰路に着いており、校内には春休みの合宿中の課外活動、卒業研究の最後のまとめや専攻研究のために出校した5年生及び専攻科1年生を中心に校内で活動していた。

当日の天気(日本気象協会)は、14時現在、仙台・名取とも晴、気温5度～6度、南西の風約4.5m/sであったが、16時を過ぎた頃から気温も下がり、降雪があった。(参照*資料P98)

教職員は、年度末、年度始めの各事業等の準備など、各部署で業務にあたりっており、校内にいる学生が少なかったせいもありキャンパス内は静かで、普段の年度末の週末と何ら変わりのない、勤務状況であった。

校長及びその他の管理職員の動向として、校長は仙台市内に出張、各副校長(主事)は、それぞれの勤務地であるキャンパスに勤務していたが、事務部の管理職員は、両キャンパスを隔日勤務する体制をとっており、金曜日は、広瀬キャンパスに集中する勤務となっていた。

### 名取キャンパス地震当時の状況

学生の出校人数:約250人

学生寮入居人数:0人

国内にいた外国人の人数:6人

教職員の出勤人数:120人(教員75人、職員45人)

管理職の出勤状況:副校長(総務担当)、

教務・学生・寮務の各主事、事務部長、総務課長、

学生課長、企画室長、技術長



### 広瀬キャンパス地震当時の状況

学生の出校人数:約150人

学生寮入居人数:0人

国内にいた外国人の人数:11人

教職員の出勤人数:96人(教員57人、職員39人)

管理職の出勤状況:副校長(総務担当)、

教務・学生・寮務の各主事、管理課長、学務課長、

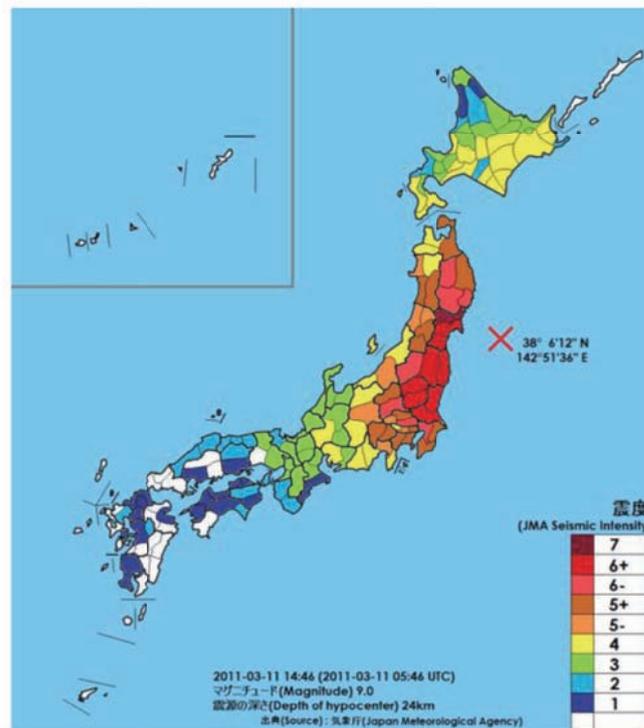
施設課長、技術長



* 地震の概要・社会インフラ破壊概況

○ 地震の概要（気象庁）

地震発生時刻	平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分
地震の名称	平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震
発生場所	日本三陸沖 北緯 38 度 06.2 分、東経 142 度 51.6 分
規模(マグニチュード*)	9.0(モーメントマグニチュード)
最大震度	震度 7(宮城県栗原市)



○ 社会インフラの破壊概況（岩手県、宮城県、福島県中心（内閣府資料から抜粋））

電気	東北 3 県の停電戸数は、約 258 万戸(3 月 11 日)。
ガス	東北 3 県の都市ガスの供給停止戸数は、約 42 万戸(3 月 11 日)。東北 3 県のLPガスの供給停止戸数は、約 166 万戸(3 月 11 日)。
水道	19 県の水道事業等で断水が発生し、震災後に把握した最大断水戸数(復旧済み除く)は、少なくとも約 180 万戸(3 月 16 日 17 時)。
燃料	東北・関東地方にある 9 製油所中 6 製油所が停止。うち、2 箇所で火災発生。東北 3 県のガソリンスタンドの稼働率は、総数 1,834 の約 53%(3 月 20 日)。
流通業	震災直後は、被災地にある総合スーパーの約 3 割、コンビニ店舗の 4 割強など数多くの店舗が営業停止。
鉄道	震災直後は、6 路線の新幹線(東北、秋田、山形、上越、長野、東海道)をはじめ、42 社 177 路線で運転を休止。
バス	東北主要 3 県において、219 両の車両損害(乗合 62 両・貸切 157 両)及び 115 棟の社屋等の損害(全壊 30 棟・一部損壊 85 棟)が発生。

* 震度4以上の最大震度別地震回数表(本震を含む。気象庁)

日別回数

期	間	最大震度別回数						震度4以上を観測した回数	備考
		4	5弱	5強	6弱	6強	7		
3月11日	14:00~24:00	42	9	2	0	1	1	55	震度7は本震
3月12日	00:00~24:00	16	1	0	0	0	0	17	
3月13日	00:00~24:00	2	1	0	0	0	0	3	
3月14日	00:00~24:00	3	1	0	0	0	0	4	
3月15日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
3月16日	00:00~24:00	3	1	0	0	0	0	4	
3月17日	00:00~24:00	3	0	0	0	0	0	3	
3月18日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
3月19日	00:00~24:00	3	0	1	0	0	0	4	
3月20日	00:00~24:00	3	0	0	0	0	0	3	
3月21日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
3月22日	00:00~24:00	4	0	0	0	0	0	4	
3月23日	00:00~24:00	1	1	3	0	0	0	5	
3月24日	00:00~24:00	1	1	0	0	0	0	2	
3月25日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
3月26日	00:00~24:00	3	0	0	0	0	0	3	
3月27日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
3月28日	00:00~24:00	0	1	0	0	0	0	1	
3月29日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
3月30日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
3月31日	00:00~24:00	0	1	0	0	0	0	1	
4月1日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月2日	00:00~24:00	3	0	0	0	0	0	3	
4月3日	00:00~24:00	2	0	0	0	0	0	2	
4月4日	00:00~24:00	0	0	0	0	0	0	0	
4月5日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月6日	00:00~24:00	2	0	0	0	0	0	2	
4月7日	00:00~24:00	1	0	0	0	1	0	2	
4月8日	00:00~24:00	0	0	0	0	0	0	0	
4月9日	00:00~24:00	0	1	0	0	0	0	1	
4月10日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月11日	00:00~24:00	8	3	0	1	0	0	12	
4月12日	00:00~24:00	6	1	0	1	0	0	8	
4月13日	00:00~24:00	1	1	0	0	0	0	2	
4月14日	00:00~24:00	2	0	0	0	0	0	2	
4月15日	00:00~24:00	0	0	0	0	0	0	0	
4月16日	00:00~24:00	0	0	0	0	0	0	0	
4月17日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月18日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月19日	00:00~24:00	2	0	0	0	0	0	2	
4月20日	00:00~24:00	0	0	0	0	0	0	0	
4月21日	00:00~24:00	1	1	0	0	0	0	2	
4月22日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月23日	00:00~24:00	1	1	0	0	0	0	2	
4月24日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月25日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	
4月26日	00:00~24:00	0	0	0	0	0	0	0	
4月27日	00:00~24:00	0	0	0	0	0	0	0	
4月28日	00:00~24:00	1	0	0	0	0	0	1	

※ この資料は速報値であり、後日修正されることがあります。(平成24年11月8日作成)

* 仙台 2011年3月11日の天気(気象庁)

時	気圧(hPa)		降水量(mm)	気温(°C)	露点温度(°C)	蒸気圧(hPa)	湿度(%)	風向・風速(m/s)		日照時間(h)	全天日射量(MJ/m²)	雪(cm)		天気	雲量	視程(km)
	現地	海面						風速	風向			降雪	積雪			
1	1009.4	1014.9	--	-0.6	-4.1	4.5	77	2.8	南南西			--	--			
2	1009.6	1015.1	--	-0.4	-4.2	4.5	75	2.6	北			--	--			
3	1009.6	1015.2	0.0	-1.0	-3.1	4.9	86	1.8	北			--	--	快晴	1	10.0
4	1009.4	1015.0	--	-1.7	-3.3	4.8	88	1.3	南			--	--			
5	1009.6	1015.2	--	-2.2	-3.5	4.7	91	1.2	南			--	--			
6	1009.9	1015.5	--	-1.2	-4.0	4.5	81	4.5	南西	0.0	0.00	--	--	快晴	0+	20.0
7	1009.7	1015.2	--	0.2	-3.9	4.6	73	2.9	南西	0.7	0.27	--	--			
8	1009.5	1015.0	--	1.8	-4.2	4.5	65	2.6	南西	1.0	0.99	--	--			
9	1009.2	1014.7	--	3.0	-6.1	3.9	51	1.5	南	1.0	1.69	--	--	晴	2	25.0
10	1008.6	1014.0	--	4.6	-6.0	3.9	46	1.2	西北西	0.9	2.13	--	--			
11	1007.9	1013.3	--	5.0	-6.5	3.8	43	1.5	北西	0.4	1.54	--	--			
12	1007.0	1012.4	0.0	4.8	-5.1	4.2	50	2.9	北北西	0.1	1.02	--	--	雪	10	20.0
13	1006.0	1011.4	0.0	5.5	-6.0	3.9	45	3.0	南西	0.0	0.94	--	--			
14	1005.8	1011.2	0.0	6.2	-5.7	4.0	42	4.5	南西	0.0	0.75	--	--			
15	1006.4	1011.8	0.0	4.8	-3.5	4.7	55	3.3	南西	0.0	0.56	--	--	雪	10	15.0
16	1007.3	1012.8	0.0	2.1	-0.1	6.0	85	3.8	北北東	0.0	0.21	--	--			
17	1008.6	1014.1	1.0	1.3	-0.2	6.0	89	2.8	西	0.1	0.18	1	1			
18	1009.2	1014.7	0.0	0.9	-1.8	5.3	81	2.8	西北西	0.0	0.03	--	1	曇	9	15.0
19	1009.7	1015.2	0.0	1.2	-3.7	4.6	69	2.7	西		0.00	--	1			
20	1010.0	1015.5	--	1.7	-6.1	3.9	56	4.0	西北西			--	1			
21	1011.0	1016.5	--	0.0	-3.6	4.7	76	2.2	北北西			--	1	晴	5	15.0
22	1011.2	1016.8	--	-0.6	-3.4	4.7	81	0.8	西南西			--	1			
23	1011.2	1016.7	0.0	0.4	-4.0	4.5	73	4.0	西			--	1			
24	1011.4	1016.9	0.0	-0.1	-3.6	4.7	77	2.2	南西			--	1			

※ 震度4以上の最大震度別地震回数・2011年3月11日の天気は、気象庁のホームページから転記

* インフラ等の被害・復旧状況(岩手県、宮城県、福島県中心)

平成23年7月14日現在  
(内閣府ホームページから抜粋)

【ライフライン】			
項目	被災時の被害状況	現在の被害・復旧の状況	当面の復旧見通し・目標
電気	東北3県の停電戸数は、約258万戸(3月11日)。	6月18日までに、東北電力が復旧作業に着手できる地域の停電は全て復旧済み。	家主不在等で送電を保留している家屋については、東北電力から各戸に不在連絡票を配布しており、家主立会いの下で屋内配線の健全性が確認できれば、送電予定。
	東北電力管内において約466万戸、東京電力管内において約405万戸が停電(3月11日)。	7月11日現在、上記の他、家主不在等で送電を保留している家屋(約3千戸)、津波で家屋等流出地域(約8万戸)、福島県内の立入制限区域(約3万戸)がある。	津波による家屋等流出地域については、家屋等の新築又は改築等に応じ、東北電力による送電工事を実施予定。
ガス	東北3県の都市ガスの供給停止戸数は、約42万戸(3月11日)。	都市ガスは、5月3日までに家屋流出等地域(約6万戸)を除いた約36万戸が復旧済み。	福島県内の立入制限区域については、地域の状況や規制の動向に留意し、対応について検討予定。
	東北3県のLPガスの供給停止戸数は、約166万戸(3月11日)。	LPガスは、7月14日現在、家屋流出等地域(約8万戸)を除いて供給可能。	地震・津波等の被害が甚大な地域、家屋倒壊等の事情で現段階で復旧作業に取りかかることができない箇所については、各ガス事業者が各地域での街区の整備進捗等に応じ、個別に対応。
水道	19県の水道事業者等で断水が発生し、震災後に把握した最大断水戸数(復旧済み除く)は、少なくとも約180万戸(3月16日17時)。	これまで復旧した総数は約225万戸で、7月12日現在、3県で少なくとも約4.8万戸が断水(岩手県約2.1万戸、宮城県約2.3万戸、福島県約0.4万戸)。	津波被害を受けていない区域は順次復旧中。
	全国456水道事業者から最大時355台の給水車を派遣し、応急給水を実施。	各地域の水道事業者が、全国の水道事業者の支援も得ながら復旧作業対応中。	津波被害区域については、各地域の復興計画と連携し、水道の復興・整備を進める予定。
市場	中央卸売市場では、仙台市中央市場本場、仙台市中央市場食肉市場、福島市中央市場、いわき市中央市場において、施設被害が発生。また、被災直後に休市、入荷の激減等の事態が発生。	左記の被災した4市場においても営業は再開。	左記の被災した4市場において、工事着手済み(査定前着工)。
流通業	震災直後は、被災地にある総合スーパーの約3割、コンビニ店舗の4割強など数多くの店舗が営業停止。	被災地においては、営業時間短縮や一部フロアのみでの営業、店頭販売などを行っている店舗を含め、概ね9割程度の店舗が営業中。一方、店舗流出など被害の大きかった沿岸部や原発周辺地域では、休業店舗あり。	岩手県や宮城県などの太平洋沿岸部の被災地域などでは、仮設店舗の設置、店頭販売、出張販売、巡回販売などの取組が継続される見込み。
燃料	東北・関東地方にある9製油所中6製油所が停止。うち、2箇所で大炎発生。	停止していた6製油所中3製油所は完全復旧。残り3製油所(JX仙台製油所、JX鹿島製油所(6月4日より一部稼働再開)、コスモ千葉製油所)は完全復旧までに長期化。	JX仙台製油所については、2012年夏までを目標とした生産再開のための計画を策定中。
	【SS】	ガソリンを含む石油製品全体について、震災前の東北地方の需要量・日量3.8万klの供給余力は確保。	コスモ千葉製油所については、復旧委員会を設置し、事故原因の究明と再発防止策を検討中。
	東北3県の稼働率は、総数1,834の約53%(3月20日)。	【SS】	【SS】
		東北3県のSSの稼働状況については概ね回復。	SSの稼働状況については概ね回復。
下水道	1都6県において、下水処理施設48箇所、ポンプ施設79箇所が稼働停止(3月16日)。	岩手、宮城、福島3県の沿岸部にある下水処理場16箇所が、主に津波による機械電気設備の損傷等により稼働停止中。このうち、汚水流入のある12箇所では、簡易処理(沈殿・消毒)等による応急対応を実施中。	下水処理場においては、早期の本格復旧を目指す。ただし、津波により壊滅的な被害を受けているものは、再度災害防止等の観点を踏まえ、本格復旧に向けた方針や手法を検討。
	下水管渠については、テレビカメラ調査で確認されている被害延長は約553km。	ポンプ施設23箇所が稼働停止中。	管渠においては、速やかに応急復旧工事を実施し、早期の本格復旧を目指す。
	【集落排水】	管渠については、126市町村等の下水管62,897kmのうち、553kmで被災(テレビカメラ調査ベース)。破損箇所については、仮配管や仮設ポンプ設置等による応急対応を実施中。	
	5月11日現在、岩手県や宮城県など11県、403地区が被災。	被災した市町村へは、各地方農政局において応急対応や災害復旧に関する技術相談を受けるなどの支援を実施中。	被災した施設については、簡易処理による応急対応を実施しつつ、今後もこれらの取り組みを継続するとともに、査定前着工を活用しながら、順次本復旧に着手。
銀行	東北6県及び茨城県に本店のある72金融機関の営業店約2,700について、震災直後の3月14日時点で、約10%に相当する約280が閉鎖。	現在の金融機関の閉鎖店舗数は、約2%に相当する63まで減少(7月14日)。	各金融機関において、閉鎖店舗の復旧に向け取組み中。また、一部金融機関においては、閉鎖店舗について、役場等に設置した臨時窓口で対応。
郵便	郵便局(東北3県1,103局)は、震災直後の3月14日時点で、約53%に相当する583局が営業停止。	現在の郵便局の営業停止は、92局(東北3県の約9%)に減少(7月14日)。	営業ができない郵便局については、仮設店舗を設置(陸前高田局は4月26日設置)するなど、被害の状況に応じて順次復旧を図っている。
	郵便(配達:東北3県301エリア)は、震災直後の3月14日時点で、約15%に相当する44エリアが配達業務を実施できない状況。	郵便については、7月14日現在、福島第一原子力発電所事故に伴う避難区域等(9エリア)を除く全ての地域で集荷・配達を実施。	被災地域あての郵便物は、自治体と連携しながら被災者の避難先を確認し、避難場所等の避難先への配達を順次実施。
宅配便	東北3県において、震災直後から一週間程度の間、全域で全サービス休止。	集配サービスは一部エリアを除き再開済みであり、順次対象エリアを拡大中(全域で集配サービスが行えない市町村数:6町村(福島県双葉郡の一部))。集配サービスが行えないエリアでは最寄りの営業所での受取・持込により対応中。	警戒区域等が設定されている福島県以外のエリアでは、体制が整い次第、順次集配サービスの対象エリアを拡大。集配サービスを行えないエリアでは最寄りの営業所での受取・持込により対応。
通信	震災当初は、ピーク時において、NTT固定電話では約100万回線、携帯電話では4社で約14,800局がサービスを停止。	4月末までに、NTT固定電話の交換局、携帯電話の通話エリアは一部地域を除き復旧。7月14日現在、停止は固定電話が約1.2万回線、携帯電話基地局が329局にまで減少。	NTT交換局と利用者宅間の通信回線が切断等しているところもあり、地域の復旧状況に合わせて、通信事業者が地元自治体等とも連携し、引き続き対応。

<b>放送</b>	震災当初、確認できた範囲ではテレビ中継局が最大120箇所、ラジオ中継局が最大4箇所停波。	宮城県でテレビジョン中継局の停波は56箇所中1箇所(損壊)(カバーするエリアのほぼ全域が津波により流出しているため、放送への実質的な影響はなし)。 福島第一原発警戒区域内(半径20km圏内)に設置されている、ラジオ中継局1箇所(NHK双葉中波第1中継局(双葉郡富岡町))が停波中。	当面必要とされる中継局の復旧については完了。
-----------	----------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------

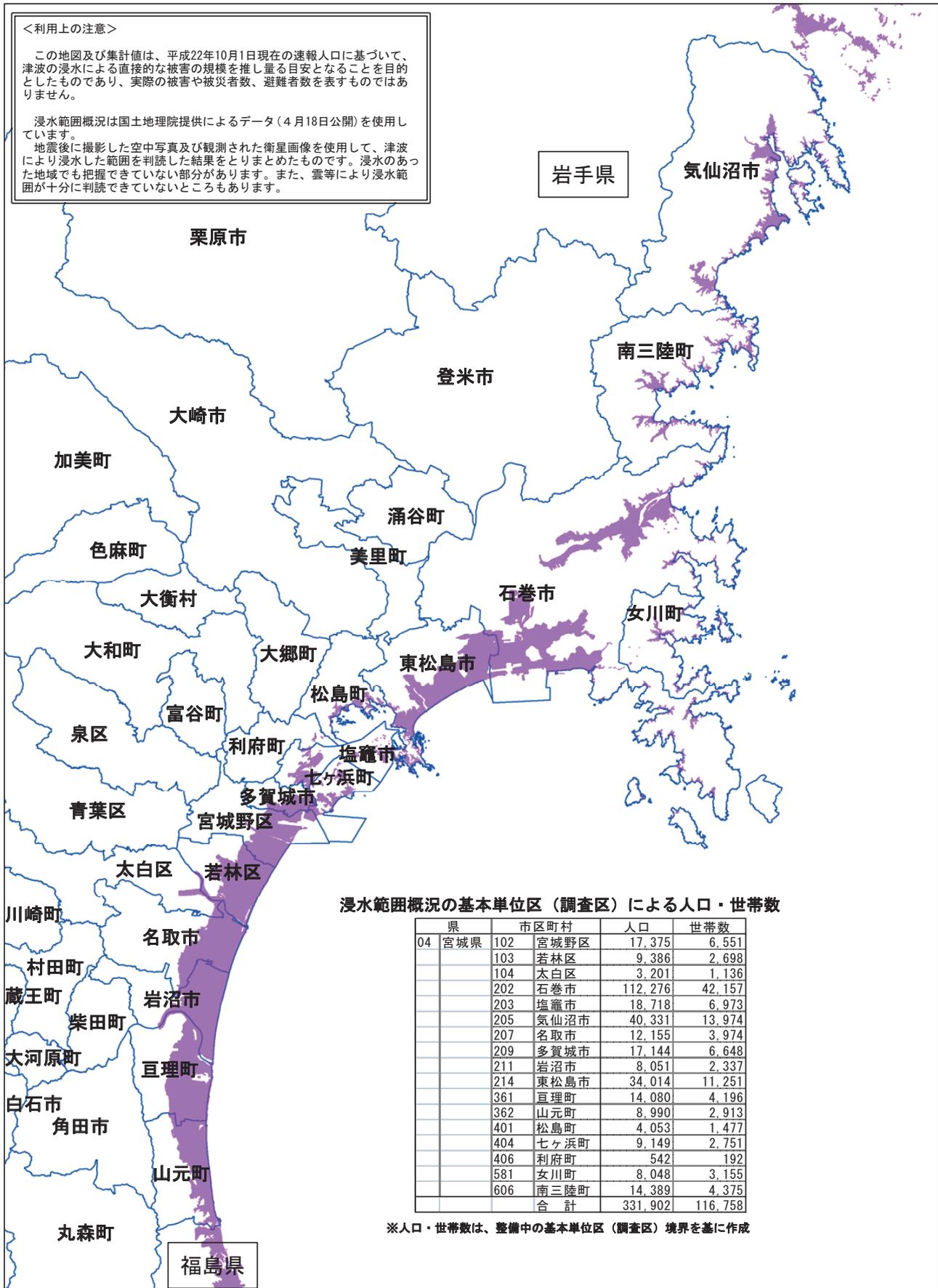
**【交通】**

項目	被災時の被害状況	現在の被害・復旧の状況	当面の復旧見通し・目標
<b>道路</b>	高速道路15路線、直轄国道69区間、補助国道102区間、県道等540区間で被災により通行止め。	高速道路1区間(常磐道広野～常磐富岡)、直轄国道2区間(国道45号)、補助国道16区間、県道等138区間で通行止め。	高速道路においては、4月1日までに応急復旧が完了しており、順次本復旧に着手。 直轄国道においては、4月10日までに迂回路利用を含め応急復旧が完了しており、今後は、迂回区間・片側交互通行区間の解消等、本復旧を推進する。 都道府県道、市町村道においては、自治体からの要請に応じて、被災状況調査、災害復旧に関する助言等を行っているところであり、引き続き地方公共団体の復旧を支援。
<b>鉄道</b>	震災直後は、6路線の新幹線(東北、秋田、山形、上越、長野、東海道)をはじめ、42社177路線で運転を休止。	東北・秋田・山形新幹線は100%、在来幹線は96%。東北新幹線(仙台～一ノ関)は4月29日に運転再開し、全線開通済み。地方路線では11路線で不通。	運転再開予定の路線: (1) 仙石線:矢本～石巻 7月16日 (2) ひたちなか海浜鉄道:平磯～阿字ヶ浦 7月23日 (3) 八戸線:階上～種市 8月中旬頃 (4) 仙台空港線:名取～美田園 7月23日、美田園～仙台空港 9月末目標
<b>バス</b>	東北主要3県において、219両の車両損害(乗合62両・貸切157両)及び115棟の社屋等の損害(全壊30棟・一部損壊85棟)が発生。	避難所を中心として当面の生活に必要な路線バスが震災前の70%を超える水準まで運行再開。 その他、鉄道在来線の被害による運休に対応して新たに鉄道代替バスを運行。	引き続き地域の復興状況等に応じ、各自自治体とバス事業者において、通院、通学、買物等地域の生活に必要な路線バスの確保を検討。 計画的避難区域及び緊急時避難準備区域においては、地域の状況に応じ、路線バスが運行再開。警戒区域においては、運行再開のめど立たず。
<b>航空</b>	仙台空港が津波により使用不能。	被災地周辺の13空港は全て利用可能。 仙台空港は、4月13日から民航機就航再開。また、6月23日から、施設制約の範囲内で国際チャーター便の受け入れを再開。 仙台空港等の完全復旧に向け復旧作業を実施中。	仙台空港の今後の復旧の見通し: (1) 9月末の供用を目標に、仙台空港の旅客ターミナルビルの全面的な復旧工事の支援を実施。 (2) 7月25日を目標に、国内線旅客取扱能力を増加させるとともに、国際定期便の就航を可能とする。
<b>港湾</b>	震災直後には、14の国際拠点港湾及び重要港湾(八戸港、久慈港、宮古港、釜石港、大船渡港、仙台塩釜港(塩釜港区、仙台港区)、石巻港、相馬港、小名浜港、茨城港(日立港区、常陸那珂港、大洗港区)、鹿島港)等が被災し利用不能。	これまでの航路・泊地の啓開や岸壁の応急復旧等により、八戸港から鹿島港に至る港湾において、全体として46%(170/373バース)の公共岸壁(-4.5m以深)が、上載荷重の制限、吃水制限等はあるが暫定利用可能。	都市・産業の復旧・復興等を踏まえつつ順次本復旧。
<b>離島航路</b>	気仙沼～大島、女川～江島、石巻～長渡、塩竈～朴島の4航路で、使用船舶の陸上への乗り上げ等や岸壁の損傷が発生。	気仙沼～大島航路が3月30日より、石巻～長渡航路が3月24日より、塩竈～朴島航路が3月26日より限定的な運航を再開。 女川～江島航路は運航休止中(島民は本土避難中)	航路の啓開、岸壁の復旧状況等に応じて、順次、本格復旧に向けた準備を進行。
<b>フェリー</b>	八戸港、仙台塩釜港(仙台地区)、茨城港(大洗港区)の被災により寄港不能(八戸～苫小牧航路、名古屋～仙台～苫小牧航路、大洗～苫小牧航路)。	八戸～苫小牧航路は青森～苫小牧航路へ変更して3月22日より再開していたが、7月10日より八戸～苫小牧航路に復帰し、通常運航再開。 名古屋～仙台～苫小牧航路は仙台～苫小牧間を3月28日より、名古屋～仙台～苫小牧間を4月11日より限定再開(旅客取扱なし)。仙台～苫小牧間について4月28日より旅客取扱開始。6月6日より全区間・全便で通常運航再開。 大洗～苫小牧航路は6月6日より一部ダイヤを変更して運航再開していたが、7月1日より通常運航再開。	各航路とも通常運航を再開済み。

**【その他基盤】**

項目	被災時の被害状況	現在の被害・復旧の状況	当面の復旧見通し・目標
<b>河川</b>	直轄河川で堤防崩壊等2,115箇所の被害が発生。	特に緊急的な対応が必要な6水系53箇所を緊急復旧工事対象とし、これまで52箇所ですべて完了、1箇所ですべて工事実施中。	本格復旧が完了していない箇所については、本年台風明けに本格復旧に着手し、できるだけ速やかに完了させる予定。
<b>海岸</b>	岩手、宮城、福島3県の海岸堤防約300kmのうち約190kmが全壊・半壊。	特に緊急的な対応が必要な箇所を緊急復旧工事を実施中。	高潮の侵入防止、内陸部の排水対策の促進を目的とし、出水期までに盛土等により高潮位までの締切を実施し、さらに台風期までに現地発生材等を活用して補強を行う応急措置を講じる予定。
<b>漁港</b>	岩手、宮城、福島3県で約260の漁港のほぼ全てが壊滅的な被害。被害報告額は、3県で計7,639	緊急に航路・泊地(岩手、宮城、福島の148漁港)のがれき除去や岸壁補修等が必要な漁港について緊急工事を実施中。	生活物資の搬入や早期に漁業活動を再開する必要がある漁港について応急工事を実施。
<b>農地等</b>	津波による農地被害面積は推定約2.3万ha。被害報告のあった水路等の農業用施設の被害は約7,400箇所。	被災した農地・農業用施設の復旧については、査定前着工を活用し、74箇所ですべて復旧工事に着手。 津波により被災した水田のうち1,213haで、除塩事業に着手。 地震及び津波による被災区域では、70台の災害応急用ポンプによる排水対策や作付けのための用水手当てを支援するとともに、一部の排水樋門周辺のがれき除去や排水機場等の応急復旧を緊急に実施中。	被災した農地・農業用施設については、二次災害防止のための排水対策や今季の水田作付けに間に合う地区の復旧を中心に順次復旧工事に着手。

* 宮城県の浸水範囲概況にかかる基本単位区(調査区)による人口・世帯数



出典 平成22年国勢調査(速報集計)

総務省統計局 統計調査部地理情報室

*学校近郊の被災状況

【広瀬キャンパス近郊】

写真提供：仙台市青葉区宮城総合支所まちづくり推進課



【名取キャンパス近郊】

写真提供：名取市総務課



## 震災関連活動報告等

### ○ 研究報告等

- * 仙台大専・名取における 2011 年東北地方太平洋沖地震の地震動特性…………… 105  
飯藤 将之、藤田 智己
- * 東日本大震災における学校対応 ―仙台高専広瀬キャンパスにおける事例の報告と提案…………… 115  
柏葉 安宏、與那嶺 尚弘、大場 譲、兼村 裕介、末永 貴俊、白根 崇、竹内 素子、竹茂 求
- * 東日本大震災直後の復旧活動の実践…………… 121  
渡邊 紀子、長山 健太郎、谷地 藍、佐々木 幸登
- * 仮設住宅における押入棚の製作と設置 ―卒業研究の一環として…………… 123  
熊谷 広子、森 弘則

### ○ 説明用の資料等

- * 中央教育審議会教育振興基本計画部会ヒアリング…………… 129  
平成 23 年 7 月 4 日 文部科学省 仙台高等専門学校長 内田 龍男
- * 復興に向けて見えてきた課題と高専の産学官連携…………… 132  
平成 23 年 7 月 27 日 仙台高専産学連携振興会総会  
仙台高等専門学校地域イノベーションセンター長 内海 康雄  
文部科学省支援型産学官連携コーディネーター 庄司 彰
- * 震災時における学生への対応について 平成 23 年度留学生・国際交流担当者研究集会…………… 139  
平成 23 年 7 月 31 日 沖縄県市町村自治会館  
仙台高等専門学校副校長（総務担当） 竹茂 求
- * 震災と学校の対応の概要（3/11～22）平成 23 年度国立高等専門学校機構施設担当職員研修会…………… 144  
「東日本大震災の被害状況及び災害復旧に向けた課題点」  
平成 23 年 10 月 17 日～18 日 国立オリンピック記念青少年総合センター  
仙台高等専門学校 施設課長 加藤 春男
- * 仙台大専災害復旧状況（名取キャンパス）、…………… 151  
平成 24 年 2 月 14 日仙台高等専門学校校長室 国立高等専門学校機構林理事長への説明資料  
仙台高等専門学校 施設課長 加藤 春男
- * 課外活動、この 1 年…………… 152  
平成 24 年 2 月 14 日仙台高等専門学校校長室 国立高等専門学校機構林理事長への説明資料  
仙台高等専門学校 副校長（学生担当）佐々木 典彦

### ○ ボランティア活動等

- * 陸前高田市での被災者支援ボランティア活動 平成 23 年 8 月 8 日 広瀬キャンパス学生会…………… 155
- * 製造業的復興支援プロジェクト 名取キャンパス建築デザイン学科教員及び学生…………… 156

### ○ 全国からのお礼や励まし・表彰関係…………… 157

### ○ プロジェクト等

- * 東北六高専連携 震災復興高専プロジェクト 東北地域の産業振興を行う技術者人材育成  
平成 23～27 年度 大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業パンフレット及び申請時の参考資料
- * 震災復興型サービスラーニングによる人間力ある実践的技術者育成(平成 24～25 年度)

### ○ 仙台大専に関する震災関係新聞掲載記事…………… 172

# 仙台高専・名取における 2011年東北地方太平洋沖地震の地震動特性

飯 藤 将 之, 藤 田 智 己  
(建築デザイン学科) (建築デザイン学科)

Properties of Strong Ground Motion of the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake in SNCT

Masayuki HANDOU and Tomomi FUJITA

The 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake occurred on March 11. The authors have observed earthquake motion in our college for ten years, and the motion of the March 11 earthquake was recorded. From some analysis the following things are concluded. 1) The March 11 earthquake caused very high acceleration and had very long duration. 2) The spectrum of this earthquake exceeds the design spectrum for the safety state in the limit capacity calculation-method in the range from 0.3 second to 0.7 second of natural period. 3) The structures in our college behaved beyond elastic region, and the collapse of ground, crack in curtain-wall and damage to equipment by the strong motion were typical in our college.

**Key Words** : Earthquake Record, Response Spectrum, Design Spectrum, Strong Ground Motion, Structural Damage

## 1. はじめに

宮城県沖の地震は平均再現期間37年程度で繰り返す性質をもっている。前回宮城県沖地震が起きた1978年以降、再び地震活動が活発化してきたのは2002年11月頃からであり、2003年5月26日には気仙沼沖を震源とするM7.0の地震が、同年7月26日には宮城県北部を震源とするM5.5, M6.2, M5.3の連続地震が起きている。2005年8月16日には、宮城県沖を震源とするM7.2の地震が発生し、2008年6月14日にはM7.2の岩手・宮城内陸地震が発生している。そのため、地震調査研究推進本部では、2003年6月以降、宮城県沖地震が30年以内に99%の確率で起きると警鐘を鳴らしていた¹⁾。

そのような中、2011年3月9日11:45に宮城県沖の更に東方を震源とするM7.3の地震が発生し、その2日後の3月11日14:46やはり宮城県沖の東方を震源とする国内では観測史上最高であるMw9.0の東北地方太平洋沖地震が発生し、地震災害、津波災害、更に原子力発電所の災害を引き起こした。犠牲者は19,000人を超える見込みで、政府はこの地震による災害を東日本大震災と命名した。

筆者らは宮城高専時代の2000年10月から校地内において地震観測を行っており²⁾、3月11日の本震、更に4月7日23:32の最大余震ともに収録をしている。これらの地

震は、学校の日常機能を停止させ、校内の地盤や建物にも被害を及ぼした。本稿では、仙台高専・名取で観測した東北地方太平洋沖地震の強震動の記録をもとに、地震動特性と構造被害についてまとめる。

## 2. 地震の概要

東北地方太平洋沖地震は、2011年3月11日14:46に発生し、震源は北緯38度06.2分、東経142度51.6分である。モーメントマグニチュードMwは9.0であり、匹敵する断層領域は南北約500km、東西約200kmに及ぶ。震源深さは約24kmであり、機構は陸側プレートに太平洋プレートが沈み込む境界でのプレート間地震である^{3)~6)}。

過去の宮城県沖地震と余震活動との関連を整理のため、図1に3月9日からの震央位置を示す。過去の宮城県沖地震の震源は、4月7日余震の震源位置付近であり、同位置の近くで2005年の宮城県沖の地震が発生している。2005年の震源は、1978年宮城県沖相当のアスベリティの南東端と考えられてきており、3月9日、3月11日の地震とも想定していた宮城県沖地震の震源域の東側が震源であった。3月11日の本震は、宮城県沖の想定位置の東側から破壊が開始し、宮城県沖、福島県沖、更に茨城県沖の4つの領域が連動したと考えられている。また、余震及び連鎖的に発生した地震の震源域は、長野県、秋

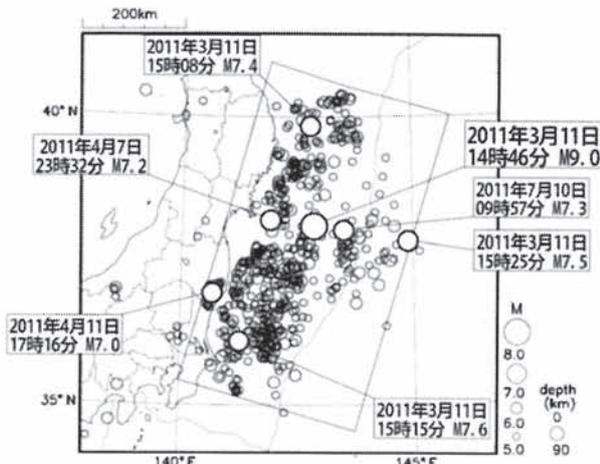


図1(a)

本震, 余震の震央^[3]



図1(b)

前震, 最大余震の震央^[4]

田県沖, 静岡県にまで達しており, 極めて広範囲であった。

### 3. 地震観測体制

筆者らが校地内で地震観測を始めたのは2000年10月からであるが, 2005年11月以降は, 専攻科1階にキネマトリクス社製地震計 SSA と応用地震計測社製地震計 QDR を, 同4階に QDR を, 更に建築棟3階に QDR を設置している。

本震における長期停電, 更に余震におけるコンセント

2005年11月16日～

建築	電気	専攻
3F	QDR	QDR
2F		
1F		SSA QDR

2011年7月11日～

建築	電気	専攻
3F	QDR	QDR
2F		
1F	E-C	E-C QDR

図2 地震計配置の変遷

はずれというアクシデントを経験し, 7月11日から専攻科1階と建築棟1階に応用地震計測社製地震計 E キャッチャーを増設した。

### 4. 記録した地震動

図3に専攻科1階と4階において QDR で集録した加

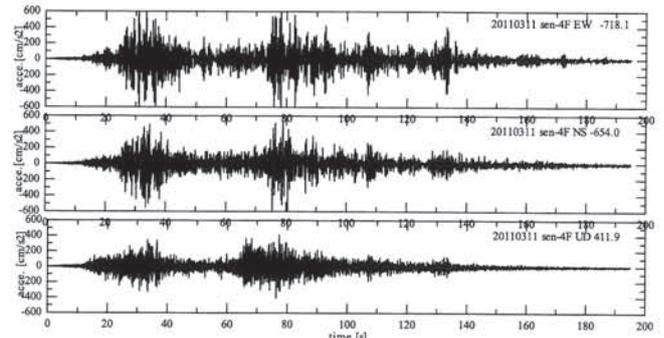


図3-1(a) 仙台高専 専攻科棟4階での加速度記録(3月11日)

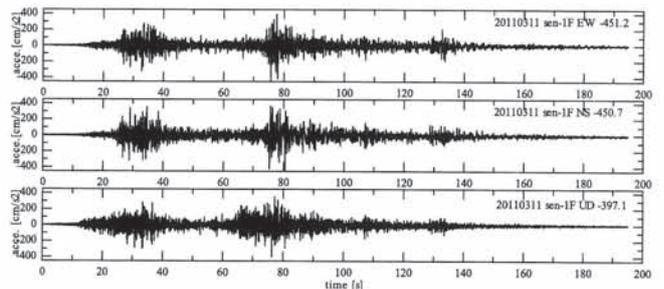


図3-1(b) 仙台高専 専攻科棟1階での加速度記録(3月11日)

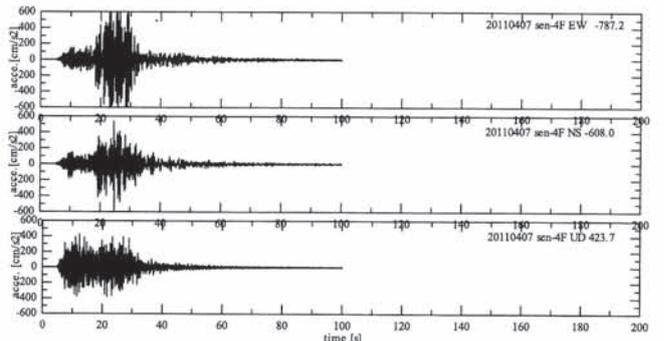


図3-2(a) 仙台高専 専攻科棟4階での加速度記録(4月7日)

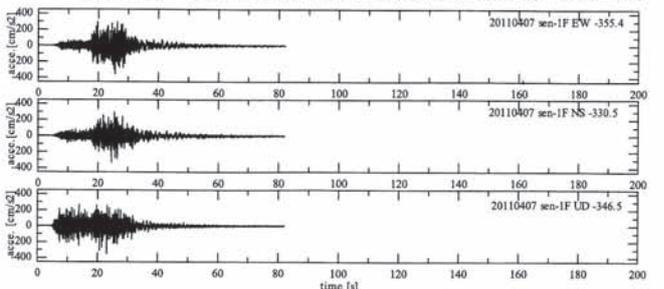


図3-2(b) 仙台高専 専攻科棟1階での加速度記録(4月7日)

速度記録を示す。3月11日の本震は、初期微動の後に300 gal程度の主要動が20秒ほどあり、その後100 gal程度で30秒ほど揺れ続き、その後最大加速度450 gal程度を含む10秒ほどの揺れであった。その後も100 gal程度の揺れが続き、最後に200 gal近くの揺れが出ており、3回の大きなショックをもち、継続時間約3分以上の極めて強くかつ長い地震であった。3回のショックについては、14:46の宮城県沖東方沖の破壊、14:47のその更に東方の破壊、14:48の茨城沖の破壊に対応すると考えられる。4階においても継続時間が長いことは1階と同様であるが3回のショックがより明瞭であることに加え、

表1(a) 専攻科棟1階の最大加速度値[gal]

日時	階	EW	NS	UD
2011.3.11.14:46	1階	-451.2	-450.7	-397.1
2011.4.7.23:32	//	-355.4	-330.5	-346.5

表1(b) 専攻科棟4階の最大加速度値[gal]

日時	階	EW	NS	UD
2011.3.11.14:46	4階	-718.1	-654.0	411.9
2011.4.7.23:32	//	-787.2	-608.0	423.7

表2 建築棟3階の最大加速度値[gal]

日時	階	EW	NS	UD
2011.3.11.14:46	3階	765.9	719.5	533.9
2011.4.7.23:32	//	612.8	638.8	452.3

最大加速度記録後のショックが1回多くなっている。表1に示すように4階床での加速度は、718 galである。

4月7日の地震は、約300 galの主要動が約15秒継続した。本震に比べれば継続時間は短い、既往の被害地震以上の強震である。上下成分は、本震と同程度の加速度が記録されている。

専攻科棟の被害についてまとめる。3月11日の地震で構造躯体の被害はなく、外壁のタイルが一部浮いた。2階廊下では内壁に貼った大理石が一部剥落した。3階と4階の研究室では、金物固定していた書架が南向きに転倒し、パソコンの本体とモニターの殆どが卓上から落ちた。

隣接する高学年棟では、階段室まわりで一部鉄筋が見える剥落が生じた。1階北側の非耐力壁で鉄筋に達するひび割れと剥落が生じた。南面では殆どの腰壁スリットにひび割れが生じた。また、妻側の3階と4階部分だけにある周辺固定壁と柱の境界で著しいタイルの剥落が生じた。専攻科棟と高学年棟を結ぶ渡り廊下のエキスパンションジョイントの開きが7cm程度となり、繰り返す余震で徐々に12cmまで開き、仕上げ枠もはずれた。

4月7日の地震でも、専攻科棟では構造躯体の被害はなかった。一方、隣接する高学年棟では、繰り返す余震の影響もあり、仕上げタイルのひび割れが広がるとともに、1層妻側にある片側柱付き壁の壁脚の仕上げ部分に明瞭なひび割れが入った。

ひき続き、建築棟について記す。建築棟3階の記録についても、3月11日の地震では4回のショックが確認され、最大加速度は766 galに達している。4月7日の余震については、上下成分の加速度が衰えずに25秒程度継続したのが特徴的である。

建築棟についても3月11日の地震で躯体の損傷はなかったが、階段室まわりの湿式仕上げ壁に幅2mmに達しないひび割れが複数入った。3階にある製図室では空調機吹き出し口のふたが開く、図面庫が転倒する、被害があった。製図台は、北東方向に最大で約70cm移動した。同じく3階のCAD室では、すべての液晶モニターが卓上で転倒し、数台は卓上から落ちた。2階の二つの研究室では、金物固定していた書架が東西にゆれた後に、北側にねじれるように倒れたが人的被害はなかった。1階の実験室ではダクトの継ぎ目が切れる、スラブ下の仕

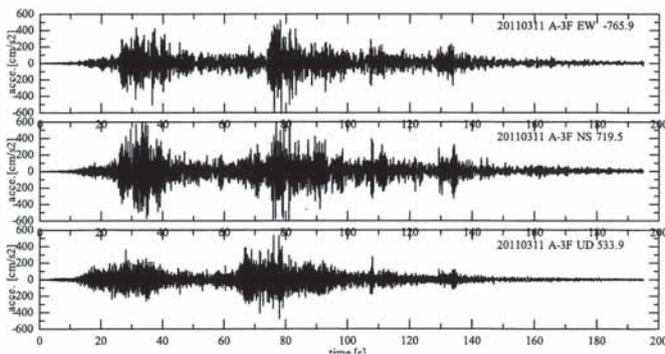


図4-1(a) 仙台高専 建築棟3階での加速度記録 (3月11日)

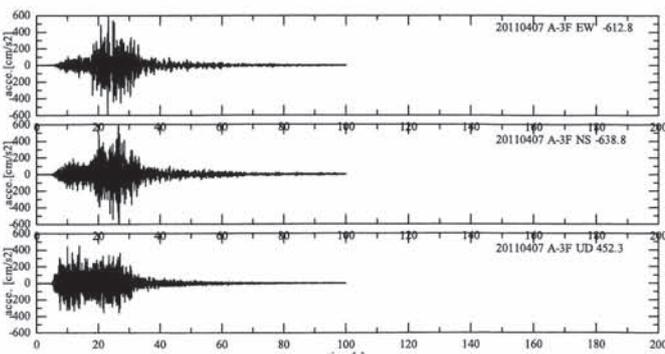


図4-2(b) 仙台高専 建築棟3階での加速度記録 (4月7日)

上げ塗料が落ちる, 工作機械が転倒する, 収納物品が棚から飛び出す, 被害があった。

4月7日の地震でも躯体の損傷はなかったが, 階段室まわりのひび割れの幅が広がった。3階にある製図室では空調機吹き出し口が1ヶ所落下する, 図面庫が転倒する, 被害があった。製図台の移動距離は, 最大で約30cmであった。3月11日に倒れた2階の書架は2cmほど移動したが転倒には至らなかった。

5. 過去に校内で集録した加速度記録とそのスペクトル特性

地震観測の経緯は前述の通りであるが, QDRを設置してからの被害地震は3回目であり, それらの記録とともにスペクトル特性について考察する。

専攻科1階においてこれまで収録した2005年8月16日「宮城県沖の地震」, 2008年6月14日「岩手・宮城内陸地震」, そして3月11日の「東北地方太平洋沖地震」, 更に4月7日の「宮城県沖の地震」の観測波形をまとめて図5に示す。

3月11日の地震は, 過去の二つの地震に比べて, 振幅が2~3倍で, 複数のピークをもち, 継続時間が3~4倍であることがわかる。

専攻科1階での記録の応答スペクトル ( $h=0.05$ ) を図6に示す。同図には, 2005年8月16日と2008年6月14日の応答スペクトルも示している。更に同図には第二種地盤を仮定した限界耐力計算の損傷限界と安全限界のスペクトルと荷重指針の50kine地震動のスペクトルも示し

ている。

3月11日の地震では, EW, NS方向ともに, 固有周期

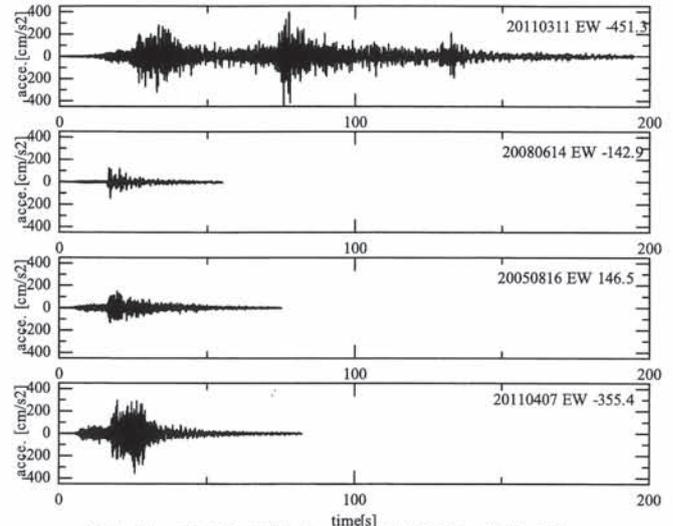


図5 (a) 専攻科1階における加速度記録の比較 (EW)

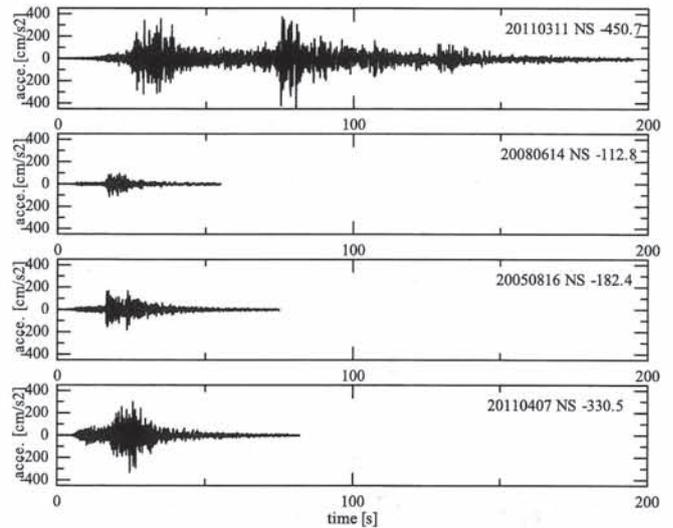


図5 (b) 専攻科1階における加速度記録の比較 (NS)

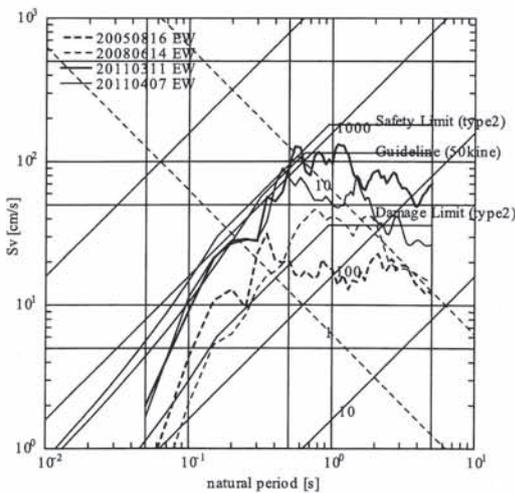


図6 (a) 専攻科1階速度応答スペクトルの比較 (EW)

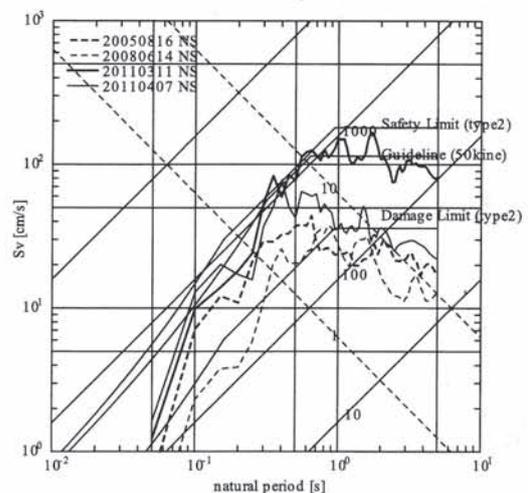


図6 (b) 専攻科1階速度応答スペクトルの比較 (NS)

0.3秒から2秒にかけて50kine地震動を超える領域があり、固有周期0.3秒から0.7秒にかけて安全限界を超えている。

4月7日の地震は、固有周期0.5秒までの単周期領域では、3月11日の地震とほぼ同じレベルであり、固有周期が0.5秒以上になると速度応答が低下する。

二つの地震ともに、全周期帯で2005年8月16日と2008年6月14日の地震の応答を上回っており、過去2回の地震では建物への損傷を免れていたが、今回の地震では被害を回避できなかったことと相通ずる。

図7に、四つの地震の $S_A-S_D$ スペクトル ( $h=0.05$ ) を示す。3月11日の地震と4月7日の地震は、これまで観測された地震に比べて、全周期帯で大きな加速度応答と変位応答となっている。4月7日の地震は、0.5秒まで、

3月11日の地震と同程度の応答であるが、0.5秒以後の応答に差が出ている。

専攻科1階での加速度記録の振動周期5秒以下を残すとともに、7.1秒以上のゆらぎを除去して基線補正し、速度と変位を計算した結果の最大値を表3と表4に示す。速度と変位に関しては、3月11日の地震が突出して大きい値である。

専攻科1階の加速度記録を計測震度と境の震度を計算した結果を表5に示す。境の震度は四つの地震ともflag=2(体感)で決まっている。

表3. 最大速度の計算値[cm/s]

日時	EW	NS	UD
2005.8.16.11:46	9.0	15.8	4.6
2008.6.14.8:43	15.0	10.9	4.5
2011.3.11.14:46	49.1	69.3	27.4
2011.4.7.23:32	26.4	21.6	16.5

表4. 最大変位の計算値[cm]

日時	EW	NS	UD
2005.8.16.11:46	2.1	2.8	0.8
2008.6.14.8:43	2.9	2.0	0.8
2011.3.11.14:46	9.5	16.9	4.5
2011.4.7.23:32	3.4	3.2	2.0

表5. 震度の計算値

日時	I-jma	I-sakai
2005.8.16.11:46	4.8	4.8 (体感)
2008.6.14.8:43	4.8	4.8 (体感)
2011.3.11.14:46	5.9	5.9 (体感)
2011.4.7.23:32	5.4	5.4 (体感)

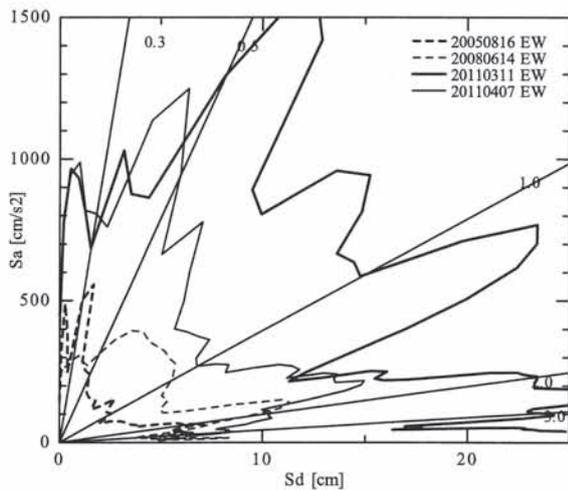


図7 (a) 専攻科棟1階  $S_A-S_D$  スペクトル (EW)

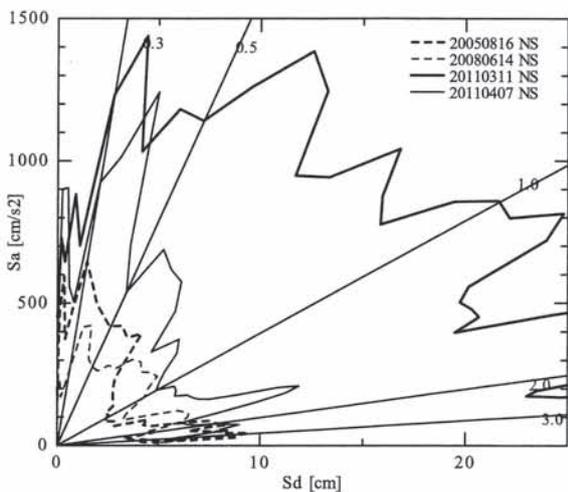


図7 (b) 専攻科棟1階  $S_A-S_D$  スペクトル (NS)

## 6. 国内の被害地震と仙台高専における記録地震動

国内では、1995年の兵庫県南部地震以降大加速度を記録している地震が頻発している。それらの中で震度7を記録した地震について代表的に用いられている記録と東北地方太平洋沖地震の地震動について比較する。検討に用いる地震動は、1995年兵庫県南部地震のJMA神戸NS、2004年新潟中越地震のK-net小千谷EW⁷⁾、そして東北地方太平洋沖地震のK-net仙台NSと仙台高専NSである。仙台高専を除く3波の波形を図8に示す。JMA神戸の場合12秒間で大きな加速度の揺れが生じたこと、K-net小千谷も短時間で極めて大きな加速度の揺れが生じたことがわかる。K-net仙台については、包絡線が仙台高専の3ショックのうち、2つ目まで似ているが、最大加速度は仙台高専の2倍近くとなっている。

図9に採り上げた4波の加速度応答スペクトルを示す。

JMA 神戸は 0.5 秒以下の極短周期領域でピークをもち、更に 0.5 秒から 1 秒以下の短周期領域でも第二のピークがある。それに対して K-net 小千谷と K-net 仙台は 0.6 秒に際立ったピークがある。仙台高専のスペクトルは、ピークが割れる形となっており、その点では JMA 神戸に近いが、0.4 秒から 0.7 秒の領域でピークが続いているとも言える。

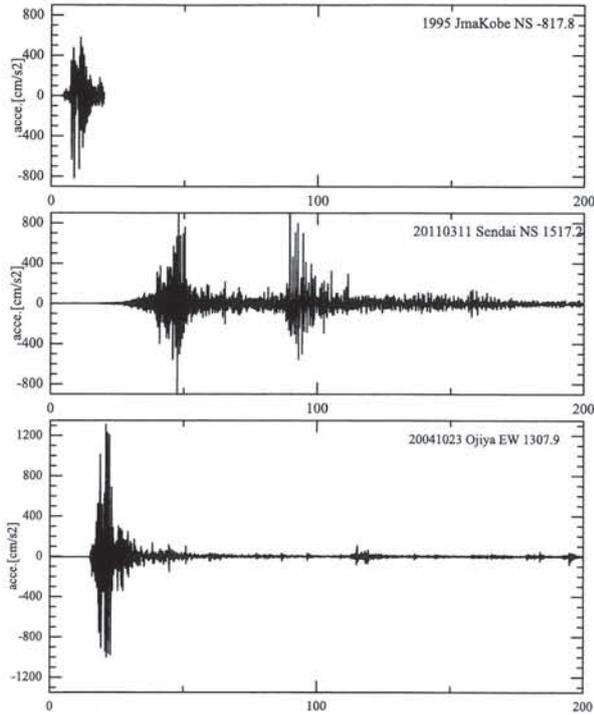


図 8 神戸 NS, 小千谷 EW, 仙台 NS の加速度記録

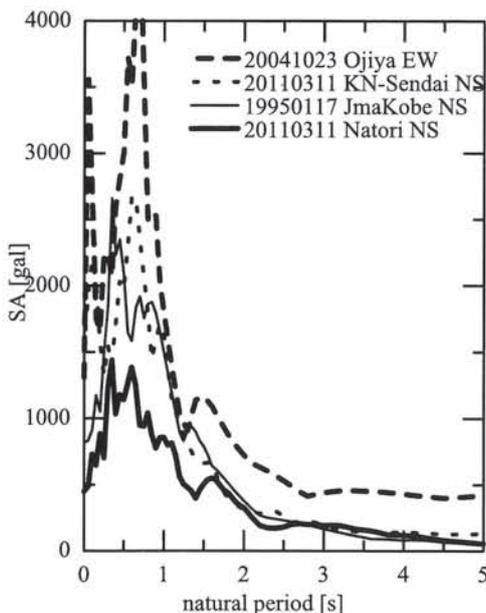


図 9 神戸 NS, 小千谷 EW, 仙台 NS の加速度応答スペクトル

建築構造被害の要因とされる^{[8], [9]} 1~2 秒のやや短周期成分は、K-net 小千谷だけが約 1300 gal と突出している。JMA 神戸と K-net 仙台が 0.8 秒以降急激に劣勢になるのに対して、仙台高専では値こそ K-net 小千谷に及ばないが、500 gal を超すピークが生じている。

## 7. 名取キャンパスの構造被害

名取キャンパスの校舎群は、その前身である宮城高専時代の 1964(昭和 39)年 3 月に一部が竣工し、その後キャンパスとして整備されてきている。1995(平成 7)年の兵庫県南部地震を受けて、文部省が進める耐震化施策を早期に実施したため、鉄筋コンクリート構造の校舎群はすべて耐震診断の構造耐震指標  $I_s$  値 0.6 以上を確保している。耐震安全性を確保するための新築もしくは改修については、1999(平成 11)年の専攻科棟からはじまり、総合科学棟(低学年棟)、高学年棟、そして専門学科棟と進み、2002(平成 14)年 7 月までに終了している。それらを除くと、鉄筋コンクリート構造の校舎として古いものは、図書館(1973年)、事務棟(1983年)、厚生会館(1983年)、情報デザイン学科棟(1995年)であるが、いずれも  $I_s$  値は 0.6 以上を確保している。校舎を除く学生寮は 2008(平成 20)年に耐震補強工事が実施され、鉄骨構造の第一体育館については 2006(平成 18)年、実習工場については 2007(平成 19)年に耐震補強が実施されている。従って、名取キャンパスの校舎群は、すべて 1981 年の新耐震基準で設計され建築物と同等以上の安全性を有すると言えることができる。

前述の通り 2005 年の QDR 設置後名取キャンパスでは、4 月 7 日の余震も含めて 4 度の大きな地震を受けている。過去 2 回では大きな被害がなかったものの、3 回目となる 2011 年 3 月 11 日の地震では、2 ヶ月間学校機能が失われる被害が生じている。2005 年 8 月と 2008 年 6 月の地震は震度 5 弱で、3 月の地震は震度 6 弱(表 5 の通り、但し名取市の気象庁発表は震度 6 強)であり、これらの地震は耐震構造の損傷許容の分かれ目となる考え、被害の実状をまとめる。

名取キャンパスにおける東北地方太平洋沖地震による被害は、盛土の崩壊に代表される地盤被害、耐力を負担しない二次壁のひび割れ、そして配管などの設備の被害に大別される。

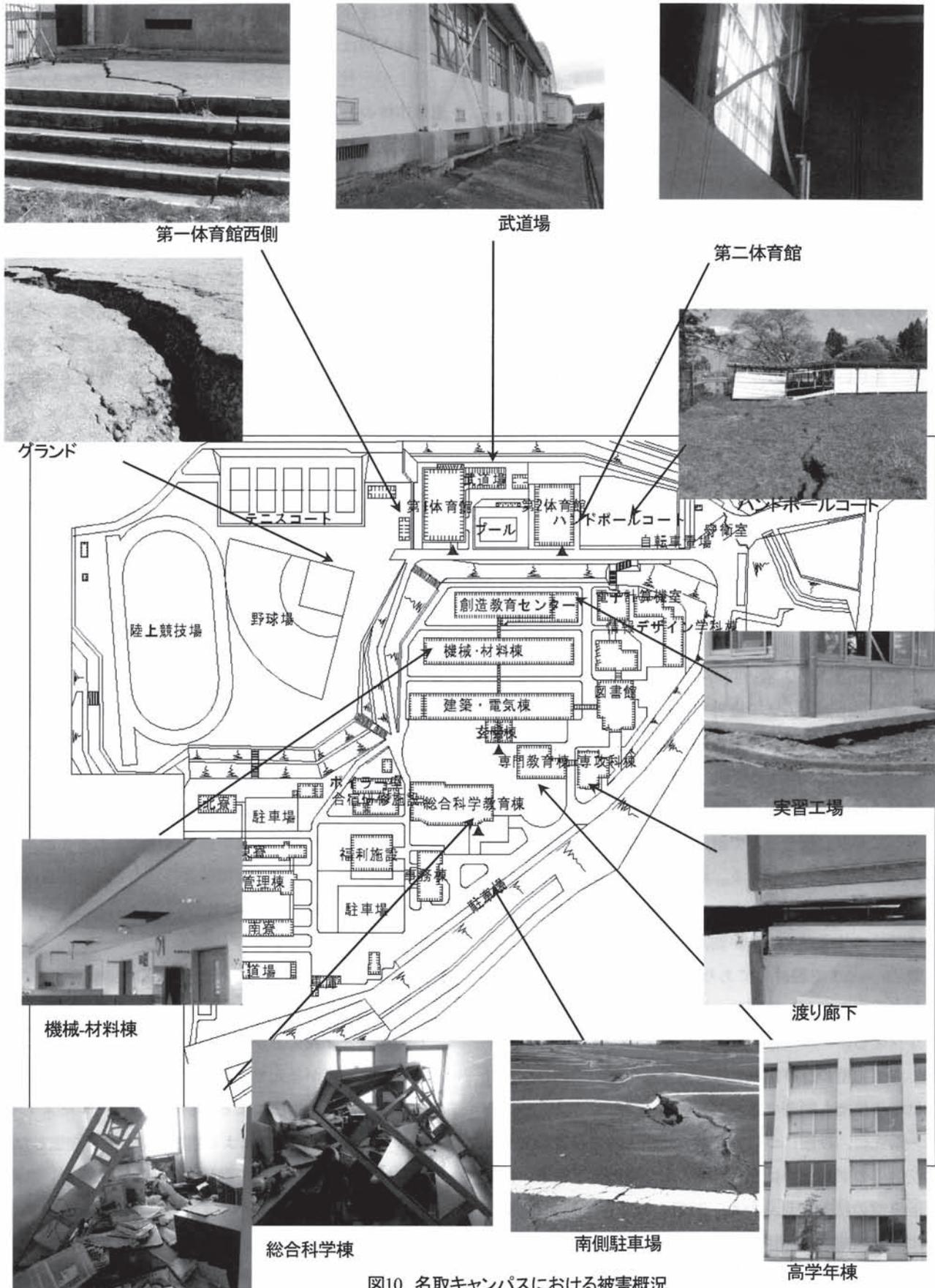


図10 名取キャンパスにおける被害概況

第一に、地盤の被害であるが、野球グラウンドの地割れが長さ約60mに渡って入った、内野付近の沈下量は約30cmであった。その地割れをちょうど延伸する位置で、第一体育館の西側テラスに、円弧滑りの始まりがわかる地割れが入った。この地割れにより第一体育館北側の床は、幅木部分から最大2cm程度の間隙を生じ、第一体育館北側倉庫はアリーナ部分との隙間が5cm以上となった。第一体育館の傾斜はかろうじて1/50以内にとどまった。第一体育館に隣接する武道場については、北側の犬走りのコンクリートが破壊し、40cm以上沈下した。そのため床は大きく湾曲するとともに壁も傾き、変形に追従できない開口部のガラスが割れた。武道場の柱のうち、北東隅の柱は変形角1/36に達した。円弧すべりは、敷地の北東側でも起きており、ハンドボールコートでの地割れは、駐輪場のスラブと壁面を破壊した。

南側の駐車場も長さ約70mに渡って滑り、アスファルト舗装を破壊した。沈下量は約75cmである。

実習工場（創造教育センター）の北側でも地盤の被害が顕著であり、法肩の手すりが長さ約10mに渡り湾曲したのに加え、実習工場東端の材料化学実験室のスラブ下は約30cm沈下し、横方向の排水用配管が切断された。

第二に、非耐力壁の被害であるが、代表的なのは高学年棟である。高学年棟の損傷箇所は、階段の周辺壁、北側の非耐力壁、南面の腰壁、東面の周辺柱付壁であった。階段の周辺壁と北側の非耐力壁のひび割れは、壁筋が露出しており、構造設計で耐力負担を期待していない壁面が抵抗したことが伺える。南面の腰壁、東面の周辺柱付壁については、スリット・ゴムで縁切りをしてあり、その部分で仕上げタイルが剥落した。本建物は構造特性係数 $D_s = 0.3$ で設計しており、これらの壁も設計上は非耐力壁であるが、地震時に抵抗要素として機能したことが伺える。

非耐力壁のひび割れと腰壁スリット部分のひび割れは低学年棟でも顕著であった。

第三に、設備についてであるが、天井に設置してある空調用のダクトのはずれと吹き出し口の落下あるいは落下直前の状態が見られた。被害の程度は、電気-建築棟よりも機械-材料棟の西側、そして機械-材料棟の東側が重度であり、支持地盤と振動増幅の関連があると考えられる。低学年棟の研究室では、壁面固定してある書庫のフック

が東西に抜け出してから、書庫が南にねじれて倒れた。転倒は上階ほど激しかった。

以上が、代表的な被害形式に基づく被害であるが、構造体本体の被害としては第二体育館の筋かいの座屈がある。東面2スパン、西面2スパンで筋かいの座屈が確認された。第一体育館と武道場の筋かいは耐震補強でサイズアップしており被害はなかった。

構造体被害そのものではないが、深刻であったのが、高学年棟と専攻科棟を結ぶ渡り廊下のエキスパンションジョイントの被害であった。もともと5cm程度の隙間で施工されていたと考えられるが、度重なる余震で4階では隙間が12cmに達した。高学年棟には、3階と4階に教室が8室あり、同時に在住する学生数を考えると十分な安全対策を施す必要に迫られた。

以上のような被害であり、鉄筋コンクリートの校舎では、損傷度Ⅲ（ひび割れ幅1~2mm）に相当する耐震部材もなく、上部構造の被災度区分は軽微の区分であった¹⁰⁾。しかしながら、設備関係や仕上げ材の被害では、落下や転倒に対する危険性が否定できなく、余震の頻繁な時期での応急危険度は、要注意のレベルであったと考える¹¹⁾。

鉄骨構造の武道場は、地盤の影響によりかなり危険な状況ではあるが上部構造の傾斜から、ブレース方向が大破、ラーメン方向が大破の被災度区分であった。

学生寮に関しては、もともと劣化によるひび割れが多数入っているものの、階高が低い剛構造であることと、桁行方向の筋かいによる耐震補強の効果で、無被害の被災度区分であった。

## 8. まとめ

2011(平成23)年3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、地震と津波により多くの命が犠牲になった。あまりにも津波被害が甚大で、更に、原子力発電所の問題が深刻であるため、地震による建物の被害がクローズアップされずにいるが、地震による建物被害も多々発生した。筆者らは仙台高専・名取の敷地内で地震観測を行い、多点で観測を始めた2005年から4度の被害地震を経験することとなった。本稿では、これらの地震動の特性をまとめるとともに、国内の被害地震との比較、更に本校での被害状況についてまとめた。

得られた知見を以下にまとめる。1)仙台高専・名取で得られた東北地方太平洋沖地震の記録より、地震波の最大加速度は2005年から経験した被害地震に対して2~3倍、継続時間は3~4倍である。2)東北地方太平洋沖地震のスペクトルは周期0.3秒から0.7秒で限界耐力計算の安全限界領域を上回る。3)仙台高専の加速度応答スペクトルは極短周期領域と短周期領域で過去のJMA神戸よりその値が約1/2であるが、やや短周期領域では、JMA神戸に匹敵する値となっている。4)仙台高専の地震応答スペクトルが、安全限界領域を超えることから構造物が無被害領域でとどまることはできず、キャンパス内でも数々の被害が確認されたが、地盤の被害、非耐力壁の被害、設備の被害に特徴づけられる。

参考文献

[1]地震調査研究推進本部：“宮城県沖地震長期評価”，  
<http://www.jishin.go.jp/main/index.html>（～2011年3月）  
 [2]飯藤将之他：“宮城高専の強震記録と1978年宮城県沖地震の記録との比較”，宮城工業高等専門学校研究紀要，vol.43，pp.9-14，2007.3.  
 [3]気象庁：“平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震”，  
[http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/2011_03_11_tohoku/index.html](http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/2011_03_11_tohoku/index.html)  
 [4]河北新報社：“河北新報”，2011.4.7.  
 [5]日本建築学会：“2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報”，2011.7.  
 [6]橋本学：“2011年東日本大震災：本震・誘発地震・情報”，自然災害科学，vol.30，No.1，pp.27-38，2011.5.  
 [7]防災科学技術研究所：“強震ネットワーク”，  
<http://www.k-net.bosai.go.jp/k-net/>  
 [8]境有紀，南忠夫，1995年兵庫県南部地震による地震動の破壊力，日本建築学会大会学術講演梗概集，B-2 構造II，199-200，1996.  
 [9]境有紀，中村友紀子，大月俊典，小杉慎司，2004年新潟県中越地震で発生した地震動と建物被害の対応性，日本建築学会構造系論文集，第601号，69-73，2006.3.  
 [10]日本建築防災協会：“震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針”（第2版），pp.15-41 およびpp152-161，2002.2.  
 [11]宮城県土木部：“宮城県被災建築物応急危険度判定者講習会テキスト”，2010.10.

付録

本論は、仙台高専で記録した地震動とその建築構造に

及ぼす効果・影響に着目してまとめたものである。災害に対する防災の課題は、狭義の建築構造の問題に限らず、社会と自然に視野を広げる必要がある。そこで、東北地方太平洋地震に関して建築構造以外に記述しておくべきことがらを以下に示す。

付録1

本校で記録した地震動について、横軸を時間、縦軸を最大加速度にして、図-A1に示す（但し、2011年3月11日の本震～3月21日8:00頃と4月7日余震～4月9日18:00頃は停電のためデータがない）。2001年の観測以来、たびたび100galを超える地震が起きていることと、地震計の作動レベルである5gal以上の地震が年約7回程度で起きていたことが確認できる。2011年は、3月11日以降、余震活動が活発であったことも確認できる。

図-A1の2011年3月11日以降を拡大したものを図-A2に示す。4月末まで頻りに余震が発生しており、5月上旬に一旦活動が休まったものの9月まで絶え間なく余震が続いたことが確認できる。

付録2

東北地方太平洋沖地震が引き起こした災害全般に目を向ける意味で、日本建築学会の建築雑誌（1978年12月号）

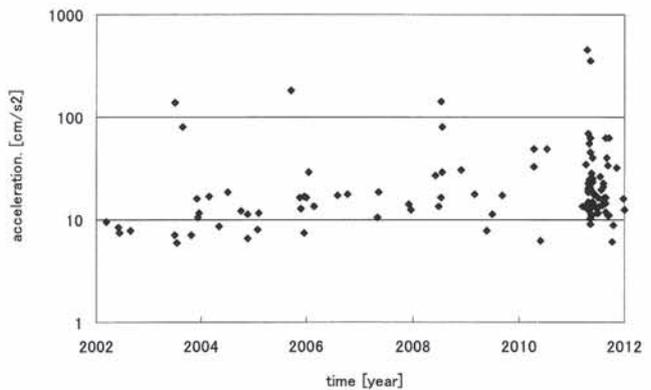


図-A1 本校で観測した地震の最大加速度（2002～2011年）

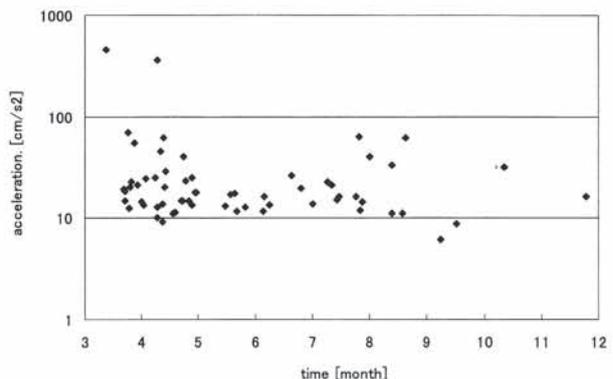


図-A2 本校で観測した地震の最大加速度（2011年3月～）

と警察庁の <http://www.npa.go.jp/archive/keibi/biki/index.htm> (2011年12月17日付け資料) から調べた被害状況について表-A1 にまとめる。

表-A1 東北地方太平洋沖地震による被害

発生年月日	1978.6.12. 17:14	2011.3.11. 14:46 宮城県内で	2011.3.11. 14:46 全国集計
	M7.4	Mw9.0	
死者	28	9,506	15,844 以上 (約9割は溺死)
不明		218	3,468
負傷者	11,028	4,013	5,890
住家全壊	1,383	82,755	127,130 (流出含む)
住家半壊	6,238	129,211	231,607
		以上 警察庁資料 他	
被害額	2,700 億		
津波	14-22cm	仙台港 14m	大船渡 24m

## 付録 3

1978年の宮城県沖地震でのライフラインの復旧と2011年東北地方太平洋沖地震でのインフラストラクチャーの復旧の状況を表-A2 に示す。東北地方太平洋沖地震については地震後1ヶ月の新聞から調べたものである。33年

の時間は、都市の状況・人口の集中と過疎・交通と情報網の発達により一概に比較することができないが、災害発生後72時間あれば物流が回復するといった経験則を覆す規模の災害であったと言える。

表-A2 地震後のインフラの復旧状況

	1978 6.12.	2011 3.11.
		学校 泉
電気	6.13.	東北で259万戸 (3.16.) 3.14. 3.22.
ガス		4.3.
水道	問題なし	3.16. 3.18.
鉄道	6.13.	3.28.あおば-新田 3.31.仙台-岩切 4.4.仙台-岩沼 4.7.岩沼-福島
新幹線	なし	3.25.仙台-東京 4.29.東京-青森
地下鉄	なし	3.14.一部再開 4.29.全線再開
高速		3.12.緊急車両 3.24.全線
高速バス	殆どなし	3.13.山形 3.14.新潟
ガソリン	問題なし	4.7.頃渋滞解消
食料	問題なし	街中で調達の列

# 東日本大震災における学校対応

## — 仙台高専広瀬キャンパスにおける事例の報告と提案 —

柏葉 安宏^{*1}, 與那嶺 尚弘^{*1}, 大場 譲^{*1} 兼村 裕介^{*1}, 末永 貴俊^{*1}, 白根 崇^{*1},  
竹内 素子^{*1}, 竹茂 求^{*1}

## Measures in College for the Great East Japan Earthquake

### — A report accounts and propositions from SNCT Hirose campus —

Yasuhiro KASHIWABA, Takahiro YONAMINE, Yuzuru OHBA, Yusuke KANEMURA,  
Takatoshi SUENAGA, Takashi SHIRANE, Motoko TAKEUCHI, Motomu TAKESHIGE

We report measures of Hirose campus of Sendai National College of Technology for the Great East Japan Earthquake. This earthquake caused severe disasters such as building collapse, power outage, water stoppage, and shutoff of gas supply over large areas in the East Japan. Immediately after this disaster, about 100 students and 100 staffs of our college stayed in our college. We supported return home of our students and confirmed the safety of all students and their families. We experienced a variety of things in long term stay in our college with victims. We describe our experiences with our regional contribution and introduce the new way of confirmation of the safety of students and a support system of stocks based on our experiences. We hope that this report provides useful measures for future disasters.

KEYWORDS : measures for disaster, confirmation of the safety of students, earthquake, long term stay in the college, stock list, regional contribution

### 1. まえがき

平成 23 年 3 月 11 日 (金) 14 時 46 分に発生した太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード約 9.0 の大地震とそれに起因した大津波は、東北地区の太平洋側を中心とする広い地域において、建物の損壊、停電、断水、ガス等ライフラインの停止、交通インフラの断絶等様々な被害を引き起こした

(東日本大震災)。地震大国である日本において、この先も様々な地域における大地震の発生が予測されている。未曾有の震災に対する準備は重要である。東日本大震災以前では、平成 19 年 7 月 16 日 (月) の新潟県中越沖地震が記憶に新しく、専門性の高い調査結果が、長岡技術科学大学より報告されている¹⁾。

東日本大震災は新潟県中越沖地震とは異なり、卒業式を控えた春休み中、平均気温が約 4℃以下

*1 仙台高等専門学校広瀬キャンパス(Hirose campus, Sendai National College of Technology)

〒989-3128 宮城県仙台市青葉区愛子中央 4-16-1 E-mail: kashi@sendai-nct.ac.jp

という寒い時期に発生した。そのため、通常の避難訓練の想定を越えた様々な問題を引き起こした。筆者らは、今回の東日本大震災における仙台高専の対応とそこから得られた反省点および今後への提案をまとめることが、この先に起こりうる様々な震災の備えの手助けになると考えた。仙台高専には名取と広瀬の2つのキャンパスがあるが、特に被災初期はキャンパス間の情報交換さえも不可能であり、キャンパス毎に被災への対応をせざるを得ない状況であった。従って、本論文では筆者等が所属する仙台高専広瀬キャンパスについて、特に地震発生直後に焦点を当て、被災後1~2週間の状況とその対応および反省に基づく提案事項を報告する。本論文でふれることができなかつた事例や両キャンパスの連携による中長期的復興対策は別の機会に報告する予定である。

## 2. 地震の状況とその対応

### 2. 1 地震発生直後の状況

表1に、本キャンパスの学生数(本科および専攻科総数)、教員数、職員数(非常勤、派遣職員も含む)と地震発生直後の各人数を示す。授業は3月3日に、5年生の卒業研究発表会も3月2日に終了していた。進級認定会議は3月14日に予定され、学生の進級に関する指導もほぼ終了している時期であった。東日本大震災当日の3月11日は、午前中で部活動を終了した学生は既に帰路に着いており、学内には春休みの合宿中の部活、卒業研究の最後のまとめや専攻研究のために出校した5年生および専攻科1年生が中心に在籍していた。春休みで、学内に不在の教職員も比較的多い。全数1000人弱のうち、25%程度の人員が学内で地震に巻き込まれた。

表1 学生および教職員の人数

	平時	地震発生直後
学生数(人)	849	約150
教員数(人)	61	49
職員数(人)	55	51

### 2. 2 地震発生直後の避難

図1(a)に毎年本校がおこなう避難訓練の流れを示す。放送後、学生はクラス毎に避難場所へ逃げ

る。避難場所でクラス毎に担任が点呼をとり、本部へ報告をおこなう。本部での避難者総数の確認と校長講話等ののち、解散となる。また、訓練は通常の授業時間を実施するため、登校しているクラス人数の把握が可能である。

図1(b)は東日本大震災における初期対応における流れである。地震直後から停電となり放送設備は使用不可能となった。また、春休み中であつたことから、学生のクラス毎の避難は不可能であり、数人の教員が校内を廻り、避難を促した後、避難場所に居る学生を確認した。担任不在のクラスは、代替りの教員が点呼をおこなった。春休みなので登校している学生の把握は困難であつた。

休日や放課後等、長期休業時以外にも、学内にいる学生の把握が困難なケースが十分に想定される。大災害を想定し、学生が自主的に自身の安否を学校へ連絡できる体制を整えることとその意識付けが大事と考えられる。その反省から、本キャンパスでは、新学期が始まってすぐに避難訓練を実施し、新入生を対象とした避難経路の確認や全学生を対象に安否確認の連絡の重要性を伝え、学生の意識向上に努めた。

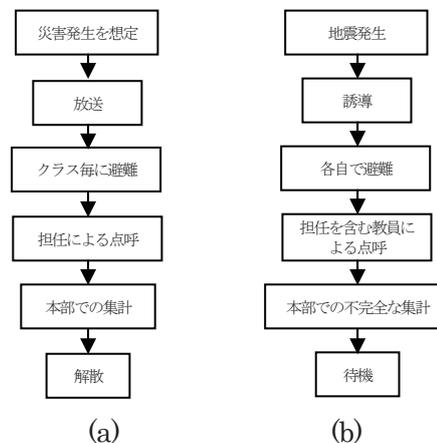


図1 避難の流れ

((a)避難訓練, (b)東日本大震災)

### 2. 3 避難後の状況

避難後には、建物損壊や余震が懸念されたため、屋外待機としたが、断続的に降ってきた雪による寒さを凌ぐため、屋根付きの外部渡り廊下ブルーシートを敷き、学校のスタッフジャンパー等を希望者に配布した。約1時間後、大きな余震もある程度治まったため、耐震性の強い建物の1階の

講義室へ学生を誘導した。図 2(a)に図書館の様子、(b)建物の被害状況の写真をそれぞれ示す。蔵書が散乱し、壁にクラックが確認されたものの、建物自体の損害は軽微であった。

図 3 は建物内における学生の配置の概略図である。各部屋の出入り口は太線で示した。学年単位で教室を割り当て、各教室には担任を中心に 2 名の教員を配置して余震発生等の事態に備えた。この頃、地震前に電車で自宅へ向かった学生が、電車の停止で帰宅できずに学校まで戻ってきた。学生数の増減の集計は学年毎に担任がおこなった。

公共交通機関が不通になった際の学生の一般的な帰宅方法は、①徒歩や自転車、②保護者等の迎えである。近隣の学生は①の方法で帰宅した。地震直後、携帯電話はほぼ不通だったが、繋がる時(特にメールが有効であった)もあり、保護者と連絡が取れた学生や学校まで保護者が迎えに来た学生は②の方法で帰宅した。その際、担任は帰宅方法を学生から確認し、在校する学生の人数を確認した。同時に、交通機関の早期の復旧が見込めないため、帰宅困難な学生の簡易宿泊の準備を開始した。

## 2. 4 地震対応本部の設置と宿泊準備

3月11日の夕方、簡易宿泊の準備とともに視聴覚教室に地震対策本部を設置した。視聴覚教室のある建物は平成 21 年度に耐震工事が終了しているため安全性が高く、避難教室、学務課や保健室に近いので、対策本部の場所として最も適していると判断された。対策本部設置後は、学生数等を本部のホワイトボードに記載し、情報の共有化を図った。平素より、非常時の学生の避難場所や対策本部となる部屋を検討しておくことが望ましいと思われる。

対策本部では、学校内部の情報よりも外部の情報収集が必要がある。長期の停電が予想されたため、部活動で使用する屋外用の投光機付き発電機 5 台を本部近くに移動し、電力の供給をおこなった。これら発電機の燃料は軽油であり、2 kW/台の電力を確保できる。発電機の準備とともに備蓄していた軽油の残量を確認した。今回、電力会社からの電力供給の回復後でも、本キャンパス内の送配電の安全確認が早急におこなえなかった。そのため 1 週間程度の間、発電機を使用した。この経験から、発電機の確保と一週間程度の燃料

の備蓄が望ましいと考えられる。図 3 中※印で発電機設置場所を、表 2 に発電機で電力を供給した機器の代表例を示す。

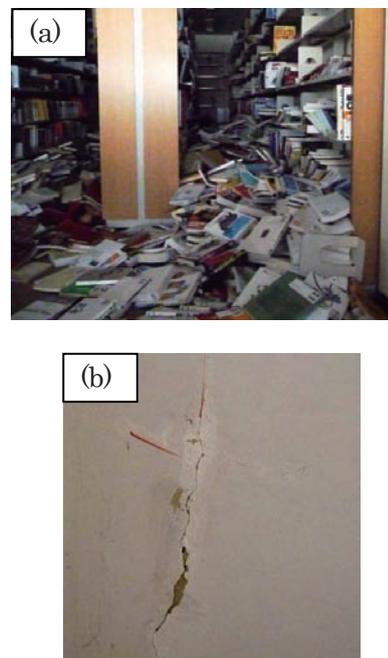


図 2 地震による被害の様子

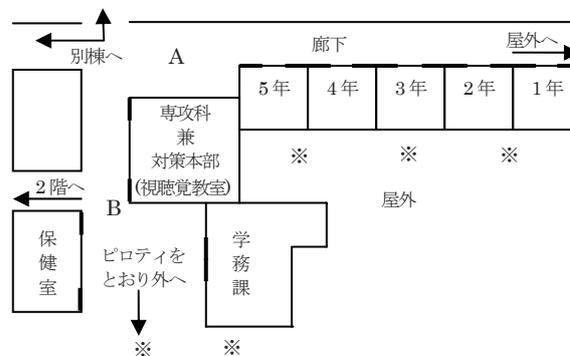


図 3 建物内における学生の配置

表 2 発電機から電力を供給した機器

品名	台数(台)
テレビ	1
ラジオ	1
ジェットヒーター	2
ファンヒーター	5
ノート PC	1
ディスプレイ	1

現状のテレビ放送は地上波デジタル放送が中心であるが、停電の影響もあり、アナログ放送用テレビに室内アンテナを取り付けて視聴した。このテレビは対策本部に設置し、教職員や学生、さらに近隣住民にも開放した。また、図3の学務課前では、ノートPCでワンセグ放送を受信しディスプレイに写すとともにラジオで情報を収集した。非常時の情報収集は、状況認識の上で必須である。また、複数のメディアによる情報収集は、憶測やデマの発生を抑え、冷静な判断を可能にする。今回は複数の機材により2ヶ所で情報を収集し、多数の人間が情報を共有できたため、冷静な対応を可能にしたものと考えられる。

防寒対策としては、各教室にファンヒーターを置き、また、火力の強いジェットヒーターを、図3中のAとB点に置き、廊下から教室を温めた。

簡易宿泊の準備として、①食料と飲料水の確保、②宿泊場所の整備をおこなった。①に関しては、本キャンパスより徒歩20分程度の距離にある宮城総合支所と本キャンパス内の大学生協より提供頂いた。また、教職員の個人保管物の提供もあった。なお、総合支所への移動には公用車を利用した。②に関しては、武道場より畳、合宿所より毛布類を各教室へ搬入した。

このころまでも余震は続いており、屋外へ何度か再避難した。また、避難していた建物の廊下の天板の落下の危険が懸念されたため、宿泊場所を再検討し、男女毎に避難のし易い建物へ移動した。暖がとれるスクールバスも宿泊場所として利用した。また、近隣の住民が3人避難してきた(うち1人は夜中に帰宅した)。この時点で、宿泊学生数は96人(内留学生11人)であった。翌日の朝も宮城総合支所よりアルファ米を頂いた。

## 2. 5 学生の帰宅支援

地震の翌日(3月12日)から、学生の帰宅を支援した。学生の帰宅支援の内容は①保護者の協力による帰宅と②公用車による帰宅である。簡易宿泊の最中から、学生には可能な限り保護者に連絡を取るよう指示した。学生を迎えに来た保護者に対し、自宅近所の学生の同乗をお願いした。また、①が困難な学生に対しては、②としてスクールバスを含む3台の公用車で帰宅を支援した。学生の住所を確認し、公用車の配車とルートを決めた。本キャンパスの学生の出身地は、i)仙台市内、ii)

宮城県北部、iii)宮城県沿岸部、iv)山形市周辺、v)福島市周辺と多岐にわたっている。簡易宿泊した学生のうち、人数の多かった仙台市内の学生に対しては、スクールバスを巡回して帰宅を支援した。その他の地区には、公用車2台(普通車とワゴン車)で帰宅を支援した。しかし、沿岸部に対しては、帰宅の支援を複数回試みたものの、津波による道路網の断絶等で、保護者へ遭うことが叶わず、更にしばらくの間学校へ宿泊することとなった。この時点で、宿泊学生は16人(内留学生11人)となった。

地震後、ガソリンを始めとする燃料の確保は非常に困難であった。幸いにも公用車の燃料が当初満タンであったために、初期の帰宅支援はできたものの、長期化する避難生活のなかで、燃料の確保が必要となり、このことは食料の調達と同様に非常に難しい課題となった。公用車の燃料を絶えず満タンにしておくこと、可能であれば携行缶等へ備蓄しておくことを提案する。

また、留学生に関しては、地震発生から一週間以内に、各国の大使館主導で避難支援がおこなわれた。紙面の都合上、本報告では詳細を割愛する。

## 2. 6 全員の安否確認

電気が復旧した3月14日から、震災時学校に登校していない学生を含め、全学生と教職員の安否確認を試みた。安否確認は担任を中心におこない、必要に応じて学科長や他の教員が手伝った。安否確認の内容は①本人の安否、②家族の安否、③現在の居場所とし、最低限①を確認することにした。安否確認の手段は、a)本人あるいは家族との電話、b)本人からのメール、c)友達等からの伝聞、d)本キャンパスで開発した安否確認システムとした。固定電話は地震直後から繋がらない状態が続いた地域もあり、また、沿岸部を中心に避難所に避難している学生も多数いた。そのため、携帯電話や携帯メールを中心に安否を確認した。c)として「〇〇君がTwitterで呟いていた」との情報も寄せられた。しかし、本人からの直接の連絡ではなく、真偽の確認も困難なため、取りあえずの安否確認とし、あとで改めて本人へ連絡をとることに努めた。全学生の安否が最終的に確認されたのは震災発生から10日後の3月21日(月)であった。長期化した原因には、学生の所在が広範囲に亘っていたこと、固定ならびに携帯電話の基地局

等にも被害が及んでいたことが挙げられる。

今回の安否確認の初動における問題点として、「学生の携帯電話番号やメールアドレスを担当しか把握していない」ことが挙げられる。本キャンパスでは、個人情報保護の観点から、担任と学生の信頼関係のもとに担任だけが各クラスの情報を収集している。そのため、担任以外の教職員は学生の携帯電話番号等を知り得ず、自宅への連絡で対処できない場合は、学生の安否確認は不可能となる。

今回の体験をもとに、本キャンパスでは、同意が得られた学生と保護者の連絡先の情報と震災発生時に確認すべき内容をクラス毎にまとめた「学生緊急連絡確認簿」を作成した。この緊急連絡確認簿には、学生の①出席番号、②氏名、③通学生/寮生の区別、④住所(帰省先)、⑤保護者氏名ならびに続柄、⑥自宅電話番号、⑦本人携帯電話番号、⑧携帯電話を含む保護者緊急連絡電話番号、⑨学校のGmailアドレス、⑩本人携帯電話メールアドレス、⑪保護者携帯電話メールアドレス、⑫Gmailの携帯電話への転送設定確認欄がある。Gmailは入学当初学生全員に与えられており、学校側で全学生分のアドレスを把握している。通信回線が確保されていれば、一斉に送信することも可能であり、学生には携帯電話等への転送設定をおこなうように指導している。これとは別に本キャンパスではメールを利用した簡易的な学生の安否確認システムも構築されており、今回の震災においても役に立ったことを付け加えておく。

学生緊急連絡確認簿には、①安否、②安否情報源、③現在所在地・状況、④今後の連絡手段、⑤備考から構成される安否確認欄をもうけ、◎、○、△や×等の記号で記載時間を短縮できるようにしている。この用紙は、停電時でもすぐに利用が出来るように印刷した状態で準備しており、安全で持ち出しやすい場所に保管している。

## 2. 7 進路に関する企業や大学への対応

3月17日に内定学生の入社手続き等の延期に関する配慮を各企業へ依頼した。企業への連絡手段や交通手段が閉ざされている学生がいる旨を伝え、入社に関して学生本人に連絡をお願いすると同時に、その内容を学校へも伝えて頂けるよう依頼した。依頼には電子メールを利用した。企業からも内定学生の安否を確認するメールや電話があり、

教職員で対応した。また、多数の企業から、内定学生が無事に会社へ到着したとの報告も受けた。企業への対応と同時に、進学先の大学へも手続き等が遅れる旨を連絡した。企業側も、東日本大震災に関しては非常に配慮し、本キャンパスにおけるこの対応は、学校推薦として学生を企業に送り出す責任において、適切であったと考えている。

## 2. 8 学生の宿泊支援と備蓄物品

3月12日から学校へ宿泊する学生数が16人(留学生含む)に減ったため、宿泊場所を対策本部周辺の部屋へ変更した。避難してきた近隣住人が8人いたため、男性、女性、児童および幼児(保護者含む)と部屋をわけ宿泊した。また、宿泊可能な教員を募り、1日あたり2人の体制で宿泊し、学生の支援をおこなった。2.5で述べたように、被害が甚大であった地域への学生の早期帰宅は困難であり、4人の学生(男子学生3人、女子学生1人)が、3月19日まで学校へ宿泊したため、この宿泊支援体制は3月19日まで続いた。

宿泊中の食事は、原則自炊とした。初期の宮城総合支所や大学生協からの援助、教職員による提供以外の食材は、本キャンパスが避難所に指定されていないため、必要に応じて学生達が買い出しで調達した。教職員は必要に応じて公用車で山形県まで行き、物資の調達をおこなった。ガソリンの入手が非常に困難であったが、緊急車両として優先的に給油することが出来たのは幸いであった。また、長岡技術科学大学や高専機構をはじめとする各高専からの救援物資にも助けられた。炊き出しは学寮にあったバーベキューコンロと炭、IHコンロを利用し、留学生も各国大使館からの迎えが来るまでは、宿泊し自炊したが、日本人学生とは食文化が異なるため、別途の食料調達と自炊をおこなった。

3月15日、水道水の供給は復旧の見通しがたらず、また下水処理能力の低下もあり、節水が求められた。3月16日からは水を必要としない簡易トイレを宿泊場所近くのトイレに設置し節水に努めた。以後、トイレは男女各一ヶ所の使用とした。また、雨水や雪解け水をポリバケツに貯めて使用した。

備蓄品は、i)短期宿泊用と ii)中から長期宿泊用に大別できる。平素から備蓄しておく必要があるが、保管スペースの問題もあり、ii)を全学生分備

蓄しておくことは困難である。また、i)に関しては、最低限、飲料水、食料、毛布等があげられるが、水に関しては、1日あたり20/人と考えても1000人分では莫大な量となる。

図4に震災における支援体制を提案する。各高専は、必要最低限の物資だけを備蓄する。震災が発生した際には被災地域に近い高専から、災害発生直後直ちに必要に応じて支援物資を輸送する。この体制では、各高専の備蓄量を最低限に抑えることが可能であり、全国高専で一法人という組織としてのメリットを活かした方法であると考えられる。また、薬、懐中電灯等は敢えて備蓄するというよりは、必要に応じて保健室からあるいは各自が持ち出す方が現実的と考えられる。

今回の震災では、遠方を含む多数の高専から救援物資を頂き非常に感謝している。この経験をもとに、この先における災害対策のあり方を検討することが大事ではないかと考えられる。高専全体で備蓄量の確認ができ、必要な物資を支援できればと考えられる。

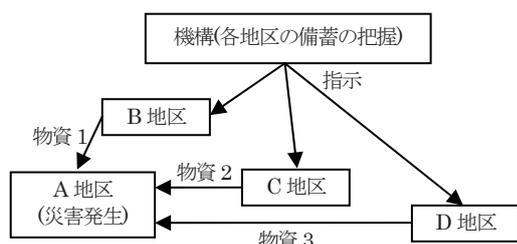


図4 支援体制の例

## 2. 9 地域への貢献

図5は、太陽電池パネルを利用した携帯電話充電システムである。震災発生後、本校の卒業研究で使用しているシステムを、太陽光発電による携帯電話の充電器へ改良し、地域住民へ開放した。100人程の利用者がおり、非常に感謝された。

本キャンパスに届いた支援物資のうち、保育園等での必要性が高いものに関しては、近隣の保育園等に配布した。また、本キャンパスの復旧は、沿岸部と比較して非常に早く、部活動単位での災害復興ボランティア活動もおこなわれた。この件に関しては、別途報告する。

学校を通常の業務体制に戻す作業と同時に、地域に対して少しでも貢献できたと考えられる。



図5 携帯電話充電システム

## 3. あとがき

東日本大震災における仙台大専広瀬キャンパスの対応について、初期避難、簡易宿泊、学生の安否確認、学生の帰宅支援、宿泊支援と備蓄物品、企業等への対応、地域貢献をまとめた。体験を通して、初期段階の指揮系統と情報管理等の重要性が改めて認識され、現在学校の諸部門で検討整理している。それらを含め、本論文で報告できなかった項目に関しては、別の機会に報告予定である。

最後に、東日本大震災直後から本キャンパスの多くの教職員が復興に向けて尽力貢献しており、本論文は、その中の一部の有志が纏めさせて頂いたことを記し、本報告を結ぶ。

謝辞

本論文の執筆にあたり、本キャンパス事務部の関係各所から様々な情報の提供を頂き、松本仁一学務課長、及川勝治管理課課長補佐、角田昭施設課施設係長には、論文の校正も頂いた。また、本キャンパス前教務担当副校長逢坂雄美教授始め多数の教員から様々な御助言を頂いた。ここに感謝する。

震災後、関係各所より個々には紹介できないほど様々な支援や励ましを頂いた。

最後に、これらの方々をはじめ、本キャンパスの震災の復興に関わった全ての方々に厚く御礼申し上げる。

### 参考文献

- 1) 新潟県沖中越地震調査団：新潟県中越沖地震関連情報、<http://coastal.nagaokaut.ac.jp/~jjsin/chuetuoki/index.shtml>

# 東日本大震災直後の復旧活動の実践

○渡邊 紀子*・長山 健太郎**・谷地館 藍**・佐々木 幸登***  
(仙台高等専門学校 名取キャンパス・*事務部管理課・  
**生産システムデザイン工学専攻・***材料工学科 )

平成23年3月11日(金)午後2時46分に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震は、最大震度7を観測し、直ちに東北地方太平洋沿岸に大津波警報が発令され、高さ10数mに及ぶ巨大な津波が各地に押し寄せ、多くの家屋が流出し、壊滅的な被害をもたらした。この東日本大震災は、7月26日現在で、宮城県内の死者9,356人、行方不明者2,452人という多くの犠牲者を生んだ。仙台高等専門学校名取キャンパスが位置する名取市では震度6強を観測し、直線距離で8kmにある関上地区では、多くの犠牲があり、地区全体が「消えた」。このような想像を絶する災害のなか、高台にあるキャンパスは、市の指定避難所となっていることから多くの住民が避難し、また、学校管理のために残留した教職員及び帰宅困難者となった教職員・学生を含め、合計358人が校内各所で雪の降る震災当夜を迎え、以後、学校主体の避難所運営と授業再開に向けた対応が続いた。キャンパスでは、地震発生直後にすべてのライフラインがダウンしたが、翌日から連日会議を重ね、卒業式及び入学式等の諸行事を取りやめ、教員及び職員の各2名1組による宿日直体制をとり、前者は学寮に残った学生のメンタル面を含めたサポートを担当し、後者は、担任と共に、災害時優先電話を活用して、在校生及び入学予定者の安否・被災状況の確認や入学手続きの延期等の連絡を行った。なお、今回の大津波により1年生及び入学予定者各1名の将来ある尊い命が奪われ、会議において悲しみの報告が行われた。また、国立高専機構本部を始めとし、全国高専及び国立大学等からいただいた心温まる多くの支援物資は、学内は固より、甚大な被害を受けた宮城県内の気仙沼市、南三陸町、石巻市、名取市等の避難所にも提供し、皆様

の暖かい御心を届けることができた。



Fig.1 3月12日河北新報朝刊



Fig.2 キャンパス南側の地割れと地盤沈下



Fig.3 建替えが決定した武道場北側の地盤沈下



Fig.4 避難所の様子



Fig.5 2日目の夕食 おむすびと豚汁



Fig.6 避難民による自主的な生活



Fig.7 雪の中の仮設トイレ



Fig.8 全国の高専から頂いた多くの支援物資



Fig.9 太陽光発電の様子



Fig.10 食料等の買出に並ぶ市民



Fig.11 避難民と学生との絆

# 仮設住宅における押入棚の製作と設置

## —卒業研究の一環として—

熊谷 広子*¹, 森 弘則*²

### Fabrication and installation of closet shelf for a temporary house - a study part of graduation research project-

Hiroko KUMAGAI and Hironori MORI

In March 2011 a strong earthquake hit the East Japan region. As part of graduate research of our laboratory we participate on several support activities related to the housing for the victims. This paper is a report of one of those activities, and it discusses about the fabrication and installation of a closet shelf for a temporary house at Hakozuka Sakura area. After installing we did a survey with the residents to evaluate the closet shelf. In this survey 68.8% of the residents answered “very good”, 31.2% answered “good”, while no resident answered “very bad”, “bad”, or “ok”. In addition on the comments area of the survey many of the residents expressed their gratitude.

KEYWORDS : the Great East Japan Earthquake, temporary house, strage

#### 1. まえがき

2011年3月11日に発生した太平洋三陸沖を震源とする大地震とそれに起因した大津波により、本校がある名取市も甚大な被害を受けた。生活の根幹を揺るがす震災を目の当たりにし、わたしたちは身近で大きな被害を受けた方々に対して何かをせずにはいられなかった。

そこで、建築学科に所属し、常日頃住宅と暮らしについて学んでいる私たちは、卒業研究の一環として被災者の住まいと暮らしに関する支援活動^{注1)}を行うこととした。本稿は、それらの活動の中の一つである箱塚桜仮設住宅団地（以下、桜団地とする）における押入棚の製作および設置に関する報告である。これは高専の役割の一つである地域社会のニーズに応えることと関連し、そして、地域に貢献する技術者の育成に寄与するものである。これまでも、

学生が地域社会に出てニーズ調査を行い、その結果に基づいてモノづくりを行った事例¹⁾があるが、本稿の場合は活動過程において他団体との連携をとったことに特徴がある。

#### 2. 押入棚の設置決定に至るまでの経緯

##### 2.1 桜団地での活動のはじまり

震災の影響により、平成23年度の本校の学期のスタートは5月の連休明けとなった。本研究室の5年次学生は7名であり、4年時の流れからそれぞれ別個のテーマで卒業研究に取り組むことを考えていた。しかし、震災後の地域周辺の社会状況を鑑み、皆で直接役に立つことをしながら取り組める課題に変更した。そして、新たにそこに4年生の6名が加わり、計13名で活動を開始した。

* 1 仙台高等専門学校建築デザイン学科 (Dept. of Architecture and Design, Sendai National College of Technology)

〒981-1235 宮城県名取市愛島塩手字野田山48 Tel:022-381-0301 E-mail:arquihis@sendai-nct.ac.jp

* 2 仙台高等専門学校教育研究技術支援室 (Dept. of Architecture and Design, Sendai National College of Technology)

私たちが活動を開始した時点において、まだ多くの人々が避難所で暮らしていたが、徐々に仮設住宅への入居が始まっていた。そこで私たちは、身近な人々から家庭で余剰となっている物品を集め、それらをこれから仮設住宅等で暮らす人々に配ることから活動をはじめた。実際には、建築学科4、5年生と教職員に呼びかけ、各家庭から物品を提供してもらい、5月末に行われた市役所前での炊出しの際に場所を借りて、それらを必要とする人々に配った。その活動の中で知遇を得たボランティアの方々などからの示唆を受け、仮設住宅の現状を知るべく、本校から自転車で10分程の近い距離にある桜団地を学生たちと共に訪問することにした。

桜団地は名取市内7箇所建設された仮設住宅団地のうち、最初に建設された団地であり、概要は表1の通りである。

表1 桜団地の概要

名称：箱塚桜仮設住宅団地
住所：名取市箱塚1丁目12番13号
着工：3月28日
施工者：大和ハウス工業
構造：鉄骨
戸数：102戸（6戸×17棟）+集会所
間取り：1DK(21戸), 2DK(60戸), 3K(21戸)
入居開始日：5月3日
入居者：閑上一丁目町内に居住していた人々 101世帯260人（2011年10月現在）

## 2.2 居住上の問題点の把握

最初に桜団地を訪れたのは前期中間試験終了後の7月上旬であった。まず、団地内の生活と自治会の役割とについて自治会会長の大脇氏に簡単なヒアリングを行い、以降の訪問の許可を得た。その後、8月5日から12日にかけて、桜団地内の浴室に踏み台の設置を日本リハビリテーション工学協会（以下、リハ協会とする）が行った際、私たちはそれに協力しながら生活上の問題点の把握を行った。各住戸に出入りし住人と話をしながら見えてきた問題点ないし要望は次の通りである。

① 豪雨の際に住居入口に設置されたスロープの上から水がはけず、一面に深さ10cmほどの水たまり区域が出来る。しかし、玄関に入る際にはそ

こを通過しなければならず、水たまりに足をいれざるを得ない。

- ② 面積が狭いうえに開口部も小さく、通風のために入り口を開放せざるを得ない。そのため虫除けのために網戸の要望が高い。
- ③ 雨樋がないため、雨が屋根から直接地面に落ちる。その際、エアコンの室外機にあたり、ひどい騒音となる。
- ④ 換気扇のスイッチが遠く、お年寄りには操作が困難である。
- ⑤ トイレ、玄関、浴室などに手すりがない、あるいはあっても使いにくい。
- ⑥ 浴槽のへりが高く、特にお年寄りには、入浴が困難である。
- ⑦ 窓の外に物干がついているものの、緑のカーテンを設置しているために、利用できない。新規に物干をつけたい。
- ⑧ 天井直下に達する一間分の収納空間において棚が一つしかなく、上部空間をうまく利用できない。収納空間が少ないため、有効活用したい。
- ⑨ 家族が多い世帯では靴の収納に困っている。
- ⑩ 断熱を兼ねて希望する住戸に畳を設置したが、段差ができて危険である。また、畳の寸法が室寸法とあっていないために、壁との間に隙間が発生している。

桜団地には数多くの団体が出入りし支援を行っており、さまざまな点で日々改善がなされていた。上記の問題についても、その時点において解決に向けて動き出しているものがあつた。①については市の職員が状況を把握して検討している最中であり、②③については神奈川県内の中小企業の若手経営者を中心とする製造業的復興支援プロジェクト^{註2)}の人たちが問題解決に向けて取り組み始めていた。さらに、④⑤⑥については、リハ協会が先に述べた活動を行っていた。そして、彼らが引き上げた後、その活動の延長線上で出てくる要望については、引き続き私たちが資材を引き受け活動を継続することになっていた。

残る⑦から⑩の問題のうち、特に多くの住人に共通し、また居住環境改善に大きく関与するのは押入棚の問題であると思われた。もともと床面積が少ない仮設住宅において、幅一間の押入棚は唯一の収納空間であるが、天井まである空間に棚板が一枚しかついておらず、うまく利用されていないケースが多く見られた（次頁図1）。この押入上部に棚板を追

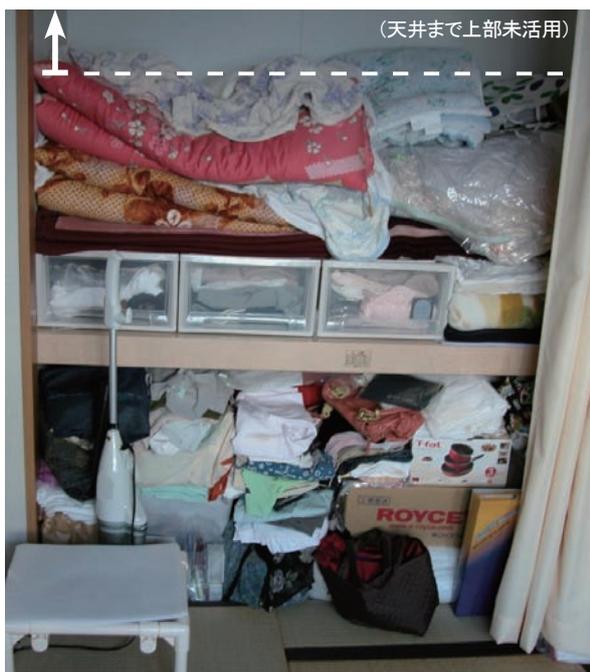


図1 上部空間が活用されていない押入

加することは、居住性をよくするために必須であると思われた。

### 3. 押入棚の製作と設置

#### 3.1 予算の確保と準備

経費を確保するために、8月中旬に募集のあった校内の教育活性化経費に申請した。それと同時に、棚の材料および形態に関する検討も開始した。さらに、アンケートを作成し、押入の収納改善を望む人がどれぐらいいるかなどを把握することとした。

アンケートの実施にあたっては、私たちが桜団地の住人に対して行った秋冬物衣料を中心とする生活物品を提供するイベント^{注3)}を利用した。具体的には、イベントの10日ほど前に集会所に常駐する生活相談員の方を通じて各世帯に配布し、イベント当日に私たちが直接回収を行った。また、当日留守にする場合には、事前に相談員の方へ渡してもらうようお願いしてあった。アンケート調査の概要は表2の通りである。

回収できたアンケート34枚(回収率33.7%)のうち、押入の収納に困っていると答えた人は25人(73.5%)であった。家族人数の多少に関係なく、3/4もの世帯で押入の収納に困っていることが分かった。

表2 アンケート調査の概要

配布日	9月30日	
回収日	10月8日	
配布数	全101世帯	
回収数	34世帯	
回収率	33.7%	
アンケート内容	項目①	押入の収納に困っているかどうか
	②	押入以外の収納や空間の使い方に困っているかどうか
	③	動作をサポートするもの(手すりなど)がなくて困っているかどうか
	④	浴槽への出入りに困っているかどうか
	⑤	畳を入れたものの、段差や隙間が出て困っているかどうか
	⑥	換気扇のヒモが遠いなど使い勝手が悪くて困っているかどうか
	⑦	その他、住まいに関して困っている点や心配な点の記入
	⑧	家族人数(人数を記入)
	⑨	住宅タイプ(1DK、2DK、その他から選択)



図2 試作した押入棚

#### 3.2 押入棚の試作

上記と並行して押入棚の設計・試作を行った。その際の留意点を以下にあげる。

- ・ 仮設住宅は退去時に原状回復をすることが原則であることから、押入棚は自立するものであること。
- ・ ある程度の重さに耐える必要があり、かつ設置が容易であること。
- ・ 安全性、使用感、見栄えを考慮しつつ、できるだけコストを低く押さえること。

以上を考慮し、材料は基本的に2×4材(SPF スプルース)とシナベニヤ材を使うことにした。2×4材で脚部を構成し、シナベニヤに枠と棧をとりつけて天板とした。天板は押入れ面積とほぼ同じ大きさとし、脚部の長さは900mmとした(図2)。脚部の長さは住人の意見に基づいて仮に決定したもので、これを押入中段にのせると、天板高さは普通の枕棚より低く、軽いものであれば、普通成人が踏み

台などを使わなくとも手を伸ばして出し入れ可能な高さとなる。

### 3.3 製作

私たち以外にも、製造業的復興支援プロジェクト（以下、プロジェクトチームとする）の人たちが桜団地への押入棚の設置を検討していることを、私たちは10月中旬にリハ協会のメンバー経由で知った。そこで、先方に連絡を取り、共同で棚の設置を行うこととなった。

11月下旬、ちょうど私たちの予算が確定した翌日に、同様に外部より助成金を得たプロジェクトチームから押入棚の設置を実行する旨の連絡があり、共に実際の設置に向けての動きがスタートした。以降、押入棚設置当日までの流れを表3に示す。

最初に、プロジェクトチームとともに試作品の現地テストを行った（11月29日）。プロジェクトチームが製作したのは、図3に示す鉄製の半間タイプ（W800×D800×H600mm）のものであった。世帯によって好きな方を選択できるように、どちらかのタイプに統一せず、それぞれ希望を募ることとした。結果、棚を希望したのは41世帯で、そのうち私たちの木製棚を希望したのは15世帯15台（うち2件は枕棚タイプの奥行が浅いものを希望）、鉄製棚のほうは26世帯47台であった^{註4)}。

数量が決定したところで、それぞれ製作に取りかかることとした。ところが、製作に先立ち私たちの試作

品を実際の住戸において取付てみたところ、天板サイズが合わず、住戸によって押入の寸法が異なることが判明した。押入は隣接する住居と壁を挟んで対称に設けられているが、施工精度が悪く、ほとんどの住戸でその壁位置にずれが生じていた。そのため、同じ平面を持つ住戸であっても、押入寸法に長短が生じていた。当初、私たちは壁と脚部の隙間をできるだけ少なくすることで、棚を自立させることができるものと想定していた。しかし、そのためには棚を設置する住戸毎に寸法を計測し、それに合わせてそれぞれ個別に天板を作成することが必要となる。そして、それは作業が煩雑になるため、できるだけ避けたいと考えた。

そこで、押入寸法にある程度まとまりがないかどうかを確認するための押入寸法の計測と、脚と壁とが多少離れていても自立するための補強方法と接合部の検討をおこなった。寸法にまとまりがあれば、その種類毎に天板を製作すればよい。押入寸法の計測は、私たちとプロジェクトチームとの双方で行い、フェイスブックを利用して情報を共有した。

そして、押入寸法の計測を進めながら、補強方法を検討したり、天板の強度を確認したりして最終的な形を決定した。押入左右の壁面に挿入する脚部は、押入奥側の下部をつなぐことで自立する。つなぎ材には天板の端材を利用した。脚の上部は天板の4隅に取付けたアルミチャンネルに噛ませることとした（図4）。天

表3 予算確定から設置までの主な動き

11/24 (月)	校長裁量経費による予算確定
11/25 (火)	・棚製作準備開始 リハ協会来校。 プロジェクトチームからの連絡あり。
11/29 (火)	・桜団地にて現地テスト。 参加者：プロジェクトチームより3名、本校より4名。
12/6 (火)	製作数の決定。
12/7 (水)	・押入棚挿入テスト。 寸法合わず、住戸によってサイズが異なることが判明。
12/8 (木)	・天板と脚の接合部の検討開始。 プロジェクトチームからもアドバイスをもらう。
12/9 (金)	・天板の載荷実験。
12/11 (日)	・プロジェクトチームによる押入採寸（数件）
12/12 (月)	・資材購入
12/19 (月)	・棚脚製作開始
12/20 (火)	
12/21 (水)	・押入調査（建築学科3年）。天板サイズ確定
12/22 (木)	
1/4 (水)	・追加資材購入
1/5 (木)	・追加資材購入
1/10 (火)	・天板・チャンネル・補強材製作開始
1/11 (水)	桜団地にて押入を中心とする整理収納講座を開催。
1/12 (木)	桜団地住民への設置のお知らせ配布
1/13 (金)	
1/14 (土)	
1/15 (日)	
1/16 (月)	
1/17 (火)	
1/18 (水)	現地設置。13:00～16:00



図3 鉄製の棚

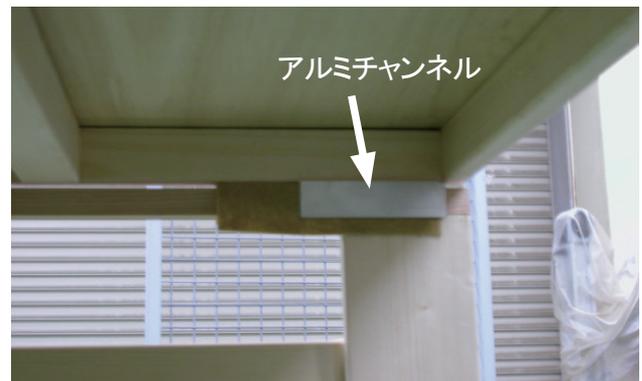


図4 天板と脚の接合部

板は棧を入れる方向を決定するため、100kgの荷重を載せて、たわみ量を確認することにした。図5に示すように、長手方向と短手方向の2通りに棧をいれた天板を作成し、中心への集中荷重をかけ、たわみ量が小さかった長手方向に棧を入れることに決定した。最終的な棚の高さは1010mmで、天板幅のサイズと製作数は表4に示す通りである。

ここまでの計画・設計・試作は学生とともに教員が行い、実際の制作は技術職員の指導のもと主に卒業研究の学生が行った。また、私たちの天板と脚との接合部の部材と形状の決定に関しては、フェイスブックを通じてプロジェクトチームのメンバーにアドバイスを受けた。そのおかげでスムーズに決定にこぎ着けることができた。

### 3.4 設置



図5 天板の載荷実験

棚の設置は1月18日の午後に行った。参加者は支援プロジェクトのメンバー15名と研究室学生7名、本学科3年生41名、教職員2名の計65名であった。

卒研学生のほか、筆者の担当する「住宅計画」の授業を利用し、履修する準学士課程3年生40名に作業に参加してもらった。人手が必要であったのはもちろんだが、体験することで学生に住宅計画について考えてもらうためでもあった。

グループは2つに分かれ、木製棚のグループは卒研の学生が主導し、鉄製棚グループはプロジェクトチームのメンバーに指示を仰いだ。作業時の様子を図6に示す。

## 4. 評価

### 4.1 居住者による評価

表4 天板の作成寸法と製作数

タイプ	作成寸法 (mm)	挿入内幅範囲 (mm)	製作数
A	1570	(1620 ~ 1630)	5 [*]
B	1640	(1690 ~ 1720)	6 [*]
C	1710	(1760 ~ 1800)	4

※タイプA、Bのうちのそれぞれ1台は枕棚タイプ



図6 設置作業当日の様子

棚の設置後に住人へのアンケート調査を行った。桜団地には多くの団体が支援を行っており、各団体と住人との連絡用に、集会所前にアンケートやお知らせ用の回収ボックスが設置されている。そこで、アンケート用紙は前回同様、生活相談員の方を通じて各世帯に配布し、記入が終わったものを回収ボックスに投函してもらった。回答期間は1週間としたが、配布の際、一部はすぐに配られず、世帯によっては回答期間が4日と短くなってしまったところもあった。

結果として、41世帯中19世帯から回答が得られた^{注5)}。5段階評価による回答は「とてもよい」が68.8%、「よい」が33.2%であり、「ふつう」「わるい」「とてもわるい」との回答はなかった。また、意見・感想等の自由記述欄へは10世帯が記述してくれた。記述内容は「横棚をおさえるのを2本にしてもらったら強度が増すと思います」といった今後の参考となる意見が1つあったが、ほかは10世帯すべてにおいて、「押入の上の段を全く有効活用出来ずにいました。棚があると整理整頓が出来 せまい部屋も広く感じます。」「本当に心からお礼申し上げます。頑張ると言われるよりも形がある事が今一番静かに受け入れられると思います。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。(涙マーク)」といったポジティブな感想であった。

#### 4.2 第3者による評価

この件に関しては、支援プロジェクトチームのホームページおよび1月24日付けの神奈川新聞、そして同新聞社によるYouTubeの動画に掲載されている。ホームページの中でプロジェクトチームのメンバーは、真摯に活動に取り組む学生たちの姿刺激を受け自分たちも頑張らなくては、と思ったと語っている。また、普段座学を苦手とする学生もこの日は生き生きと取り組み、その様子をプロジェクトチームの中の一人がフェイスブック上で指摘している。

#### 5. あとがき

今回の報告は特殊な事例であったが、地域社会に出ていき、ニーズ調査に基づいたモノづくりと問題の解決を行った事例として報告した。他団体との連携活動により、通常自分たちだけではなし得ない事が可能となり、また、居住者による評価と第3者による評価とから、私たちの活動は一定の役割を果たすことができたと考えている。なお、この件に関する日々の学生たちの取組の様子は本研究室のブログ^{注6)}に掲載している。

#### 謝辞

今回の私たちの活動に際しまして、日本リハビリテーション工学協会、名取が丘ボランティア連絡会、閑上まちカフェ、製造業的復興支援プロジェクト、箱塚桜団地、本校教職員ほか多くの団体・個人の皆様のお世話になりました。

中でも、押入棚の設計については神戸芸術工科大学の相良二郎先生、名取が丘公民館の赤澤真前館長、光和精機製作所の佐藤貴之氏から有用なアドバイスをいただきました。また桜団地の自治会会長の大脇兵七氏、同役員の久米田泉氏、桜団地集会所常駐生活支援相談員の相澤知子氏、玉田春美氏とは幾度となくやり取りをかわし、ご協力を賜りました。さらに、棚制作にあたっては本学科教員の笠松富二夫先生に実験室の使用をご快諾いただきました。皆様に心より感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 丹下裕、船木英岳、三原健二：「地域貢献を目指した学生の実践的教育の試み」, 論文集「高専教育」, 第35号, pp. 49-54 (2012)

#### 注記

- 注1) 本稿で報告する押入棚の製作と設置のほかに、卒業研究の学生たちと行った支援活動は以下の通りである。被災者への生活物品の提供 (5月)、名取市内の児童福祉施設園庭における放射線量調査 (6月~7月)、仮設住宅居住者と周辺住民のコミュニケーション促進および生活支援を目的とした物品の提供とイベント「青空市」の開催 (10月)。なお、放射線量調査の報告書は市のホームページ上に掲載されており、閲覧可能である (2012年5月現在)。
- 注2) 製造業的復興支援プロジェクトの活動については、プロジェクトのホームページ (<http://mono-shien.com/> -2012.5.20 現在) を参照されたい。
- 注3) 10/8 (土) の午後に「青空市」と称して行ったこのイベントでは、桜団地のある地区 (名取が丘) のボランティア連絡会と桜団地住民の出身地区である閑上に設置された閑上まちカフェ ([http://blog.livedoor.jp/yuriage_machicafe/](http://blog.livedoor.jp/yuriage_machicafe/) -2012.5.20 現在) の協力を得た。
- 注4) 途中でキャンセルや追加があった。木製棚の場合の最終的な設置数はこの通りである。しかし、鉄製棚に関して、筆者は正確な設置数を把握していない。
- 注5) この時の回収率が低かった要因として、世帯によっては回答期間が短かったことに加え、アンケート項目はごくわずかであったとはいえ、住人にとって負担であったことが考えられる。桜団地には支援者が多く出入りしているが故に、各世帯へのお知らせやアンケートの類いの配布物が日常的に多い状況にある。
- 注6) <http://kmgilab.blog31.fc2.com/> (2012.5.20 現在)

## 中央教育審議会教育振興基本計画部会ヒアリング

東日本大震災に係る仙台高等専門学校の被災状況について

日時：平成23年7月4日  
場所：文部科学省  
説明：仙台高等専門学校

1

## 仙台高専の被災状況



名取キャンパス・北側法面 崩落

## 学生・教職員及び家族の被災状況(23. 5. 24現在)

### 1 学生

	人的被害			住居被害	
	死亡、行方不明			全壊、避難	半壊、床上浸水
	学生本人	父親、母親	その他の同居親族		
広瀬キャンパス		1		20	40
名取キャンパス	2	3	12	68	39
合計	2	4	12	88	79

※ 学生本人の死亡者数には、入学予定者1名を含む

### 2 教職員

	人的被害			住居被害	
	死亡、行方不明			全壊、避難	半壊、床上浸水
	教職員本人	配偶者、父親、母親、子			
広瀬キャンパス				1	1
名取キャンパス		2		1	
合計		2		2	1

2



運動場 地割れ



## 近隣の被災状況



名取市閑上地区(名取キャンパスより約7km)



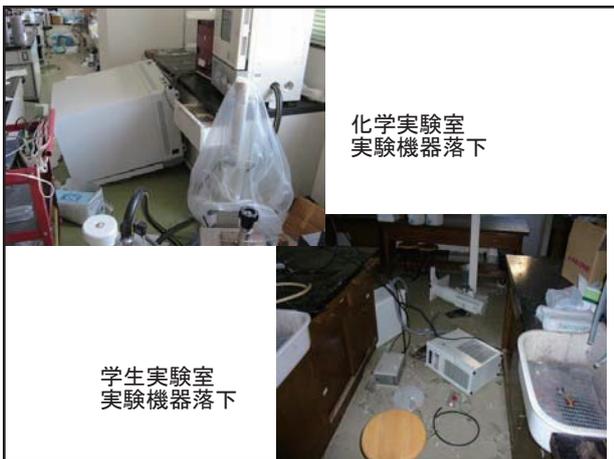
武道場地盤沈下



武道場外壁剥落



創造教育センター 地盤沈下



化学実験室  
実験機器落下

学生実験室  
実験機器落下

### 東北地方の復興を基本とした 研究・教育プロジェクト

- ・東北地区6高専・連携プロジェクト(国・省、自治体、企業、高専機構、学協会等とも連絡調整)
- ・被災地での科学講座
- ・インターンシップによる被災企業支援(単位認定)
- ・ボランティア活動



学生研究室  
図書落下

図書館  
本棚転倒

復興プロジェクト		東北地区高専が文科省配置産学官 連携コーディネータと共同
八戸高専	(1) 光触媒による環境浄化(長谷川章): 企画中	
秋田高専	(1) エネルギー関連事業(化石燃料、新エネルギー(風力、地熱、寒冷地仕様の太陽光パネル)): 自治体内の既存プロジェクトと協働計画中 (2) バイオマス関連(木材粉砕によるバイオエタノール、家畜飼料等)(上松): 企画中	
一関高専	(1) 水産加工業支援に関して6次産業化による地域資源の高付加価値化(戸谷): 企画中 (2) 木質バイオマスの直接燃焼をエネルギー源とするスターリングエンジンによる発電・暖房システム: 製品化されており適用を企画中 (3) 人材育成事業として非常時の職業訓練の施設(佐藤(清)): 企画中	
鶴岡高専	(1) リチウム電池、燃料電池、太陽光電池などの小型電源装置に関連する事業: 企画中	
福島高専	(1) 東北太平洋岸地域で水揚げ(含輸入)される軟体動物門のイカ、タコ、ホタテ貝、ホッキ貝等に含まれるセサミド抽出成分の商品化: 企画中 (2) 環境の放射性物質の測定: 実施中	
仙台高専(地区ハブ校)	(1) 真水製造装置: 製品化中、助成申請中 (2) ハマボウフウによる塩分除去・土壌改良・食材提供: 自治体と共同実施 (3) 杉皮による塩分除去を含む土壌改良: 自治体と共同実施、助成申請中 (4) 仮設住宅の環境・安全・エネルギーについての調査と対策: 自治体と共同実施 (5) 復興地域におけるGISを利用したスマートグリッド: 助成申請中 (6) 東松島市仮設住宅におけるスマートコミュニティ構想: 企画中	12

## 被災地での科学講座の例 気仙沼市・松岩中学校

主催 仙台高等専門学校 共催 電子情報通信学会東北支部

中学生対象 大学ジュニア・サイエンス講座

受講者募集!

**自然からとりだす 電気エネルギー**

電気のしくみをのぞいてみよう  
電気の性質と自然の現象を実験をとおして学ぼう

ソーラーカーをつくってみよう  
太陽電池で動く車をつくろう

ソーラー充電器をつくってみよう  
LEDをつかってLED、コンデンサー、DSや携帯電話などを充電してみよう

作品は差し上げます  
夏休みの自由研究  
として参加しませんか

開催日：平成23年8月6日（土）、7日（日）

## 現在の仙台高専の最重要課題

本来の使命、すなわち、基礎学力と実践力、人間力を備えた人材を育成して、世に送り出すこと。

学生は勉学や課外活動にしっかり取り組み、自らの能力と実力を十二分に研いて、東北の産業、ひいては日本を支え、そして世界の発展に貢献すること。

### 最も大きい支障

名取キャンパスの運動施設のほとんどが使えない。...来年春頃まで

- ・グラウンドの中央約1/3
- ・第1、第2体育館
- ・武道場
- ・シャワールーム、運動着洗濯室、運動具置き場
- ・トレーニング室

## インターンシップの例

- ◎実施対象企業：小糸樹脂株式会社
- ◎実施予定学生：電子工学科4年生 3名
- ◎実施予定期間：平成23年8月1日～8月10日（8日間）
- ◎テーマ：
  - (1) 会社内外の片づけ（ボランティア活動）
  - (2) クリーンルーム内作業環境のクリーン度の計測
  - (3) ナノインプリント技術に関する基礎データの補充
  - (4) 光学評価技術に関する基礎データの蓄積



小糸樹脂(株)  
の被害状況  
(加工室)



ワークステーション室



計測機器

## ボランティア活動の例

- ・宮城県立ガンセンターの復旧支援  
震災直後、隣接している宮城県立ガンセンターの要望を聞き、ボランティア学生20名を募り、患者の安全搬送と破損した病院内の片付けを行った。
- ・近隣地区の避難住民に対する支援  
高専近くのアパートに住んでいる専攻科生6名が、仙台高専に避難した近隣の住民に対して献身的に支援した。
- ・名取市の依頼による地区の放射能値測定  
教員の指導下、授業の一環として学生が地区の放射能値を測定し市に協力している。



材料強度実験室

平成23年度仙台高等専門学校産学連携振興会定時総会  
ショーカー本館ビル 2011年7月27日(水)



## 復興に向けて見えてきた課題 と 高専の産学官連携

仙台高等専門学校  
地域イノベーションセンター長 内海康雄  
文科省支援型 産学官連携コーディネーター 庄司 彰



・TV会議：東北6高専センター長  
会議2011年7月  
・東北6高専産学官連携CD  
TV会議・2011年7月

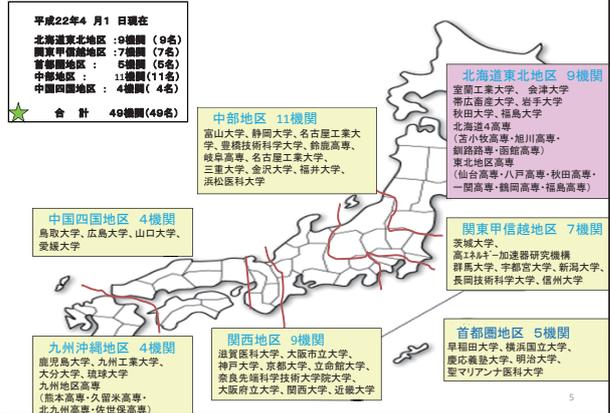
科学・技術フェスタ in 京都  
一平成22年度 産学官連携推進会議  
(2010年6月5日(土)、国立京都国際会館)



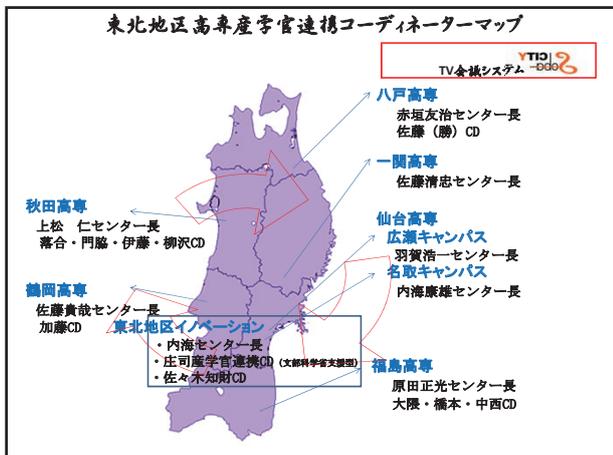
## 内 容

1. 産学官連携コーディネーターと自立化
2. 東日本大震災の状況
3. 仙台高専産学連携振興会への緊急アンケート
4. 震災復興への方針
5. 東北地区の高専連携の枠組み
6. 復興と今後の展開
7. 継続して事業化へ向かう重点分野
8. 復興へのプロジェクト例

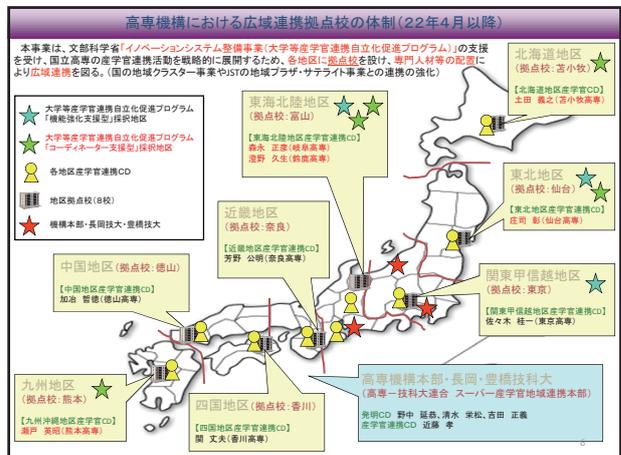
### 文部科学省支援型 産学官連携コーディネーターによる支援先一覧



### 東北地区高専産学官連携コーディネーターマップ



### 高専機構における広域連携拠点校の体制(22年4月以降)



平成23年度東北地区高専科学研究費調べ  
自立化のための外部資金獲得  
平成23年度5月10日現在

	八戸高専	秋田高専	一関高専	鶴岡高専	仙台高専・ 名取	仙台高専・ 広瀬	福島高専
新規申請件数	31件	21件	41件	20件	34件	26件	26件
新規採択件数	5件	1件	1件	3件	11件	10件	10件
継続申請件数	2件	6件	7件	3件	6件	10件	7件
継続採択件数	2件	6件	7件	3件	6件	10件	7件
採択件数合計	7件 (33件)	7件 (27件)	8件 (48件)	6件 (23件)	17件 (40件)	20件 (36件)	17件 (33件)

注:申請・採択件数には基礎研究A,B,C,若手研究A,B,挑戦的萌芽研究すべてを含む

コーディネーター等による外部資金獲得等の継続支援

国土交通省発表情報

- 被災宅地危険度判定(6/12までの結果): 岩手、宮城、福島の3県で、危険(赤)1,260件、要注意(黄)1,827件、調査済(青)2,273件
- 被災建築物応急危険度判定(6/2までの結果): 岩手、宮城、福島の3県で危険(赤)8,570件、要注意(黄)14,674件、調査済(緑)44,202件
- 応急仮設住宅: 各県の(必要戸数/着工済み戸数/完成戸数)は、次の通り。  
岩手県(14,000戸/266地区12,569戸/8,579戸)  
宮城県(23,000戸/242地区16,113戸/12,665戸)  
福島県(15,200戸/131地区12,036戸/8,527戸)  
※並行して、応急仮設住宅としての民間賃貸住宅の借上げも実施され、6/9現在、上記の3県に限らず被災地全体で22,152戸の入居が決定している。

生活する環境が無くなり、復旧中

3つの震災

- 津波の被害  
- 風景が変わってしまった
- 内陸の地震動  
- 3/11と4/7の2回
- 放射性物質  
- 今後とも対応が必要



大部分の人々は予想しなかった

ライフラインの被害

- 停電: 東北電力によれば、東北6県全域で震災当日に約444万戸、延べ486万戸(4/6現在)で停電。5日後(3/16)には9割復旧した。
- 断水: 厚生労働省によれば、東北6県の断水戸数は、震災直後(3/13)で59万戸、最大時(3/15)で75万戸。1ヵ月後(4/11)に青森、秋田、山形でほぼ復旧、21.4万戸まで減少。2ヵ月後(5/11)岩手、宮城を中心に7.0万戸残る
- 都市ガスの供給停止: 日本ガス協会によれば、東北地方で震災直後(3/12、11:00前後)供給停止は、青森、岩手、宮城、福島の太平洋沿岸都市部を中心に41.7万戸。1ヵ月後(4/11)に毎日2万戸で復旧、9.2万戸が供給停止。4/16に0.5万戸、翌日「仙台復旧対策隊」の解散式。復旧完了は5/3。
- 石油製品の供給量不足: 石油連盟によれば、地震直後(3/12)に東北地方に1ヵ所のみ製の製油所(仙台)から火災発生、近隣製油所(鹿島)も稼働停止。青森~福島の4県にある17の油槽所も、青森港の一部を除きすべて出荷停止・不能(4/1には4ヵ所、4/18には2ヵ所まで回復)。

安全・安心に不可欠なライフラインの復旧が長引く

内閣府発表情報

- 6/13午後5時現在の被害状況、全容把握には至っていない
- ①人的被害: 死者15,424人、行方不明者7,931人、負傷者5,367人、避難者数84,537人
- ②建築物被害: 全壊111,090戸、半壊80,889戸、一部損壊333,744戸、火災発生312件(全半焼あわせて261戸)、床上浸水4,540戸、床下浸水2,616戸  
※流失戸数についてはデータなし
- ③津波による浸水域: 航空写真及び衛星画像判読済み分として、561km²  
※毎日新聞によれば、市街地で建造物の多くが流出した地域は、51km²とされており、1923年関東大震災の焼失面積35km²より広く、山手線内側の面積63km²に匹敵する広さであった。
- ④マクロ経済的影響: 被災地域におけるストック(社会資本・住宅・民間企業設備)の毀損額は約16~25兆円と見積もられている。

経済的影響が甚大で、復興が長期化

東北の発電所の被害

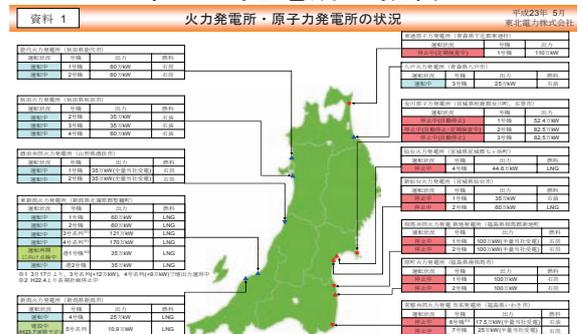


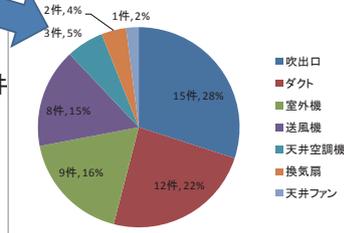
図1 東北電力管内各発電所の稼働状況 (資料提供:東北電力)

日本全体が取り組まねばならない

## 環境を支えるはずだった設備の被害

- 全壊建物以外を対象に被害事例193件

- 空調設備72件
- 給排水設備32件
- 電気設備89件



本格復旧までの非常用としても稼働しない

## 環境・エネルギーの安全・安心に求められる視点2/2

- うまく行っている例と行っていない例の違いは？
- ライフラインやエネルギーが4週間程度無い前提で、自然力・人力を利用
- 事前に災害用キットが必要であれば、それらを提案する。
- 屋外環境と室内環境のレベル分けとそれらに応じた対策マニュアル  
例えば、室内環境は、要求される水準として；  
レベル1 生命維持  
レベル2 健康・衛生維持  
レベル3 通常生活

自らの問題として知恵を出し合う

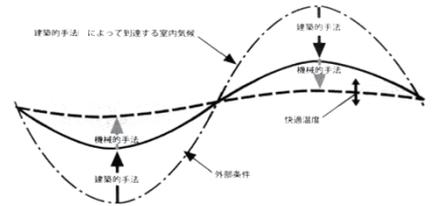
## 建築設備の被害事例

事例	吹出口	天井空調機	事例	地上設置の受水槽	罐型貯湯槽
場所	宮城県東原市	仙台市宮城野区	場所	仙台市若林区	宮城県岩沼市
建物用途	食品工場	自動車整備工場	建物用途	倉庫	ホテル
竣工年	H18年	2007	竣工年	—	2001
構造種別	鉄骨	S造	構造種別	—	SRC造
被害箇所	1階天井	1階整備場内	被害箇所	屋外	RF機械室
被害状況	脱落	空調機 脱落寸前	被害状況	基礎隆起	脚部の本体めり込み
被害原因	地震動	地震動	被害原因	地盤隆起	地震動
初期対応	撤去	—	初期対応	—	破断の2箇の短管 継足し溶接

耐震の対策方法等は周知されていた

## 気候に応じたエネルギーのデザイン

- Design With Climate:  
Bioclimatic Approach to Architectural Regionalism  
Victor Olgay & Aladar Olgay



震災後、熱的性能の優れた住宅は暖房器具無しで室温16°C以上を保った

## 環境・エネルギーの安全・安心に求められる視点1/2

- 地震後の室内の環境  
燃料・エネルギーが供給されなくなる。  
停止2〜3日後から、在宅患者の生命維持、老人・子どもの健康が深刻
- 環境を維持する情報・エネルギーの供給  
多様なエネルギーが必要。
- 実現すべき室内外環境の水準の多様性  
天候・経過時間等により時間変化  
ex. 屋外に放射性物質がある際には、室内の換気について注意が必要  
オフィス・住宅など共に、避難所の環境を扱うべき

安全・安心を支える基盤の見直し  
→第4期科学技術基本計画の見直し

## 仙台高専技術振興会震災緊急アンケート



被害を受けて先行き不安でも、自助努力する企業

## 東北地区高専としての震災復興の方針

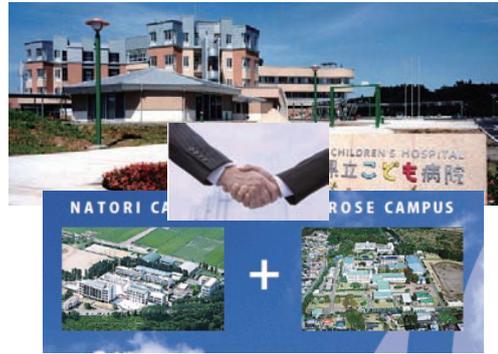
- 東北地域の復興とその後の更なる発展を、東北地区高専が連携・自立して産官学金連携により実現する
  - これまでの事業化へ向うプロジェクトを更に推進
  - 震災に応じた喫緊の地域のニーズ・課題に対応
  - 現有シーズのマッチングによる支援
  - 復興後5～10年後の産業を担う事業 ex.農林水産業



- 東北地域で関係する政府機関、自治体、企業、学協会、NPOとの連携枠組みを構築

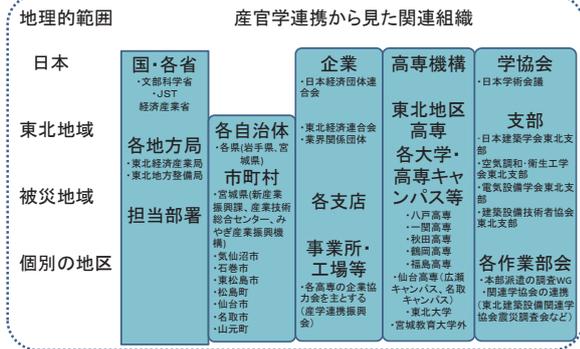
各高専が自立・連携して事業展開  
→テクノセンター長・CD等の定期TV会議による情報共有

## ① 医工・福祉機器関連



医療の現場の課題を工学的に解決

## 東北地域の連携の枠組み



個別プロジェクトについて横断的に体制を構築

## ② 自動車関連技術

### ○宮城県内自動車関連事業

#### (1)自動車関連事業(直接)

- トヨタ自動車東北(株)、工場見学・懇談会(平成21年12月3日)
- (株)ケー・角田工場・開発センター、工場見学・懇談会(平成22年12月1日)

#### (2)自動車関連事業

- A社: 鈴木勝彦教授(材料評価)
- SB社(機械要素)、K社(材料強度)、I社(材料評価)、O社(生産設備)、KT社(生産設備、予定)

#### (3)自動車関連セミナー等講師

- KCみやぎ自動車関連セミナー: 渡邊陽一教授(平成22年9月30日、11月18日)
- 宮城県自動車関連セミナー(地元企業30社、金融・庄司CDオブザーバ参加)

地域企業の様々なニーズに対応

## 震災復興と今後の展開

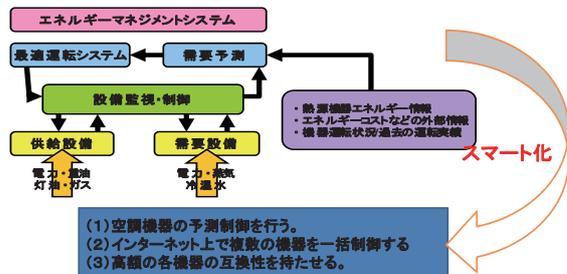
- これまでの重点事業(東北地区配置CD)  
医工福祉関連、自動車関連、住空間環境システム関連、社会人・人材育成

### 各高専の震災復興プロジェクト

八戸	(1)光触媒による環境浄化(長谷川章)
秋田	(1)エネルギー関連事業(山田校長ほか)
一関	(1)水産加工業支援に関するもので、6次産業化による地域資源の高付加価値化(戸谷) (2)木質バイオマスの直接燃焼をエネルギー源とするスターリングエンジンによる発電・暖房システム(星) (3)人材育成事業として非常時の職業訓練の施設(佐藤(清))
鶴岡	(1)燃料電池関連事業(佐藤貴哉)
福島	(1)東北太平洋岸地域で水揚げ(含輸入)される軟体動物門のイカ、タコ、ホタテ貝、ホッキ貝等に含まれるセラミド抽出成分の商品化(大隈CD)
仙台	(1)真水製造装置(羽賀) (2)ハマボウフウによる塩分除去を含む土壌改良と食材提供(吉野・木村) (3)杉皮による塩分除去を含む土壌改良(吉野) (4)仮設住宅の環境の安全とエネルギーについての調査と対策(内海) (5)復興地域におけるGISを利用したスマートグリッド(内海) (6)東松島市仮設住宅におけるスマートコミュニティ構想

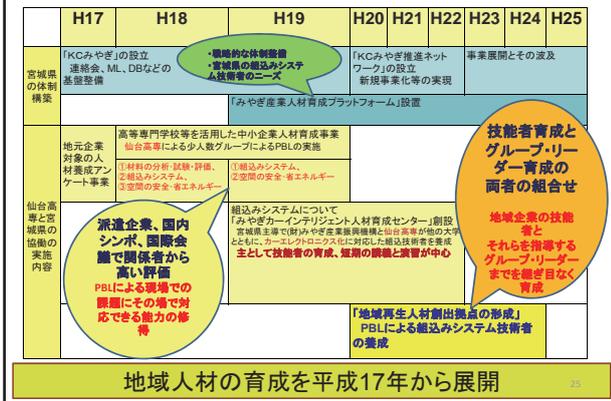
## ③ 住空間環境システム関連事業の連携

従来技術の「BEMSの概念図」 省エネルギーセンターHP参照



地域企業の連携で低炭素化社会に貢献

#### ④ 社会人・人材育成



#### 平成22年度新技術者人材育成事業成果発表会

((財)みやぎ産業振興機構幹事機構、仙台高専企画、  
2010年12月18日、仙台ガーデンパレス)

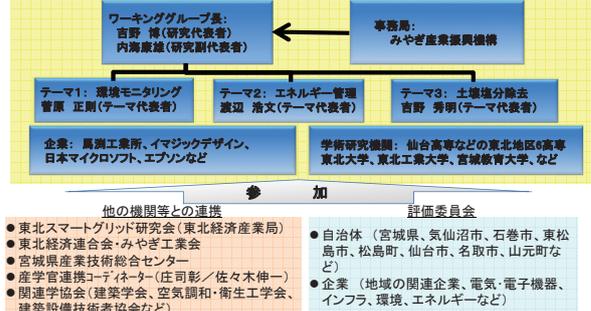


プレゼンテーション実演中

仙台高専の社会還元・地域貢献・地域人材養成

#### 東松島地区ワーキンググループの体制(案)

企業・学術研究機関が自治体などの協力のもとでワーキンググループを結成し、他の機関との連携を図りながらプロジェクトを推進する。



被災地のニーズ(仮設住宅の熱環境、土壌の塩害)  
→東北地区全体で支援

JST・東北地区6高専技術シーズマッチング研究開発フォーラム in 2010  
平成23年2月7日(月)、仙台国際センター



東北地区高専の新技術説明会

#### スマートグリッドやスマートコミュニティへの展開

- 1) 作り手と使い手  
シーズとニーズ、それらのマッチング
- 2) 低炭素化、省エネルギー、コスト、快適性  
個別、均衡したあるいはすべて同時の実現
- 3) BIM (Building Information Modeling, 建物情報モデル化)  
建物・設備の3次元・属性等のデータ利用、共通インターフェース提供
- 4) エネルギー・シミュレーション  
各国では設計時にシミュレーション・ツールの予測計算を義務化しつつある
- 5) スマートな建物(単体)  
スマートハウス、ZEB(ネットゼロエネルギービル)の実例・展望
- 6) 面としてのスマートな建物群  
スマートシティ、スマートコミュニティ、エコシティの実例・展望
- 7) 小規模なスマートグリッド  
マイクログリッド 例. 東北福祉大学キャンパス
- 8) その他

被災地の復興後も安全安心を確保する

# スマートコミュニティを通じての安全・安心

新しい街づくりとしてのスマートコミュニティのイメージ

スマートコミュニティのイメージ

- スマートグリッド
- スマートビル
- スマートモビリティ
- スマートライフ

# 建物・工場の空調予測制御とリアルタイムモニタリング

OVERVIEW

The promise of harnessing the predictive and diagnostic powers of a well-calibrated building energy model for improved building operations is attracting a growing number of researchers across the globe. BPSA USA and BPSA Canada invite you to join a new workshop on model predictive control (MPC) in buildings that will serve as a forum for lively dialogue on different approaches, applications, and best practices. The event will feature a series of technical presentations, followed by a Q&A session. Considerations of model-based control systems include, but are not limited to, forecasting and optimization. It will also have a roundtable discussion to define future research needs and highlight opportunities for collaboration and business applications. The Scientific Committee will then invite selected presenters to submit manuscripts to be published in a 2012 Special Issue of the journal *Building Performance Simulation (BPS)* or *IFAC* in Buildings.

Scientific Committee:

- John Atkinson, London University, Sweden
- Andreas Aronsson, Concordia University, Canada
- Jan Brundage, University of Toronto, Canada
- James Brown, UC Berkeley, USA
- Clément Desjardins, TU Delft, Netherlands
- John Dutton, EPFL, Switzerland
- Michael Gnanapavan, Ecole Polytechnique, Montreal, Canada
- Andreas Gustafsson, TU Braunschweig, Germany
- Wenbin Han, Seoul National University, Korea
- Shengping He, Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong
- Workshop Chair: George Kalouradis, UC Colorado, USA

Organizing Committee:

- Montreal: UC Berkeley, USA
- Paris: EPFL, Switzerland
- Montreal: Concordia University, Canada
- Montreal: Natural Resources Canada

Sponsors: Canada, energy institute, Concordia, energy institute

MODEL PREDICTIVE CONTROL IN BUILDINGS WORKSHOP  
MONTREAL, JUNE 24-25, 2011

国際的な協働へ向けて研究会を立上げ

# 街区センサーネットワーク、予測制御モデルによる都市制御・街区のエネルギー制御システム

街区センサーネットワーク、予測制御モデルによる都市制御・街区のエネルギー制御システム

街区センサーネットワーク

- 街区センサーネットワーク
- 街区エネルギー制御システム
- 街区エネルギー制御システム

街区センサーネットワーク

- 街区センサーネットワーク
- 街区エネルギー制御システム
- 街区エネルギー制御システム

街区や地域の建物・工場の熱エネルギーを一括して管理

# まとめ

産学官連携コーディネーターと連携して、自立化をはかりながら

東日本大震災の状況を踏まえて、復興と今後の事業化展開へ向けて

東北地区高専が関係機関と連携して活動

# 住宅・ビルに関する要素とシステム

住宅・ビルに関する要素とシステム

各種コーディネータ  
目利き・制度関つなぎ、知的財産など

事業化のマップ、知的財産マップ

住宅・ビルの空調システム

- 運営・管理の体制整備
- すべての項目をカバー

環境の測定

- 街区スケール以上の気象
- 室内の温熱・空気環境

全体の活動のコーディネータ

- システム制御の実行
- シナリオに基づくシステム稼働
- 気象やスケジュール変更等へ対応

システムのシナリオの作成

- 必要エネルギーの予測計算
- 機器の最適制御計算

実装技術開発

ソフトウェア開発

活動のサイクルと関連する技術・製品・規格・人材

ご清聴ありがとうございました

仙台高等専門学校  
地域イノベーションセンター長 内海康雄  
文科省支援型 産学官連携コーディネーター 庄司 彰


 仙台高等専門学校  
 Sendai National College of Technology

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
 留学生交流促進センター

平成23年度 留学生・国際交流担当者研究集会

**震災時における学生への対応について**

仙台高等専門学校・広瀬キャンパス 竹茂 求

2011.7.31 沖縄県市町村自治会館 1


 仙台高等専門学校  
 Sendai National College of Technology

**震災での建物被害(名取甚大)**

● 3月11日(金)14時46分地震発生



★名取キャンパス  
**レッド(危険)** : グラウンド、体育館、武道館、高学年棟  
 創造教育センター(実習工場)  
**イエロー(注意)** : 総合科学教育棟、マテリアル環境工学科棟  
**その他** : 学校の周辺に地崩れや地割れ

4


 仙台高等専門学校  
 Sendai National College of Technology

**目次**



1. 震災と学校の対応の概要(3/11~22)
2. 仙台高専の国際交流(学生派遣と受入)
3. 震災時の留学生・海外研修生への対応
4. (財)仙台国際交流協会
5. 震災時の海外派遣学生



2


 仙台高等専門学校  
 Sendai National College of Technology

**震災時の経緯(広瀬を中心として) 3.11**

- ・ 在校中の学生・教職員 : 避難訓練で指定した場所に避難(安否確認)
- ・ 校内施設チェック・建物内に学生がいないことを確認。
- ・ 1時間経過: 寒さのため、耐震性が強い建物に避難、各避難教室に教員を配置
- ・ 対策本部設置(視聴覚教室)
- ・ 交通機関不通 : 簡易宿泊所を準備。
- ・ 水・電気・ガス全てストップ : 自家発電照明・ストーブ・布団(合宿所)等を準備




5


 仙台高等専門学校  
 Sendai National College of Technology

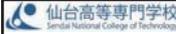
**仙台高専2キャンパス**



広瀬キャンパス      名取キャンパス

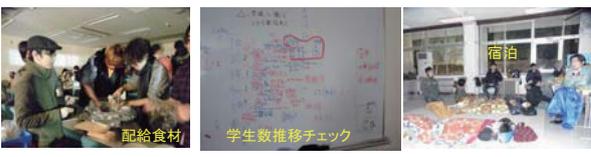


3


 仙台高等専門学校  
 Sendai National College of Technology

**震災時の経緯 3.11(2)**

- ・ 市(宮城総合支所)や生協からの食材配給
- ・ 帰宅可能学生・保護者が迎えに来た学生: 確認後、帰宅させる(以後逐次)
- ・ 緊急保護宿泊
  - 名取: 学生約150名 (内、近隣住民約30名) + 教職員40名弱
  - 広瀬: 学生96名 (内、近隣住民3名) + 教職員30名弱
- ・ 名取
  - 協定に従い、がんセンターに援助に向かう(翌日: がんセンター片づけを学生教職員13名で手伝う)
  - 近隣地区の緊急避難場所に指定→近隣住民約30名を同様に寮に避難(学生が避難支援)。



6

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology 震災時の経緯 3.12

- 3月12日(土)
- ・ ライフラインと保護者の状況を確認し、学内滞在学生を極力帰宅させる方針とした(健康状態を長期間良好に保つことが、学内保護では困難)
- ・ 名取: 電話、メール等が使用不能、外部と情報が遮断
- ・ 広瀬: 学生約40名をスクールバス等で自宅に送り届けた
  - 宿泊学生16名+近所の8名も宿泊
  - 全学生と家族、全教職員の安否確認作業を「開始」
 電話、メール、本校開発の緊急時安否確認システム(メール)利用



7

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology 震災時の経緯 3.14

- 3月14日(月)
- ・ 名取: 広瀬の合同会議(第2回会場: 広瀬)
  - 入学手続き・学生安否用の緊急電話番号を機構本部HPに掲載
  - 両キャンパス教職員全員無事を確認
  - 18日まで、宿日直以外の教職員出勤は可能者のみ(後に25日に延長)
- ・ 名取
  - 学生1名の死亡情報が入る
  - 学科内の被害状況を調査し立ち入り禁止区域調査決定
- ・ 広瀬: 電気とLANが復旧



10

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology 震災時の経緯 3.13

- 3月13日(日)
- ・ 残る学生等の支援目的で、4名の宿直体制とした(実質支援教職員数は名取約30名、広瀬10数名)
- ・ 食材調達開始と自炊開始



8

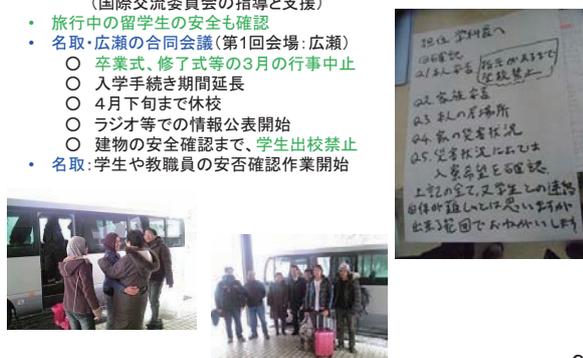
仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology 震災時の経緯 3.15, 16, 17

- 3月15日(火)
- ・ TVへのテロップを民放へ拡大して掲載依頼
- ・ 名取: ブルーゾーン建物内への立入り許可(イエローゾーン4Fまで可)
- ・ 広瀬: 下水処理能力の限界と水の供給なし→ 水不要トイレ設置
- 3月16日(水)
- ・ 名取・広瀬の合同会議(第3回会場: 名取)
  - 新5年・新専攻科2年の就活、現5年と現専攻科2年の就職 → 産業界に配慮依頼
  - 入学生の安否確認を行う
  - 3/17の入学手続きメ切り延長(3/31まで郵送受付、遅れ配慮)
  - 合格者への案内: 機構本部のHP・本校HP・マスコミ
  - 国費・マレーシア政府派遣留学生受入困難
- ・ 名取: 電気復旧、LAN環境一部復活
- 3月17日(木)
- ・ マレーシア留学生(八戸、一関含む)が大使館派遣バスで出発 → 全留学生の東京避難が終了
- ・ 名取: 学内避難者: 学生15名(+一般15名) 避難住民(8名)は市の方針で他避難所に移動
- ・ 広瀬: 学内避難者: 学生4名
- ・ 宿直体制縮小

11

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology 震災時の経緯 3.13 (2)

- ・ 留学生: 各国大使館派遣バスで東京へ避難開始(国際交流委員会の指導と支援)
- ・ 旅行中の留学生の安全も確認
- ・ 名取・広瀬の合同会議(第1回会場: 広瀬)
  - 卒業式、修了式等の3月の行事中止
  - 入学手続き期間延長
  - 4月下旬まで休校
  - ラジオ等での情報公表開始
  - 建物の安全確認まで、学生出校禁止
- ・ 名取: 学生や教職員の安否確認作業開始



9

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology 震災時の経緯 3.18~

- 3月18日(金)
- ・ 高専機構の五十嵐理事等が救援物資とともに来校、両キャンパス視察
- ・ 安否未確認学生: 警察に届ける
- 3月19日(土)
- ・ 広瀬: 避難学生3名を家族へ送届け、1名実家に帰宅: 宿泊学生が0
- 3月21日(月)
- ・ 広瀬: 全学生の無事を確認。
- 3月22日(火)
- ・ 名取: 死亡1名以外の全学生の無事を確認 避難学生4名が帰宅: 1名となる
- ・ 名取・広瀬の合同会議(テレビ会議) 宿直体制を解除。
- 5月9日: 始業式



12



仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

広瀬キャンパス南寮(国際交流会館)

Dormitory for International students and Advanced course students

19

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

海外協定校と連絡例(ヘルシンキ)

3/12 フィンランド→仙台  
Are you OK?  
Timo

電気・LAN復旧

3/14 仙台→フィンランド  
our staff in SNCT are ok. but we are not sure when we will be able to start our college.

3/15 フィンランド→仙台  
Do you know anything about Joni ? Is he OK?  
Timo

広瀬キャンパスの研修生

3/15 仙台→フィンランド  
Joni is ok. Joni left for Tokyo with the embassy staff on Monday. his flight to Helsinki is scheduled on Tuesday.

3/15 フィンランド→仙台  
Thank you for this information.  
What I have seen it must be difficult for you and your staff to start again school operations.  
Best wishes to all  
Timo

22

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

国際交流

Lecture

Cherry Blossom Viewing

Presentation

Festival

Internship

20

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

海外協定校と連絡例(2)(ヘルシンキ)

3/13 Helsinki→仙台  
...we have talked to your three students here. They have been able to contact their families. ...We have been trying to contact Joni, a student of Metropolia who is currently studying at SNCT. Unfortunately we have not yet been able to contact him. We heard from our Student Union members that on Friday he had reported in Facebook that he is well, but since then we have not heard from him. We were wondering if you have heard from him or do you know about his situation? We are very worried about him....

3/14 Helsinki→仙台  
We have now been able to contact our student Joni who has studied at Sendai. He is now trying to reach Tokyo, and we are arranging his flights to Finland. ...

3/14 Helsinki→仙台  
...we were able to postpone the students' flight to 22 March. The apartment arrangements have also been made....

3/15 仙台→Helsinki  
... Joni is ok. Joni left for Tokyo with the embassy staff on Monday....

3/19 Helsinki( Joniより)→仙台  
Hi. I am in finland. Safe and sound. 私はフィンランドにいます。私は安全と無事です。心配しないでね(^。^)

23

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

インターンシップ学生(HMUAS)の研修成果

東北大学電気通信研究所セミで研修成果発表

21

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

仙台地域の国際交流連携

平成22年度「災害時外国人支援に関する情報・意見交換会」

- H22.11.17
- 仙台国際交流センター
- (財)仙台国際交流協会
  - ・ 地域の国際化推進を目的として1990年に設立  
仙台市:約1万人の外国籍市民(百人にひとりか外国人)
  - ・ 主な事業(震災前のパンフレットから)  
国際姉妹都市等との交流  
在住外国人の日本語学習支援  
市民の国際理解推進  
宮城県沖地震の危険性が叫ばれる中、外国人の防災支援が緊急で重要
- 会の議題
  - ・ 参加者自己紹介:20機関(市、県、大学、高専等)32名
  - ・ 災害時言語ボランティア(57名登録)
  - ・ 災害時外国人支援(FM放送での多言語情報発信等)
  - ・ 仙台市災害多言語支援センターの設置(仙台国際交流センター内)

24

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

### 3.11直後の(財)仙台国際交流協会の活動

3.11 21:00電話対応開始  
仙台国際交流協会から、  
仙台高専の外国人の安否確認電話あり

3.12の  
安否確認

3.11 17:00第1回放送  
ラジオ収録

3.12開始  
避難所巡回

3.13ブログによる情報発信開始  
情報の翻訳作業

(財)仙台国際交流協会提供 25

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

### 海外派遣学生(TUAS)との連絡例

3/10  
竹茂先生  
仙台高専 専攻科1年〇〇です。  
フィンランドでの充実した生活も終わりが近づき少し寂しい気持ちになっております。  
帰国後にこちらの経験を報告したいと思っております。  
帰国後について相談があるのですが、現在「△△株式会社」への学校推薦を希望している学生はいま  
いますか？もし可能であれば推薦を希望させていただきます。よろしくお祈り致します。  
採用ページによると、5月中旬頃まで学校推薦が可能だそうです。

↓

〇〇くん  
△△、専攻科で第1希望は居ないようです。本科の情報はまだわかりません。  
竹茂

↓

竹茂先生  
専攻科1年〇〇です。下記の件ありがとうございます。今のところ△△を自分の第一希望としたいと  
思っています。組み込みキットですが、使用時間があまりなかったため、返却後にシミュレータを使って指導  
していただきました。今度来る学生とは組み込み関係の2人からはよく面倒を見て頂いております。  
他の学生とは先週、本校についてプレゼンをした際に顔を合せていただきました。

3/15  
竹茂先生ご無事で何よりです。また、大変な中本当にお疲れ様です。専攻科〇〇です。  
すでにAnne先生からお聞きされたかもしれませんが、SAS航空で帰国日を一週間ずらし、24日成田  
到着になりました。帰国近くにまたメールを送りたいと思います。先生方も非常に多忙であると理解し  
ておりますのでご返信は結構です。皆さまのご無事をお祈りしております。

28

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

### 3.11留学生・研修生の所在

ラオス(震災前帰国)  
マレーシア(韓国旅行)  
マレーシア(東京)  
旅行・帰省留学生

フィンランド  
トゥルク応用科学大学  
2/14  
~3/14  
海外インターンシップ  
専攻科1年(1ヶ月)

フィンランド  
ヘルシンキ外ロボリア  
応用科学大学

タイ  
KMITL

広瀬キャンパス  
マレーシア(一関)  
マレーシア(八戸)

インドネシア  
ラオス  
ベトナム  
ヘルシンキ(研修生)  
3/14帰国予定

仙台駅

名取キャンパス  
ラオス  
インドネシア

26

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

### 救援物資・義援金・復興支援等への御礼

震災時、また、復興過程において、高専機構はじめ多高専にご支援頂きましたことを心より御礼申し上げます。

- ・ 救援物資
- ・ 業務支援(人的支援)
- ・ 被災した学生等への義援金
- ・ 避難学生の受入

ご支援頂きました機関を下記でご報告させて頂いております  
<http://www.sendai-nct.ac.jp/college/pages/000996.php>

29

仙台高等専門学校 Sendai National College of Technology

### 専攻科1年海外インターンシップ(1ヶ月)

トゥルク応用科学大学(TUAS)  
・ 2/14-3/14(TUASの配慮で3/24延期)  
・ 組込システムキット学習の事前指導  
(4月から仙台高専来校予定の学生に)

フィンランドで講義(千葉准教授)  
組込システムキット

組込システム等研修  
専攻科:組込システム学習

仙台  
H22.3 H22.4-6 H22.後期 H23.4-6  
教員 研修生 専攻科生 研修生

フィンランド  
本校教員が学生に組込システム講義  
学生が学生に事前指導 H23.2-3

27



1. 震災と学校の対応の概要(3/11～22)



震災時の経緯 3.11

- ・ 在校中の学生・教職員：避難訓練で指定した場所に避難(安否確認)
- ・ 校内施設チェック・建物内に学生がいらないことを確認。
- ・ 1時間経過:寒さのため、耐震性が強い建物に避難、各避難教室に教員を配置
- ・ 対策本部設置(視聴覚教室)
- ・ 交通機関不通：簡易宿泊所を準備。
- ・ 水・電気・ガス全てストップ：投光器付き発電機・ストーブ・布団(合宿所)等を準備



仙台高专キャンパス(広瀬・名取)




震災時の経緯 3.11(2)

- ・ 市(宮城総合支所)や生協からの食料配給
- ・ 帰宅可能学生・保護者が迎えに来た学生:確認後、帰宅させる(以後逐次)
- ・ 緊急保護宿泊
  - 名取:学生約150名 (内、近隣住民約30名) +教職員40名弱
  - 広瀬:学生96名 (内、近隣住民3名) +教職員30名弱
- ・ 名取
  - 協定に従い、がんセンターに援助に向かう(翌日:がんセンター片づけを学生教職員13名で手伝う)
  - 近隣地区の緊急避難場所に指定→近隣住民約30名を同様に寮に避難(学生が避難支援)。



震災での建物被害

● 3月11日(金)14時46分地震発生

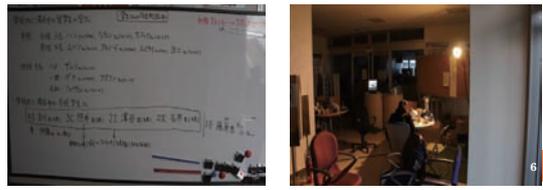


★名取キャンパス  
 レッド(危険) :グラウンド、体育館、武道館、高学年棟  
 創造教育センター(実習工場)  
 イエロー(注意) :総合科学教育棟、マテリアル環境工学科棟  
 その他 :学校の周辺に地崩れや地割れ

震災時の経緯 3.12

● 3月12日(土)

- ・ ライフラインと保護者の状況を確認し、学内滞在学生を極力帰宅させる方針とした(健康状態を長期間良好に保つことが、学内保護では困難)
- ・ 名取:電話、メール等が使用不能、外部と情報が遮断
- ・ 広瀬:学生約40名をスクールバス等で自宅に送り届けた
  - 宿泊学生16名+近所の8名も宿泊
  - 全学生と家族、全教職員の安否確認作業を「開始」  
電話、メール、本校開発の緊急時安否確認システム(メール)利用



震災時の経緯 3.13

- 3月13日(日)
  - 残る学生等の支援目的で、4名の宿直体制とした  
(実質支援教職員数は名取約30名、広瀬10数名)
  - 食材調達開始と自炊開始



自炊

太陽電池で地域へ携帯電源サービス

7

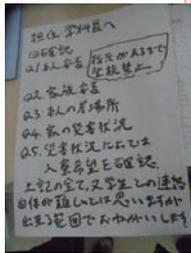
震災時の経緯 3.15,16,17

- 3月15日(火)
  - TVへのテロップを民放へ拡大して掲載依頼
  - 名取:ブルーゾーン建物内への立入り許可(イエローゾーン4Fまで可)
  - 広瀬:下水処理能力の限界と水の供給なし→ 水不要トイレ設置
- 3月16日(水)
  - 名取・広瀬の合同会議(第3回会場:名取)
    - 新5年・新専攻科2年の就活、現5年と現専攻科2年の就職  
→ 産業界に配慮依頼
    - 入学生の安否確認を行う
    - 3/17の入学手続き×切り延長(3/31まで郵送受付、遅れ配慮)
    - 合格者への案内: 機構本部のHP・本校HP・マスコミ
    - 国費・マレーシア政府派遣留学生受入困難
  - 名取:電気復旧、LAN 環境一部復活
- 3月17日(木)
  - マレーシア留学生(八戸、一関含む)が大使館派遣バスで出発  
→ 全留学生の東京避難が終了
  - 名取:学内避難者:学生15名(十一般15名)  
避難住民(8名)は市の方針で他避難所に移動
  - 広瀬:学内避難者:学生4名
  - 宿直体制縮小

10

震災時の経緯 3.13 (2)

- 留学生:各国大使館派遣バスで東京へ避難開始  
(国際交流委員会の指導と支援)
- 旅行中の留学生の安全も確認
- 名取・広瀬の合同会議(第1回会場:広瀬)
  - 卒業式、修了式等の3月の行事中止
  - 入学手続き期間延長
  - 4月下旬まで休校
  - ラジオ等での情報公表開始
  - 建物の安全確認まで、学生出校禁止
- 名取:学生や教職員の安否確認作業開始



8

震災時の経緯 3.18~

- 3月18日(金)
  - 高専機構の五十嵐理事等が救援物資とともに来校、両キャンパス視察
  - 安否未確認学生:警察に届ける
- 3月19日(土)
  - 広瀬:避難学生3名を家族へ送届け、  
1名実家に帰宅:宿泊学生が0
- 3月21日(月)
  - 広瀬:全学生の無事を確認。
- 3月22日(火)
  - 名取:死亡1名以外の全学生の無事を確認  
避難学生4名が帰宅:1名となる
  - 名取・広瀬の合同会議(テレビ会議)  
宿直体制を解除。
- 5月9日:始業式



11

震災時の経緯 3.14

- 3月14日(月)
  - 名取・広瀬の合同会議(第2回会場:広瀬)
    - 入学手続き・学生安否用の緊急電話番号を機構本部HPに掲載
    - 両キャンパス教職員全員無事を確認
    - 18日まで、宿直以外の教職員出勤は可能者のみ(後に25日に延長)
  - 名取
    - 学生1名の死亡情報が入る
    - 学科内の被害状況を調査し立ち入り禁止区域調査決定
  - 広瀬:電気とLANが復旧



9

○災害発生後の行動について

- 災害対策の体制(対策本部の設置)、施設担当職員の役割分担、機構本部との連絡体制
- 学生・教職員等の安否確認(今回の確認方法、今後への提案)
- 施設等の被害状況の確認、機構本部への報告
- 安全対策の実施(危険箇所への立入禁止措置、落下物除去等の応急処置など)
- 応急危険度判定の実施
- 災害復旧費要求の手続き(被災状況の図面、写真、所要額の算定など)

12

## 災害対策の体制(対策本部の設置)

(名取キャンパス)

- 校長、総務担当副校長不在のため、仙台高等専門学校危機管理規則(平成22年10月6日に制定)に基づき、教務担当副校長を本部長として対策本部を設置し、その指示のもとに作業を分担して対策に当たった。
- 翌日から毎日午前10時に、災害対策本部会議を第一会議室で開催することとした。会議には情報共有のために副校長、学科長等以外の教職員も参加することとした。
- 対策本部では、学生の安否確認等の対応を担任及び学生課、留学生については寮務主事、教職員の安否、対外的な対応については総務課、物資の調達、支援物資の管理等は管理課、施設、設備の管理等については施設課と役割を分担して対応することとした

13

## 体制について今後の提言

- 現実的なマニュアルが作成されていなかった反省に基づいて、「危機対応運営組織図、危機発生時初期連絡系統図、学生緊急連絡確認簿、危機対応組織対応役割リスト、防災備蓄品リスト、教職員連絡確認簿」を新規に作成した。**※別紙1**
- 特に、災害発生時には、現場ですぐに臨時危機対策本部を設置して初期対応し、正式な危機対策本部設置後は、本部下にある各課等の役割以外に、機動教職員チームを形成して、本部の指示に基づいて機動教職員チームが各課等の行動を支援することが重要である。本部は、各課等を統括・情報交換すると共に、対外的な連絡連携を行うことが重要である。
- 今回のような大規模災害の場合、教職員も被災者であり、しかもインフラが広域かつ長期的に断絶することから、災害対策本部の設置及び維持が極めて困難であった。今回と同様に現地以外に災害対策本部を立ち上げ、可能な限り現地を支援する体制の構築が重要である。

16

(広瀬キャンパス)

図書館棟学務課事務室を対策本部とした。

図書館棟は21年度耐震補強済み、保健室があり、130人収容の視聴覚室を一時避難所にした



14

## 施設担当職員の役割分担

- 校内設備、施設を巡回して危険箇所の確認、破損状況の確認、応急対応が必要な場合にはその措置、危険箇所、破損箇所の写真撮影、立入禁止措置等を行った。また、電源、照明の確保のために発電機の設置を行った。

## 機構本部との連絡体制

- 機構本部とは、機構本部が定めた確認事項をもとに毎日12時に定期的連絡、及び随時連絡を行う体制とした。また、連絡には災害時連絡用電話及び携帯電話を使用した。

17

情報用ホワイトボード、黒板



15

## 学生・教職員等の安否確認

(広瀬キャンパス)

電気が復旧した3月14日から、震災時学校に登校していない学生を含め、全学生と教職員の安否確認を試みた。安否確認は担任を中心におこない、必要に応じて学科長や他の教員が手伝った。

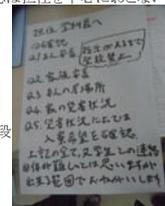
安否確認の内容は

- ①本人の安否、
- ②家族の安否、
- ③現在の居場所とし、

最低限①を確認することにした。安否確認の手段

- a)本人あるいは家族との電話、
- b)本人からのメール、
- c)友達等からの伝聞、
- d)本キャンパスで開発した安否確認システムとした。

固定電話は地震直後から繋がらない状態が続いた地域もあり、また、沿岸部を中心に避難所に避難している学生も多数いた。そのため、携帯電話や携帯メールを中心に安否を確認した



18

## 安否確認について今後への提案

- 固定電話、携帯電話やメール、HPなどのネットワーク、テレビ、ラジオなど電波を利用して学生の安否を確認したが、相当の日数を要した。全学生の安否長期化した原因には、学生の所在が広範囲に亘っていたこと、固定ならびに携帯電話の基地局等にも被害が及んでいたことが挙げられる。今回の体験をもとに以下のように提案する。
- 同意が得られた学生と保護者の連絡先の情報登録させて通信回線が確保されていれば、一斉に確認することが出来るようなシステムなどが良いと考えている。
- 非常時の通信回線について、通常の電話回線では機能しないことから、インターネット回線や衛星回線、船舶無線回線、アマチュア無線回線等の中から高専独自で安定的な回線の確保を急ぐ必要があると思います。通信のための中継車の共同運用も考えていいのではないかと思います。

19

## 立ち入り禁止区域の表示(名取キャンパス)



22

## 施設等の被害状況の確認

- 3月11日の地震発生時に課長以下5名の出張者があり、東北地方のJR鉄道等不通の影響により、直ちに職場へ戻れなかった。
- 残りの施設課員4名で停電、断水、防火戸等の被害範囲の確認と応急処理及び被災状況写真撮影等の緊急対応に人手を割いた。

20

立ち入り禁止の表示、出入り口の固定(広瀬キャンパス)  
原則建物内の出入りを禁止したが、学生教職員の出入りがあったため、本部前のみ解錠し、入場者の把握に努めた。



23

## 安全対策及び応急危険度判定の実施

- 建築学科教員と施設課職員とで建物の応急危険度判定を行い、建物の危険度を設定し、建物毎に警告文、カラーコーン及び虎ロープを設置した。(別紙2)
- 駐車場亀裂箇所と法面崩落箇所に対するブルーシート養生の設置を行った。
- 外壁タイル落とし等の安全確保、建物、北側法面崩落箇所、駐車場の応急復旧については、業者の手配がつき次第随時行った
- 北側法面崩落箇所の応急復旧及び南側駐車場の亀裂補修は、3月21日(29日完了)から開始した。
- 電気を復旧する際、建物毎に各低圧配電盤の絶縁測定を行いながら、順次送電した。
- 給水を復旧する際、井戸ポンプの点検、漏水調査の確認も併せて行った。

21

## 災害復旧費要求の手続き

災害復旧事業計画書を4月7日までに高専機構本部に提出期限があり、3月24日災害復旧事業計画書作成を始めるが、事前に被災状況を目視調査した結果、各建物全般にクラックが生じたこと、南北の法面の滑り発生し、擁壁の擁みや駐車場の地盤が1m程下がった事などを踏まえ、この時点で要求用のクラック等の調査、写真撮影及び要求資料のデータ作りの業務を施設課で全面的に行うことは、困難と判断し、調査及び写真撮影に関して外部委託することとした。この間にも余震に対する建物や地盤への調査や応急措置、校内における会議での説明等、施設課職員の業務は質量共増加した。

24

## ライフライン等について

- 電気、水、ガス、下水、トイレなどの復旧までの期間、それまでに講じた方策
- 困ったこと、苦労したこと、よかったこと
- 太陽光発電や蓄電池を事前準備するなどの今後の提案

25

ライフライン復旧情報(黒板)



28

## 電気、水、ガス、下水、トイレなどの復旧までの期間、それまでに講じた方策

(名取キャンパス)

- 電気復旧: 3月17日(電力会社に復旧要請した)、水道復旧: (井水・市水) 3月24日、都市ガス復旧: 4月15日。
- 下水: 停電により断水になったため、水道が使用不能となり電気復旧とともに回復したが、津波被害による下水道処理施設の復旧には2年を要するとされているため、市より節水の協力を求められている。
- 電気は、発電機を設置し、また、電気システム工学科教員により太陽光発電ソーラーパネルを利用して対応した。
- ガスについては、食堂がプロパンガスであり使用可能であったため利用した。
- 飲み水は、学生寮に備蓄していたペットボトル飲料水、井戸水タンクに残っている分、自治体から配給される飲料水を利用した。揚水ポンプ用の電源を確保できれば、断水にも速やかな対応が可能と考えられた。
- 給水が復旧するまでトイレの洗浄水については、プール及び学生寮にある池の水を大きなバケツに汲んで運び利用した。
- さらにトイレは、下水道処理施設が津波の被害により破壊され、市から節水の協力を求められたため、使用場所を制限して使用したり、市に工事現場等に用いる簡易トイレを要望し運んでもらい対応した。

26

## 困ったこと、苦労したこと、

- ライフライン復旧時の安全確認で、業者(建築、電気、設備とも)の都合が全くつかず、状況確認などに来た業者に無理をお願いする形になった。
- ガソリンが長期にわたり調達できなくて車での移動が非常に困難であった、また、公共交通機関もストップしたために、出勤できない職員が多かった。
- 3月14日から3月末までは、出勤不可能な教職員は、自宅の片付け、食料・ガソリンの確保及び家族・親戚の安否確認等を行うことを認め、出勤可能な教職員での協力体制を敷いた。
- 発電機はあっても燃料がなくなり使用できなくなった。
- 今回の震災では、インフラの断絶により長期間お風呂に入れない状態が続いたことから、簡易的なものでも構わないので、簡易浴槽又はシャワーの支援があると衛生上も職員の士気向上にも有効と考える。

29

## 電気、水、ガス、下水、トイレなどの復旧までの期間、それまでに講じた方策

(広瀬キャンパス)

- 電気: 3月14日(3日間)  
投光器付き発電機を使用し照明、暖房等の電源にした。
- 水道: 3月28日(17日間)  
受水槽(100t)残量を確認しながら必要最低限の使用  
雨水、雪解け水等を収集しトイレ用に使用
- ガス: 停止無し(3月15日配管等安全確認後順次開栓)
- トイレ、下水: 停止無し(下水能力の低下有りの情報により節水)
- 水道復旧まで、最低限の利用(2箇所)仮設トイレの設置。水道局に確認後利用開始。

27

## よかったこと

- 自治体への連絡が迅速であったため、避難者(地域住民、学生、教職員)への支援食料等が比較的スムーズに届いた。
- 避難者の対応について、1週間同じ避難所で寝食を共にするなど学生が進んで引き受けてくれた。
- すぐ隣にある病院とは、災害時の連携協定をしており、教員が学生を連れて病院に片付け等のボランティアに向かう一方、病院からは医師、看護師により、避難者の出張診察をしていただくなど、普段の連携が生かされたと思われる。
- 自治体に直接向いて話をすることで避難所を理解してもらえる。

30

### 太陽光発電や蓄電池を事前準備するなどの今後への提案

- 発電機は当然準備しておくべきであり、さらに、その燃料についても十分確保しておくことが大事である。さらに、太陽光発電や蓄電池など高専の「ものづくり」力を発揮したシステムの開発などに重点的に取り組む必要がある。
- 生活用水については、プールや雨水等を活用できるよう高専の「ものづくり」力を発揮した水浄化システムの開発・設置が必要と考える。

31

(名取キャンパス)

- 食料、学生寮に備蓄していた(十分とはいえない)ビスケット、地震翌日からは自治体から配給されたおにぎり、パン等、及び各高専から送っていただいた支援物資が大変ありがたかった。
- 医薬品、各高専から送っていただいた医薬品、自治体保健師の見回りにより避難所のトイレなど衛生面での手洗い薬などの配付があった。
- ガソリンは、罹災翌日に、GSで本校が避難所と申し出、80%を購入した。なお、その後は、不明者の捜査や災害復旧作業が進むにつれ、ガソリン不足が拡大し、購入できなくなった。また、たびたび名取市災害対策本部を尋ねていたため、ガソリン不足を本部に申し出たところ本部長(市総務部長)と面談でき、20%分の優先購入券の交付を受けた。本校グラウンドにある投光器やグラウンド整備用トラクタから燃料を抜き取ることもしたが、最終的には、数日間、早朝に本校近隣のGSに並びガソリン券を入手し、公用車の運行に支障のないよう対応した。なお、契約ガソリンスタンドは震災後、長期間、営業停止であった。

34

### 物資について

- 飲料水、食料、衣料、医薬品、生活用品、ガソリン、灯油などの不足・回復の状況
- 困ったこと、苦労したこと、よかったこと
- 備蓄品等に関する今後への提案

32

### 困ったこと、苦労したこと、よかったこと

- 学寮で備蓄されていたペットボトル水が、賞味期限切れで処分後補充されていなかった。過去の災害から得た教訓を確実に引継ぎ、継続して対応していくことが重要であると痛感した。
- 各高専、大学等から送っていただいた支援物資が大変ありがたかった。

35

### 飲料水、食料、衣料、医薬品、生活用品、ガソリン、灯油などの不足・回復の状況

- (広瀬キャンパス)
- 学生生協で食料、飲料水など物資を確保(後日承認)
- 仙台市から食料の支援を受けた(受け取りに行った)
- 日用品は2週間程度品薄状態が続いた。
- 燃料は不足状態が続いたが、契約業者の協力により最低限確保することができた。



33

### 備蓄品等に関する今後への提案

- 各高専からの支援物資が到着することも考えて、2~3日分の備蓄が必要であると感ずる。
- 各高専に支援物資を分散させて確保し、連携して必要な高専に支援するシステムが有効である。
- 各高専の備蓄品情報と被災高専の必要物資情報を機構本部が一括管理、あるいは北海道地区、東北地区などのブロック単位で情報共有できる体制が望ましい。
- 今回の支援に際しては、同様の地震被害を経験した長岡技術科学大学の迅速な支援物資が極めてありがたかった。被災経験を生かした支援物資リストを整備する必要があると考える。
- 必要な支援物資は時間の経過により変化する。震災直後は上記の支援物資を被災高専の要請を待たずに送り、その後は被災高専の要望に応じた支援物資を供給する体制が必要と考える。
- 高専機構に設置された対策本部においては、支援物資のニーズや供給体制を一元的に管理把握し、被災地以外の高専に指示する仕組みが必要と考える。
- 今回は学寮が閉寮中のため主に留学生対応であったが、開寮期間の災害を想定した非常食料や燃料の備蓄が大きな課題となった。現在、学寮単位でも水、非常食、非常用品等の備蓄を進めている。

36

- 支援物資ももちろん大切で大変ありがたいことではありますが、教職員も被災者であることから、人的支援が何より必要です。しかも短期で後始末ではなく、震災直後から教職員と共に長期に活動できるような支援が必要と切実に感じた。
- 救援物資を送っていただく際には、予め、その内訳がほしい。〇〇ml入りのペットボトルが何本かとか、アルファ米が1箱〇袋入りとかetc。計画的に配給するには、常に数量をある程度把握しておかなければならないが、送られてきた時に数量を数える時間が惜しいので、計画的に配給する上で是非、ご協力をお願いしたい。
- 参考資料 別紙3 (支援物資一覧)

37

### 困ったこと、苦労したこと、よかったこと

- 近隣避難所の劣悪な環境と本校避難所の食住環境及び世話役学生の対応等を比較して、本校に居続けたいと希望する意見を聞くにつけ、市から避難所運営のためのスタッフが派遣される予定もなく、本校にすべてが委ねられている現状があった。
- 教職員それぞれ2名体制で宿直を行ったが、暖房が少なく、支援物資も毛布しかなくて寒さ対策に苦労した。

40

### 地域住民、地元自治体との調整について

- 避難住民の受入(期間、人数、水・食料の状況、高専の支援内容、自治体の支援状況)
- 困ったこと、苦労したこと、よかったこと
- 地域住民や地元自治体からの要望、地元自治体への要望、今後への提案

38

### 大規模災害に備えて対応可能な事項

- 電気、ガス、水道などのライフラインの復旧に長期間(1週間以上)要する場合の対応を想定しておくことが必要であった。(食糧や飲用水などの備蓄物品等の内容や数量の把握、通信手段・照明・暖房・燃料・トイレなどの確保)
- 対策本部及び緊急連絡電話の設置場所は、事前の決定が必要。(教職員の宿直体制、機構本部などとの連絡、近隣住民対応窓口等の理由から、緊急連絡電話の設置場所を何度も変更することとなった。)
- 報告、連絡、相談体制の遵守(特にマニュアルに基づかない対応の場合、個人判断で行われると全体として支障が生じる。)
- 被災校における今後の対応や他高専などの参考に資するため、写真や議事録などの記録を残す機能を防災体制に取り入れることが必要と考える。
- 今回はスクールバス等を利用して帰宅の支援をしたが、充分な燃料の確保が必要である。
- 今回は休みの日の災害で学生数も150名程度であったが、合宿の布団が有効活用できた。緊急時は寮生の布団の利用もあり得ることを検討する。

41

### 避難住民の受入(期間、人数、水・食料の状況、高専の支援内容、自治体の支援状況)

- ほぼ50人の避難住民を1週間受け入れた。地域住民の避難所としては、体育館を想定していたが、体育館が被害を受けたため、急遽学生の合宿所を使用することとなった(合宿中であったために、布団のリースがあったのも幸運であった)。
- 指定された施設の避難場所としての期間や役割(制度上)、市役所からの支援内容を教職員が承知しておく必要がある。(指定避難場所として何時まで、どの程度支援が求められるか分からない、対応方針を立てることが難しい。)
- 避難場所として指定はされていない(広瀬キャンパス)が、近隣住民は公共的な場所という認識で頼り求めてきた。今回は人数が少なかったことから食事、宿泊等の対応はできたが、多数の場合はこういった対応は困難となることから、近隣住民とのトラブル回避、円滑で安全な避難の見地からも常日頃から地区住民や市役所などとの情報交換が必要であると感じた。
- 自治体も被災しているので、避難所の運営は学校の教職員で行わなければならないかった。避難者からも徐々に食事の準備等の分担者が決められて行動するようになった。
- 在校していた学生は、学生主事、寮務主事の担当とし、自力で帰宅できる学生を除いて学生寮の食堂を避難所、寝床(被災初日は学生寮のいすで1夜を明かした。2日目に畳を入れて横になれるようにした。)として対応した。
- 近隣住民の避難には事務部(主に若手職員が率先して対応してくれた)が対応し、合宿研修所を緊急の避難所とした。

39

- スクールバスによる帰宅支援のあり方
- 学校内の宿泊場所の設定、宿泊中の生活面の指導のあり方
- 学寮に置かれていた台所用品、コンロ、パーベキュー用鉄板等が、炊き出しや暖をとる手段の1つとしてかなり役に立った。学寮設備として、災害時の使用をも想定した用品を日頃から備えておくことは有効である。
- 今回、沿岸部の学校で実際に起きたことであるが、地震直後に帰宅させたがゆえに被災した事例があります。親権もからみ難しいことではあるが、学生の安全確保の観点から、まず学生の安全を最優先し、帰宅させるか否かの判断に際しては、震災の状況を把握した上(今回の場合は津波警報の解除の有無)で行うべきと考える。
- 帰宅困難者は季節や時間的なもので大きく左右されると思われるが、必要となる非常食や飲料水等の物資の数量の把握や宿泊などの場所を検討しておく必要がある。そして、近隣の高専に対して支援の依頼を早急に行える体制づくりが必要である。

42



## 課外活動、この一年 2011

学生担当 佐々木 典彦



## 体育施設の被害状況まとめ

1. 体育館(第1、第2):全面的に使用不可
2. グランド:2/3が使用不可
3. 柔剣道場:全面的に使用不可
4. プール:全面的に使用不可
5. テニスコート:全面的に使用不可
6. ハンドボールコート:全面的に使用不可
7. アーチェリー:全面的に使用不可



## H22年度名取キャンパス課外活動概要

- クラブ数  
運動部 18 文化部 13 研究部会 3
- 活動場所  
グラウンド、第1及び第2体育館、創造教育センター、教室等
- H22年度実績
  - ・運動部(高専大会) 全国大会出場学生数 約140名(延べ数)
  - ラグビー:優勝 野球:準優勝
  - 柔道:団体3位 など
  - ・メカトロニクス研究部会(ロボコン)  
ロボコン大賞
  - ・理科体験教室研究部会(リカレンジャー) 出動回数 約20回

## 震災により発生した問題点

- 体育施設が使用できないため、以下の代替施設を何処に確保するか
  - ・体育授業
  - ・運動部等練習場
- プラスバンドコンサート等の会場変更
- 東北地区大会A主管校(H23年度は名取キャンパス)の役割をはたせるのか？
  - 日程:7月2日(土)、3日(日)
  - A会場:仙台名取
  - B会場:一関

## 被害状況



柔剣道場



体育館北側



グラウンド

## 代替施設

- 体育授業: -グラウンドの1/3
  - ・合宿研修所(柔道)
  - ・宮城県高等看護学校体育館(協力依頼)
- 課外活動:広瀬キャンパス、高学年棟コミュニティホール、名取市十三塚公園スポーツ施設、増田西公民館、警察学校、尚絅大学、岩沼温水プール、仙台中田温水プール、他高校、コンサート会場の変更等(各種手続き)
- 移動手段:スクールバス、公用車(順間運転)、自転車



- H23年度実績**
- 全国高専体育大会(関東信越地区)  
野球、柔道、ラグビー、陸上、水泳、バド、テニス  
総勢 約100名出場
  - ① 野球 優勝
  - ② 柔道 優勝
  - ③ ラグビー 準優勝(2012.1 神戸)
  - 高専ロボコン  
地区大会(八戸高専):ロボ・ボウル賞  
全国大会(国技館):優勝、ロボコン大賞
  - リカレンジャー 5回程度
  - プラスバンドコンサート(会場変更し実施 2011.12)  
名取市文化会館 → 仙台市民会館

- 課外活動引率**
- クラブ1(運動部典型例)  
4月中旬以降9月末まで、80日以上、主顧問を中心に  
5人の顧問が学外施設に引率  
※10月からは学内施設(第2体育館)へ移行
  - クラブ2(ロボコン)  
本格的な動作確認・練習のため近隣の公民館を使用  
9月以降10月末まで、20日以上顧問が引率
  - 広瀬キャンパスへのスクールバス利用 約50回



- 東北地区大会(7/2, 3)への対応**
- 使用予定施設の被災状況把握(3月末~4月上旬)  
及び施設変更(4月中旬~6月上旬)
  - 最終的な開催決定 5月13日(H23東北地区高専体育連盟役員会)  
秋田、鶴岡両高専の御協力の確認
  - 各種目会場
    - ① 陸上 仙台市陸上競技場(会場変更無し)
    - ② バドミントン 石巻総合体育館 → 秋田高専体育館
    - ③ テニス シェルコムせんだい(会場変更無し)
    - ④ 卓球 名取市民体育館 → 仙台高専広瀬キャンパス体育館
    - ⑤ 剣道 宮城県武道館 → 宮城県高等看護学校体育館
    - ⑥ バスケット 仙台市体育館 → 鶴岡市鶴引スポーツセンター(運営は名取キャンパス)
    - ⑦ ラグビー 名取スポーツパーク愛島フットボール場  
(2011.10実施 会場変更無し)





ダブル受賞  
国技館



表彰式インタビュー

#### 体育施設復旧状況

- 体育館  
第1: 2011.11(復旧) 第2: 2011.10(復旧)
- グランド  
仮復旧: 2011.7  
トラック: 2011.12(復旧) 野球場: 2012.2(復旧予定)
- 柔剣道場 新規建て直し(2012.3末完成 復旧予定)
- プール 柔剣道場と併せて使用開始
- テニスコート 2012.5(復旧予定)
- ハンドボール 2012.5(復旧予定)
- アーチェリー 2012.5(復旧予定)

○ ボランティア活動等

[ 陸前高田市で被災者支援ボランティア活動]

8月8日(月)に本校広瀬キャンパス学生会を中心とする有志学生17名と教員4名が、岩手県陸前高田市で被災者支援ボランティア活動を行いました。陸前高田市は、東日本大震災での津波の被害が最も大きかった地域の一つで、市街地にはほとんど建物が残っておらず、あちこちにはがれきがうず高く積まれている状態です。

本校学生は高台にあるプレハブ前で、地元の方々と一緒に支援物資の運搬と仕分けの作業を行いました。気温30度を超える暑い中での作業となりましたが、全員で協力し、2時間半程度の作業で約200世帯分の配給物資の袋詰めを終えることができました。その後、仙台から持っていった支援物資を、物資が届きにくい半島部の広田地区へ運搬しました。途中、特に被害が大きかった場所で黙とうを捧げ、津波の犠牲者の冥福を祈りました。

今回の経験は、被災地が何を必要としているかを肌で感じ、被害の大きい地域の現状を自分の目で見たことで、学生たちにとっては、自分に何ができるかを考えるのに、いいきっかけになったことと思います。



地元の代表の方のあいさつを聞く



米の計量と袋詰めを行う



支援物資の袋詰めを行う



陸前高田市の市民の皆さん

※本校ホームページ記事から抜粋

[ 卒研学生を中心とした支援活動(名取キャンパス建築デザイン学科) ]



5/22 (土) 「ささやかですがお役立てください」。  
名取市役所前で行われた炊出しに参加し、学内で集めた生活用品を提供した。



6月～7月 「放射線量の測定」  
市内保育所 7 箇所と児童センター  
6 箇所の園庭複数箇所にて実施。  
名取市 HP に報告書掲載。



8月～12年3月 「浴室用踏み台の設置」  
日本リハビリテーション工学協会に協力し、  
箱塚桜団地での活動(8/9～16)に参加。その  
後、材料を引き継ぎ、台の制作、改良、手す  
りの設置などを行った。



10/8 (土) 「青空市」  
名取市箱塚桜仮設住宅団地にて生活用品  
を提供。用品収集は名取が丘ボランテ  
ィア連絡会の皆さんがご担当。当日は閑上  
カフェの協力により茶菓も提供された。



1/18 (水) 「押入棚の設置」  
製造業的復興支援プロジェクト  
の皆さんとともに自分たちで制  
作した押入棚を仮設住宅に設置。  
当日、学科3年生40名も参加。



12/8/9-10 「動く彫刻の設置」  
8月11日から19日にかけて行われた新宮晋  
アートプロジェクト「元気キャラバン閉上」  
における彫刻設置の手伝い。卒研学生とラグ  
ビー部所属学生とが参加した。

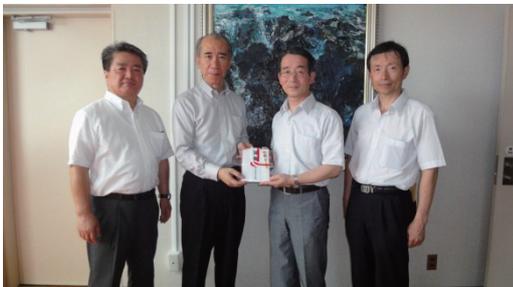
## ○全国からのお礼や励まし・表彰関係

※ 主に本校ホームページ記事から抜粋

### ・萩朋会東京支部から義援金をいただきました

7月15日(金)に、仙台高専同窓会名取キャンパス総支部(萩朋会)総支部長の新山様、萩朋会東京支部の小野支部長様、高橋副支部長様が来校され、東京支部43名の先輩の皆様方からの義援金と、先輩から後輩学生への応援メッセージ集を届けていただきました。

頂戴しました義援金は、被災した本校学生のために、有効に活用させていただきたいと思います。誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



義援金をいただきました右から、新山総支部長、丹野副校長、小野支部長、高橋副支部長

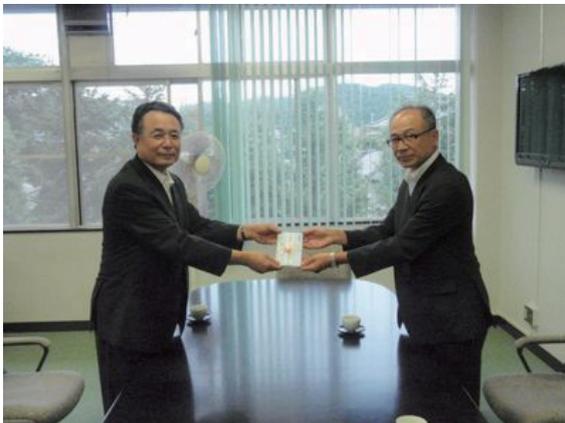


たくさんの応援メッセージの掲示

### ・仙台高専同窓会から義援金をいただきました

7月22日(金)に仙台高専同窓会の佐々木会長が本校内田校長のもとを訪れ、仙台高専震災義援金をいただきました。また、7月16日(土)に開催された仙台高専同窓会定期総会の際に、会場の募金箱で集められた募金もいただきました。

頂戴しました義援金は、被災した本校学生のために、有効に活用させていただきたいと思います。誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。



義援金を贈呈する仙台高専同窓会佐々木会長(右)と義援金を受け取る内田校長(左)

### ・豊田高専サッカー部から復興応援メッセージとサッカー用品が届きました

豊田高専サッカー部から、3月11日の震災のお見舞いとして、心温まる応援メッセージとサッカー用品を送って戴きました。「仙台高専広瀬キャンパスサッカー部のみなさま小さな事しか今の私たちにはできませんが、早く復興できるように応援しています。少ないですがサッカー用品を送ります。ぜひ、お使い下さい。

豊田高専サッカー部一同」サッカー部主将によるお礼の文章に、夏休み中も元気に練習している部員の姿を添えて、感謝のメッセージとしました。

豊田高専サッカー部のみなさん。本当に、ありがとうございました。

・復興応援メッセージが届きました

3月11日の東日本大震災では、本校及び本校の学生諸君も多大な被害を受けました。

また、全国の皆様から支援物資や義援金をいただき大変感謝しております。

このたび、仙台高専名取キャンパスに復興を支援する応援メッセージが届きました。

ひとつは、岐阜工業高等専門学校からです。

「未来の日本の工業のためにお互い頑張りましょう。」「立派な技術者になろう。」「ファイト日本、ファイト仙台、ファイト高専」など、本校学生を勇気づける熱いメッセージとなっております。

また、仙台高専同窓会の皆様からもメッセージをいただきました。

「卒業していつも思い出すのはあのなつかしい名取のキャンパス、一日も早い復旧、復興を祈っています。」「故郷の被災状況に心を痛めております。この過酷な試練を乗り越えて、復興に向けて一歩ずつ前へ進んでいきましょう。」など、とても心温まるメッセージとなっております。

このメッセージは、仙台高専名取キャンパス総合科学教育棟1階ロビー、及び学生食堂入り口に掲示しており、学生、教職員の日々の励みともなっております。

誠にありがとうございました。頑張る力と勇気をいただきました。



・ラオス副首相等の訪問について

8月1日(月)にラオスのトンルン・シースリット副首相兼外務大臣、ナーリー・シースリット同夫人、センドゥアン・ラーチャンタブン教育副大臣兼ラオス日本友好協会副会長、シートン・チツニョーティン在京ラオス大使など7名、及び同行者として、横田駐ラオス大使など外務省関係者4名が本校名取キャンパスを訪問されました。

トンルン・シースリット副首相兼外務大臣からは、仙台高専での長年にわたる留学生受け入れに対して御礼の言葉が述べられました。また、今年3月に発生した東日本大震災に対するお見舞いの言葉と、日本に留学経験のあるラオスの学生たちが作った千羽鶴、ラオス政府が日本支援のためのチャリティーコンサートをした時の寄せ書きなどをいただきました。

仙台高専からは、内田校長による学校概要の説明、お見舞いに対する御礼があり、また本校からの記念品を贈呈しました。また、現在仙台高専に在学中のラオス人留学生3名からそれぞれの学習状況について説明がありました。留学生たちは、少し緊張しながらも副首相からの質問にハキハキ答えていました。

その後、総合科学教育棟1階ロビーにおいて昨年度全国高専ロボコン大会においてロボコン大賞を受賞したロボコンマシンの実演があり、また材料工学科基礎実験室の実験機器などについて、大変興味深く見学されました。

今回いただきました千羽鶴と日本支援の寄せ書きメッセージについては、総合科学教育棟1階ロビーに掲示する予定ですので、是非ご覧になってください。

ラオスの皆さんの善意に感謝いたします。

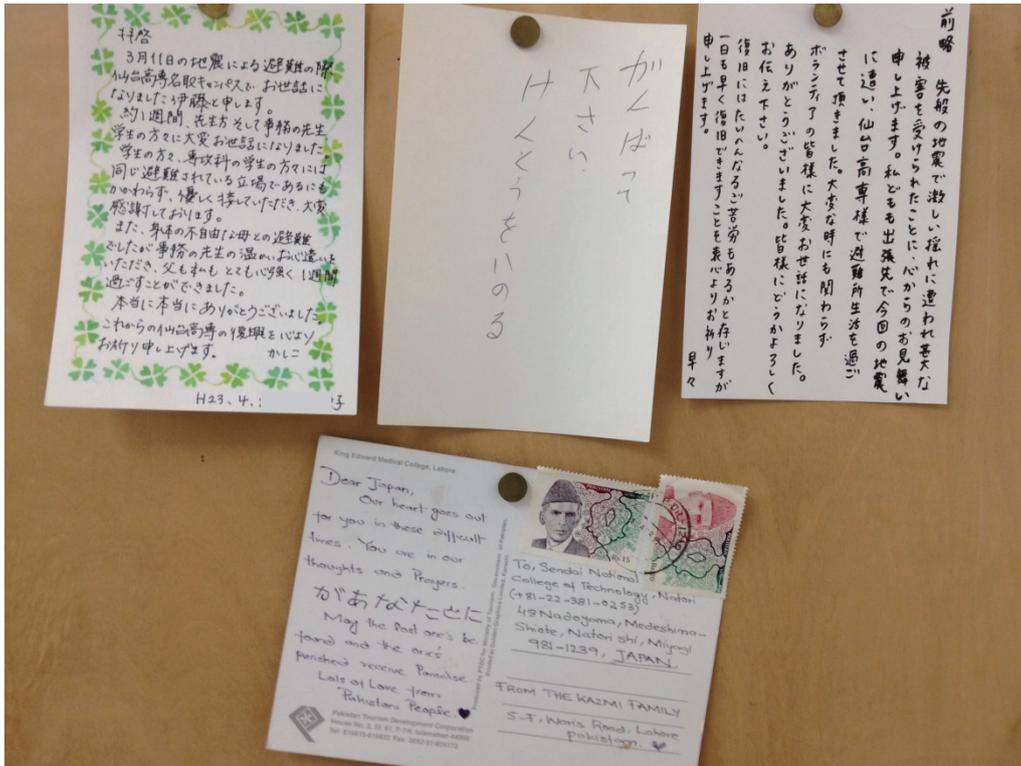
コップ・チャイ・ライラーイ(ありがとうございました。)



ラオスからの千羽鶴の贈呈



ラオスからの寄せ書きメッセージ、両国の国旗中央がハートマークになっています。



励ましのお手紙は、今も目のつくところに貼ってあり、  
教職員の支えになっています。

## 全国からのたくさんのご支援と ご声援ありがとうございました。



支援物資の箱にかかれた  
ガンバンデー

※ たくさんのご支援とご声援については、一部しか掲載できなかったことをご了承願います。

## ・東日本大震災時の救援活動に感謝状

平成24年2月15日 仙台高専名取キャンパスにおいて、東日本大震災時に本校学生、教職員が宮城県立がんセンターで行った救援活動に対して、宮城県知事より感謝状が贈呈されました。

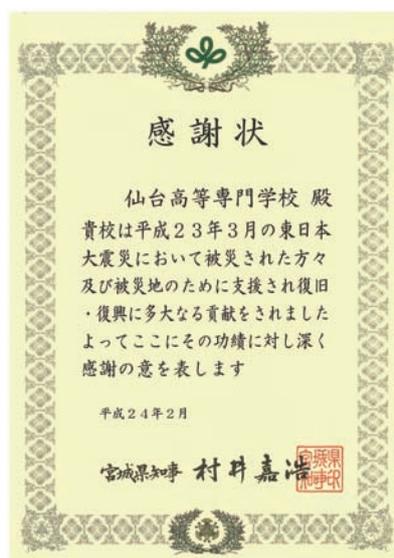
救援活動内容としては、東日本大震災があったその日のうちに、当日在学中の学生のうち10名程度と教職員ががんセンターに出向いて、移動が必要な患者さんの担架搬送や、水浸しになった病棟廊下の清掃、水浸しになったシーツ等を運んでの階段往復、また、食料を地下1階から各病棟へ搬入、倒れた自動販売機や棚片付けなどの力作業を行い、翌日にも同じ作業を行いました。

なお、震災時には、がんセンター医師1名、看護師1名が本校を訪れ、本校で避難生活をしている学生や近隣住民の方々約50名の健康チェックを行っていただきました。

宮城県がんセンターの西條総長からは、「当日は、高専も被害を受けている中、応援にかけつけていただいて大変感謝しています。特に、水道の水があふれ出した6階病棟は水浸しとなったが、学生さんのおかげで患者さんの安全を確保することができました。今でも、看護師さんと震災時の話などをする際に、学生さんの活躍が話題に上ります。今後とも、よろしく願いいたします。」との感謝の言葉がありました。

本校の学生を代表して、機械工学科5年の豊田俊一君から「私たちの行動が、がんセンター並びにその患者さんのためになり大変うれしいです。自分も被災しましたが、この活動を是非今後の人生に生かしていきたいと思います。」と力強いあいさつがありました。

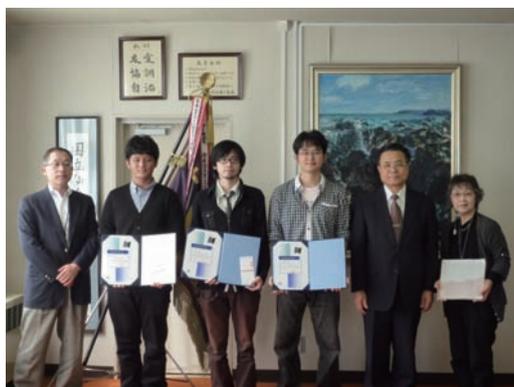
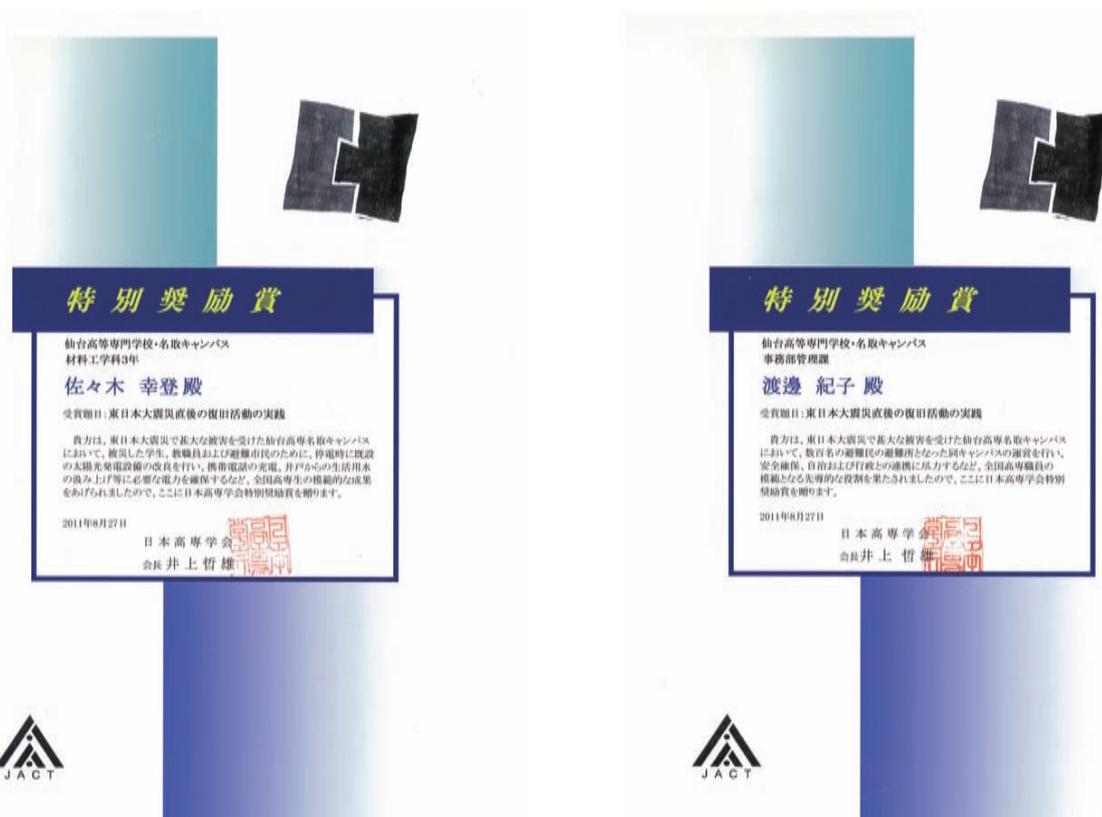
なお、本校と宮城県立がんセンターは、教育の場の提供、最先端医療の知識習得、実践技術の提供、緊急避難への協力、環境整備などに関して、相互に連携協力する協定を結んでおり、ボランティア愛好会の学生によるがんセンターのロビーコンサートの補助、ギターバンド部の学生によるロビーコンサートの演奏、避難訓練への寮生参加、斜面での芝桜の植苗などを行っています。



・日本高専学会特別奨励賞授与

帰宅困難な学生・教職員が多数生じたこと、名取キャンパスが市の避難所となっていることから、近郊住宅地からの避難市民を合わせて、358人の避難所となった同キャンパスの運営を行い、安全確保、自治及び行政との連携に尽力するなど、全国高等専門学校職員の模範となる先導的な役割を果たした職員の渡邊 紀子さん（管理課会計係長）及び同キャンパスにおいて、被災した学生、教職員、避難市民のために、停電時に既設の太陽光発電設備の改良を行い、携帯電話の充電、井戸からの生活用水の汲み上げ等に必要な電力を確保するなど、全校高専生の模範的な成果をあげた、学生の長山 健太郎さん（生産システムデザイン工学専攻）、谷地 藍さん（生産システムデザイン工学専攻）、佐々木 幸登（材料工学科）さんが、日本高専学会から特別奨励賞を授与された。

詳細は、参考資料 P121 研究報告等 「東日本大震災直後の復旧活動の実践」を参照



日本高専学会特別奨励賞受賞報告

## ・ 6か月遅れの卒業式・修了式

震災の影響で「仙台高等専門学校卒業証書・修了証書授与式」が行えなかったため、ホームカミングデーのメインイベントとして「平成22年度卒業会・修了会」を江陽グランドホテルで実施し、両キャンパス合わせて208名の平成22年度卒業生・修了生にお集まりいただきました。校長をはじめ来賓の方々から、あらためてお祝いと激励のことばが贈られ、引き続き開催された懇親会でも歴代の同窓生及び教職員と共に懇親を深めることができました。卒業会・修了会は、2部構成で行われ、第1部では最初に、各クラスの担任の先生から、卒業生・修了生408名の名前を一人一人読み上げていただきました。



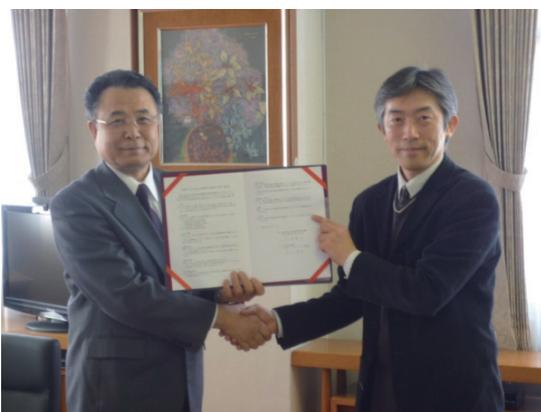
校長からの挨拶  
(平成23年10月22日(土))

・大学生協みやぎインターカレッジコープと「応急生活物資等の供給協力協定」を締結

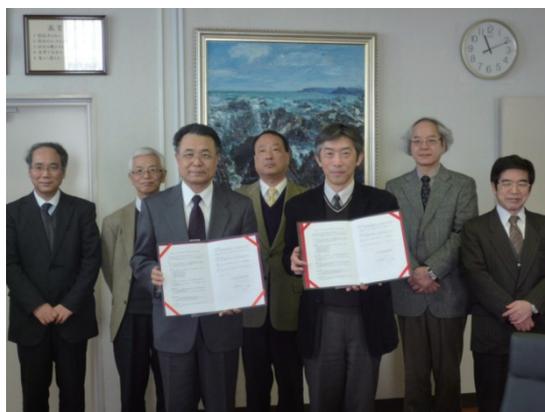
平成 24 年 3 月 1 日に、本校内田校長と大学生協みやぎインターカレッジコープ矢口理事長との間で、応急生活物資等の供給協力に関する協定書の締結を行いました。

この協定は、地震、風水害、大火災その他の災害が発生した場合に、相互に協力して学生、教職員並びに本校に避難してきた地域住民の安全・安定を図ることが目的となっております。そのため、災害時には食料品及び生活用品などの提供や食堂施設、厨房内什器の利用や必要に応じて労務の提供などを要請することができる内容となっております。

また、災害時には相互に情報を共有することや、本校での避難訓練等に共に参加することなどが定められました。



握手する内田校長と矢口理事長



関係者一同協定書を囲んで

災害時における応急生活物資等の供給協力に関する協定書

独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校（以下「甲」という。）と大学生協同組合みやぎインターカレッジコープ（以下「乙」という。）は、災害時における応急生活物資供給等の供給協力について、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第一条 甲及び乙は、地震、風水害、大火災その他による災害（以下「災害」という。）が発生した場合に、相互に協力して本校構成員及び学生並びに本校に避難してきた地域住民の安全・安定を図るものとする。

（協力要請）

第二条 甲は、災害時における応急措置のため、次の各号を必要となった場合、乙に協力を要請することができる。  
 一 食料品及び生活用品等の提供  
 二 食堂等施設の災害対策への利用  
 三 食堂厨房内の什器等の利用  
 四 災害対策に必要な労務の提供

（協力の実施）

第三条 乙は、甲からの協力要請に対し、応急生活物資供給等に積極的に応えるものとする。  
 2 協力の実施期間については、災害時のインフラ等の状況を考慮し、甲と乙協議の上判断するものとする。

（連絡責任者）

第四条 甲及び乙は、要請に関する連絡責任者の氏名、連絡先等必要な事項をあらかじめ相互に確認するものとする。  
 2 前項の連絡責任者等に変更があった場合は、速やかに相手方に通知するものとする。

（情報の提供）

第五条 甲は、乙に災害に関しての情報を提供するものとする。  
 2 乙は、甲が災害発生時に設置される災害復興対策会議からオブザーバーとして参加要請された場合は、速やかに対応するものとする。

（甲の要請手続き）

第六条 甲から乙への要請手続きは、第四条に規定する連絡責任者により、文書又は電話等で要請するものとする。

（費用の負担）

第七条 第二条各号に掲げる費用の負担については、災害直前における適正価格を基準とし、物資の供給及び運搬終了後、甲と乙が協議の上決定するものとする。  
 2 費用の請求及び支払に関する時期及び方法は、甲と乙が協議の上決定するものとする。

（訓練等への参加）

第八条 甲は、その実施する訓練等について、乙の参加を要請することができる。  
 2 乙は、前項の要請があったときは、これに協力するよう努めるものとする。

（協議）

第九条 この協定に定める事項を円滑に推進するため、甲と乙は随時協議を行うものとする。

（その他）

第十条 この協定の運用等に関する疑義等については、甲・乙協議の上決定するものとする。

平成24年3月1日

甲 独立行政法人国立高等専門学校機構  
 仙台高等専門学校  
 内田 龍 昇  
 乙 大学生協同組合  
 みやぎインターカレッジコープ理事長  
 矢口 洋 生



東北六高専連携

# 震災復興 高専プロジェクト

東北地域の産業復興を行う技術者人材育成

プロジェクト主体：仙台高等専門学校（地域人材開発本部）

連携校：八戸工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、秋田工業高等専門学校、鶴岡工業高等専門学校、福島工業高等専門学校

関係自治体：宮城県、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、名取市、東松島市、石巻市、八戸市、一関市、陸前高田市、秋田市、鶴岡市、いわき市

## 》 震災復興高専プロジェクト

### 》 目的

東北地方の被災地が求めている震災復興へ向けての短期・長期ニーズに対応して課題解決できる人材育成のシステムを、東北地方をカバーする東北地区高専がその強みを活かして、産学官連携により構築し、地域社会に定着させる。



### 》 特徴

- 1 現時点のニーズや課題に東北6高専・全国高専の持つシーズ等をマッチング
- 2 従来からの高専の準学士・専攻科課程と地域技術者の育成システムを活用

#### 対象分野

ものづくり、ナノテク・材料、情報通信、環境、エネルギー、ライフサイエンス、また文科省設置コーディネーターの支援を受けた医工福祉、自動車関連技術、住環境システム、社会人・人材育成の事業化を推進中

- 3 育成人材システムが地域に定着し機能するための仕組み

地域企業へのヒアリング等を通じて、現場の課題に対応したテーマ

安全性を確保して地域の技術者と学生が共に課題解決

カリキュラム進行に応じて関係者からの意見を聞き取り、常に改善

地域企業の派遣責任者を報告会に招く等、企業と学生との出会いの場を設置

### プロジェクト

**PROJECT 01**  
東北地域をカバーする連携体制の構築と運営  
》 東北地区高専共通

**PROJECT 02**  
安全安心なエコタウン構築についての人材育成  
》 仙台高専・鶴岡高専・秋田高専

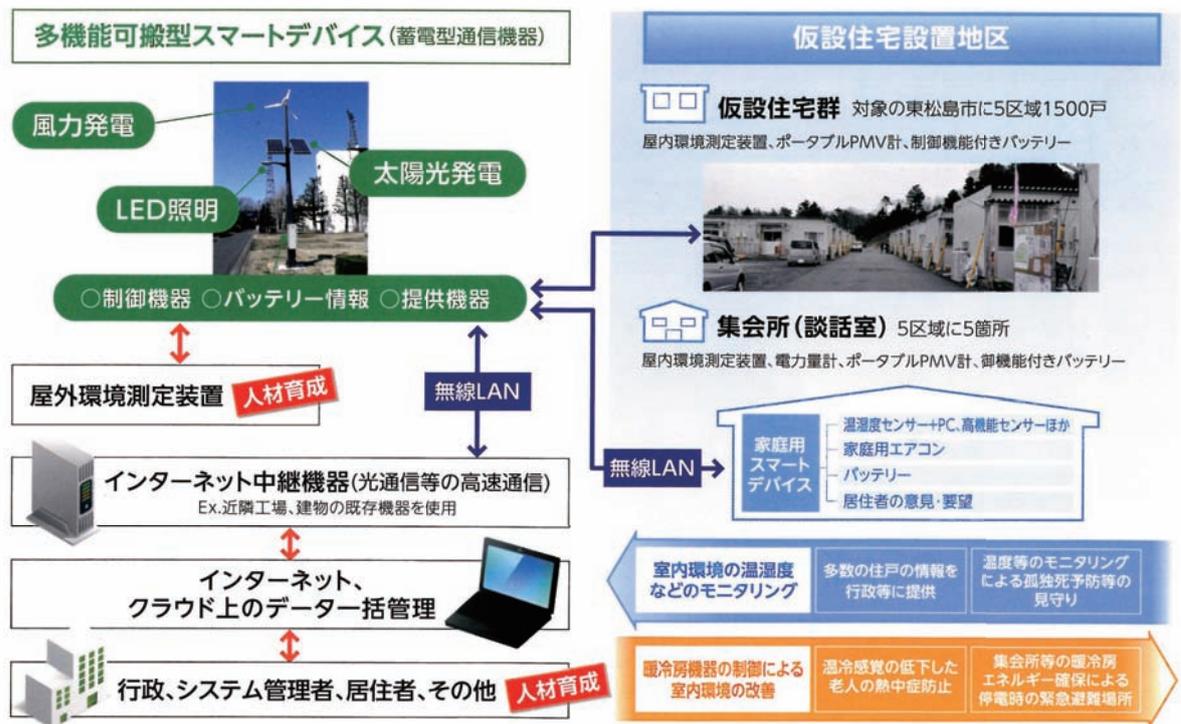
**PROJECT 03**  
津波浸水農地の土壌塩分除去等土壌改良についての人材育成  
》 仙台高専・福島高専



**PROJECT 04**  
リスク対応独立分散電源による分散セキュリティシステムの構築  
》 鶴岡高専

**PROJECT 05**  
三陸沿岸の豊かな地域資源再生プロジェクト  
》 一関高専

**PROJECT 06**  
八戸・三陸地域における東日本大震災からの防災教育に関する人材育成  
》 八戸高専・一関高専



PROJECT 03

津波浸水農地の  
土壌塩分除去等土壌改良についての人材育成

☑️ 仙台高専 ☑️ 福島高専



東松島市の  
農業関係者からの  
技術相談



津波を被った水田(流入した泥・ヘドロが水分を含んで黒い)



台風による冠水後、水が引いた水田と水路



土壌改良の企画・計画 **人材育成**

田畑の土壌の実態把握(実測用パソコン)

- 砂、泥、ヘドロ等の堆積状況
- 塩分濃度、イオンなどの測定(土壌塩分濃度測定器、水中塩分濃度測定器)

計画の作成

- 季節、農業用水の利用可能性等を踏まえた対象範囲の決定
- 農地の用途に応じた適用手法の検討
- 自治体等の関係者との日程などの調整

改良手法の実施 **人材育成**

改良手法の選択・組合せ

- 水田の水攪拌による塩分除去(3回繰り返す)
- 田畑へ土壌菌製剤散布(除塩用バイオ製剤)
- 田畑へ杉皮埋設による塩分除去(除塩用杉皮製材)

選択された手法の実施

- 対象におけるサンプリングの継続
- 塩分濃度、鉄分等の計測
- 継続したモニタリングと情報共有

手法の効果の検証 **人材育成**

手法の効果の検証

- 塩分、鉄分その他の濃度と基準値との比較
- 試験的な栽培
- 泥・ヘドロの性状変化
- 土壌の団粒化の程度と通気性

手法適用の拡大・展開

- 面積拡大に伴うコストと効果
- 他の地域への適用可能性の検討

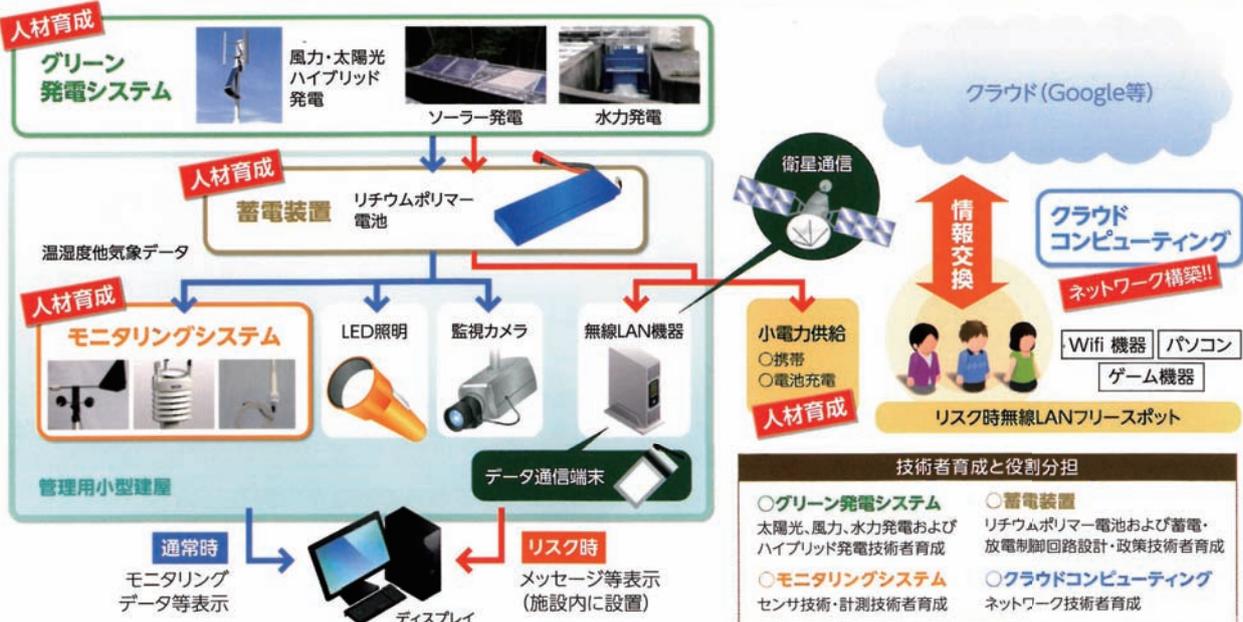
PROJECT 04

リスク対応独立分散電源による  
分散セキュリティシステムの構築

☑️ 鶴岡高専

各所設置基本システム

← 通常時 ← リスク時



PROJECT  
05

三陸沿岸の豊かな地域資源  
再生プロジェクト

☑ 一関高専

緊急性の高い被災地ニーズ



被災地の生業である  
漁業・水産物加工の迅速な再生支援



大量に廃棄されたバイオマス資源の  
再利用と冬季寒冷対策等



長い年月にわたる被災者支援の  
ためのITインフラ整備やスキル講習

**第6次産業の創出を  
めざす人材育成**

①沿岸地域へ本校の技術シーズ移転  
②製品化に必要な人材育成・  
技術支援

**再生可能エネルギー  
利用に関する人材育成**

①太陽光・熱、風力活用の技術支援  
②木質バイオマス資源の  
有効活用支援

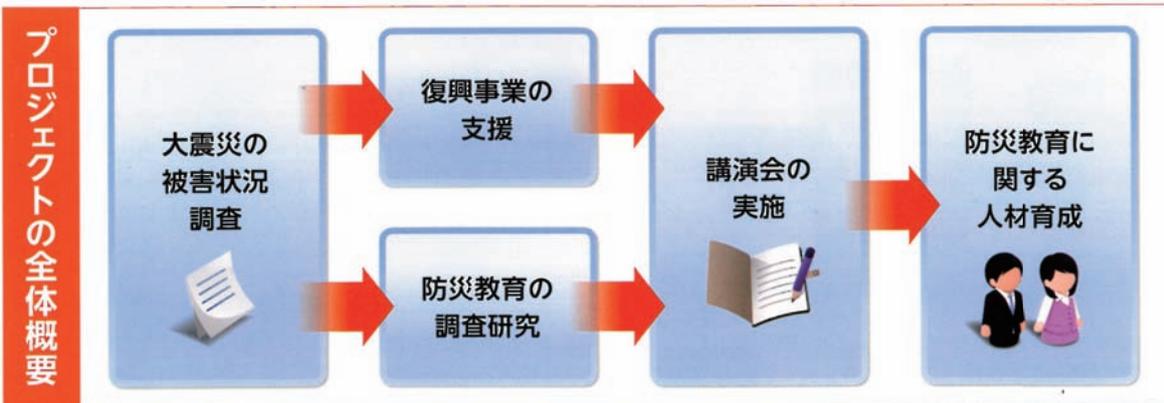
**デジタル・デバイド解消に  
向けた地域住民への  
ICT活用に関する人材育成**

①地域リーダー向け情報端末活用  
スキル  
②ウェブ発信時の運用指導

PROJECT  
06

八戸・三陸地域における東日本大震災  
からの防災教育に関する人材育成

☑ 八戸高専 ☑ 一関高専



津波で破壊された八戸の第一防波堤



岩手県野田村におけるボランティア活動



復興プランニングワークショップ

高専学生が修得するスキル  
地域企業技術者、

- 防災教育の調査・研究  
地震・津波からの防災に関する提案  
復興計画に関する提案
- 復興事業の支援  
復興事業、まちづくりの指導・  
助言・提案
- 地盤の動的特性の測定  
地盤の液化強度の定量的評価法



お問い合わせ先

---



仙台高等専門学校  
Sendai National College of Technology  
震災復興プロジェクト室

〒981-1239 名取市愛島塩手字野田山48  
TEL:022-381-0244 FAX:022-381-0249  
e-mail : fukkou@sendai-nct.ac.jp  
<http://www.sendai-nct.ac.jp/>

・震災復興プロジェクト参考資料

### 「①東北地域をカバーする連携体制の構築と運営」

**実施主体(センター名)仙台高等専門学校(地域人材開発本部)**  
**連携大学名(コンソーシアム名)**  
 八戸工業高等専門学校、秋田工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、鶴岡工業高等専門学校、福島工業高等専門学校、東北地区高専復興人材育成コンソーシアム(予定)

**<目的>** 東北地方の被災地が求めている震災復興に向けての短期・中期・長期において復興解決策を人材育成のシナジーを、東北地方から六ヶ所市まで被災地高専がその強みを活かして、産学連携により構築し、被災地社会に定着させる。

**<特徴>**  
 1) 現状のニーズや課題に全国高専の特色をマッチング  
 2) 従来の高専(電子工学科、専攻科)と地域技術者の育成システムを活用  
 3) 産学連携(1)の通り、ナノテク材料、情報通信、環境、エネルギー、ライフサイエンス、防災技術等に関する共同研究の支援を受けた  
 4) 産学連携(2)の通り、自動車関連技術、住環境システム、社会人・人材育成の事業化を推進中  
 5) 産学連携(3)の通り、地域企業・機関との連携を促進するための仕組み  
 6) 産学連携(4)の通り、関係者から学生を取り、常に改善、発展のサイクルを繰り返して関係者から企業・社会へ人材を送り出す体制を構築

**<活動内容>**  
**H24年度** 東北地方をカバーする連携体制の構築(1)会議システム整備、コーディネーター配置と現行プロジェクトの継続  
**H24・H25年度** 全体運営のためのプロジェクトと各高専のプロジェクト  
 ○プロジェクト① 東北地域をカバーする連携体制の構築と運営(東北地区高専共通)  
 ○プロジェクト② 安全安心なエコタウン構築に関する人材育成(仙台高専、鶴岡高専、秋田高専)  
 ○プロジェクト③ 津波浸水農地の土壌塩分除去等土壌改良に関する人材育成(仙台高専、福島高専)  
 ○プロジェクト④ リスク対応独立分散電源による分散セキュリティシステムの構築に関する人材育成(鶴岡高専)  
 ○プロジェクト⑤ 三陸沿岸の豊かな地域資源再生プロジェクト(一関高専)  
 ○プロジェクト⑥ 八戸・三陸地域における東北日本震災からの防災教育に関する人材育成(八戸高専、一関高専)

### 概要図

多機能可搬型スマートデバイス(省電型通信機)

仮設住宅群 対象の東松島市(5区域)1500戸(室内環境測定装置、ポータブルPMV計、制御機能付きエアコン)

仮設住宅群 対象の東松島市(5区域)1500戸(室内環境測定装置、ポータブルPMV計、制御機能付きエアコン)

多機能可搬型スマートデバイス(省電型通信機)

室内環境の温度湿度などのモニタリング  
 ○多数の住戸の情報を行政等に提供  
 ○温度等のモニタリングによる換気制御等の見守り

暖房機器の制御による室内環境の改善  
 ○温冷感等の低下した入居の際に換気  
 ○集合所等の暖房システムによる停電時の緊急避難場所

多機能可搬型スマートデバイス  
 ○エネルギー自給(太陽光、風力、人力)  
 ○構成: 通信、モニタリング、記録、発電  
 ○情報機  
 ○災害時の情報提供  
 ○災害時の情報提供  
 ○環境モニタリング  
 ○エネルギー自給  
 ○電力供給

省電力型スマートデバイス  
 ○エネルギー自給  
 ○通信、モニタリング、記録、記録(可視化)、発電  
 ○情報機  
 ○災害時の情報提供  
 ○環境モニタリングによる温度湿度、CO2濃度の可視化、不換気検知  
 ○エネルギー自給  
 ○家庭用エアコン、オフィス用ビルマルチ

### 活動全体の概要

プロジェクト① 東北地域をカバーする連携体制の構築と運営

プロジェクト② 安全安心なエコタウン構築に関する人材育成  
 被災地の居住環境エネルギーの基盤を支える技術者を育成する

プロジェクト③ 津波浸水農地の土壌塩分除去等土壌改良に関する人材育成  
 土壌改良等を通じて地域の農林水産業の復興を早めると共に、計測技術等を通じて産業を支える技術者を育成する

プロジェクト④ リスク対応独立分散電源による分散セキュリティシステムの構築に関する人材育成  
 震災後、実用化が進んでいるエネルギーの自立による防災、安全を確保するシステムを構築するも、関連する電子制御機器、組み込みシステム等に関する技術者を育成

プロジェクト⑤ 三陸沿岸の豊かな地域資源再生プロジェクトの構築に関する人材育成  
 土壌改良等を通じて地域の農林水産業の復興を早めると共に、計測技術等を通じて産業を支える技術者を育成する

プロジェクト⑥ 八戸・三陸地域における東北日本震災からの防災教育に関する人材育成  
 被災地、河川堤防、宅地強さを高める技術者を育成する

既存の枠組みやプロジェクト

新規の枠組みやプロジェクト

地域企業技術者・高専学生の修得スキル  
 ○土壌改良に関する計画・建築  
 ○地域企業技術者・高専学生の修得スキル  
 ○プロジェクト実施者のマネジメントスキル  
 ○改良手法の実施  
 ○効果の評価・改善  
 ○手法の効果検証

改良手法の実施  
 ○改良手法の選択・組合せ  
 ○改良手法の検証  
 ○改良手法の検証  
 ○改良手法の検証

### 「③津波浸水農地の土壌塩分除去等土壌改良に関する人材育成」(仙台高専・福島高専)

概要  
 土壌改良等を通じて地域の農林水産業の復興を早めると共に、計測技術等を通じて産業を支える技術者を育成する

東松島市からの技術相談  
 東松島市からの技術相談に基づき、津波による土壌塩分除去に関する調査、塩分除去の計画立案、実施を支援する

改良手法の実施  
 ○改良手法の選択・組合せ  
 ○改良手法の検証  
 ○改良手法の検証

地域企業技術者・高専学生の修得スキル  
 ○土壌改良に関する計画・建築  
 ○地域企業技術者・高専学生の修得スキル  
 ○プロジェクト実施者のマネジメントスキル  
 ○改良手法の実施  
 ○効果の評価・改善  
 ○手法の効果検証

改良手法の実施  
 ○改良手法の選択・組合せ  
 ○改良手法の検証  
 ○改良手法の検証

### 「②安全安心なエコタウン構築に関する人材育成」(仙台高専・鶴岡高専・秋田高専)

**概要**  
 復興とその後の安全安心で省エネルギー消費量が少ないエコタウンを構築し支える技術者を育成する。まず、現状の住まいである仮設住宅の室内環境のデータを居住者・行政等が共有し、暖冷房機器の制御により熱中症予防や室内環境の改善等を行う。次に、一般住宅などから成るまちを面的に環境情報のモニタリングと空調機器の制御を行い、バッテリーによる停電時の稼働などにより安全安心を支える。これらの活動と高専の社会人技術者向けコースや科目履修等を通じて人材を育成し、地域と共に技術指導・産業振興を継続する。

**被災地のニーズ**  
 ○仮設住宅・復興住宅における環境問題  
 ○行政の状況把握の困難  
 ○暖冷房システム等の性能確保  
 ○省エネルギーによる経費削減

**高専のシーズ・実績**  
 ○環境改善の材料・機器・ツールの提案  
 ○システム性能評価  
 ○省エネの工夫  
 ○システム性能評価  
 ○省エネの工夫

**地域再生への貢献**  
 ○環境改善の提案・実施  
 ○省エネの工夫  
 ○システム性能評価  
 ○省エネの工夫

### 「④リスク対応独立分散電源による分散セキュリティシステムの構築に関する人材育成」(鶴岡高専)

**概要**  
 復興とその後の安全安心で省エネルギー消費量が少ないエコタウンを構築し支える技術者を育成する。まず、現状の住まいである仮設住宅の室内環境のデータを居住者・行政等が共有し、暖冷房機器の制御により熱中症予防や室内環境の改善等を行う。次に、一般住宅などから成るまちを面的に環境情報のモニタリングと空調機器の制御を行い、バッテリーによる停電時の稼働などにより安全安心を支える。これらの活動と高専の社会人技術者向けコースや科目履修等を通じて人材を育成し、地域と共に技術指導・産業振興を継続する。

**被災地のニーズ**  
 ○仮設住宅・復興住宅における環境問題  
 ○行政の状況把握の困難  
 ○暖冷房システム等の性能確保  
 ○省エネルギーによる経費削減

**高専のシーズ・実績**  
 ○環境改善の材料・機器・ツールの提案  
 ○システム性能評価  
 ○省エネの工夫  
 ○システム性能評価  
 ○省エネの工夫

**地域再生への貢献**  
 ○環境改善の提案・実施  
 ○省エネの工夫  
 ○システム性能評価  
 ○省エネの工夫

### ⑤ 三陸沿岸の豊かな地域資源再生プロジェクト（一関高専）

**(1) 地域の切実な復興ニーズを**  
東日本大震災による沿岸地域の産業復興、環境対策、コミュニティ復興

**(2) 永年の実績で応え**  
一関高専の成熟した多様なシナジーと産官学連携の実績

**(3) 地域再生に活かします**  
漁業資源の有効活用  
被災地の廃材活用  
地域在住者向け人材育成

**緊急性の高い被災地ニーズ**  
(若手県東日本震災津波復興計画 4.2.1)

- 被災地の生産である**漁業・水産物**の迅速な再生支援
- 大震災に被災された**バイオマス資源**の再利用と冬季地帯対策等
- 長い年月にわたる被災者支援のための**IT・ITツラ整備**や**スキル講習**

**鳥獣害対策**

- 鳥獣害対策シナジープロジェクト
- 鳥獣害対策シナジープロジェクト
- 鳥獣害対策シナジープロジェクト

**第6次産業の創出をめざす人材育成**

- 沿岸地域へ本校の技術シーズ移転
- 製品化に必要な人材育成・技術支援

**再生可能エネルギー利用に関する人材育成**

- 太陽光・熱、風力活用の技術支援
- 木質バイオマス資源の有効活用支援

**デジタル・デバイス領域に向けた地域住民へのICT活用に関する人材育成**

- 地域リーダー向け情報端末活用スキル
- ウェブ発信時の運用指導

多様で緊急な地域ニーズに → 実績ある人材育成スキルで応え → 豊かな地域を再生します

### 「⑥八戸・三陸地域における東日本大震災からの防災教育に関する人材育成」(八戸高専、一関高専)

**概要**

港湾施設、河川堤防、宅地盛土などインフラ整備や、復興計画への参画を通じて地域を支援できる技術者を育成する。

今回の大震災では、地震と津波によって甚大な被害を受け、従来の考え方だけでは対処できなかった。そこで**被害状況の調査研究**によって今後の**防災対策**につなげるために、講演会の実施や被害状況や復興事業の見学等を通じて、今後の防災に役立てるよう**防災教育**の調査・研究を行う。特に構造物の支持基礎である**地盤の動的**特性を研究し、数値化強度を評価できるようにする。また被災地へのボランティア活動を通じて復興に協力すると共に、今後のまちづくりを支援していく。これらの活動や科目履修等を通じて、**防災教育**ができる人材を育成する。

**プロジェクトの全体概要**

大震災の被害状況調査

復興事業の調査研究

復興事業の支援

講演会の実施

防災教育に関する人材育成

**プロジェクトの実施計画・方法**

プロジェクト名	実施方法
1. 大震災の被害状況調査	構造物・地盤の被害状況調査 沿岸域・津波の被害状況調査 八戸港湾施設の見学 被災地視・復興事業の見学
2. 講演会の実施	学内外の講演会 調査研究成果の発表と検討 体験者による講演
3. 復興事業の支援	被災者支援ボランティア活動 まちづくりの支援
4. 防災教育の調査研究	地盤の動的性質解析 地盤の液化強度測定 数値化ハザードマップ作成 復興まちづくりのためのワークショップ実施 外部講師による講演会の実施

**地域企業技術者・高専学生が修得するスキル**

- 防災教育の調査・研究
- 地盤・津波からの防災に関する提案
- 復興計画に関する提案
- 復興事業の支援
- 復興事業、まちづくりの指導・助言・提案
- 地盤の動的性質の測定
- 地盤の液化強度の定量的評価法

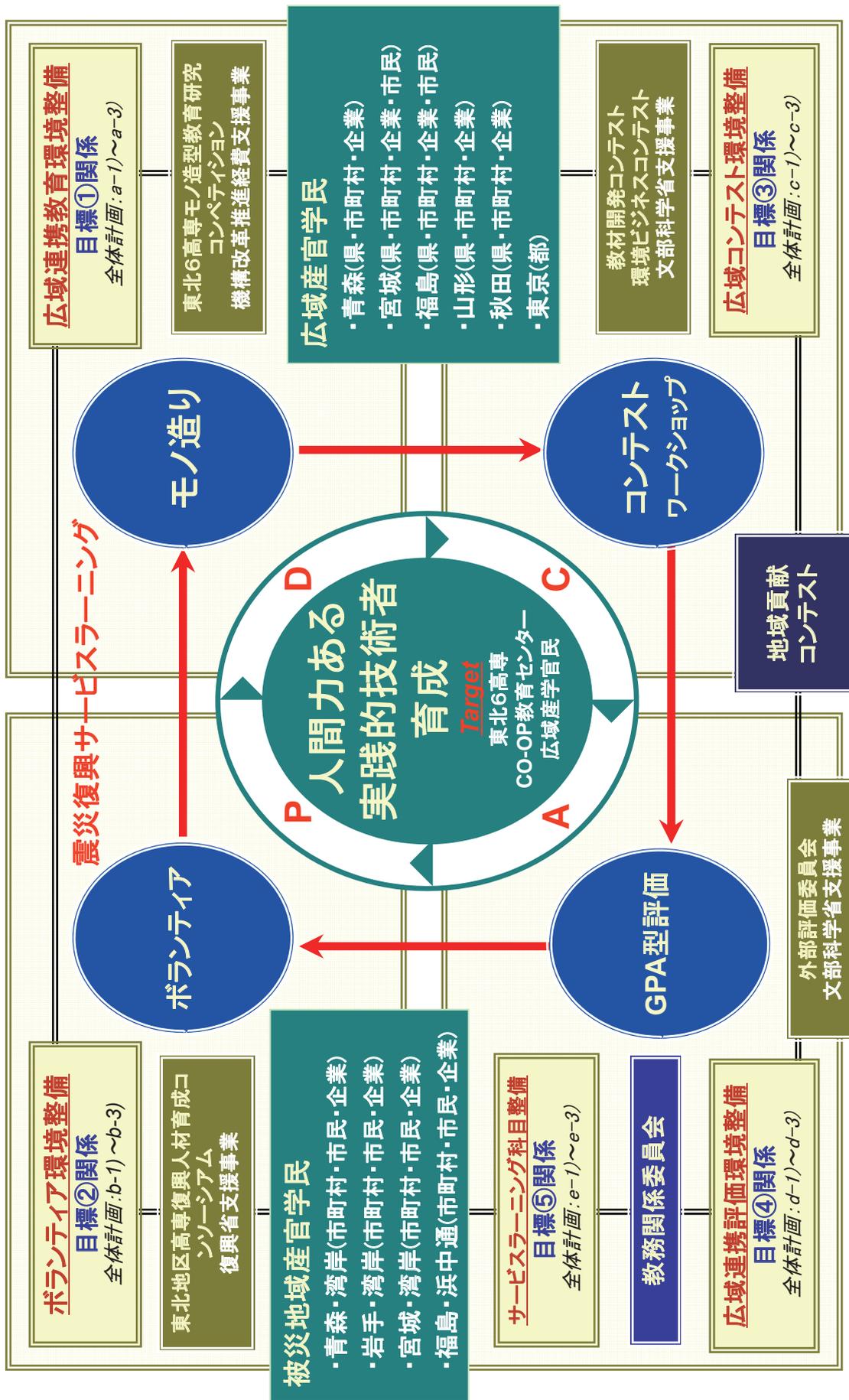
青森・岩手・宮城・福島などの震災被災地への展開・普及

# 震災復興型サービスラーニングによる人間力ある実践的技術者育成

* 震災復興型サービスラーニングによる人間力ある実践的技術者育成

— 広域産学官民連携による震災復興関連のボランティアを課題とし、モノ造りで応える学生主導の学外活動を通して、人間味溢れる高専像を広域発信する —

**【事業概要】** 東北6高専・CO-OP教育センターを核に広域産学官民連携で、震災復興関連のボランティア活動をテーマとして、学生チームが主体でモノ造りによる解決案を作品としてまとめ地域還元する。高専型サービスラーニングを通して人間味溢れる高専像を広域発信する。



広 報 資 料

平成24年11月28日

警察庁緊急災害警備本部

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置

災害種別 都道府県	人的被害					建物被害								道 路 損 壊 箇 所	橋 梁 被 害 箇 所	山 崖 崩 れ 箇 所	堤 防 決 壊 箇 所	鉄 軌 道 箇 所
	死 者 人	行 方 不 明 人	負 傷 者 重 傷 人	負 傷 者 軽 傷 人	負 傷 者 合 計 人	全 壊 戸	半 壊 戸	流 失 戸	全 焼 戸	半 焼 戸	床 上 浸 水 戸	床 下 浸 水 戸	一 部 破 損 戸					
北海道	1			3	3		4				329	545	7	469				
東北	青森	3	1	24	85	109	308	701					958	1363	2			
	岩手	4671	1192		202	19199	5043		15	1761	323	8784	4909	30	4	6		
	宮城	9531	1337		4140	85331	151768		135	15475	12892	224124	26561	390	12	51	45	26
	秋田			4	8	12							3	3	9			
	山形	2		8	21	29	37	80							21		29	
	福島	1606	211	20	162	182	21049	72182		77	3	1061	338	162632	1116	187	3	9
東京	7		20	97	117	15	198		1				4847	1101	295	55	6	
関東	茨城	24	1	33	676	709	2620	24158		31	1798	778	183675	19513	307	41		
	栃木	4		7	127	134	260	2109					72143	295	257	40	2	
	群馬	1		13	25	38		7					17246		36	9		
	埼玉			6	36	42	24	199		1	1		1	1800	33	160		
	千葉	20	2	26	226	252	799	10024		15	157	728	52026	660	2343	55	1	
	神奈川	4		17	117	134		39					445	13	162	1	3	
	新潟				3	3							17	9				
	山梨				2	2							4					
	長野				1	1												
静岡			1	2	3							5	13	9				
中部	岐阜														1			
	三重				1	1					2			9				
四国	徳島										2	9						
	高知				1	1					2	8						
合 計	15874	2744			6114	129642	266512		279	20887	15627	728724	56063	4200	116	208	45	29

## おわりに

2011.3.11 に発生した東日本大震災から 1 年数か月が経ちましたが、被災地では、被害が甚大であったため、完全復旧への道のりは今後長期に及ぶのが現状です。

ここに、改めて、犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、今なお、仮設住宅等での生活を余儀なくされる方々に心からお見舞いを申し上げます。

本校では、被災地にある高専の使命として、震災発生から 1 年数か月の間、本校がとった対応をもとに、この記録誌に記録として留めさせていただきましたので、関係各所において、将来、必要な際にお役に立てれば幸いです。記録誌は、冊子だけではなく、本校ホームページにも公開いたします。

本校における主な被災は、学生 2 名及び学生のご親族など数名が津波により尊い命を喪失したこと、激しい揺れにより、グラウンドなど地面に地割れが発生、法面の崩壊、建物・設備が大きく損壊したこと、自宅など被災した学生・教職員も多く、その現状は痛ましく、震災発生当初は、学校行事も含めて全てが破壊され学校機能回復の想像すらできませんでしたが、学生、教職員が一丸となって復旧にあたり、1 年数か月という当初の予想よりも早期に復旧を果たすことができました。

この間、特に学生は、地震発生当初における、隣接する宮城県立がんセンターに出向いての救援活動、学校での避難住民への支援活動、震災復旧のためのボランティア活動など様々な地域貢献を行いました。さらに部活動では、本校の課外活動施設が全て使用できない状況の中、特に被害が大きかった名取キャンパスの野球部、柔道部が高専体育大会において全国優勝、ロボットコンテストにおいては大賞、優勝のダブル受賞を達成するなど、その活躍は、被災から仙台高専が復活を果たし、その存在を世の中に示すとともに、一日も早い学校機能回復にける全ての学生の思いが結果として現れたに違いありません。

仙台高等専門学校としても「震災復興高専プロジェクト東北地域の産業振興を行う技術者人材育成」、「震災復興型サービスラーニングによる人間力ある実践的技術者育成」などのプロジェクトを東北六高専連携により推し進めるなど、技術者育成の面から、復興を後押ししており、その成果にも期待いただきたく存じます。

最後に、本校が予想よりも早期の復旧を果たし、今日に至っていることは、各方面からの心温まるご支援の賜物であったと心から感謝いたします。

名取・広瀬のキャンパス近隣地域の方々、文部科学省、高専機構本部をはじめとする全国の高専関係者、多くの方々からの人的・物的支援、義援金と心温まるお言葉に対して心よりお礼申し上げます。

仙台高等専門学校は、今後も優秀な技術者の育成を通じ、復興に貢献できるようさらに努力してまいります。

平成 24 年 11 月

仙台高等専門学校副校長  
震災記録WG委員長 丹野 顯

◎ 震災記録誌ワーキンググループ

委員長 丹野 顯（副校長（総務担当））、竹茂 求（副校長（総務担当））、  
石山 純一（副校長（教務担当））、佐々木 典彦（副校長（学生担当））、  
高橋 薫（副校長（学生担当））、伊藤 昌彦（副校長（寮務担当））、  
柏葉 安宏（准教授）、山田 純司（総務課長）、及川 勝治（管理課長）、  
高橋 嘉典（前管理課長）、松本 仁一（学務課長）、土井 弘也（学生課長）、  
齋藤 雅樹（前学生課長）、加藤 春夫（施設課長）、齋藤 英一（施設課長補佐）

震災記録誌

東日本大震災から学んだこと

～ 仙台高専 学校機能回復までの道のり ～

発効日 平成 24 年 11 月 30 日

発行者 仙台高等専門学校 校長 内田 龍男

発行 独立行政法人国立高等専門学校機構仙台高等専門学校

・名取キャンパス

〒981-1239 宮城県名取市愛島塩手字野田山 48 番地

TEL 022-381-0251 FAX 022-381-0255

・広瀬キャンパス

〒989-3128 宮城県仙台市青葉区愛子中央四丁目 16 番 1 号

TEL 022-391-5508 FAX 022-391-6144

印刷 株式会社仙台共同印刷



